

やまなみ

第 5 号



山人あびこ



天
空
人
間
人
間
人
間
人
間
人
間
人
間

GAKUJINABI KOGAKUJINABI KOGAKUJINABI KOGAKUJINABI KOGAKUJINABI

やまなみ

第5号



手賀沼湖畔（我孫子）

「やまなみ」第5号 目次

[『やまなみ』5号発刊に寄せて](#)

平成15年度会長 武内 勇二

[平成15年度活動方針](#)

NO.	山 名	山 域	期 日	執筆者	ページ
平成15年度（2003年3月～2004年2月）					
307	岩山	日 光	3月 16日	坂口よし江	1
308	雲取山	奥多摩	3月 22日～23日	原田 和昭	4
309	奥久慈男体山(新人歓迎)	常 磐	3月 30日	中村美智子・やまたん	6
310	甲州高尾山	中央沿線	4月 6日	榎原 文子	11
311	岩殿山	中央沿線	4月 6日	日下 芳十	14
312	王ミソ・源次郎沢	丹 沢	4月 12日～13日	武内 勇二	15
313	稻合山・御荷鉾山	西上州	4月 12日～13日	大串 秀雄	19
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	4月 13日	松本 豊	23
315	百蔵山	中央沿線	4月 20日	高橋 正	25
316	赤岩山・古賀志山	日 光	4月 27日	佐藤 明子	26
317	白馬岳(春山合宿)	北アルプス	5月 2日～5日	青山 寿子	28
318	岩 山	日 光	5月 11日	原田 和昭	31
319	鷹巣山・六ツ石山	奥多摩	5月 17日	柴田 節子	33
320	檜洞丸	丹 沢	5月 21日	中村 隆泰	35
321	大源太山	上 越	5月 23日～25日	青山 寿子	38
322	夕日岳	日 光	5月 25日	高橋 潔	40
323	赤城山(公開登山)	上 州	6月 1日	やまたん	42
324	戸倉三山	奥多摩	6月 7日～8日	高橋 英雄	54
325	葛葉川本谷	丹 沢	6月 8日	千葉 有子	56
326	笠取山	奥秩父	6月 15日	飯沼トミ子	58
327	船形山～泉ヶ岳	北 上	6月 21日～22日	斎藤 清一	60
328	栗駒山・焼石岳	北 上	6月 28日～29日	武内 勇二	63
329	戸隠山、黒姫山、飯縄山	北 信	7月 5日～6日	原田 和昭・外崎 蓮	67
330	雌阿寒岳・斜里岳・羅臼岳	道 東	7月 10日～14日	中村美智子・長木加代子・原田君子	70
331	倉戸山	奥多摩	7月 13日	小川誠二郎	76
332	賤ヶ岳・伊吹山	近 江	7月 25日～27日	武内 勇二	77
333	平ヶ岳	会 越	7月 27日～29日	千葉 有子・北川勝久	81
334	光岳	南アルプス	8月 7日～10日	外崎 蓮	84
335	黒部源流	北アルプス	8月 12日～17日	坂口よし江	87
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北アルプス	8月 13日～16日	高橋 潔	90
337	西岳・編笠山・権現岳	八ヶ岳	8月 16日～17日	田村 光子	93
338	御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	8月 28日～31日	高橋 芳恵	96
339	鳳凰三山	南アルプス	8月 30日～31日	高橋 英雄	100

「やまなみ」第5号 目 次

NO.	山 名	山 域	期 日	執 筆 者	ページ
340	岩木山・八甲田山	八甲田	9月13日～15日	柴田節子・武内勇二	102
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会 越	9月20日～21日	佐藤 健一	107
342	女峰・大真名子山・太郎山	日 光	9月27日～29日	岡田 秀子	109
343	鋸山(ウイズハイク)	房 総	9月27日	やまなん	112
344	荒島岳・能郷白山	白 山	10月10日～13日	細野省二	123
345	笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	10月11日～12日	品田千恵子	127
346	浅草岳・守門岳	会 越	10月18日～19日	飯沼トミ子	130
347	大室山・加入道山	丹 沢	10月23日	菊地 純江	133
348	恵那山	中央アルプス	10月25日～26日	高橋 潔	135
349	白笹山・南月山	那 須	10月26日	渡辺 富美	137
350	酉谷山～天祖山	奥多摩	11月 2日～3日	大串 秀雄	139
351	荒船山	西上州	11月 9日	大畠 清江	142
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	11月 9日	佐藤 明子	144
353	日和田山～物見山	奥武藏	11月15日	日下 芳十	146
354	裏妙義	西上州	11月15日～16日	千葉 有子	148
355	足和田山(忘年山行)	富士周辺	12月 7日	やまなん<箕輪(カ)、石垣、佐藤(健)>	151
356	蕎麦粒山～川乗山	奥多摩	12月13日～14日	坂口よし江	155
357	和名倉山(X'mas山行)	奥秩父	12月20日～21日	外崎 蓮	158
358	筑波山	常磐	平成16年1月3日	蜂谷由美子	161
359	安達太良山	福 島	1月10日～11日	やまなん<岡田>	162
360	房総ロングハイク(県連)	房 総	1月24日～25日	安田みづほ・増田喜久子	164
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	1月25日	堀口 昭二	166
362	笛尾根	奥多摩	2月 1日	吉岡てる子	168
363	日の出山	奥多摩	2月11日	田村 光子	169
364	大菩薩嶺	中央沿線	2月22日	小川誠二郎	170
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹 沢	2月28日～29日	高橋 英雄	172
岳人祭		10月 4日～5日		やまなん<原田(和)>	177
資料		推移グラフ(1996年～2003年)		中村 隆泰	183
		山行一覧表 (2003年度)		中村 隆泰	184
		活動の記録 (1996年～2003年)		中村 隆泰	188
 編集後記					
* 表紙イラストの作者：千葉有子さん					

「やまなみ」第5号の発刊によせて

平成15年度 会長
武内 勇二

「やまなみ」第5号が発刊されます。
編集委員の皆さんのご苦労に対し心より感謝したいと思います。

今回の「やまなみ」には岳人あびこ第8期(平成15年3月～16年2月)の59山行の紀行文が収録されています。会員の延べ参加者700名の思い出がぎっしりと詰まっている訳です。

目次で数えてみると1泊以上の山行が32回と日帰り山行の27回を上回り、地域的に見ると、奥多摩、中央沿線や丹沢の近郊登山に加えて、北海道（道東）から白山・伊吹山へかけての東日本ほぼ全域の山に足を延ばしています。仕事や日常生活の合間をぬってよくぞこんなに歩いたと感動すら覚えます。



会が平成8年（1996年）10月に発足以来、本号の期間終了（平成16年2月）までの365回の山行の全てが「やまなみ」1～5号ならびに5周年特集号に収録されています。まさに「やまなみ」は会の活動を語る貴重な財産であると同時に、会員にとっては自分史の1部分となっているのです。これからも中断することなく、号を重ねて行くことを願ってやみません。

平成17年2月



第8期岳人あびこ活動方針

基礎力をみがいてみんなで安全登山

1. 活発な山行と質の向上

- (1) 一体化運営によるハイキング活動の活性化とレベルアップ
- (2) 山行グレード表示改善による山行レベル把握の容易化
- (3) 準定期例山行活発化による多様な登山に積極的にチャレンジ
- (4) リーダーの能力向上と若手リーダーの育成

2. 基礎力の向上と安全登山

- (1) 基礎体力向上のための自主トレーニングの奨励
- (2) 基礎知識・技術の向上のための講習会の企画・推進
- (3) 教育・研修山行の充実と推進

3. 事故防止

- (1) 登山計画書の事前審議体制強化
- (2) 山行中の連絡体制の強化（携帯電話の活用）
- (3) 緊急時の連絡方法・手順の徹底

4. 組織強化と会の活性化

- (1) 登山部、ハイキング部の廃止
- (2) 運営委員会とリーダー部会の分離開催
- (3) リーダー部員以外の部長、副部長および幹事への登用
- (4) 新会員募集方法の検討

5. 会員親睦とコミュニケーション推進

- (1) 新人歓迎山行、忘年山行の実施
- (2) 岳人祭の実施
- (3) 会員専用ホームページの内容充実

6. 人と自然とのかかわり

- (1) 公開登山の実施
- (2) ウィズハイクの継続実施
- (3) 自然保護活動への積極参加

7. 県連や他の山岳団体との交流推進

- (1) 県連理事会、各種委員会への積極的参加
- (2) 県連行事への参加を通じ他の山岳団体との交流推進

平成15年度

平成15年3月～平成16年2月

<307>

岩 山

坂口よし江

気持ちの良いゲレンデトレーニング

新鹿沼駅から30分ほど車道を歩き、日吉神社に到着。境内で各自、装備を整え出発。日吉神社の左に、ハイキングコースとなっている登り口があり、そこを進む。日吉神社から20分で、ゲレンデに到着。登山道の右側に、3mほどの高さのオーバーハング気味の垂壁に取り付いている先客が一人。ちょっと苦戦している。

私達は左側の1.5m程の壁を最初に練習することに。ホールドもスタンスも豊富にあり思わず取り付いて登りたくなる。今回は、岩登りは初めてというメンバーの方が多かったので、「この岩場にロープを張って十分に練習を積んでから次の岩場に進みます」。という柴リーダーのご指導で、繰り返しこの壁に挑むことになる。

岩登りは初めてというわりには、皆さん快調に上り下りを繰り返していて、その姿は実にりっぱ、頭が下がる。私も頑張らなくちゃ。

ロアーダウン・クライムダウン・懸垂下降の三種類のメニューもこなし、いよいよ15mの大壁に挑戦。柴リーダーが確保用のロープを背負って壁を登りはじめる。固唾をのんでその姿を皆で見つめる。こういうご苦労があって私達は、安全に岩登りが楽しめるんだなあと感謝の思いで一杯になる。

15m壁は、最初の登り出しの数歩がスタンス

が少なく、やつかいだがそこをクリアしてしまえば、ホールドもスタンスも随所にあり、フリクションの利く岩質なので快適に登れる。ピークは、気持ちの良い風が吹く見晴らしの良いところで高度感も満点。各自、一度ずつ登りとクライムダウンをこなし、午前中の練習を終了する。

午後は、15m壁の裏側にある壁に取り付く。ホールド・スタンスが多い向かって左の壁とホールドの少ない右の壁（チムニーのようになっている）の2ルートを登る。どちらもクライムダウンする。右壁は、下で見るとホールドもスタンスも豊富にあるように思えるが実際登ってみると、壁の下部は意外に少なくて下降に苦労する。

快い充実感で、岩登りトレーニングを終え、帰りは、新鹿沼駅前のお蕎麦屋さんで打ち上げ。評判のにら蕎麦を食べお腹も心も満足感に浸りながら帰途につく。

概念図

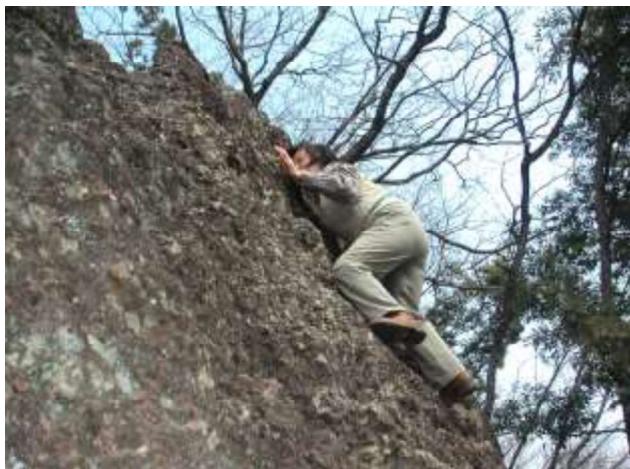




「この壁はおなじみ」と君子さん。



「この降り方って楽ネ」と芳恵さん。



「庄司さ～ん」「Zzzz」



「楽しくて、楽しくて」と増田さん。



佐藤明子さんは猿のごとくすいすいと。
「ウ～ン 度胸あるう」



絶壁に挑戦する坂口



さすが登山学校卒業生 大串恵子さん。

概要

山名	岩山 (ゲレンデ)	山行形式	日帰り
期日	平成15年3月16日 (日) 晴のち曇		
山域	前日光	地形図	鹿沼2万5千分の1
目的	岩登り (三点確保) トレーニング		
リーダー	柴 勇	費用	3,500円
参加者	大串(秀)、大串(恵)、原田(和)、原田(君)、増田、庄司、高橋(芳)、中村(隆)、武内、佐藤(明)、坂口 12名		
16日	我孫子5:30(成田線一番電車)→北千住(東武日光線)6:31→新鹿沼駅7:57 →8:05~日吉神社8:35/9:00~岩場9:10/トレーニング開始9:30/11:40昼食11:50/12:30午後のトレーニング12:40/終了15:00~新鹿沼駅15:45/16:31→春日部→柏→我孫子		

▼ 巨岩の前で。



< 308 >

雲取山

2017m

原田 和昭

雪の雲取へ

今回の登りコースは、三年前(2000年)の正月でコンピューター誤作動が社会問題として心配された時のコースと同じでした。その時は、暖冬で雪は殆んど無くてがっかりしたものでした。どうしても雪の雲取山を見たくて、リーダーに特にお願いをして参加しました。

重いザックを背負い鴨沢登山口から歩くこと約二時間、堂所近くになると一帯は雪景色に変わる。雪は固く踏みしめられて滑り易い。気温は下がり、立ち止まると身体が冷えて寒い。ブナ坂までは順調に到着。あたり一面は真冬で粉雪が舞い寒さは厳しい。周りの樹木の枝には真白い花が咲いたように霧氷がついている。この美しい景色を撮るためにカメラを出して見たが、気温が低くてシャッターが動かないで驚



ぐ。

奥多摩小屋から小雲取山に進むにつれて積雪量は多くなり、小雲取山付近では案内標識がすっぽりと雪の中に埋まるほど積もっていた。吹雪の中を最後の急坂に挑戦すると、丸太で作

られた堅牢な雲取避難小屋に到着。小屋には先着7名の方が身体を休めていた。

小屋では場所の確保と夕食の準備を開始する。小屋の中は広く外気との遮断は完全で快適であるが、小屋から離れた所にある便所に行って驚く。トイレの中は“黄金の宝”が山と積み上げられており、使用できる状態では無い。どんな厳しい自然環境の中でも利用できるようになると強く思いました。

夕食は、食担さんに準備していただいた栄養満点な“すいとん料理”で肉と野菜がいっぱいの暖かい料理が疲れた身体を心から温めてくれる。本当に美味しいいただきました。

白銀の頂上に立つ

二日目は早朝から一点の雲も無い快晴。空には大小の星がキラキラと光り、西の空には半月の月が輝いている。無風状態ですが寒さが肌に差し込むように寒い。5時半過ぎに念願の雪の雲取山頂上に立つことが出来た。東の空が明るくなり、真赤な太陽が昇り始めると真白い山々を赤く染める一瞬の光景に出会うことが出来て感動する。登頂記念写真を撮るためにカメラを出して見るが動いて呉れない。頂上で写真を撮っていた青年にお願いして写真を撮つてもらい、後日郵送してもらうようにお願いする。山の仲間は親切で心優しい人が多く、困った時に助けて戴き感謝する。

朝日に輝く白銀の世界、澄み切った青い空、富士山や四方の山々を楽しみながら、昨日登つて来た道をゆっくりと下る。ブナ坂からは石尾根登山道に入り急登を一気に登ると七ヶ石山頂上に着く、頂上は広くて景色は最高。山頂から少し下ると稜線になり、歩き易く気持ちの良い道である。道沿いの大きな木に新しい小鳥の巣箱がつけてある。新緑になるころこの巣箱に

小鳥が住み着くことを願いながら歩く。

間もなく丸太で組まれた鷹ノ巣避難小屋に到着。ここでコーヒータイムを楽しんだ後に、石尾根コースで一番急な坂道に挑戦。鷹ノ巣山の頂上には先客の登山者が数名いた。頂上で眺望を充分に楽しんだ後に下山開始する。

最後の山・六ッ石山には頂上直下にザックをデポしておいて登る。雪面に自転車のタイヤ跡がついているので不思議に思いながら登ると、数人の登山者が昼食をしていた。その中に若者2人がマウンテンバイクを持って登っていた。雲取山の方を眺めながら、早朝から歩いて来たコースを振り返り、良くここまで歩いて来られたことに感心する。

六ッ石山からの下山は、凍った雪から腐った雪に変わり、厚く積もった落ち葉に大小の石が混じる急坂のドロドロ道。滑らないように最善の注意を払いながら約2時間半の長丁場を無事に降りる。多くの雪と標高差1700m、総歩行時間13時間強の健脚コースを無事に踏破することが出来た。念願の雪の雲取山に登り、長い尾根を無事に縦走することが出来たのはリーダーを始め同行した仲間のお陰です。ありがとうございました。

概要

山名	雲取山	山行形式	避難小屋泊
期日	平成15年3月22日(土)～23日(日) 一日目、曇り後小雪。二日目、晴れ		
地形図	「雲取山」「丹波」1/2.5万		
山域	奥多摩	費用	約5000円
目的	雪の雲取山		
参加者	L青山、細野省、清家、外崎、原田和 5名		
日程 ・ コース	<p>第一日目 我孫子駅 5:33=新松戸駅=西国分寺駅=立川駅=奥多摩駅 8:24/8:30… バス…鴨沢着 9:05 登山開始 9:15～小袖 乗越 9:40/9:45～堂所 11:35/11:45～七ッ石小屋分岐 12:25/12:40～ブナ坂 13:20～ 奥多摩小屋 14:05～雲取避難小屋着 15:10 <行動時間 5時間 55分> <歩行時間 5時間 10分></p> <p>第二日目 小屋発 5:30～雲取山頂上 5:35/5:45～小屋発 5:50～奥多摩小屋 6:25/6:40～ブナ坂 7:10～七ッ石山頂上 7:30/7:40～千本ツツジ 8:10～鷹ノ巣避難 小屋 9:25/9:45～鷹ノ巣山頂上 10:25/10:31～城山 11:15/11:20～六ッ石 分岐 12:17～六ッ石山頂上 12:22/12:30～ 分岐 12:23/12:35～林道に出る 14:30～奥 多摩駅着 15:15 駅発 16:23=立川駅=西国 分寺駅=新松戸駅=我孫子駅着 18:47 <行動時間 9時間 45分> <歩行時間 8時間 15分></p>		



▲ 残雪の雲取山。

←雲取山頂に立つ。

<309>

奥久慈男体山 (縦走 A コース)

中村美智子

また歩きたい魅力的なコース

男体山は前に二度登ったことがあるが、この南側の縦走コースは初めてで楽しみにしていました。でもちょっとハードなようで、4人の方が他のコースに移られてすこし不安もありました。

縦走 A コースの10人が最初にバスから降りることになり、湯沢にて皆から見送られて下車。スイセンはつぼみだけど梅は満開で車道歩きは目を楽しませてくれた。杉の花粉が一杯ついていて今にもはじけそうだが穏やかな日でホッとする。最初の尾根から彼方に男体山が見えた。目標が見え安心。村松リーダー部長から霧の中でも、地図とコンパスで迷わない方法をご指導とのこと。地図を用意していなくて後悔する。

お天気がよく尾根歩きはさわやかで、ルンルン気分で楽しかったのだが、アップダウン・トラバースが始まり、慎重に歩く。見晴らしの良い鷹取岩の展望台に着く。鷹取岩は細長い縦岩がふたつあり、その一つが人の顔に見える面白い岩で、そ



鷹取岩、遠くに男体山(縦走A)

の岩の向こうに男体山が見えた。それからがアップダウンの繰り返しで、だんだんと脚が疲れてきた。登りになるときつくなり、後ろをみると後ろ

もきつそうだった。鎖場が3・4カ所あって楽しめた。男体山の見晴台で早やお昼にする。

大円地に着き一息する。案内板があったが、私たちが通ってきたコースは載っていなかった。ザックを一ヶ所にデポし、身軽で男体山へと向かう。空身だけれども、その登りの厳しかったこと！！見える所が頂上だと思ったらまだ先で、下り・登りがあり、諦めたころにやっと本当の頂上が見えた。“ヤッホウ”“ヤッホウ”こだました。ゆっくり・ゆっくり、最後の登りはじっくり味わって登った。

山頂では岳人あびこの先着隊に迎えられた。春霞がかかっていたが、360度の展望が楽しめ、去年の新人歓迎山行の八溝山も見えた。



男体山山頂にて(縦走 A コース)

山頂から大円地へ戻り、ザックを背負い、陽だまり山行の雰囲気だった。道端のニリン草やスミレに目を留め、杉林の中を軽快な足取りでアワ・アワ・・・とビールが呼んでいるようで軽やかに下る。下山して振り返ると、今登った男体山の勇姿が目の前にあった。感無量！！ けれども大型バスは上まで入れないとかで、疲れた脚には酷な35分の車道歩きを余儀なくされた。先着隊に拍手で迎えられ歓迎会会場に全員無事に到着！！

春の穏やかな一日、アップダウンが多く、鎖場・トラバースと変化に富んだコースを楽しむ事が出来ました。久しぶりに顔まで汗をかいたようで、塩を噴いていました。国道歩きを除けばとても良いコースなので、また新緑か紅葉の頃ゆっくりと歩きたいと思います。

定例 行走会
新人歓迎山行

奥久慈男体山

特集

リーダー：堀口、青山

グレード：A

日 程：平成 15 年 3 月 30 日（日） 晴れ

目 的：新人歓迎山行

参 加 者：合計 45 名

一 般(10 人)L 堀口、S L 野村、榎原、飯合、吉岡、原、松本、山本、佐藤健、藤倉
健 脚(11 人)L 坂口、S L 柴、大串恵、小黒、日下、斎藤、原田君、中村八、武内、箕輪完、石垣
縦走 A(10 人)L 青山、S L 村松敏、大串秀、高橋英、中村隆、中村美、安田、大畠、原田和、箕輪力
縦走 B(14 人)L 千葉、S L 外崎、清家、細野清、細野省、柴田、村松峯、高橋寿、中野、佐藤明、大
平、岡田、田村、藤田



コース：

団体行動 我孫子駅北口集合 6:10 出発 6:20 ⇒ 那珂 IC ⇒ (R118) ⇒ 湯沢 8:45 (縦走 A 班下車) ⇒
袋田 (縦走 B 班下車) ⇒ 湯沢 (一般・健脚班下車) · · · · ·
(帰り) 歓迎会会場 (国道) ⇒ 那珂 IC ⇒ 我孫子着 19:40

一 般 (歩行時間 4 時間)

大円地登山口～健脚との分岐～大円地越東屋～**男体山**山頂～男体山神社～歓迎会会場 (国道)
健 脚 (歩行時間 4 時間)

滝倉 9:20～大円地登山口 10:30～一般コースとの分岐 10:48～**男体山**山頂上 12:00／45～男体山
神社 13:25～分岐 13:45～滝倉 14:25～歓迎会会場 (国道)

縦走 A (歩行時間 5 時間)

湯沢 8:45～佐中分岐 (登山口) 9:15～釜沢越 9:45～鷹取岩 10:35～古分屋敷分岐 10:55～昼食

11:10／30～小草越（古分屋敷分岐）11:37～大円地越東屋 12:10～**男体山山頂** 12:45／54～大円地越 13:13～健脚コース分岐 13:45～滝倉三叉路 14:05～国道 14:40～歓迎会場所 14:43
縦走B（歩行時間 5時間30分）

袋田の滝入口 9:15～登山口 9:25～月居山山頂 10:05～月居峠 10:25～鍋転山山頂（423m）
10:45～案内板（昼食）11:50／12:10～**男体山山頂** 13:40～男体山神社 14:40～歓迎会会場（国道）他パーティーと合流

メモ：

一般コース

- *バスを降りて健脚コースのメンバーと大円地までの長い舗装路、登山口より南斜面の薄暗い杉林の中を登る。
- *杉林を抜けると明るい谷間で所々に紫のスミレやニリンソウの花が咲く。
- *大円地越にて休憩の後、女性陣は先行。
- *山頂近くには昨年の山火事の傷跡が目に付く。山頂一番乗りを健脚コースに奪われる。
- *健脚コースと合同で美味しいビールに向って下山。

（野村）

健脚コース

一般コースと分かれてしまふ急な樹林帯を行くと、脆い岩場の斜面に出た。足を静かに運ばないと落石を起こすので細心の注意が必要。危険箇所には、随所に鎖がついているので安心感はある。上部は、セメントに石を混ぜて固めたような岩場で安定しており、かなり急な斜面ではあるが登りやすい。歩行時間は短かかったが、変化に富んでいて面白く充実感のあるコースであった。お天気に恵まれたことも幸いした。

（坂口）



男体山山頂にて(健脚コース)

縦走Aコース

本文をご覧ください。

縦走Bコース

- ◆ 今回の主賓、新人参加のパーティーとなつた。思ったより登降がきつく、歩行時間も長く初めての山行としてはハードだったので。
- ◆ このコースは最初予定していなかった。そのため、下見不十分。折角の袋田の滝を見ないうちに、手前の登山口から入山してしまった。
- ◆ 山行前半は集落が下に眺められ、犬の鳴き声や車の音も聞こえて、里山ハイキングの様相。花もたくさん咲き誇り、特に岩陰に小さく開いていたシュンランに感激した。



新人さん「よろしくお願ひします」

- ◆ 後半は他パーティーとの時間の差が気になった。男体山山頂を後にし、稜線から離れて神社への道を降り始めて程なく、「もうみんな着いている」の旨連絡があった。
- ◆ 急勾配、落ち葉の滑りやすい坂、岩の多い道、と豊富に経験できた。考え方によつては、新人の人達にとっても、実り多いコースだった。(と思いたいです) (千葉)



男体山山頂にて、縦走Bグループ



振り返れば「男体山」がそびえる(大円地より)

感 想 (8期新人) :

♪ 天気は素晴らしい。気分も最高だ。久しぶりの山行だ。6時10分我孫子集合でバスで各コースの登り口まで乗つていった。

我々新人は縦走Bコースで、袋田で降りた。9時25分いよいよ出発。階段を登り始めて、カタクリの群生があり、つぼみがふくらんでいた。続いてスミレの群生。花好きの私はとても幸せな気分で登れた。私は普段のテニス等には支障がないが、正座が出来ないというひざの持病があり、少々心配していた。登りはなんとか登れ、頂上についた時は本当にうれしかった。

♪ この日のお天気はハイク日和、小粒でピリリと辛い低山縦走ハイク。アップ、ダウン、ちょっとした岩場、変化がありとっても楽しく歩けました。また、春の花（カタクリ、アブラチャン、スミレ、ヤブレガサ？ニリンソウ？・・・）に出会い、ウグイスの声が聞けて嬉しさ楽しさ

♪ お天気に恵まれた新人歓迎山行は素晴らしい

しかしやはり、下山の時、途中からひざがパンパンにはれてしまった。歩みもゆっくりとなつてしまい、皆さんに迷惑をかけてしまった。今後は筋肉トレーニングできたえなければ感じた。やっと着いた歓迎会場で飲んだビールのおいしかったこと。7期生の豚汁も最高で、本当に楽しい一時でした。新人でもレベルの差があり、私にとって今回の5時間半の山行は大変でした。それでも山行に参加出来、楽しい1日を過ごせてとても感謝しています。

(大平恵美子)

が倍増しました。

下山をしてからも会員の方々が心から歓迎をしてくださいました。有難うございました。これから仲間の一員となって一歩一歩諸先輩たちの知識、技術を学んで行きたく思います。

(岡田秀子)

かつた。袋田の滝から歩き始める縦走B班に参

加しましたが、歩行時間も手ごろで、心地よい疲れに満足して集合地点に戻ってみると、歓迎の宴会も盛り上がってました。駆けつけて早速いただいたビールの味も格別でした。これか

らも皆さんと一緒に楽しくトレッキングを続けてまいりたいと思います。

(佐藤明子)

* * * * *

♪ 朝から天候に恵まれ、私にとって今年初めての山行で少し不安をいだきながらの登山となりました。

初めから急な階段が私たちを迎えてくれました。途中も思っていたよりアップダウンがあり、少し疲れたと思うと黄色のアブラチャンに

* * * * *

♪ 岳人あびこに入会して初めての山登り。思ったよりアップダウンがあり少々つらく感じましたが、途中岩があるところでは先輩が前後に入つていろいろとアドバイスをして下さり、何とか無事に下山できました。途中鶯の鳴く声、さわやかに吹き渡る風、そして頂上からの眺め、ひさしぶりに登った山に、やっぱり山はいいなあと実感しました。また、下山後の豚汁、ビー

いやされ、皆様に助けられ、なんとか最後までがんばることができました。

下山してからの豚汁とビールのおいしかった事は忘れられません。色々と手配して下さった方々ありがとうございました。

(田村光子)

* * * * *

ル、手作りのらっきょうなどなど、とってもおいしくいただきました。それに、オカリナ伴奏付きのコーラス。先輩方のお気持ちをありがたく思うと同時に、私たち同期は来年、再来年にはこういうことができるのかなと一瞬不安にもなった山登りでした。

(藤田美智枝)



「アンコール！」

♪♪ウサギオ一イシ....♪♪
Ocarina Horiguchi & Rocky Girls
《お頭堀口と6期の乙女たち》

<310>

甲州高尾山

(1,092m)

榎原 文子

“勝沼ぶどう郷駅” 素敵な名前の駅に降り立つ。丘の上には一際目立つ“ぶどうの丘センター”がある。ブドウ畑と桃畑が一面に広がる町そして気持ちよさそうに広がる山波、さて高尾山はどの山でしょう？

駅前で、準備体操後中村リーダーより7区分された地図が配られジャンケンでそれぞれトップ体験と地図読み訓練をさせていただく。昨日の大雪で一面雪景色。登山口までの約一時間の車道歩きで体も温まる。何台も車が我々を追い越していく。(案内書には登山口までタクシー利用と書いてある)。

大滝不動奥宮の前で身支度を整え、いよいよ山に入ることになる。雪と氷の階段を滑らないよう慎重に登る、途中から右手に雄滝、雌滝ゴウゴウと流れ、登りきった目の前には迫力満点の神洗滝がドドーと、ものすごい勢いで山のてっぺんから流れ落ちており、これを見ただけでも一時間の車道歩きの疲れが吹き飛んでしまう。そして展望台からは、甲府盆地と南アルプスの山々が神々しいばかりに真白く輝き、いつまでもここに立ち尽くしたい衝動に駆られる。

頂上へは富士見台コースを選び、20~30センチ積もった雪道をザクザク音たてながら進む。やがて尾根に出ると、目の前に大きな富士山が、我々を迎えてくれていた。なんて素晴らしい眺め、感謝、感謝。富士山を見ながらの昼食はまた格別のおいしさ、お腹も心も満腹、満足。

山頂はそこから2つ程のピークをアップダウンして辿り着く。下山はかなりの急坂で、要注意。下山口に近づくと“春蘭”的群落に歓声があがる。車道に出てすぐの“大善寺”に立ち寄り小休止。そしてワイナリーを目指す。“シャトー勝沼”的工場見学後試飲をし、気に入ったワインをお土産に。背中のザックがずしりと重い。

今回桃の花にはお目にかかれなかったが、我々一同皆ほんのり、桃色、桜色。お天気に恵まれ、良き仲間に恵まれ本当に楽しい山行が出来ました。高尾山は駅、そして町からほとんど全形が眺められる、日帰りにはとても手軽な山だと思います。リーダー中村さん有り難うございました。

(榎原)



残雪の大滝不動尊にて

大串秀雄

前夜の降雪で、稜線には数十センチが積もっていた。春の淡雪にしては水気の少ない新雪だった。急登の雪道を一步一歩、一面に広がる雪原の中で白き山々を楽しみながらの昼食、雪の下降路ではお互に注意しあいながら…おかげで、春の日差しの下で冬山気分…最高。

大串恵子

桃の花が咲いてなくっても、新雪の真っ白な華を楽しむ事が出来ました。なんだか得をしたような気がしました。

大畠清江

いいお天気、ラッキーと家を出る。勝沼ぶどう郷駅に近づくにつれ車窓からの風景は白いものが…。嫌な予感。4月にしてはまさかの大雪。アイゼンどころか私の足は使い古しの軽登山靴。いつもの靴は、先週の男体山で靴紐をとめる金具がとれてしまい、修理に出したままである。案の定、間もなく靴の中はグジャグジャ言い出した。しかし天気は最高である。南アルプスの山々、富士山を真正面にしての昼食は気持ちよく、足の冷たさを少し忘れさせてくれた。下山して大善寺で靴下を履き替えてやっと人心地つく。“備えあれば憂いなし” もう一足買おうっと！

原田和昭

天候に恵まれて、予想していなかった新雪を踏みながらの登山。南アルプスや奥多摩の美しい山並みに満足。コースを7区分して7名の仲間が先頭を歩き、良い経験をして楽しかった。ピンクの桃の花はまだでしたが時期外れの真っ白い雪景色に満足。勝沼ワインも特別に美味しい。楽しい一日を有り難う。

原田君子

八王子・高尾を過ぎると沿線に雪がある。今日は、桃の花ならぬ雪見山行になる。電車の中での会話…Oさん「アイゼンを持ってきてない。どうしよう。」

リーダー「いまさら取りに帰るわけにもいかないでしょう。技術でカバーしてください。」hさん「おれ、ストックを忘れた。」リーダー「現地調達」リーダーは大変ですね、参加者の持ち物にまで気を遣って。桃の花はなかったけど、思わぬ雪山に結構満足。大滝不動の雄滝も見逃せない。

細野清子

展望台を下ると登山道が左右に分かれている。右手は雪は少なさそうだが、段々に下って行く道で登山道は踏み固められているようだ。左手は雪が深くあまり人が入っていないようで、踏み跡もまばら。「さあ一どっちの道を行こうか」どちらの道も“甲州高尾へ”的表示がある。左手のあまり踏まれていない道を選択する。歩くうち段々と雪が深くなつて行く。積雪は深いところで50センチはあろうか？しばらく歩くと、右手に上がり口いよいよ今日のメインルートに差し掛かる。一歩一歩滑らないように踏みしめ登る。そろそろ一休みという頃に、鞍部に出る。稜線に出るところはアイスバーンになっていて滑り落ちそう。足場のよさそうなところを滑らないように登る。「こういう時は先頭の方が歩きやすい。後ろになるほどアイスバーンがひどくなるのだから良かったね」と後ろの大畠さんといいながら登っていると、稜線に出た。そのトタンに面前に、大きな富士山が見えた

“ワーキれい”と口々に歓声の声。こんなに早く富士山にあえるなんて。ホント感激。しかも富士を見ながら歩くのだ。御坂黒岳もそうだったと思い出しながら感慨に浸る。早めのお昼を富士を

看にとる。お腹も心も満腹。細い登山道の向こうから登ってくる人「向こうの山に登ってきましたか?」と声をかけられた。地元の人で積雪状況などを調査している人らしい。「あっちの山も良いですよ。次回はぜひ登ってください」とのこと、いつか又ネ。快適な尾根歩きが続き「ここが頂上だね」とせっかく記念写真を撮ったのに、残念。表示板がなく同じような高さなので、間違えた事が後で判明した。

概念図



概要

山名	甲州高尾山	山行形式	日帰り
期日	平成15年4月6日(日)晴れ、積雪		
山域	山梨	地形図	笹子、石和 (2万5千図)
目的	ももの花		
費用	概算 2,840円(ホリティパス利用)		
参加者	L 中村隆、細野(清)、大串恵、大串秀、榎原、原田君、大畠、原田和、藤倉 9名		
コース	我孫子駅 5:33 発 = 新松戸 = 西国分寺 = 高尾 = 勝沼ぶどう郷駅 8:41/50 ～前不動 9:25～大滝不動尊 10:35/45～展望台 11:08/13～富士見台 11:45/12:15(昼食)～甲州高尾山 12:40～送電鉄塔 13:50/14:00～大善寺 14:20/30～勝沼ワイナリー 15:30/53～10/30～勝沼ぶどう郷駅 15:30/53 = 立川 = 我孫子駅 19:00		



▲甲州高尾山山頂にて

<311>

岩殿山

634m

日下 芳十

前日はつめたい雨降りであつたが、今日は天気予報通りの快晴だ。小仏トンネルを出ると、車窓からの景色は一面雪化粧、山々は白銀の世界に変わる。

桂川の北岸に荒々しい岩壁を見せて屹立する岩殿山も白一色の雪景色。大月駅前岩殿山登山口・さつき通商店街に入り桂川を渡り舗装の道をジグザグに登り、ひと汗かくころ円山公園に着く、今日からさくら祭り。ところがこの雪と桜はほんの一・二輪でイベントは中止のようだ。

円山公園からの富士山は見事であつた。ここでスパツツをつけ出発。ふたたびジグザグの雪道を登る。積雪は20cm ちかくあり階段はシャーベット状だ。

岩殿山展望台かたわらに乃木希典大将の詩碑が立つが、目に入るのはみごとな眺めだ。桂川をへだてて眼下に大月市街が、その向こうに富士山、三ツ峠、御正体山、道志山々などが見渡せる。ここには岩殿城跡の案内板が立ち往時を偲いながら山上の遺構を巡り築坂峠へ向かう。このあたりは南面でほとんど雪はない。送電鉄塔の下に出て、尾根をゆるやかに登り、二ヶ所の鎖場を三点確保で兜岩の上に立つ。小さな起伏を登り下りして、まもなく左側がスパツと切れた岩壁の上に。

ここが稚児落とし、すさまじい眺めである。ここで昼食。小黒さんの特製のクズきり入りのお汁粉を賞味。美味しい。冷えた体

をあたためる。

垂直高にして100m以上、U字型に湾曲した岩壁の縁に沿って登り、西端に立てば、岩殿山や富士山のパノラマが広がる。雪道を慎重に下山、浅利の吊橋を渡るとタイミングよくバスが来た。手を上げ、乗車。帰路につく。今回は低山ながら雪山鎖場等を体験し大変楽しい山行であった。

概要

山行	岩殿山	山行形式	日帰り
期日	平成15年4月6日(日) 晴天		
山域	中央線沿線	地形図	大月、都留
目的	岩山から鎖場、岩壁上の縦走		
歩行時間	3時間30分	グレード	A
費用	¥2,260(ホリデイパス利用)		
コース	我孫子駅 6:18=八王子 7:56/8:05=大月駅 8:59/9:10→高月橋→登山道入口→円山公園 9:35/9:50→岩殿城址 10:15/10:20→岩殿山 10:25→築坂峠 11:00→兜岩 11:05→稚児落し(昼食)12:15/13:05→浅利吊橋 13:40/13:45(バス)=大月駅(コーヒータイム)14:00/14:47=立川 15:53/15:57=新松戸 17:03/17:10=我孫子駅 17:27 着解散		
リーダー	日下	参加数	8名
参加者	L日下、sL高橋芳、小黒、斎藤、長木、中野、庄司、佐藤健		

<312>

モミソ沢出合・源次郎沢

(丹 沢)

武内 勇二

第1日（モミソ沢出合でのトレーニング）

大倉のバス停より近道をしようと水無川を渡渉して対岸に渡り林道を歩く。竜神の水場で小休止し、更に1時間弱の単調な林道歩きの後戸沢の駐車場に着いた。ここが今夜の幕営地である。テント設営後林道をやや戻って新茅橋付近より沢に降りモミソ沢出会いの岩場で岩トレを行った。カラビナにブルージックの結び目を通過させる方法（カラビナの架け替え）の説明を受けた後、岩場で実践となった。メインロープが張られ、登りはカラビナの架け替えの練習、そして下りは懸垂下降をやるようにとのリーダー（堀口さん）の指示が出た。

下で順番を待っている間に、メインロープの端を使ってカラビナの架け替えの練習するがなかなかコツが呑込めない。三点確保しながら空いている片手で操作するのが基本ということだが、理屈は理解できても実際はそれ程簡単ではない。順番がきたので自信のないまま岩に取り付いたが、平地で出来ないことが崖の途中で出来るはずもなく、2本のカラビナともごまかして通過してしまった。明日の本番では、カラビナの架け替えが出来ないと通過できない箇所があるということだが、これではどうしようも

ないなと反省しながら登攀を続けた。登りつめた所で、柴さんが待っていてくれて、「まずは確保してから、エイト環を装着しなさい」とのアドバイスをうけた。今度は懸垂下降の練習だ。降り出した雨で岩が滑るのでゆっくりと降りた。途中で、野村君が登ってくるのに出会った。雨で滑りやすくなっているので、第一カラビナを通過したあたりで難渋していた。下からは、佐藤（健）さんが「無理するなヨ！」と叫んでいる。

そのうち手掛けを見つけた模様で、無事通過していった。それ程の雨ではないものの岩はすっかり濡れて滑りやすくなつたため、練習はこれでお終いとなった。林道に戻り、ファイアー用の枯れ木を拾いながら幕営地に戻った。ファイアーに点火したもの降り続く小雨を避けて、懇親パーティは近くの東屋でやることになった。さすが酒好きのメンバーが集まっただけに、各自で持参したビール、ワイン、日本酒、ウイスキーとたっぷりある。飲んで唄って食べてと大いに盛り上がった。一通り食べ終わった後、今度はファイアーの周りに場所を移してまたまた盛り上がり楽しく夜が更けた。



戸沢キャンプ場 源次郎沢へ出発。

第2日（源次郎沢遡行）

前日の雨もあがり空はからりと晴れ上がった。準備を整えて愈々出発。ヘルメット姿はなんとも勇ましく、いざ出陣とばかり身が締まる。堰堤脇より山道に入り暫く登ったところで源次郎沢に降り立った。身支度を再点検して出発。リーダーの指示で、先頭は千葉さん、2番手は沢初体験の佐藤さん、そして外崎さん、清家さん、武内、細野さん、坂口さん、野村君、しんがりは柴さん、そしてリーダーは状況に応じて前後するという順番で隊列を組み遡上を開始する。

やがて、大滝（F4）に前を塞がれた。凡そ10メートル位の高さがある。滝の正面左にルートがあり、大岩が滝の上部にせり出している。「そのあたりを通過するのがいやらしいのでロープで確保しましょう」と言い残してリーダーは登っていました。左に巻く道もあるが、今日は「全員こ

こを登って貰います」との鶴の一声がある以上、渋々乍らも覚悟を決めざるをえない。先頭の千葉さんが登り始めたが、登り口3メートル位のところをクリアーするのがやや難しそうだ。佐藤さん、外崎さん、清家さんと続き愈々順番がきた。覚悟を決めて岩に取り付いた。心配した箇所も何とか通過、滝の落ち口もロープで確保されている安心感があり無事に通過、先行した皆さんのお手に迎えられて緊張がほぐれた。

続いて三段の滝（F5）に到達。中段の滝の左壁をまず千葉さんがトライしたが出だしのややハング気味の岩に手掛りが見つけられず、ロープでの確保がなかったこともあり一旦断念した。そこでリーダーがロープ設置のため滝の上部への巻き道を急いだ。次にやはりロープなしでチャレンジした清家さんは四苦八苦しながらもこの難所は通過したもの滝の落口で立ち往生、右に左に手掛りを探したがなかなか見つからない。下か

F4 滝の左側のルートを登る





F5で奮闘中の清家さん

ら見つめる者もハラハラドキドキ。そうこうしているうちにロープの準備が出来たので、確保した後再度チャレンジの上この難関を乗り切った。清家の成功を全員が拍手で賞賛した。実際にロープを頼ることはないものの、確保されているとの安心感が大胆な行動を可能にしてくれるのだろう。次に登った千葉さんは滝の上部をやや左に振って登った。このルートもなかなか厳しそうだった。佐藤さんも千葉ルートを辿ったが、難渋の上最後は馬力で乗り切った。このルートは上部が難しそうなので、もっと易しく登れるルートがないか必死に探したところ、最初ややハング気味の岩の左側を登った方が上部の傾斜がやや緩いように見受けられた。まず、外崎さんがこのルートに挑戦、出だし3メートルあたりの乗り切りにやや時間がかかったが、心配された上部は比較的すんなり通過したことから、後続組はこのルートを登った。ただ野村君はやはり若いだけあってチャレンジ精神旺盛で、一番困難と思われる清家ルートに再チャレンジ、水しぶきを浴びながらもクリアしたのはさすがである。

途中で右に沢を分け更に前進した。いつのまにか水流はなくなり涸れた沢を行くことになる。や

がて、チョックストーン滝（F9）に到達、水のない滝壺で休憩をとった。登攀ルートは滝の右横の壁と左正面の2本。巻き道は左にある。左正面のルートにはテープが2本架かっていた。テープがある分だけこちらの方が易しいように思えたが実際のところはわからない。

右の壁を指しながら「今日はこの壁をやってみましょう」。8メートル程の高さながらまさに垂直に近く、「こんな壁無理だよ！」と心で思いながらも、リーダーの言葉に服従せざるをえない。リーダーが柴さんに確保を頼んで上り始めた。3メートル程の高さのところにハーケンが打ち込んであり短いロープがぶら下がっている。そのハーケンにカラビナをかけメインロープを通した。ブルージックの結び目がカラビナを通過しないと上には行けない箇所である。昨日練習したとはいえ、マスターした訳ではないので本番で出来るだろうかと不安がよぎる。ここから上へ進むのに、リーダーは何度も身を起こしてホールドと進路を確認していた。下から見ていると小さな凸凹が沢山あるように見えるが恐らく安心できるほどのものではないのだろう。ここから上が難しそうだ。やがてリーダーはやや右に振り気味にして通過、岩壁上部で左にトラバースして滝上にでた。トラバース途中でもう1回カラビナのかけ替えが必要な箇所がある。

これまでの順番通り岩に取り付く。皆それぞれに難渋しながらもクリアしてゆく。突然、こぶし大の石が確保している柴さんの30センチ近くに落ちてきてヒヤッとした。事故にならなくて本当に良かった。これからは順番待ちの場所にも気をつけねばと痛感した。清家さんが登り終え愈々順番がきた。最初のカラビナあたりまでは順調だった。心配したカラビナのかけ替えも何とか

うまくいったが、ここから上がやはりホールドが小さい上に岩に薄く泥がついているので滑りそうでなかなか体重移動が出来ない。細かくステップを刻み岩壁の右端にある笹の根っこを掴み思い切って身を預けてこの難関を乗り切った。まずはほっとしたがこれから岩壁上部を2番目のカラビナの架け替えをしながら左にトラバースしなければならぬのでまだ気をゆるすことは出来ない。カラビナまでは難なく到達した。夢中でカラビナの架け替えをやったが手順通りできたかどうかは定かではないものの結果的には結び目はカラビナを通過していた。ここから体を左に半回転させて岩の出っ張りに足を掛けるあたりは度胸が必要だった。拍手に迎えられ滝の上部に出たときは、緊張から解き放たれ爽やかな達成感に満たされた。確保してくれた堀口さん、柴さん、ありがとう。

坂口さん、野村君も引き続いで上がってきた。
ここを通過するのに、1時間半を要した。

この後はさしたる困難な箇所もなく沢を詰めるとやがて足首ほどの笹原の急登になり源次郎尾根に出た。ここで大休止となり、完登の満足感に浸りながら遅い昼食を取った。塔の岳が間近に聳え、大倉尾根を行くハイカーの話し声が聞こえる。

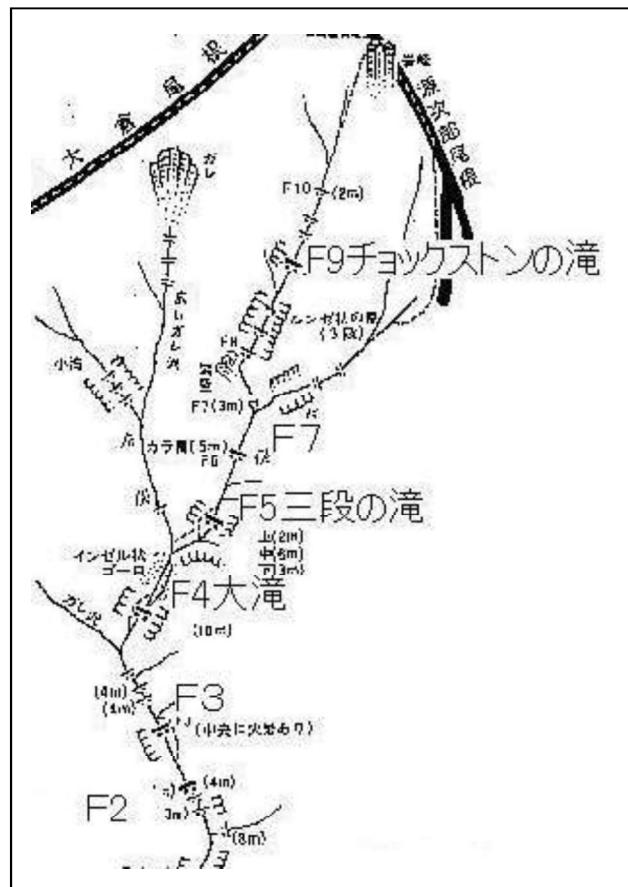
源次郎尾根の下りは、土がやわらかくずるずるとすべるのでとても歩きにくい。ルートもはつきりとしないので、道を間違い引き返したり、落石に注意しながら降りねばならない斜面があったりで、楽な道ではなかったが、下に行くにつれ踏み跡がはっきりしてきてやがて書策新道にでた。

テントを撤収し終わったときは既に5時半、昨日来た林道を戻り大倉バス停に着いたときにはすっかり暗くなり、灯りが点っていた。

概要

山名	モミゾ沢出合・源次郎沢
日時	平成15年4月12日(土)～13日(日)
目的	沢の楽しみを味わう
天気	第1日目 曇のち小雨 第2日目 快晴
形式	テント
行程	(第1日目) 我孫子発 5:50 = 代々木上原 = 渋沢 8:45(バス) = 大倉バス停 8:55/9:05 ~ 竜神の泉 9:45 ~ 戸沢キャンプ場 10:45/11:45 ~ モミゾ沢出合の岩場 ~ 戸沢キャンプ場 14:45(テント泊) (第2日目) 戸沢キャンプ場 7:40 ~ F4 9:00 / 10:40 ~ F5 10:20 / 11:20 ~ F9 12:00 / 13:30 ~ 源次郎尾根の岩峰 14:30 ~ 5:00 ~ 戸沢キャンプ場 16:35 / 17:30 ~ 竜神の泉 18:20 ~ 大倉バス停 18:50 / 19:38(バス) = 渋沢 20:00 発 = 我孫子 22:30
リーダー	堀口
参加	L堀口、柴、清家、細野省、外崎、武内、坂口、千葉、佐藤健、野村 10名

(概念図 昭文社 山と高原地図をもとに加工)



<313>

いなふくみやま みかぼやま
稻含山・御荷鉾山

1370m 1286m

大串 秀雄

小学校卒業山行

気が置けない山仲間たち

平成9年春、私たち2期生は岳人あびこ小学校に入学した。それから6年、都合により退学した者2名、また大阪に転校となった者1名を除く20名は、四季を通じて山行に励みに励み、平成15年春、揃って小学校を卒業することになった。この間、先輩1期生の方々には温かなご指導を賜り、また3期生以下の方々には激励やら後押しをしていただいた。曲がりなりにも卒業できることになったのも、偏に先輩後輩各位のご指導ご支援の賜物であり、心から感謝申し上げる次第である。

さて、私たちは毎年春に、自らの進級祝いを兼ねて修業山行を行っているが、今回は晴れて小学校卒業記念山行。

春うらら。西上州の山々は瑞々しい芽吹きの季節を迎えていた。卒業山行にはぴったりの山だった。好天にも恵まれ、思い出に残る記念山行となつた。

…今回の山行は、一応“卒業山行”と銘打っているものの、本当に“卒業”に値しているか否かは分からぬ。毀誉褒貶は世間の評価にお任せせざるをえない。ただ、勝手ながら、私たち自身としては6年間が経過したことでもあり、“卒業”と思い込みたいのが本音である。実際のところ、滑って転んでばかり、軽度な転倒等が当然の様に

発生していた新入生の頃を思い起こせば、技術・体力など格段?に進歩しているのも事実である(と、私たち自身は思い込んでいる)。

雨天予報が出ていたが、目的地に近づいても空は明るいまま。鳥居峠でバスから下車した時も、遠くの山々まで見通せ、暫くは降り出しそうもない。天候が好転し、仲間の表情は一段と晴れやか。

落ち葉の敷き詰められている山道に入る。歩きやすく気持ちよく登れる。山頂に近づくにつれ、鎖場や残雪が現れ多少緊張するが、余裕を持って通過。行き交うハイカーもなく、静かな西上州の山に心行くまで浸る。稻含神社で安全を祈願。神社からはほどなく山頂。360度の大展望はとても1370mの低山のそれとは思えない。期待以上の展望に大満足。

山頂での食事中に、“稻含山を愛する会々長”と命名したくなるような地元の登山者が、ごみ集め



▲稻含山山頂へ。

のために登ってきた。かの会長殿におかれでは、稻含山のことはすべてに精通なさっている。

…(同氏は、山と渓谷誌に稻含山について寄稿している由だが、掲載された事実は未確認。)

まずは、大展望。「あれが鹿岳～荒船山～妙義山…大きく見えるのが御荷鉾山。富士山やアルプスもあのあたりに見えますヨ。」…まだ登っていない西上州の山並みには興奮。なんとしても登りたい山ばかりだ。今見えている山、真冬の空気が澄んでいる時期にだけ見える山など、すべてを教えてもらえた。

さらに植物や鉱物、奈良朝以前からの伝承、由緒など語り出したら止まらない。

「このあたりの石は放散虫(太古に海底で棲息していたらしい)の化石ですヨ。だから、この山は周囲の山々と違い、海底が隆起してできた山ですヨ。」「えっ!! 目を洗うホウサン? 放散虫とは関係ありませんヨ。」…ナルホド、ナルホド。

「そこの馬酔木の葉っぱ4枚を煎じて飲ませれば“オシマイ”ですヨ。」…毒草の話には、思わず背筋がゾ～!

「茂垣にはカタクリが咲いていますヨ。」…帰路、山麓農家の親父さんに藪山を案内してもらった。山肌に咲くカタクリの花に出会えたのは望外。

下山後はバスに乗って、埼玉県と群馬県との県境を流れる神流山の渓谷を遡り、今夜の山宿、神流町々営のみかほ高原荘へ向かう。

神流川は読み方も「カンナガワ」と難解だが、何となく聞いたことのある川と思っていたところ、端午の節句の頃、渓谷いっぱいに大きな鯉のぼりが群れをなして泳ぎまわることを聞き、納得。

夕食兼懇親会。大部屋の宴会場は笑い声が絶え

ない。折角備え付けられているカラオケ設備も宝の持ち腐れ。思い出話や山、草花、自然…健康、果ては介護まで話題は尽きない。“気が置けない山仲間”たちとの談義、バカ話は本当に楽しい。いつものことながら時間を忘れる。大騒ぎは収まらない。数時間が経つだろうか、リーダーが明日の山行のことを心配し、漸くお開きを宣言。

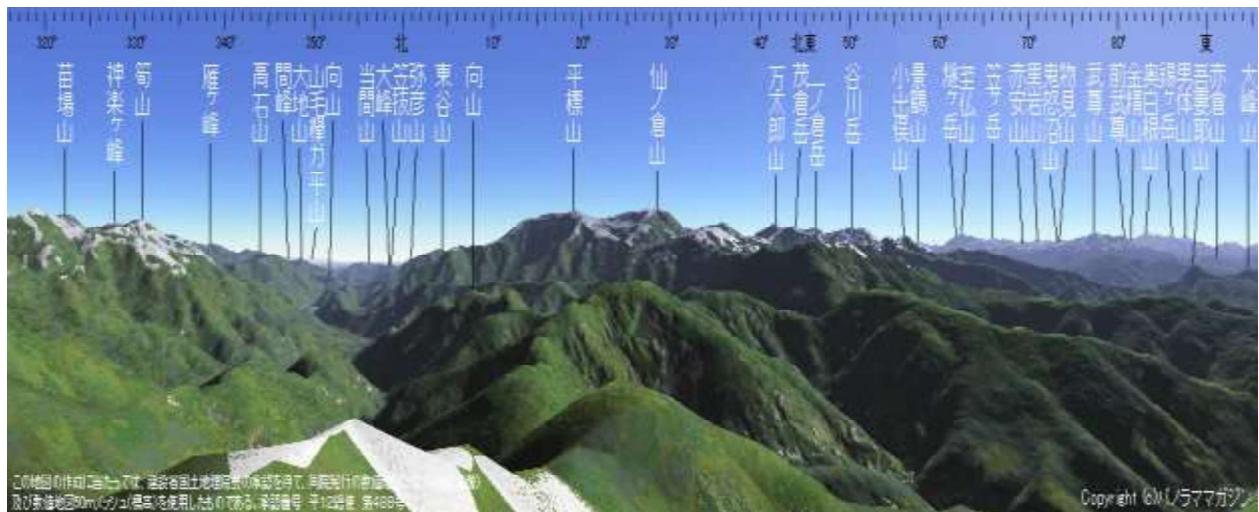
未明まで降り続いている雨も、朝方には晴れ上がり、絶好の卒業山行日和。標高950mの山宿の前庭で、高原の冷気を胸いっぱいに吸い込む。しかし寒い。あわててフリースを着込む仲間も多い。

正面に大きく両神山、遙か左方には武甲山。奥武藏の連山が朝日に映えて連なっていた。

宿の裏手が登山口。裏山の小高い展望台で、男女の御神体を祀った小社に全員揃って拝礼。いよいよ山道。直ぐに眺望の良い稜線に出る。標高差400mを軽快に登り、1時間ほどで西御荷鉾山山頂に着く。今日もまた大展望。昨日教えてもらった山々を一つ一つ復唱。眼前に、これから登る東御荷鉾山が聳え立つ。早くおいでと2期生一行



を手招きしてくれている。お言葉に甘えてと思うが、実はなかなか大変なこと。いったん峠まで降りてから、再度登り返さなければならない。しか



し、“気が置けない山仲間”たちの足並は良く揃う。元気いっぱい、ほぼ予定どおり東御荷鉾山に到着した。山頂での昼食会。みんな食欲もりもり、ゼッコウチョウ(舌好調)。本当に美味しい…楽しい。

静かな林間の山路を足取り軽く下山。途中の林道で、端正な姿の東御荷鉾山に別れを告げ、一気にバスの待つ下山口へ。

車窓からの観桜を楽しみながら桜山温泉へ。ひ

と風呂浴びてから帰路につく。関越道で多少の渋滞はあったものの、順調に我孫子に帰着。

“気が置けない山仲間”たちとの2日間は、あっと言う間に終わってしまった。

岳人あびこに入学して早や6年、思い出が多い。入学前の石老山、新入生歓迎山行の大楠山から創立1周年記念の尾瀬山行の頃までは、どうにか名前と顔が一致する程度の付合いであったが、特に

1年生の修業山行で御岳山～大岳山に行った頃から、同期生として仲間意識が芽生え始めたよう思う。鍋奉行や日帰り奉行などの任命があつたのも、丁度その頃だったようだ。その後は、定例山行や行事のほか、恒例になっている筑波山新年山行、修業(卒業)山行、懇親会(暑気払い、忘年会)などを重ねるにしたがって親近感・親密感が醸成され、今では、お互いに遠慮や気配りのまつたく必要な同期生仲間、“気が置けない山仲間”となっている。

加齢とともにますます大切な仲間である。昨今は、冗談とも本気とも言えず、ボケや痴呆で徘徊が始まつても、お互い面倒を見合おう、きっと昔の山話でもすれば症状の進行を多少でも遅らせることができるのでないか等々、将来の相互扶助を真面目?に話し合っている仲間でもある。バブル期のおかげか、特認で入学できた年齢オーバーの仲間(小生もその一人)も多い。ありがたくも時運に恵まれた高齢者集団の2期生だが、今更、他に行きようもない20人でもある。連帶意識が強いのもこのせいかも知れない。ますます居心地の良い岳人あびこになるように、これからも縁の下から貢献させていただければ幸甚である。

われらが大黒柱は、何歳になっても大声を出しながら山を楽しんでいる、日下兄と大桃姉(父上母上と言うと御2人に叱られるので)。残り18名の弟妹達は、長兄姉の背中から意欲や元気を貰って、山歩きに精を出している。これからも元気に全員揃って山歩きを楽しみたいものである。

何で同じような境遇を持った仲間が集まったのだろうか。何で山に対する好みや価値観を同じくする仲間が集まったのだろうか。何で似たような人柄の仲間が集まったのだろうか。温かな心が通い合う仲間たち。末永くかく付き合いたいものと

念じているのは私だけだろうか。素晴らしい“気が置けない山仲間”、生涯の岳友に巡り逢えた好運に、私は心から感謝したいと思う。

再び青春時代!! “気が置けない山仲間” たちに幸あれ!!

概要

山名	稻含山・御荷鉾山 (西上州)	山行形式	山小屋泊
地図	下仁田・神ヶ原・万場	交通機関	貸切バス
日時	平成15年4月12日(土)～13日(日)		
目的	二期生修業山行		
参拝	中村隆(L)、小黒(sL)、中村美(sL)、大串恵、大串秀、大桃、小川洋、日下、斎藤、榊原、高橋寿、原田君、増田、安田 計14名		
日程 & コース	1 4 日	我孫子北口 6:15→柏IC→(常磐道・関越道・上信越道経由)→下仁田IC→茂垣林道→鳥居峠 9:40⇒稻含神社 10:20⇒稻含山 10:30/12:15⇒稻含神社 12:30⇒鳥居峠 13:05→茂垣 13:10/14:10→下仁田→藤岡→神流町役場→みかぼ高原荘 16:20(泊)	
	1 5 日	みかぼ高原荘 7:50⇒西御荷鉾山 8:50⇒投石峠 9:30⇒東御荷鉾山 10:20/11:00⇒石神峠 11:50⇒法久 13:10→桜山温泉センター 14:20/15:50→本庄児玉IC→(関越道・常磐道経由)⇒柏IC→我孫子 19:30	
ルート	登山道はよく整備されているが、標識は少ない。ガス等で見通しが悪い日は要注意。		

<314>

生藤山～陣馬山

900m 855m

松本 豊

桜前線を追いかけて

桜前線を追いかける山行である。

JR 上野原駅より同じ目的で登る人が多いらしくバスは臨時便を出して運行しているがあつという間に満員となり、狭い駅前のバス乗り場は人であふれている。運良く我々は全員着席でき一路石楯尾神社の登山口入口に向かう。石楯尾神社では乗客全員が下車し同じ山に行くようである。舗装された道をたどり集落を抜け分岐を左にとり舗装道を右に分けると広い道ではあるが山道らしくなり昨日の雨で足元がぬかるんでいる。体が熱くなるころに取り付きに到着、衣服調整後登り始める。道は急登で杉林のなかをジグザグに登っていく。登山者は多く我々の前をいくパーティ、後ろからくるパーティがよくみえる。

急登を我慢すること30分ほどで佐野川峠に到着。大勢の人達が休んでいる。大半が桜見の人達のようである。ザックの中の一升瓶が見える。峠を左に進み桜並木までは平坦な道を歩く。桜の木々があるところは広い平らな場所で大勢の人達が陣取っていたが残念ながら花はまだで一週間ほど早い様子であった。

大勢の人達を桜並木に残し我々は三国山へ向かう。三国山は名のとおり山頂で三国に分かれる。桜並木から20分ほどで到着する。三国山から西へは三頭山へと繋がる笹尾根が見える。生藤山は三国山からほんの少し下り登り返したところにある。山頂は狭く我々も人が多いので記念写真撮

影のみでそろそろに出発。山頂北側より下山開始。急下降である。足元に注意しながら慎重に進む。

下りが一段落すると左から生藤山を巻いてきた道と合流し一登りで茅丸に到着。本日の山行中最高峰（1019m）である。さらに東に向かい蓮行山（連行峰）で昼食とする。ピークといった感じは無く広い尾根道の中にベンチと看板があるだけで看板がなければ見落とすほどである。

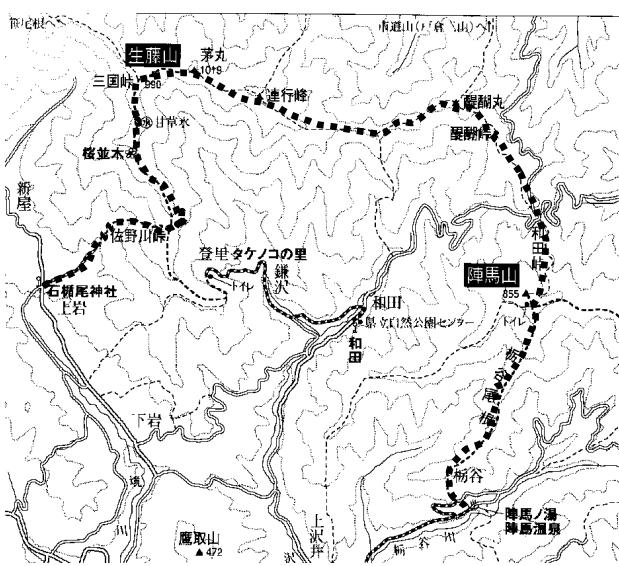
さらに東に向かい醍醐丸をめざす。道はアップダウンを繰り返し巻き道も通らず醍醐丸に到着。醍醐丸から北へ抜ける吊尾根が見える。

醍醐丸から最後の陣馬山を目指し東進する。醍醐丸からは下り一方で和田峠に到着。和田峠は売店、トイレもある。林道の通る峠には車が駐車でき陣馬山に気軽に登れるようになっている。

和田峠から陣馬山へは階段の登りである。縦走最後の登りが階段。これはこたえる。陣馬山山頂はご存知白馬のシンボルが立つ。山頂からは今日歩いてきた生藤山からの山々を眺める。コーヒータイムをとり最後の休憩とする。

山頂からは栃谷尾根を下り温泉の陣渓園をめざす。陣渓園の周辺は百花繚乱で桜、もくれん、こぶし、れんぎょ、山つつじ等が咲き乱れ山を彩っている。主の話では今日桜が満開になったとか。山の上では全く見られなかった桜に里で会えるとは日頃の行いの結果と吾一人思う。

温泉では汗を流し水分補給をして店のマイクロバスで上野原に送ってもらい帰途につく。たよりない小生の先頭ではあったが無事山行が終了できたのはリーダー、同行者のおかげと感謝。



山名	生藤山、陣馬山		山行形式	日帰り
期日	平成15年4月13日(日)			
山域	中央線沿線	地形図	上野原、与瀬、五日市	
目的	春の山を楽しむ、桜と山岳大展望			
歩行時間	6時間	グレード	A	
コスス	我孫子 5:33=武藏野線経由=上野原 7:56/8:35=バス=石楯尾神社 8:55/9:05 -佐野川峠 9:55-甘草水(桜並木) 10:15 -三国山 10:35-生藤山 10:50-茅丸 11:10-連行山(昼食)11:27/11:45-醍醐 丸 12:43-和田峠 13:20-陣馬山 13:53/14:20-陣渓園 15:20/16:30=マイ クロバス=藤野駅 16:40/17:29=武藏野 線経由=我孫子 19:35			
リーダー		高橋芳		
参加者	L 高橋芳、sL 松本、庄司、原田和、佐藤明、山本			計6名

<315>

百 藏 山

1003m

高 橋 正

地図読み研修山行

こぬか雨降る猿橋駅にて、講師の武内会長より、簡単な講習を受け、出発しました。「雨にもまげず！」と。

先日の机上講習を終了し、武内会長を先頭に皆、地図を持ち、気持ち新たに何かを期待しての山行でした。武内会長の熱心な指導に皆、真剣に聞き入り、何か新しい事を発見したように、身についたような静かな興奮があり、自分自身の体内に小さな炎が燃え始めたような心地良い気分にさせて頂きました。

道すがら、いかり草・すみれ・たんぽぼが咲き、私達の意気込みを和ませました。まばゆい緑と桜の園で百蔵食堂が開店し、おしるこが何とおいしかった事か！ありがとうございました。下山後、某名店？にて、反省会があり、会長より全員合格との発表に皆、一同に喜び、講師になられた武内会長には、「ありがとうございました」と皆から、ねぎらいの言葉と大きな拍手で終了しました。

机上研修 講師・武内会長

- ①地図の折り方
- ②地図に真北の記入方法
- ③磁石を地図に置き、磁針方向に自分の体を廻す。
- ④その他

研修I 簡単な説明 …猿橋駅にて

研修II 地図上で自分の位置を確認
…市営グランドにて

研修III 行き先方向のチェック
…大同山のコルにて

研修IV 登ってきたルートの確認
…百蔵山頂上にて

研修V 地図上で位置確認、行き先チェック
…逢坂峠にて

山名	百蔵山	山形形式	日帰り
期日	平成15年4月20日(日)	天候	小雨
山域	山梨	地図	大月(25000)
目的	地図読み山行	交通機関	JR中央線
参加者	L1 外崎、(L2)清家、SL1 大串恵、SL2 大串秀、高橋寿、中野、原田君、庄司、品田、高橋正、松村、武内(講師)、吉岡、原田和、佐藤明、岡田、大平、田村(18名)		
歩行時間	6時間40分(含む休憩・昼食・研修)		
交通費	¥2,040.- ホリデーパス利用		
コース	我孫子 5:33=新松戸=西国分寺=高尾=猿橋駅 8:10/8:20一下和田 8:40/9:00—大同山のコル 10:30—百蔵山 10:55/12:00—コタラ山下—逢坂峠 12:30—林道 13:05/13:30—猿橋—猿橋駅 15:00/15:29 =高尾=我孫子 19:30		



<316>

赤岩山・古賀志山

582.8m

佐藤 明子

パラグライダー舞う赤岩山

岩稜の縦走と新緑を求めてのタイトルにぴったりの快晴の元、登山を開始した。3月に参加した岩山の訓練を復習すべき絶好の好機と期待しての山行です。歩き始めて、なぜか登山口が見つからない。林の中を藪こぎし、涸れたような沢をたどってようやく林道に出る。風雷神社の鳥居をくぐり「西稜登山口」の指導標を確認して歩き出す。

はじめは緩やかな道だが次第に傾斜がきつくなり、急登を30分凌ぐと稜線にでる。ここはパラグライダーの発進所があり板張りの広い舞台の様。今日の様に天気の良い日は、どんなにか気持ちの良いことだろうと高所恐怖症の我が身を忘れて思ってしまう程。ここでハーネス、シュリング、カラビナをつけ、赤岩山をめざす。程なく赤岩山山頂に着くが標識がない。ここにもパラグライダーの発進所があり、荷揚げ用のモノレールが敷設されていました。パラグライダーの発進台を回り込むように下る。下りの急坂はとても怖い。下りきると岩場の登りが待っていた。別のパーティも前にいて、岩場のため渋滞する。柴さんの指導で三点確保を確認しながら慎重に登る。チムニー状になった岩場の下りは、ザックがつかえる為、柴さんがザイルを出し、ザックを結び下してくれた。

登り下りを繰り返し御岳山頂に到着。ここでハーネスを解除し、昼食の大休憩。展望は抜

群に良く日光連山が一望に見渡せる。御岳山から古賀志山山頂までは15分ほどで到着。会旗を出して記念撮影。ここからは一般道とのことだったがクサリ場もあり最後まで気が抜けない。

やがて松林を抜けると明るい沢沿いの道を通じて森林公園に着く。バーベキューを楽しんでいる沢山の人の中を良い匂いのおすそ分けを戴きながらダム湖のほとりへ。美しい八重桜に全員感激。こんなに沢山の八重桜は見たことがなくここでも記念撮影。反省会は駅前の蕎麦屋さん。おなじみのニラ蕎麦が待っていてくれました。好天に恵まれ、大好きな岩場も楽しめて充実した一日を過ごすことが出来ました。



▲狭い岩場を通過。



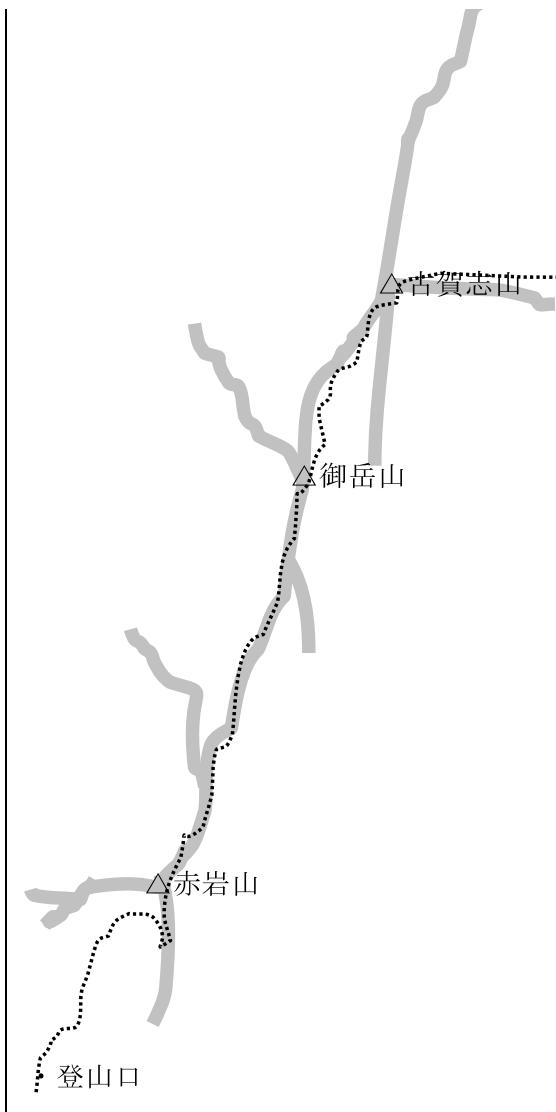
▲古賀志山山頂。

↑春爛漫 下山口の森林公园で。



概要

山名	赤岩山・古賀志山	
期日	平成15年4月27日(日)晴れ	
山域	鹿沼	地形図 (1/25千) 大谷
山行形式	日帰り	グレート B
目的	岩場の縦走と新緑	
交通機関	JR・東武・タクシー	
リーダー	柴	費用 4,500円
参加者	α班:L柴、村松(敏)、斎藤、榎原、大串(恵)、小黒、原田(和)、青山、佐藤(健)、千葉 β班:SL堀口、細野(省)、外崎、村松(峯)、大串(秀)、日下、高橋(英)、高橋(芳)、坂口、佐藤(明) 計20名	
コース	我孫子 5:30(成田線一番電車) ⇒ 北千住(東武日光線) 6:31 ⇒ 新鹿沼駅 7:56 ⇒ 登山口 8:30 ⇒ 風雷神社 8:45 ⇒ 穂積山 9:15 ⇒ 岩場 10:30 ⇒ 御岳山 山頂 11:00 ⇒ 古賀志山山頂 11:43 ⇒ 一般道合流 12:30 ⇒ 森林公園 13:20 ⇒ 新鹿沼駅 15:31 ⇒ 春日部 ⇒ 柏 ⇒ 我孫子 <歩行時間 4時間50分>	
ルート状況	① 最初の登山口が分かりにくい。 ② チムニー状になった岩場の下りは狭く、初心者はザイルが必要。 ③ 古賀志山一般道は、初心者の3点確保トレーニングには適当。	



<317>

白馬岳

2933m

青山 寿子

悠久の空間「白馬岳」

新宿発 23:54 のムーンライト信州 81 号に 9 名の大所帯で乗り込む。市井ではザックは違和感を感じたが、ホームは登山客で溢れ数分で別世界にきたようだった。夜行列車では殆ど眠りに就かないまま白馬駅に到着。改札口で駅員と一緒に悶着した後、駅前食堂で朝定食をとりビールの買出しへ。川下さん 500ml 1 ケースを背負う大役を買って出してくれる事になり 24 本購入。今回のメンバーは酒豪揃いなので異論を唱える人はいない。

タクシーで一路猿倉へ…川下さんの共同装備がビールに替わりザック最上部に固定するが、行き交う人には注目の的・白馬尻まで歩程 1:30 ガンバレ… とは言え雪道の 1:30 は辛い。

白馬尻では好適地にテント設営となるが、2 張りを張るにはスコップ 1 本では間に合いそうにもないので、誰かがチャッカリと隣のパーティーから大型スコップを借り入れ整地を全員で行う。各パーティー共トイレの設営には念入りに作業するが、翌日好天のため外壁が融ける。

テント設営後、シリセードの練習をするが、初体験なので方向とスピードがコントロール出来なく瞬く間にお尻が濡れてきたので、もう少し練習をしたい気持ち抑えて終了。

14:00 前から酒宴となる。快晴の銀世界の白馬を肴に酒宴できるとは、ナント至福の時。

主脈稜・大雪渓と銀世界を堪能しながら悠久の時間が流れていく間、時折小蓮華岳付近の谷筋から大音響とともに雪煙が舞い上がる。雪崩が至るところで発生していて不気味だ。雪山の怖さを再認識し身が引き締まる。

寒さに耐えながら満天の星を見、星座談義する人あり。昨夜の睡眠不足解消のため早々に就寝する人あり…。

翌朝は冷え込みが厳しく、テント周辺はアイスバーンとなり朝食の支度はアイゼンを装着して行う。5:10 テント場を出発し大雪渓から白馬岳を目指す。

大雪渓は先行パーティーが何組もあり、両側の岩壁から剥がれ落ちてくる石に注意しながら登って行くが、スキーを担いで登る山スキー組も多く、中には杓子岳まで登り滑り降りると言う元気印のシニア男性もいた。雪の量は多いが、5 月の日差しは強く暑く汗ダクダクになる。頂上宿舎上の急登を登りきると雪は消え、前方には白馬岳山頂、後方には立山、剣岳、別山～槍ヶ岳迄の白一色の大パノラマが広がる。

白馬岳山頂では早朝主脈稜から登頂した千葉労山のシャンテの久保さん達に会う。主脈稜は大雪渓コースと異なりザイルを必要とする難易度の高いコースで、ベテラン 2 人の高技術を駆使しての登攀は別世界を垣間見たようだ。山頂で記念撮影後下山するが、白馬山荘でカップラーメンを購入し、山荘テラスでゆったりした気分で食べて大雪渓を下る。

大雪渓の下山は山スキーあり・尻セードあり・つぼ足ありとバリエーション豊富な下り。特に山スキーの華麗な滑りには見惚れてしまう。白馬尻 13:10 着。下りはナント早い事。

テントは次々と撤収され今夜のテントは 5 ～6 張となり、昨夜の賑わいが嘘のような静寂さとなる。

私達はもう1泊するので、午後の柔らかい日差しを浴びて昨日同様に、悠久の時間を白馬尻で過ごす。

下山当日は汗ばむ程気温が上がり、2日間で日焼けした上に、更に皮膚を苛める程の快晴の中、猿倉に一路下山開始する。

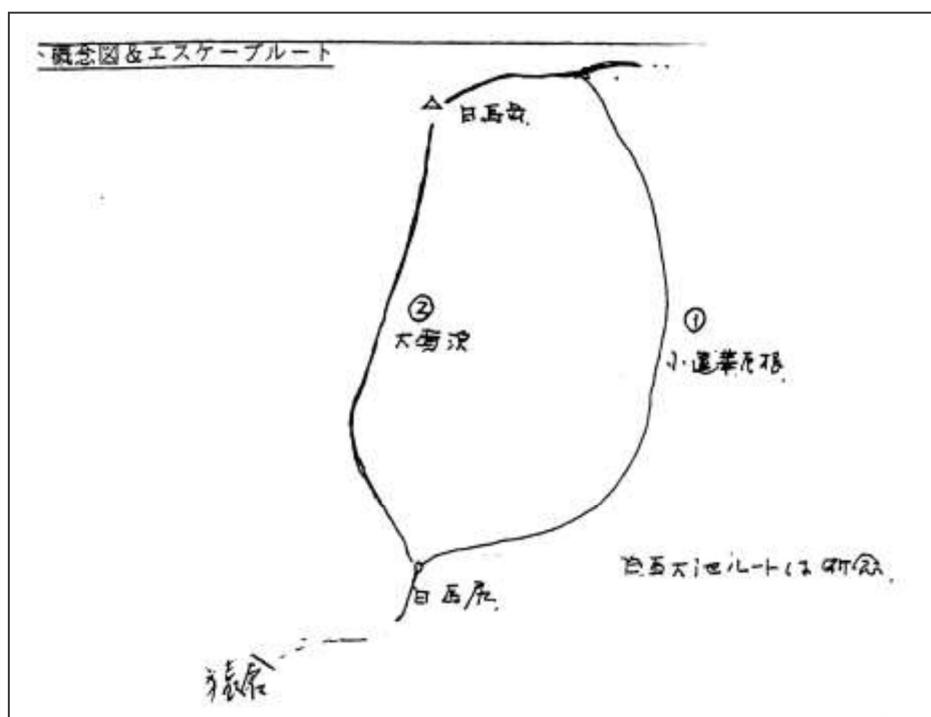
今回の山行は3日間快晴に恵まれ、今まで経験したことのない「ゆっくり山行」を味わい命の洗濯をしたようだ。



概要

山名	白馬岳	山行形式	テント泊
期日	平成15年5月2日(金)夜~5日(月)		
	一日目 晴。二日目 晴。三日目 晴		
地形図	「白馬岳」「白馬町」1/2.5万		
山域	後立山連峰	費用	約16000円
目的	白き神々の峰への挑戦		
参加者	L 村松(敏)、柴、川下、清家、外崎、北川、坂口、野村、青山 9名		
日程・コース	第一日目 我孫子駅 22:30=新宿発 23:54 ムーンライト信州 81号=白馬駅 5:40/7:15=猿倉 7:30/8:00—白馬尻 9:30—テント場 10:00 第二日目 テント場 5:10—村営頂上宿舎 8:50/9:10 白馬岳:10:10/10:20—白馬山荘 10:30/11:30—村営頂上宿舎 12:00—テント場 13:10 第三日目 テント場 7:30—猿倉 8:10/8:45 (タクシー)=倉下の湯 9:00/11:00=南小谷駅発 12:38 (あずさ8号特急)=新宿 16:36=我孫子 18:30		

←急坂を登りつめて全員ホッと一息。





キャンプ地は大賑わいです。

山頂にはいくつかのパーティーがいました。



< 3 1 8 >

岩 山

328m

原田 和昭

岩の稜線を楽しむ

温暖な気候に恵まれ、新緑が一番美しい時で雨の心配は無い。新鹿沼駅は鹿沼さつきマラソン大会参加者で混雑していた。駅から日吉神社までは市街地の歩道をゆっくりと歩いた。神社境内の手前の田圃はレンゲの花が満開で、そこで雄の雉が私達を迎えてくれた。



日吉神社境内での学習風景

境内では今回の山行目的である、「岩登りの基礎」（三点確保）について清家講師から実演を混じながら真剣な研修が行われた。研修内容は、岩場の壁と身体の位置関係、目の高さと足の踏み上げ高さ、ハンドホールドの使い方、フット・ホールドの使い方等々について熱心に勉強する。参加者全員は充分に理解して岩稜帯に向って歩行開始する。

杉林を抜けて少し登ると、鹿沼地方特産の凝灰岩の岩である、A峰、B峰、C峰が連続する。3月に来た岩場訓練の場所では数人のクライマー

が練習していた。そこを通り抜けて連続する岩場を、登ったり下ったりしながら前進。登りは研修で習ったように出来るが、下りは馴れていないので立ち止まる。三番岩を過ぎて二のタルミで小休憩を取る。講習会の成果としてバナナを食べる人が多い。

稜線には色々な形をした奇岩が連続。岩には名前も無く、標識も少ないのでどこを歩いているのか良くわからない。途中、ハシゴが二ヶ所設置してあったが、スリルに富んだ岩場を楽しむために直接に登る人もいる。岩場を大きく廻り込んだ所でルート探しのため、一時的に立ち止まるが、リーダーが速やかに正規のルートを探してくれた。最後の岩場に挑戦して急登を上ると最高峰の一番岩の頂上に到着する。

頂上は広く、他の登山者もいないのでゆっくりと座り、思い思いに昼食を楽しむ。空は晴れて太陽の光りは明るく。360度の展望、空気も美味しい、眼下にはゴルフ場の緑が広がり、日光付近の山並み、二週間前に登った赤岩山や古賀志山が手に取るように見える。

頂上で楽しみを味わった後に、早い時間であるが下山を開始する。下りは登った道を引き返すので、岩の状況を把握しているため足取りは軽い。岩場にも馴れて楽しみながら下る。C峰の岩場まで来ると、小学校高学年の子供が父親の指導でクライミングの練習をしている。私達も足を止めて子供達の応援をする。下り始めは身体も堅くおそるおそるであるが、直に馴れて身軽に降りて来る。子供の時から父親の指導で岩場の練習が出来ることの幸せを感じる。練習している子供の中から、将来、エベレストに登頂するアルピニストが出るかもしれないと思うとうれしくなる。

日吉神社から新鹿沼駅まではマラソンを終えた参加者と共に仲良く歩いて駅近くの蕎麦屋まで帰る。蕎麦屋では野外テーブルを囲んで、今回、

始めてリーダーを体験した坂口さんの慰労会を楽しむ。ビールとニラそばを充分に味わった後、帰りの電車に乗る。坂口リーダーご苦労様でした。これからもご指導よろしくお願いします。

概要

山名	岩山	山行形式	日帰り
期日	平成15年5月11日(日) 曇りのちはれ		
地形図	「鹿沼」 1/2.5万		
山域	鹿沼	費用	約3000円
目的	岩の稜線歩き(三点確保を学ぶ)		
リーダー	坂口	参加者数	17名
参加者	清家(講師)、外崎(講師)、L坂口、大串秀、大串恵、高橋寿、高橋英、中野、原田君、増田、品田、原田和、SL堀口、佐藤健、佐藤明、大平、田村		
日程・コース	我孫子駅 5:30 = 北千住駅 5:54 / 6:31 = 新鹿沼駅 7:56 歩行開始 8:07 ~ 日吉神社着 8:35(研修) 登山開始 8:50 ~ 尾根頂上休憩 9:33 / 9:43 ~ 二番岩付近 10:00 通過 ~ 一番岩頂上(H328m) 10:40 / 11:15(昼食) ~ 小休憩 11:50 / 11:55 ~ C峰展望台 12:25 / 12:35 ~ 日吉神社 12:50 通過 ~ 新鹿沼駅前蕎麦屋着 13:15(懇親会) 駅発 14:45 = 新栃木駅 = 春日部駅 = 柏駅着 17:17 行動時間 5時間10分 歩行時間 3時間55分		



一步一歩着実に。



岩山の最高点

一番岩にて



<319>

鷹巣山・六ツ石山

1737m 1479m

柴田 節子

山の息吹

平成15年5月、3月の新人歓迎以来の山行である。先ずは晴天を望み、一昨年賑やかな仲間と共に縦走した奥多摩三山の眺望や緑豊かな山並みを楽しみたいと思って出かけた。ところがここ数日間は梅雨の走りの様で、天気予報も芳しくない。ようやく奥多摩駅に着くと幸い雨は降っておらず、肌寒くもなかつた。

駅前は予想外に登山者が多く、臨時のバスが出た。満員のバスにゆられ（川苔橋で半数以上が下車）わずか10分で東日原（終点）に着いた。そこから、ほんの少し歩いていくと、まるで見落としてしまいそうな極小の道標があった。これに従い急な石段をドンドンと下った。

「これから登ろうというのに、一帯何処まで下るのかしら？」とうとう日原川沿まで下った。山裾を洗う大きな沢音を聞き、霧に包まれ緑したたる空間を快適に歩いた。更に黙々とのぼっている中に、気がつけば沢の音は遠のいてジグザグの急登が始まった。

先頭に立つリーダーのペースも良く、順調に進んでいくと、

我々の前に超軽装の男性一人が佇んでいた。その人は一見して不安そうに見えた。「一緒に登らせてください。」とか細く言った。皆、訳がわからず、「ハア？」といった感じだった。間髪を入れず、リーダーの一言は、「山道はしっかりしていて、迷うことはありませんよ」しかし、男性は応答しない。止むをえず「自分の責任において、同行するならして下さい。」その人はただ黙って最後尾について歩いた。一転して、妙な雰囲気になった。

そんな事があって、稻村岩尾根までの本格的な登りは、直登の連続であるが、これこそが登山の醍醐味であり、しんどい人も元気な人も一声掛け合えば、元気百倍となって高度を稼いだ。やがて正午となったので、ランチタイムをとる。

ヒルメシクイノタワの平坦な平地には少人数の人たちが休憩していた。ブナ林は乳白色に包まれ、一段と静寂に感じられた。更に急坂をひと登りすると広々とした鷹巣山山頂だ。北面は、



▲ 鷹巣山山頂にて。

ブナ、カラマツ、ダケカンバ混じりの原生林で、他面は大きく開けていた。好天であれば待望のロケーションが約束されていたのだが…。

一口の水を飲む間も冷たい風が次々と吹き上げてきた。急いで衣服を一枚増やし、恒例のカメラの前にハイ、チーズ。上り詰めた後の山頂には、格別の笑顔が揃っていた。やっぱり寒く早々に防火帯へ下山した。

よく整備された道幅の広い下りは、急坂の連続のために足ばかりがドンドン先へと進んだ。その先には、ワラビが沢山自生していて、お好きな向きにはたまらない。早速アルバイトが始まった。当然の事ながら間隔があくことしばし。

「ヤッホー！遅くなると温泉に入れなくなるヨー」「霧に巻かれちゃうよー」「下りはまだまだ長いよー」とこちらは大声で勝手に呼びかけた。それを知つてか知らずか、数人はビニール袋におみやげを入れて、ガスの中から急に現れ、又一列を成した。

濃霧の中を六ッ石山頂分岐まで、一気に下つてやっと初めての休憩をとった。山頂へは往復10分の距離だが、視界が得られないためにカットして狩倉山を巻き、長いながい石尾根を下った。濡れてゴツゴツした急斜面を下っている時に、「ひょっ」とした事から大怪我をしてしまった人の話を耳にした途端に身が引き締まり、足元を確かめながら丁寧に下った。

その緊張を解いてくれたのは、霧の中に鮮やかに咲く紫のトウゴクミツバツツジと純白のオオカメノキの花々だった。気をよくして三ノ木戸山を絡むようにまだまだ下り、薄暗い杉の人工林に入ると、赤土の表土が流出してすべり易く、根っこは縦横無尽に走り、又気持ちを集中して歩いた。杉林は異様にさえ思えるほど下草

が生えておらず、このような状況でも森として健全なのだろうか？等と考えつつ、それでも羽黒三田神社まで下つくると、登り終えた充実感に変わってきた。

その後40分程で遙か遠くにあった奥多摩駅に着いた。ここを過ごし細かい雨の中を「もえぎの湯」へと向かった。人々でいっぱいの湯にゆるりと浸りながら、久し振りに長い行程を歩いてくれた大根足を劳わり、道筋を思い浮かべ悦に入った。と同時に事前の下見をしてくださったリーダーに敬意を表し、終始和やかなムードを作ってくれた仲間に感謝！！

概要

山名	鷹巣山・六ッ石山		山行形式	日帰り		
期日	平成15年5月17日(土) 曇り時々霧雨					
山域	奥多摩	地形図	奥多摩湖・武蔵日原(1/2.5万)			
目的	美しい山容と展望を楽しむ					
リーダー	高橋芳	費用	4,000円			
歩行時間	6時間30分	グレード	B			
参加者	L高橋芳、S L武内、柴田、大串恵、大串秀、小黒、斎藤、榊原、佐藤明、岡田	計	10名			
交通機関	電車・バス					
コース	我孫子駅 5:33—奥多摩駅 8:22／30—東日原 9:00／9:10=登山口 9:20=稻村岩分岐 10:20=1500m地点 12:00／12:20=ヒルメシクイノタワ 12:30=鷹巣山山頂 13:00／13:20=六ッ石山分岐 14:35／14:50=稻荷山神社下 16:10=もえぎの湯(入浴)16:50／18:30=奥多摩駅 18:55—我孫子駅 21:30					

<320>

檜洞丸

1601 m

中村 隆泰

ツツジを楽しむ

参加者の花に関する感想を寄せ書きにした文章でまとめて見ました。

- ♪標高 1000 mを過ぎたあたりからお目当ての花、トウゴクミツバツツジがあちこちに咲いていた。小鳥や花、そして驚くほどの黄緑色の若葉に癒されながら汗を拭った。
♪山頂から下りは（みんなの脚力を信じて）予定のコースを取る。スリリングなところが何ヶ所もあった。こちらのトウゴクミツバツツジは凄く綺麗だった。シロヤシオもいっぱい、何枚か写真を撮る。
(岡田)

前夜半まで降っていた雨もスッカリ晴れ上がって絶好の登山日和。満開の花々…優雅な濃赤紫色のトウゴクミツバツツジ、清楚な白色のシロヤシオツツジ、艶やかなオレンジ色のヤマツツジがそこかしこ。真っ盛りの新緑にドップリと浸り、満開の花々に目を奪われ、眺望を楽しむのを忘れてしまいそう…。今回の山行に参加できて本当に大満足。

ところで、本当に忘れてしまったのが、数年前の桧洞丸登頂のこと。丹沢主稜縦走の最後の山だったが、生憎の天候だったためか、登り降りが逆だったためか、全く記憶が消え失せている。立ち枯れのブナの古木がわが身と重なり合い、一層哀れを感じる。ふと、傍らの老木に新芽が出て花が咲いているのを見つける。何となくうれしい。まだまだこれから…希望を貰ったような気がする。

やはり、今回の山行に参加して本当に良かった～！
(大串秀)

五月晴れのさわやかな風、全山まばゆい新緑に包まれながら、最高の気分で山行を楽しめました。期待していたシロヤシオにも出会えました。私たち女性全員は、清らかなお花に負けないつもりで、満開のシロヤシオと一緒に写真を撮りましたが？？
(大串恵)

西丹沢自然教室からゴーラ沢をへて、桧洞までは急登に次ぐ急登。足元ばかり見ての登り、花が落ちていると足を止め、見上げる。山つつじ・白



やしおつつじ・おおかめの木の白い花・笹竹の小さな黄色い花。頂上近くには、三つ葉つつじより花が小さく色の濃いつじが目に付く。これが今日、目的のトウゴク三つ葉つつじ。桧洞丸から犬越路までは、花・花・花。しっかりと目的を達成できました。ありがとうございました。

(原田君子)

バイケイソウ、マルバフキタケ等の群生が目に付くともう桧洞丸の山頂だ。

山頂は広々としていてゆっくりとコーヒータイムといきたいところだったが、時間がない。下山は急降下で、しかも岩や鎖場もあり緊張の連続。予定通り犬越路へのコースを行く。迎えてくれたシロヤシオ（五葉ツツジ）、トウゴクミツバツツ

ジに行く先々で歓声が上がる。下向きに純白の花を咲かせるシロヤシオの美しさに心が澄んでいく素晴らしい丹沢の一日でした。

(安田)

行きたくてなかなか行けなかった檜洞丸は5月晴れの絶好の日和で迎えてくれた。

期待以上のトウゴクミツバツツジが登山道を染め、そのすばらしさに感嘆の声、声。

頂上付近のコバイケイソウの群落も花の時期はみごとなものにちがいない。

リーダーの心づくしのみそ汁のおいしさは格別だった。丹沢山塊の崩落状況を目の当たりにした山行でもあった。 (高橋 芳恵)

「丹沢周辺で見た花」

丹沢の花は、西丹沢から檜洞丸に続くツツジ新道で多く見られる。シロヤシオなどが人気だが、今回は3分咲きで時期尚早であった。トウゴクミツバツツジがところどころ咲いていた。

下山道で熊笹峰から犬越路の間のトウゴクミツバツツジのみごとに咲いているなかの下山、疲れもフットンで楽しい山行でした。

咲いていた花

マムシソウ・ドウダン・ギンレイソウ・カメノキ・リンドウ・ウツギ (日下)

緑美しいブナの原生林、その緑の中に点在して咲くトウゴクミツバツツジの濃いピンクの花の彩りは見事でした。また愛子様のお印のシロヤシオの別名もあるゴヨウツツジにも出会えました。頂上にはバイケイソウの大群落があり、お花の頃にもう一度登りたいと思いました。

急登・急下降・鎖場のあるアップダウンの繰り返し、登り応えのある山でした。お天気に恵まれて楽しい山行でした。ありがとうございました。

(中村美智子)

花音痴のリーダーが花山行と銘打って企画し、ツツジについてもたくさんの写真を見て目に焼き付けていたつもりであったが、いざ現地に行っているいろいろなツツジに出会うが、お目当てのトウゴクミツバツツジはこれですと自信をもって断定するのはきわめて難しいことであった。

これからは花の名前を詮索するのはあきらめて、色や形を愛する登山者に徹しようと思う。

中村(隆)

概要

山名	檜洞丸 (丹沢)		
月日	平成15年5月21日(水) 日帰り 雨のち晴れ		
目的	トウゴクミツバツツジ観賞		
地形図	1/25000 笹子・大月		
費用	5200円	グレード	A+
行程コース	我孫子駅 5:30=新宿／小田急線 6:38= 新松田駅 7:55／(バス)8:10—西丹沢自然教室 9:25／準備(トイレ、準備体操) 9:40 出発～登山口 9:45(期待をし一步踏み出す)～ゴーラ沢出合 10:30～展望園地 11:30／12:00 昼食(リーダーが味噌汁を作ってくれた)～檜洞丸山頂 13:30(リーダーと握手、写真を撮る♪)13:50 出発～神ノ川分岐 14:05～犬越路 15:50～西丹沢自然教室 17:05／17:10(バス)～新松田駅 18:19(ラーメンタイム) 19:00=代々木上原=我孫子 21:30 歩行時間：6時間15分		
参加者	L 中村隆、大串恵、大串秀、日下、齊藤、中村美、原田君、安田、高橋芳、岡田 10名		

▼シロヤシオの下で。



概念図



▲トウゴクミツバツツジ

▼檜洞丸山頂にて。



< 321 >

大源太山

(1,598m)

青山 寿子

上越のマッターホルン「大源太山」

4年前の晩秋、谷川岳～朝日岳～白毛門の馬蹄形縦走時に見えた、先鋭の頂き大源太山
…2年前の錦秋、巻機山から見えた先鋒の大源太山、一度は登りたい山であった。

今回は大源太山～清水峠～巻機山と実力以上のコースを設定したが、結果は天候不良のため大源太山～朝日岳～白毛門に変更となった。リーダーとして企画はしたが、内心自信はなく、又、出発直前に参加予定の武内さんが家庭の事情で不参加となり、千葉さんと2人で決行するか悩んだ末、村松リーダー部長にご相談したところ「行ける所まで行って駄目だったら撤退すればいい」とアドバイスを戴き、背中をポンと押されて実現した山行だった。

大源太山の登りは、最初から沢の徒渉では重装備のため足元が定まらなく肝を冷やし、真夏並の日差しのため、雪解け直後の高山植物（ショウジョウバカマ・イワウチワ・イワカガミ・カタクリ・タムシバ・・）が咲き乱れているにもかかわらず、汗ビッショリとなる。心配した程の岩場もなく山頂に到着。

山頂の温度は26度と真夏の日差しで、快晴の為、360度の展望が得られ、明日からの行程、清水峠～大鳥帽子山～檜倉山～巻機山の国境稜線が目前に広がる。残雪は山肌に残っているが稜線にはないので、藪漕ぎになるの

かな～と明日からの行程に思いを馳せる。

七つ小屋山への下りは急坂の上、岩場、鎖と先行者の千葉さんが空中に浮いて見えるほどの斜度なので、気を引き締めて一歩一歩慎重に行動する。

清水峠までの登山道は、思いもかけずシラネアオイの群生を至るところで見ることが出来る。又、雪が広範囲に広がり登山道を覆っていて歩きにくい。

清水峠の白崩避難小屋は、先刻水場分岐で出会った単独行の30代男性1人のみ。男性に水場の状況を教えてもらい、アイゼン・コッフェル・ポリタンを持ち2人で水汲みに行くが、水場までは雪斜面を下降しなくてはならず四苦八苦した上に、雪解け水を汲むのに時間が掛かり、水汲みが今回の山行では一番難易度が高かった。

避難小屋では単独行の男性（宇都宮在住）と話が弾み、山の情報を沢山入手できた。男性が登山靴ではなく運動靴だったので「凄いツワモノ」と思いその事に触れると「白毛門登山口駐車場で登山靴を忘れた事に気が付き中止しよかと迷った末に来ました」との話だったが、安全のことを考えると私だったら中止しただろう。（後日9月中旬日光男体山で幼児を背負ってファミリー登山中に再会し、忘れた登山靴を披露してもらう）

翌朝は昨日と違い濃霧と強風で、この天候では巻機山を断念せざるを得ず、ジャンクションピークから大鳥帽子山まで行けるところまでと決め避難小屋を後にする。強風と濃霧は治まらず、ジャンクションピークからは笹で細い登山道は覆われ、ナルミズ沢源頭を目指し藪漕ぎとなるが地蔵の頭で撤退する。

ジャンクションピーク～朝日岳間は雪渓が道を塞ぎ歩き難い。朝日岳山頂は3回登頂す

れども一度も展望を望めない。白毛門を過ぎると風が弱まり、雪も消え対面の谷川岳～一ノ倉岳～武能岳の雪渓が見事な景観を作り出し見惚れてしまう。白毛門の急な下りは4年前、馬蹄形縦走時初めての膝痛に襲われ、蟹歩きをしながら下った思い出の下りだが、今回は無事下山できた。

白毛門登山口駐車場には1台の車もなく昨日避難小屋で同宿の男性が無事下山した事が確認でき安堵する。土合駅までは炎天下を疲れて重い足で歩くが、幸運にも発車直前の電車に乗ることが出来た。

概要

山名	大源太山	山行形式	避難小屋泊
期日	平成15年5月23日(金)～25日(日)		
地形図	「茂倉岳」「巻機山」1/2.5万		
山域	上越	費用	約10000円
目的	谷川と巻機を結ぶ国境稜線走破		
参加者	L青山、千葉		
日程・コース	第一日目 柏駅 21:50=池袋発 23:35(高速バス)=越後湯沢 2:48=旭原林道終点(仮眠) 第二日目 テント場 8:00—徒渉地点 8:35/55—大源太山山頂 11:40/12:20—蓬峠分岐 13:40—白崩避難小屋 14:20 第三日目 避難小屋 4:35—ジャンクションピーク 6:30/50—地蔵の頭—ジャンクションピーク 8:35—朝日岳山頂 9:05—笠ヶ岳山頂 11:30—白毛門山頂 12:20/35 松ノ木沢の頭 13:20/30—登山口 15:10—土合駅 15:30—北柏 19:30		

大源太山山頂にて



朝日岳山頂手前の朝日ノ原。夏は湿原となり、木道左側に池塘が現れるが、今はまだ雪の下。



<322>

夕日岳

1526m

高橋 潔

東武日光駅から細尾峠登山口まで、手配済みの3台のタクシーで向かう。同乗の外崎さんは10年ほど前に雑誌記者を従えて登った山であるとの解説があった。この後もところどころで「中年」登山の記憶がよみがえって外崎解説が加わる。一緒に登ったことになっている細野さんの方は、登った記憶からして定かでないとの頼りない解説。

この日は、腕の骨折が中途半端に回復した飯沼(ト)さんと脚の骨折がこれまで中途半端に回復した高橋(潔)が、脚の骨折経験の大先輩である原田(和)リーダーにご指導を仰ぐという、見ようによつては奇妙な「リハビリ」山行という組み合わせとなつた。

穏やかな薄曇り模様で、山の高度が上がるにつれて若葉が新鮮さの度合いを深め、薬師岳(1420m)、夕日岳(1526m)あたりでは、ブナやミズナラの新芽が特にみずみずしさを感じさせていた。あちこちでツツジの花は、ほころびだしたものからすでに散つたものまで、種類や地形・日の当たり具合で、それぞれの姿を見せてくれていた。行者道とされる穏やかな尾根道のアップダウンが続いてから、ハガタテ平から先下り傾斜がきつくなる。

未だにつま先立ちが困難な回復段階で、下りのこなし方に問題を残すので、今回は最初からストックを両刀使いで用いたが、急な傾斜では特に両手に体重をかなりかけて用心した。やはり、縄跳びがかなり難なくこなせるようにならぬと、危険度の高い山には挑

戦できない。片足に全加重をしてもつま先立ちで支えられる、という状態は少しまともな登山を構えるには欠かせない条件であると知る。下り車道の砂利道では、足首の弱点は結構響いた。古峰ヶ原のバス停にたどり着き、金魚の糞みたいにみんなでぞろぞろと古峰神社を参拝。天狗が守護神のようで、無事登山を終えたことを感謝し賽銭を上げる。

新鹿沼へバスで出て、早速恒例の「ニラそば」となつた。特別美味とはいえないものの独特的なソバで、こちら方面の定番食事となつた感がある。少し飲み過ぎたか、電車の中ではぐっすりとなつた。

とてもいい時期に、手頃なコースを設定していただいて、結構なりハビリ登山となつた。ご協力いただいた皆さん、とりわけリーダーの原田さんに感謝したい。

概要

山名	夕日岳		山行形式	日帰り
期日	平成15年5月25日(日)		曇り、晴れ	
山域	日光		グレード	A
目的	禅頂行者道を歩く 山ツツジを楽しむ			
歩行時間	5時間50分(休憩1時間)			
リーダー	原田和	費用	4,500円	
参加者	L 原田(和)、SL 大串(恵)、細野(省)、細野(清)、大桃、原田(君)、外崎、大串(秀)、齊藤、高橋(芳)、藤倉、岡田、飯沼(ト)、飯沼(茂樹:ゲスト)、高橋(潔) 計15名			
交通機関	JR・東武・タクシー・バス			
コース	我孫子駅 5.30—北千住 5.53/6.31—東武日光駅 8.24/8.30—タクシー—細尾峠 9.05—登山開始 9.15—薬師の肩 10.00—薬師岳頂上 10.15(小休憩) 11.07—三日平 11.33—夕日岳(1526m) 11.55(昼食休憩) 12.33—三日平 12.50—地蔵岳 13.04—ハガタテ平 13.35—林道 14.20—県道—古峰神社 15.05(神社見学)・バス乗車 15.50—新鹿沼駅 16.40—春日部—柏—我孫子 19.27			
ルート状況	① 無理のないコース。 ② 花が随所に見られた。 ③ 暑過ぎも、寒過ぎもなく快適。			



▼薬師岳山頂にて。



▼ まわりの緑にとてもよく映えて、キレイだね～



夕日岳山頂



第9回 公開登山

<323>

赤城山



平成15年6月1日（小雨のち薄日）

会員34名 一般参加33名 総勢67名

雨の中の山行の良さ・素晴らしさを
始めて知りました。
山行後の温泉は…くせになりそう！
～次回も是非参加したい!!



ガスが晴れてくれました。左うしろに、黒檜山が薄っすらと見えてきました。

<A-2コース=黄色のリボンのみなさん>

日 時：平成15年6月1日(日) 日帰り

目 的：①公開登山 一般市民と登山を楽しみ交流をする。

②つつじと新緑を楽しむ。

費 用：約8,000円

(事前調査費用、バスチャーター費用、入浴・懇親会費用、バス内飲み物・つまみ費用、写真など。但し、一般参加者に係わる準備費用・資料等の作成発送費用を除く。)

参加者：会員34名 一般33名 合計67名

《参加者名および任務一覧は別紙をご参照》

コース：

(往路) 我孫子駅北口 5:20 集合 (貸切りバス 45人・23人乗り 2台) 5:40 出発—柏 I C (高速道) —上里 P A7:17/7:36—赤城ビジターセンター着 8:45/9:20 (準備、挨拶)
(各コース毎に分かれて出発)

A-1コース（2班）	黒檜山北登山口…黒檜山…駒ヶ岳…ビジターセンター
A-2コース（1班）	駒ヶ岳登山口…駒ヶ岳…黒檜山…ビジターセンター
Bコース（2班）	覚満淵…鳥居峠…長七郎山…八丁峠…地蔵岳…ビジターセンター

《詳細は“各班毎の記録”をご参照。いずれも歩行時間は約4時間》

(帰路) ビジターセンター14:00 出発—みはらし湯 14:30/16:35(入浴、懇親会)—上里PA
17:35/17:50—三芳SA 18:35/18:45—我孫子駅着 20:05

メモ：

① 前日に5月では、稀な台風の九州接近があり、当日がどうなるか気になったが、我孫子の集合時は、まだ、曇りの状態。途中から遂に降り出して、ビジターセンターに着いた時には、雨の中。ビジターセンターでそれぞれ、雨具を装着して全員集合し、会長の挨拶、チーフリーダーの山行中の注意事項、今回から始まった、エコ委員長からの励ましの掛け声と共に、各コースに別れて目的の山に向かう。

② 各コースのメモは“各班毎の記録”をご参考ください。

③ 再び、全員ビジターセンターに集合。このときには、雲間に太陽が見え隠れしていた。それぞれのコースを歩き終えて、休息地、ふれあい館に到着。

思い思いに、各コースを振り返りながら、ゆったりと今日の汗をながし、つつじの美しさ、雨ならではの新緑の素晴らしさを語り合う。最後の楽しみは、そばとビール。今年は、さらに、てんぷらのおまけ付き。温泉も、懇親会も充分時間が取れたので良かった。

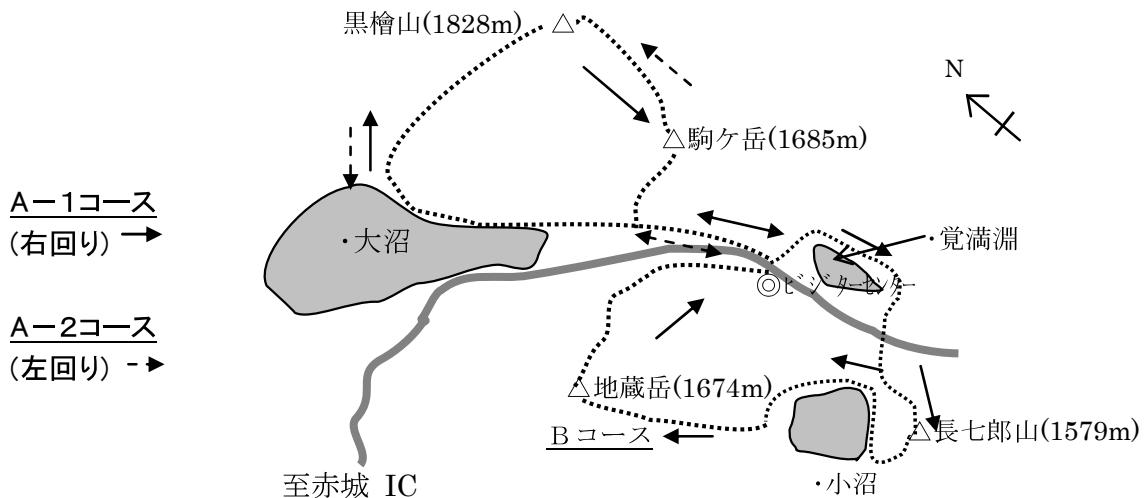
④ 今回の公開登山は、67名となり、公開登山と

しては一番多い人数となった。しかし、各リーダーを始め、各役員が、快く任務を引き受けてくれたこと、また、参加して下さいました一般市民の方も協力的で、全員安全登山をすることが出来ました。アンケートから、おおよそ下記のようなことが大勢の意見でした。

- ・ 雨の中での山行の良さ、素晴らしさを初めて知りました。
- ・ 山行後の温泉は、初めての人もいたがこの組み合わせは、くせになりそう。
- ・ 山行、温泉、懇親会全てにおいて時間的にゆとりがあって良かった。
- ・ 出発時間を成田線始発時間にあわせてあるのは助かる。
- ・ 次回も是非参加したい。



(柴 勇)



各班毎の記録

A-1-1班 (L日下、S L斉藤) 白色のリボン

コース：ビジターセンター（1360m）9:20 出発…黒檜山登山口 9:45…黒檜山（1827.6m）
11:15/45…駒ヶ岳（1685m）12:30/40…駒ヶ岳登山口 13:25…ビジターセンター 13:30

メモ：ビジターセンターに着いても雨は止まず、覚悟を決めて雨支度をする。

少し歩いて逆コースのA-2班と別れ、霧にかすむ大沼の畔の車道をしばらく歩く。登山道に入ると急坂である。リーダーのペース配分に助けられ、ゆっくりながらも確実に高さを稼ぎ、駒ヶ岳からの稜線にたどりつけば、わずかに登って黒檜山の山頂である。

残念ながら展望は皆無、心眼を開いて日光連山や上州の山々を望む。頂上で少し後に着いたA-2班と会う。

午後になって空は明るくなる。足元の赤土や木の根っこ、そして木段、木道に気をつけながら下る。登りよりさらに増えたシロヤシオやトウゴクミツバツツジなどに歓声をあげる。

車道に降り立った頃は青空が広がり、透きとおった若葉が陽に映えてまばゆかった。

(中村隆)



A-1-2班 (L大串秀、S L松本) ピンク色のリボン

コース：ビジターセンター9:10 出発…黒檜山登山口 9:40…黒檜山 (1827.6m) 11:20/12:00

…駒ヶ岳 12:20…ビジター

センター14:10

メモ：台風の影響で天気がすっきりしない日々、雨さえ降らなければ良しとしたい。…我孫子を出発したときは降っていなかつたが、途中で降り出した。

ビジターセンター内で雨具を着用し各コースに分かれて出発する。

車道を歩き登山口へ。登山道が雨に濡れてとても滑りやすくなっているので注意しながら登る。

小休止に水の補給で振り返ると大沼にかかるていたガスの切れ間から、大沼、赤城神社を見下ろせた。

登山道も狭く急勾配で足元ばかり気についていたが、ヤマツツジ、シロヤシオが咲き、雨に濡れた新緑がよりいっそう鮮明に感じられた。

黒檜山山頂についての頃

は雨も小雨となり明るくなって来たが展望は望めなかった。山頂にて昼食をとり、駒ヶ岳へヤマツツジ、ゴヨウツツジ等お花を見ながら下山となる。新緑に森林浴を満喫し下山する。天気も回復して薄日が差し込んできた。

17名全員元気で何事もなく下山し、温泉に入って汗を流し……大満足の一日でした。

(藤倉)



A-2班 (L高橋(英)、S L石垣) 黄色のリボン

コース：登山開始 9:16～南登山道入口 9:23～小休憩 9:50/9:55～駒ヶ岳頂上 10:23/10:33～大ダルミ 10:45 通過～小休憩 11:22/11:27～赤城山頂上(H1827m) 11:35 着(昼食)出発 12:12～ねこ岩 13:05 通過～北登山口 13:20～ビジターセンター着 13:45

メモ：★一般参加者の足並みもそろいコースタイムぴったしカンカン。

★雨カッパ着用で蒸し暑く、少々ばて氣味の人もいたが、こまめに脱ぎ着をすすめ

たのが良かったのか、その後快調。

★芽吹き始めの木々の間から真っ赤なヤマツツジと濃いピンクのミツバツツジがそぼ降る雨に映え幻想的な雰囲気。

★エコ委員の原田さん登山道では活躍の場なし。頂上で会員も手伝いごみ収集。

★10年ほど前に比べ登山道が整備されすぎていて、これではサラサドウダンのトンネルはもう見られないかな。残念。

★足元にはマイズルソウがびっしり。満開のころはさぞかし見事でしょう。

★温泉へのバス道、ひときわ大きなレンゲツツジが満開。

★公開登山うってつけの山だったかな。・・・・満足度100%の山でした。

(細野省)



B-1班 (L中村(八)、S L高橋(芳)) 赤色のリボン

コース：ビジターセンター9:20 発～覚満淵の木道を歩く～鳥居峠 10:10～長七郎山 (1578.9m) 10:35～地蔵岳 (1673.9m) 12:00 (軽食) ～赤城大洞 13:15～ビジターセンター 13:30 着

メモ：覚満淵の木道から水面をのぞくと、おたまじやくしがいっぱい元氣にもぐっていました。

鳥居峠から長七郎山までは「スミレ」「ツツジ」の花々を目で追い、「あそこにもここにも咲いている」とほんの少し興奮し、楽しんで、初夏のこぬか雨の中を心わくわくでした。「いづれがツツジか人々が見まがうカッパ色」背のカッパの色とツツジのあでやかさに見違えるほどでした。

地蔵岳からはスリルと冷や冷やの連続で直下を無事下山。

○覚満淵の木道を歩く 朝霧の 水面に映える 花重ね

○こぬか雨の中そこかしこにツツジ咲く 陽ざし待つ 色とりどりの 地蔵道

○長七郎山の峰下り、カッパとツツジの色どりが美しかった。

Tさんからヒントがあり、Yさんからことばをいただきました。

いづれがツツジか岳人か みまがうほどに花競う

○八丁峠から地蔵岳の頂上までず～っと階段の上りでした。

ひとりきだ カッパの中は サウナ風呂

(高橋正)



長七郎山山頂



地蔵岳山頂

B－2班 (L外崎、S L清家) 青色のリボン

コース：ビジターセンター8：48/9：20～長七郎山 10:40/50～地蔵岳 12:08/45（昼食）～ビ
ジターセンター13:38

メモ：季節はずれの台風で心配されたお天気でしたが、やや小雨に変わり、各々のコース
へと出発。

我々は覚満淵をゆっくり廻り長七郎山へと…。

よく整備された道を進みながら、初対面の方々との会話もはずみ、所々に満開に咲
くツツジと記念撮影をしながら山頂へ。ここでB－1メンバーと交錯し、小沼、地
蔵岳へと向う。

ちょっと登山口を見落とすが、早めに到着することが出来た。

あまりハードな箇所もなく、みな余裕の歩きでした。地蔵岳からの下りが濡れていたため、滑った者もいましたが、大した怪我もなく、予定の時間にビジターセンタ
ーに。

一般参加の皆さん多くの山を歩かれていて、お勧めのコースなど教えていただき
ました。
(山本)



満開のミツバツツジの下で



赤城山山行に参加して

一般参加者に、下記の内容のアンケートをお願いしました。参加者33名、回答者32名でした。
(回収率97%)ご協力有難うございました。次回の参考に致します。

1. 登山について…赤城山の印象、難易度、歩行時間、休憩時間歩く早さ
2. 登山以外… 出発・帰宅時間、バス
3. その他… 【岳人あびこ】へのご意見、公開登山への希望

コース	A-1 コース
登山	今回は、昨年の安達太良山行に次ぐ二度目の登山となりました。お陰さまで装備類もある程度整ってましたので、何の不安も無く参加希望させていただきました。説明会のご案内では、赤城山山行は、難易度は高くななく山行目的も公開ハイキングとするとのお話しがあり、気楽に参加させていただきました。台風の影響もあり、天候は前日から引き続く雨天が予想され、一様の不安を抱きながら当日を迎えました。バスで現地に向かう途中から予報どおり雨が降り出して、ビジターセンターに到着した頃には、強い雨で、出発に際し、雨具の装着を指示される程の空模様となり先行きが心配されました。私のコースはA-1の右回りコースなので、黒檜山からの走行となり、歩き始めると、頂上まで登りと岩との闘いで、雨中とも辛い思いでした。それだけに山頂に着いたときの感激は、とても忘れられない程の充実感に満たされておりました。「山歩きの魅力は自然との対話である」とも言われておりますが、自然の懐の深さを改めて感じさせてくれた、私にとっての登山行でした。歩行時間、距離も終わってみると、貴会役員の皆様方のご指導があり、適当なものだったと思っています。
登山以外	出発時間を、成田線利用者に配慮しての設定として下さり、大変ありがたく思っております。我孫子駅からは、往復ともバス利用で車中も気楽に過ごさせていただきとても感謝しております。昨年と同様に温泉も良かったし、会議室での飲食で、天ぷらソバにビールと、どちらも好物で、しかも会員の皆様方のおもてなしにも満足させていただき大変楽しくかつおいくいただくことができました。今回の山行が事故も無く予定された時間内で、しかも若干時間に余裕ができたことにより、帰宅時間が短縮されたことは、翌日のために良かったと思っております。
その他	前述させていただきましたとおり、今回が2度目の参加となりましたが、昨年同様、貴会の会員の皆様方の丁寧で親切なご指導、ご援助には、感謝の気持ちで一杯です。お蔭様で、天候不順の折での登山で、幾許かの不安を抱えつつもご指示どおりの山行ができ、とっても楽しませていただきました。このような企画は年に1度と伺っておりますが、近々に次の機会を設定していただける等ご配慮していただければ、大変ありがたいことと思っております。いろいろとお世話様になり、改めて厚く御礼を申し上げます。(K・O)
登山	4時間の山行で丁度良かった。きついと思ったがなんとか登れてよかったです。歩く速さも丁度良かった。休憩時間も少なくって良かった。
登山以外	温泉があつてとてもよかったです。出発時間も丁度良かった。皆様の御好意に感謝します。
登山 その他	以前に一度登ったことがあったので軽い気持ちで参加しました。が…こんなだったろうかと思うほどつらかった。やはり少し若い頃のぼった為かやはり年せいにしてしまう私。体力、気力、筋力まったくなし。でもこんな私にも会の皆様の暖かいお力添えを頂き無事下山出来ました事感謝いたします。また来年もこんな私でも参加してよろしいでしょうか。ぜひまたお願ひします。これからも年1度と言わず連れてって下さい。

登山	自分の限界?に挑戦した気持ちでした。毎日の様に近県の山を歩いている私としては少々自信喪失でした。自然の厳しい?条件の中での山行。ややもすれば辞退しかねないしかねない天気でしたが参加して大満足。ありがとうございました。
登山以外	近くに住んでいるため文句なし。
その他	定期的に公開山行をこれからもお願ひしたい。多少コースを配慮していただいて…
登山	久しぶりの山登り、少々心配でしたが(体調の方)楽しく登ることが出来ました。休憩時間も私は良い時間と思います。あまり長いと疲れが出てしまうのではないかと考えます。マイペースで歩かせていただきましたので、苦にはなりませんでした。雨も良い思いでとなりました。
登山以外	歩きながら花を見て、うぐいすの鳴く声を聞き、下界を離れ何年ぶりかで幸せを感じました。最後の温泉とおそばは最高でした。本当に有難うございました。三葉つつじと五葉つつじとてもかわいい葉っぱでした。黒檜山 五葉三葉 つつじ愛で…俳句のつもりです。
その他	又、是非参加させて頂きたい思い一杯です。そのためには体調をくずさない様に生活したいと思います。本当に有難うございました。乱筆乱文で済みません。
登山	なだらかな裾野の広がる赤城山は車中から眺めることがあってもまさか登ることが出来るとは、感激。雨に洗われたみどり、お花の美しさに感激。
登山以外	会員の方の苦労に感謝致します。赤城山の神様にお願いするとかなうそうなのでお祈りしました。(年2回公開登山がありますように)
登山	お天気が今ひとつパッとしたが大雨でもなく気持ちよく登れた。歩き易かったし早さも丁度良く楽しかった。時間はもう1時間位多くても良かったなと思います。
登山以外	バスもゆったり乗れたし、良かったと思う。下山してからの温泉は最高でした。サッパリした気持ちで帰れます。今日は本当に有難うございます。又、日にちが合えばご一緒させて頂きたいと思います。
登山	霧の為周囲が見えず残念でしたが、緑の美しさをたんのうしました。黒檜山は2度目ですが前回も雨でした。10年も前の事で記憶もおぼろですが登山道が整備されて登りやすい山になっていたのに驚きです。良い季節に登れて幸でした。ありがとうございました。
登山以外	登山後の温泉はやみつきになりそう、結構でした。公開登山は大変でしょうがこれからも是非続けてください。いつもお世話になりありがとうございます。
登山	新緑と鳥の声が大変よかったです。バスを降りてから登山までしばらく一般道路を歩きましたが私にとっては適当なウォーミングアップでその後比較的楽に行けました。コース、時間的に良かつた。
登山以外	我孫子をバスで出発できるのは便利です。 最近は毎年の楽しみです。
登山	12年ぶりの山歩きだったんです。魚の目もうずき出していた所だったんですが全て何もなく無事に終了しました。無理の無い行程で楽しめました。ありがとうございました。
登山以外	出発時間がもう少し遅いと多少楽かなと思いました。 今後も時間の許す限り参加させていただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。
登山	年齢に無理があるとは思いましたが黒檜山まで行きました。台風を気にして中止になるかと不安でしたが役員さんのお言葉に従って参加し本当に楽しい思いをしました。市広報を見て申し込みをしたのですが、役員(会員)の方も親切で久し振りに人の和、自然の美しさ。参加して最高でした。
登山以外	最初「ハイキング」と広報にありましたが立派な「登山」でした。やはり山に充分に接してない人で無いと一寸無理かなと思いました。会員の皆様にお世話になり誠に有難うございます。

登山	雨の登山は大変心配でしたが思ったより良かったと思います。雨にぬれた緑がきれいでしたし歩行時間も自分としては丁度良かったと思います。
登山以外	登山が終えお風呂も済み会食の時はとても楽しく今日1日楽しい思いをかみしみながら会食できました。バスの中・温泉も良かったです。
登山	ゆっくりの歩調で登りやすかった。霧雨の中での大沼や地蔵岳が見え隠れしました、感動の1日でした。ロチャックの約束が少々守れませんでしたがこれもまた楽しかったです。
登山以外 その他	早い時間の登山で大変良かった。温泉付きビール付きはもうVery Good 秋もぜひ公開登山を計画していただいたら、ぜひ参加させていただきたいと思います。楽しみにしています。
登山	ゆっくりで良かった。楽しくおしゃべりしながら参加させていただき感謝しています。
登山以外	温泉OK、登山後最高でした。来年を楽しみにしています。秋にもあるといいですね。計画たてていただきたいです。健康にカンシャ!!岳人の方にカンシャ!!有難うございました。又よろしくお願ひいたします。岳人の方本当にごくろうさまでした!!
コース	A-2
登山	午前中雨が降りましたが途中つつじの花などきれいでした。正午の食事時雨がやみ、その後は雨が上がりケガもなく下山しました。登り下りともご指導が良く、快い山行ができました。特に安全第一にご指導いただいたことを感謝します。
登山以外 その他	特にありません。温泉・そば・ビール最高でした。 昨年より参加させていただきました。昨年はご指導をえてから7月富士山頂に登りました。ご指導をいただいたとおりに登り安全第一にケガもなく無事終了しました。台風と台風の間で晴天に恵まれました。すべて、岳人あびこさまのお陰です。ありがとうございました。
登山	駒ヶ岳からの下りは階段、しかも木の数が多く、あまり歩き易い道ではありませんでした。その点からみると、A-1コースの方が良かったと思います。雨のためやむを得ないのですが、昼食時間は1時間位欲しいですね。相対的に中程度の山行のように思います。
登山以外	バスの山行は本当に楽です。出発時間・帰着時間(まだ着いていませんが)は特に問題は無いと思います。
その他	公開登山は年2回(春・秋)実施していただけると、参加する楽しみが増えます。 (私、64歳、山岳クラブに加入することが出来ず、1人山行もだんだんきびしくなってきました。) また、1泊の山行も是非企画して下さい。大勢での公開登山はいろいろな面で大変だと思いますが、これからも是非続けて下さい。本日は有難うございました。(M・T)
登山	すべてに適切であった。
登山以外	出発が早かった。今後も続けて欲しい。
登山	赤城山登山に始めて登ってつつじの花もきれい。よかったです。雨が残念でした。
その他	この後機会がありましたらよろしくお願ひします。
登山	赤城山登山は9年前に個人で登ったコースでしたが、今日は初めての岳人あびこに参加し団体の良さなど色々体験できて思い深い1日となりました。雨が少々残念でしたがよい登山が出来ました。色々お世話様になりありがとうございました。
登山以外	登山と温泉の両立が出来るのは大感激です。
その他	次の機会がありましたら又参加できるのを願っています。
登山	つつじの花、新緑がきれいで、道も整備されていてとてもいい山でした。難易度・歩行時間・休憩時間・歩く早さ、最高でした。

登山以外	我孫子発5時半いいですね。バスでのんびりもグッドです。お風呂・そば・ビールのサービスもうれしかったです。秋にもぜひ。
登山	初めて参加させていただいて有難うございました。「岳人あびこ」の皆さん、本当にお世話になりました。楽しい1日を有難うございました。いろいろと準備等大変だったことと思います。心より感謝申し上げます。
登山以外 その他	成田線を待っていたらとても感謝しております。バスもゆったりとして有難うございました。雨の登山もいい経験をさせていただきました。よかったです。 「岳人あびこ」の皆さんのご活動・益々のご発展をお祈りいたします。
登山	雨は残念でしたが、新緑のすばらしい山を満喫しました。つづじもきれいです。雨上りの空気の澄んだ山の中でリフレッシュできました。難易度・歩行時間・その他ちょうどいいです。とても歩き易かったです。
登山以外	満足しています。いろいろ準備が大変だったろうと思いますが、来年からもぜひ参加させていただきたいと思います。会員の雰囲気もすごくいいです。初めからとけこめて、とても楽しい山行でした。
コース	Bコース
登山	緑したたるの言葉そのままの新緑の山にバスがどんどん進んで、小雨の中の出発。昨日から降った雨に洗われた新緑がこんなに美しく、歩いても歩いて花と緑の中でした。花の名前をおしえてもらいながら、前半は、遠足のような道。お昼は雨もやんで安心のひと時でした。後半は面白い難路でした。すべらないように、つまづかないようにの一歩一歩はスリルがあつてくだりのダイゴミです。リーダーの人柄と登山技術が山行の良し悪しを決めますが、今日は、とても充実した山行でした。パーティーの人数が10人とこじんまりしていることも幸でした。楽しめましたから。休憩時間は人によっては、もう少し多くてもよかったです。私は充分満足でした。テンポも私にはOKでした。歩行時間がもう少しあつたほうがいいと思いましたが楽しめたのですから満足です。
登山以外	70人近い山行は大変です。おふろの後のおそばパーティー(?)もみんな楽しそうで、にぎやかで、良いふんいき作り出せる会というのは、実力ある会だと思います。我孫子から我孫子へ、これはとても幸せな山行です。参加費用が少し高いなーと思いますが、このくらい楽しめるならOKです。
その他	出来れば、年2回くらい公開登山をやっていただきたい。泊のある山行は、いびきの人のとなりに寝かされたりつらい思いをしますが、日帰りは、それらの点で安心です。県で番目に大きな会と言ふことです。会の発展を願っています。大変なことだと思いますが、一般も大いに楽しめて下さい。一般参加者への心づかいありがとうございました。
登山	登りは楽しかったが、下りは大変でした。歩行時間もう少し長い方が良かったかな?花がとてもきれいでした。
登山以外 その他	朝早く眠かったです。温泉は気持ちよかったです。疲れがいっぺんにとれました。 みなさん親切で、楽しく、登ることが出来ました。ありがとうございました。
登山	雨の登山だったのでどうなるか不安だったが、歩き始めるとあまり雨も気にならず頂上を目指して、一步一步登ることに集中しました。お蔭様で無事登ることが出来て、感謝しております。できればもう少し休憩時間又回数を増やして欲しい気がします。
その他	出来れば、年2回くらいに増やしてほしいです。又、会報等で時々一般参加が出来る情報を流して、参加できるシステムはないでしょうか?

登山	最後の下りが思いの外神経を使いました。
登山以外 その他	温泉等時間に余裕があつて大変良かつたと思います。 もう2時間早く雨が上がってくれたら最高でした。年に2回くらい催して下さればなおうれしいのですが…大変お世話になりました。楽しい1日をありがとうございました。
登山	私の為には最高の山行でした。来年もよろしくお願ひします。
登山 その他	木道(木のカイダン)が整備してあって歩き易かったです。その他ちょうどよし。天気がよければなお良かった。また機会があれば参加したい。
コース	不詳
登山	私は友達と時々山に行きますが、歩き始めは、ゆっくりと体をならしてから早く歩きます。今日は皆さまにお世話になりました。下山は気持ちよかったです。
登山以外	これからもしてほしいと思います。
登山	雨で残念でしたが、長い雨でもあつくもなく、時間も長くなく花もきれいで楽しかったです。
登山以外	よかったです。 楽しい話も聞けてよかったです。
登山	雨、キリの中、良くマトメ、バランスの良い登山でした。
登山以外	そば、酒、会費の中と思うが!! 費用安く皆参加出来るようして下さい。
登山 その他	皆さんについていけるか心配でしたが、何とか登れて良かったです。 たびたびあつたら参加したいです。

担当:柴勇





参加者名および任務一覧

【本=本部、記録=記録・カメラ・やまたん、バス=バス内サービス、温泉=温泉内サービス・アンケート、責=責任者】

	<上段> 会 員 <下段> 一般参加者（敬称略）
本	武内（責任者）、柴、細野清 一
A-1 (-1)	武内（本、責）、日下（L）、斎藤（S L）、原田君（医療、責）、中村隆（記録、責）、青山（バス）、佐藤健（温泉） 瀬田映子、新留文枝、小関克巳、安田宰、野村伊津子、船浦淳子、本多まき子、山田ひさと
A-1 (-2)	大串秀（L）、松本（S L）、坂口（医療）、増田（バス責、会計）、佐藤明（温泉）、藤倉（記録）、田村 堀田初恵、松原サト子、亀山重夫、吉田喜美子、戸山光晴、小沢寿子、坂井弘幸、谷敏子、綿引博、綿引英沙
A-2	細野清（本、温泉責）、高橋英（C L）、石垣（S L）、大串恵（医療）、細野省（記録）、原田和（バス） 津嶋俊尚、木村義枝、松本友子、波満千鶴子、平井トヨ、竹口章子、町井忠、町井節子、坂本修
B (-1)	中村八（L、会計責）、高橋芳（S L）、庄司（医療）、高橋正（記録、やまなみ）、安田（バス）、高橋潔（温泉）、飯沼 橋本寛子、大久保照子、阿部貞信
B (-2)	柴（本）、外崎（L）、清家（S L）、原（医療）、山本（記録）、高橋寿（バス）、大平（温泉） 鈴木君子、鈴木恭一、花田悦子

<324>

戸倉三山

(臼杵山、市道山、刈寄山)

842.1m 795.1m 687.0m

高橋 英雄

低いながら静かな
ロングコースを楽しむ

いつもの事ながら、登山日の数日前は天気が気になり、又今回も週末になると決まって雨模様の様子！！でもなんとか2日間は晴れてもらいたいと願う。

1日目は2日目に備えて足慣らしで、馬頭刈山頂を目指す。登山口から気温が上昇しあじめ、沢のせせらぎを聞きながら急な坂を登り高度を稼ぐが、何せ蒸し暑い、時折風が吹き抜けると清風のありがたさを感じる。

薄暗い杉林におおわれた参道を登って行くと、光明山に着いた。神社が取り壊され、その跡地に木材が積み重ねられてあった。

火事跡か、落雷跡か一帯の土地と樹林が焼けこげて黒くなっていた、小さなアップダウンを繰り返しながら馬頭刈山頂に着き昼食をとる。展望が悪く辺りを見渡すことが出来なかった。

食後すぐ下山することにする。翌日はロングコースなのでその山並みを眺めながら、分岐を乙津方面への下山口に入り、宿まで秋川沿いを歩く。やっとバンガロー形式の国民宿舎に到着、女性2棟、男性1棟、計3棟を予約。そこより少し上にあるバーベキュー場で1日目の反省会をやる。

朝5時起床、食事を済ませ6時出発、本日も空は薄曇り、昨日の馬頭刈山を背に登山口から猿の侵入防止ネットをくぐり抜けると急

な登りで、荷田子峠の分岐からグミ尾根を登っていくと、1ツ目の臼杵山に到着する、臼杵双耳峰である。

北峰には臼杵小社があり、祠の両脇に猫の石像が置かれていた。南峰は5分程の所にあり、二等三角点が置かれていた。あいにくとそれらの山頂からの眺めは望めなかった。

アップダウンを繰り返しながら歩いて市道山へ向かう、笹平からの嫁取り坂と合流して市道山にたどり着く。山頂はまたしても樹林で覆われていて、眺めのよくないなかで小休憩をとる。

薄日のさす市道山を後に急降下した地点で和田峠方面と別れ「峰見通り」あたりから刈寄山が見えてきた。

“東屋が見えるぞー”の声に、一連隊、一点を見つめて“サーがんばろう”の声が更に大きくなる。

宿舎を出てから6時間ぶりに昼食をとる。それぞれの想いが飛びかって、よく歩いたもんだ！！と話に花が咲いたところで、もうひと頑張りだ。

入山峠でいったん車道に下りる。刈寄山へのアップダウンは足の運びがにぶく、みんな疲れている様子、又一時マウンテンバイクで山道に行く若者達に元気づけられ、何かエネルギーを貰った感じがした。そんなことを思いながら刈寄山に到着する。天気が晴れていて日差しもきつかったがようやくこれで戸倉三山を終歩できた。

今熊山で武藏五日市を眼下にし長い長い歩きが終わるのだ。メンバー全員無事で満足そうな顔、顔であった。今回の三山縦走の展望はよくなかったけどリードのところにあるように静かなロングコースでとてもよかったです。

概要

山名	戸倉三山(臼杵山、市道山、刈寄山)		
山行形式	国民宿舎泊		
期日	平成15年6月7日(土)~8日(日)		
山域	奥多摩	地形図	五日市(1/2.5万)
目的	静かなロングコース		
リーダー	斎藤	費用	9,000円
歩行時間	1日目:4時間 2日目:8時間	グレード	A+
参加者	L斎藤、SL日下、SL高橋英、柴田、大串恵、大串秀、長木、中村美、原田君、岡田 計 10名		
交通機関	電車・バス		
コ ー ス	1 日 目	我孫子(5:33)→新松戸(5:51)立川(7:20)→武藏五日市(7:56)→(8:45)タクシー 軍道(9:00)→光明山(10:30)→馬頭刈山(10:35/11:45)→乙津(13:10)国民宿舎(13:50)泊	
	2 日 目	国民宿舎(6:00)→荷田子登山口(6:05)→城山分岐(6:30)→臼杵山(8:30)→市道山(9:50/10:10)→トッキリ場(11:40/12:00)→刈寄山(13:00/13:10)→今熊山(14:20/14:55)→今熊バス停(15:15/15:46)バス→八王子駅(16:30/17:20)→我孫子(19:10)	



▲馬頭刈山山頂



▲市道山山頂



▲ 市道山山頂



⇒刈寄山山頂

<325>

葛葉川本谷

千葉 有子

丹沢の沢の名を挙げれば、源次郎、モミソ、勘七、ドウガク、モチハギ、セド、オバケ……となにやら怪しげな名が多い。その中にあって珍しく涼やかで美しい名を持つのが葛葉川である。川の下流には泉があり、その名も葛葉の泉。清涼感あふれる名だ。名の由来は知らないが、葛葉川は沢登りの入門に最適。しかも、滝の数は16とも21とも言われ、ベテランでも楽しめる人気のある沢と聞いた。

渋沢からタクシーで入渓地点まで行く。他にもパーティーがいて、準備をしている。身支度を終えるとトップを行くように命じられた。初めての沢なのでトップを行くのは不安だが、メンバーはベテランぞろい。心配することはないだろう。しかし、最初からつまずく。沢の右岸にある道を行くが、どこで沢に下りていいかわからない。後ろから「ここだぞ」と声をかけられて入渓。初めは灌木の枝が左右からび、折れた小枝が多く落ちていてうるさい。

トップなのでなんとなく緊張しながら進む。すぐ後ろは佐藤健一さん。ふと見ると私とちがう、難しいルートを選んで登っている。そうだ、簡単な箇所ではなるべく練習になるようなルートを選ぶように堀口さんから注意を受けていた。佐藤さんに負けじと、少しでも難しそうな足場の方を選ぶ。

一つ目の大きな滝。四段の滝か？水量が多く直登は難しそうだ。右側を1人、2人と卷いて登っていく。何人かが確保してもらって直登しようと、下で待つ。上から堀口さんがザイルを

投げてくれるが届かない。確保地点となる巨石がなくなったとの事。あきらめて全員右側から巻く。

横向きの滝。事故が起きている油断のできない滝、とガイドブックにあるが足場が多く難しさも感ずることなく直登。

板立の滝。水流のない右側の壁を登る。まず村松さんが登って念のためザイルを下ろしてくれる。

板立のすぐ先で林道をくぐる。

沢を遡行している最中はとにかく夢中だ。しかも楽しくて仕方ない。何度か遡行図と眼前のルートを照らし合わせてみるが、登っている滝がなんという滝なのかわからずに通り過ぎることが多い。下山後、ビールで乾杯をしてみれば、あの滝がこの滝の先だったのか、どの滝が難しかったのかすっかり忘れてしまう。というわけでごめんなさい。次のような滝が印象に残っているが、どの辺にあった滝だったか覚えていない。



1 水流が多く上からのしぶきがすごい。滝に取り付くのにヘルメットにバリバリと上から水がたたきつける。女性陣は全員あきらめる。男性陣の何人かが果敢に取り付いて登りきり、「水もしたたるいい男だ」と得意気。「年寄りの冷や水」と言う声も。

2 滝のまづ左側を少し登り、途中でトラバース、真ん中辺りを濡れながら何とか登る。佐藤さんが最初から真ん中を登ろうとして断念。

詰めの地点。ガイドブックでは「流水がなくなってから左へ登る踏み跡がある」となっていたので油断していた。後ろから「ここだぞ」の声で行き過ぎたことに気づく。よく見ると左から合流するガレ沢の所に使い終えたワラジが吊り下げられてあった。流れはまだ続いている。今年は雨が多いせいか。入渓地点も詰めの地点も行き過ぎるという失態を演じてしまった。やっぱり沢のトップは難しい。

はっきり踏まれた跡をたどって三ノ塔尾根の稜線に出る。解除して一気に里へ向けて駆け下りた。

是非もう一度遡行して、あの滝、この滝を確認、この記録に間違いがないかを確かめたい。

概要

山名	葛葉川本谷	山行形式	日帰り
期日	平成15年6月8日(日)	晴れ	
山域	丹沢	地形図	大山(1/2.5万)
目的	沢を楽しみながらステップアップ		
リーダー	堀口	交通費	3,000円
歩行時間	4時間30分	グレード	3D
参加者	L 堀口、村松(敏)、外崎、中村(隆)、青山、坂口、佐藤(健)、千葉	計8名	
交通機関	電車・タクシー・バス		
コース	我孫子 5:33—代々木上原 6:41／6:52 —渋沢—葛葉の泉・葛葉川本谷入渓 8:55=林道 11:00=遡行終了地点 12:00 =三ノ塔尾根 12:30／13:05=大倉バス停 14:20—渋沢—我孫子		



日の射さない谷間は濡れた体が冷たい。一転、日なたに出ると体は乾き、暑くなる。



<326>

笠取山

1953m

飯沼 トミ子

多摩川の源頭へ

天気予報では雨の確率が高いと予報。他の山行は中止したような様子。私達の山行は、そんな予報にもめげず、我孫子駅を予定通りに出発する。塩山駅よりタクシーにて作場平橋の登山口に到着。今にも泣き出しそうな空模様を気にしながら登山開始。

メンバーの元気な足取りで雨の心配は徐々に少なくなって来る。マイナスイオンを身体一杯に浴びながら、何回かは川を渡って笠取小屋に到着する。ここで早めの昼食をする。リーダーのご配慮による暖かい味噌汁がとても美味しかった。

笠取山の南面の樹林地一帯は東京都民の飲料水を確保するための水源林として東京都水道局が管理している。小屋にも東京都の現地事務所の看板が付いていた。足元には可愛いクリン草が咲きほこり心を慰めてくれた。

山行目的の分水嶺を示す標識は三角形の御影石で、荒川、多摩川そして富士川の名前を刻み込んだ立派な石柱でした。



ここに降る雨は少しの違いで別々の川に流れれる運命にある。石柱のある所が流れる方向を決める『泣き別れ』の場所である。雨の流れる方向を確認する。

笠取山の直下にある水干神社では岩場の中に落ちる最初の一滴の水音を自分の耳で確認する。ここが多摩川の源頭である。ここに設置してある説明板によると、水干(みずひ)とは、沢の行き止まりの意味で、すぐ上の稜線付近に降った雨は、いったん土の中にしみ込み、ここから 60mほど下で湧き水として顔を出して多摩川の最初の流れとなります。この流れは水干沢から一ノ瀬沢へ、そして丹波川となり奥多摩湖に流れます。そこから多摩川と名を変え 138Km の長い旅を経て東京湾に流れ込みます。水干での大河の一滴を楽しんだ後に頂上に向かって歩き始める。

前日までの天候が悪かった為か、ここからの山道はぬかるみ、足元は滑り易い。急坂を慎重に登り、やっと頂上に到着したと思い皆なで記念写真を…撮るが、ここは本当の頂上ではなかった。シャクナゲやイワカガミの花達に励まされながら、アップダウンの道を苦労しながらやっと 1953m の標識がある頂上に到着する。ここが本当の頂上だから改めて記念写真を撮る。

下山は急坂で、しかも、道は狭くて岩場が連続するために慎重になる。(私は今回の山行が六ヶ月振りなので、特に緊張の連続でした)時々、降りて来た道を振り返って見上げると、険しい急坂が目に映り、無事に降りて来られたことを再確認した。1953mの山でもこのような急な坂道は珍しいのではと自問する。分水嶺を通り雁峠分岐へと向かう途中で笠取山を背景に写真撮影をする。

長い林道を降りて広瀬川ダムのあたりまで来ると、出迎えのタクシーが来ており、早速分乗して塩山駅に向かった。

笠取山は、山梨県と埼玉県の県境に位置し、その昔、役人がその県境立会いの際に、笠を取って会釈したことからその名がつけられたと言う由来がある。朝から危ぶまれた天候も、山の名前に肖り、笠を取っての山行が出来ました。

▼大きな笠の形をした山を背景に。



概要

山名	笠取山	山行形式	日帰り
期日	平成 15年 6月 15日(日)	曇り	
地形図	「雁坂峠」「柳沢峠」1/2.5万		
山域	奥多摩	費用	約 6800 円
目的	多摩川の源流を訪ねる。レンゲつつじを楽しむ		
リーダー	原田(和)	参加者数	14名
参加者	L原田(和),sL大畠、大串(恵)、渡邊、斎藤、大串(秀)、高橋(芳)、長木、中村(美)、中野、原田(君)、飯沼、藤倉、田村		
我孫子駅 5:33 = 新松戸駅 = 西国分寺駅 = 高尾駅 = 塩山駅 8:46/8:51 … タクシー … 作場平橋着 9:45 登山開始 10:00 ~ 一休坂分岐 10:23/10:30 ~ 笠取小屋 11:30/12:15(昼食) ~ 分水界標識 12:30/12:35 ~ 水干神社 12:50 ~ 尾根筋分岐 13:00 ~ ピーク 13:08/13:18 ~ 笠取山頂上 13:40/13:45 ~ 分水界 14:13/14:20 ~ 雁峠小屋 14:30 ~ 林道に出る 15:08 ~ バス停手前 16:30/16:35 … タクシー … 塩山駅着 17:00/17:53 発 = 高尾駅 = 西国分寺駅 = 新松戸駅 = 我孫子駅着 20:52 行動時間 6 時間 30 分、歩行時間 5 時間			

▼笠取山山頂にて。



<327>

船形山～泉ヶ岳

1500.2m 1172.1m

斎藤 清一

日本海風と太平洋風の織り成す

ブナの原生林を訪ねて

一日目：6月21日（土）

今回は私にとって二つのことが心配の種でした。一つ目の心配事は山形新幹線、さくらんぼ東根駅までの座席指定券が確保できなかつたことです。当日は“さくらんぼ祭り”初日であるとの事。にもかかわらず7人中3人が、努力の結果座席指定券を確保できたとの事。

二つ目の心配事は6月中なんとか土砂ぶりなしの山行を潜り抜けてきたが、そろそろ梅雨に入っているのではないか。とたわいのないことであるが、私にとっては、とっても心配なことなのである。

当日、リーダーと我孫子組の4人が自由席確保のためにわれら3人よりはや立ちして東京駅に向かつた。

われら3人は6:34 上野駅から乗り込んだが、自由席は超満員、仲間4人が座席確保しているのを確認して、われら3人はそれぞれ指定席車両に向かう。4人に感謝、感謝。

朝が開けてくるに従い空は明るくなってきた。今日も天気は持ちそうである。

米沢を過ぎた頃よりビニールハウスのようなものが山々に点々と見えてきた。“さくらんぼう”的旗が風にあちこちで揺らめいていた。さくらんぼ東根駅に着き、ワゴンタクシーに乗り込むやいなや誰からともなく“さとうにしき”的話題が出る。

女性達の見立てにより1kg購入して車の中でそれぞれ口に含む。さわやかな味が口中に広がる。新鮮そのものだ。

車は柳沢小屋を前にして止まる。冷たい水が流れている。口に水を含み“さくらんぼう”一粒、幸せ！贅沢感が漂う。車はさらに前進、林道終点までなんとかつけてくれた。かなり奥に入った。

7月の北海道山行を控えているので熊について敏感になっている仲間が、熊についてたずねたら、山菜取りの人が熊にあったとの話がよくあると運転手の弁である。

頂上まで存在感を示し騒がしく登ろうと用心しあう。山形県側からの登山口は3コースあるらしいが、この登山口で山菜取りの人には会った。しかし、本日ここから登るのは、われわれのパーティーのみらしい。

山形県と宮城県の県境にある船形山連邦の主峰は山形県側では御所山と呼び、宮城県側では船形山と呼ばれているのだそうです。山の形は船腹が両県からともに見えるそうです。

日本海からの風と太平洋からの風が船形山の上空で交じり合うのだと想像すると体中が引き締まるような気がする。

稲畑まではわずかな登りが続いたがシラネアオイが咲いていた。6月のブナ林の中を歩いていると原始にタイムスリップした気がする。最上カゴ、仙台カゴと掲示板に表示されている。“カゴ”は山々の岩峰を呼ぶのであろうか？

仙交小屋跡分岐で小休憩、今朝の早起きで疲れが出る頃である。

急登が始まる。ゆっくりゆっくり歩を進める。45分で一本を要求する。きびしい。この繰り返しでそれぞれ皆はリーダーに続く。足元は溝状の道、頭上は樹木でトンネル状態の中、背中を丸め固定されたロープにつかりながら這い登った。

ロープが終わると直ぐに頂上の台地に着く、一休みしたい。あと一息だとの激励で低木を抜け切

り瓦礫の頂上に到着する。

強風と寒さで頂上での登頂の感激もそこそこに眼下に在る避難小屋に駆け込む。夕方、風の具合を見て山頂に登り展望を楽しむ。

‘98年火災で焼失、‘99年11月再建。2階建ての小屋は周辺6市町が2年ずつの持ち回りで管理しているとのこと。窓が大きく展望がよく明日通る北泉岳を眺めながら、コーヒーを啜っていると疲れが取れていくのが分かる。土間にはまきが燃すことが出来るように整理整頓されていた。

小屋に最初に着いた特権を利用させてもらい我々7名は一階を利用することになった。新潟県からの5人、岩手県から1人と宮城県からの1人の計3組7名の方々は二階を利用された。それぞれの方々とコミュニケーションを図り“さとうにしき”をご馳走する。

二日目：6月22日（日）

4時起床。全員起きた。朝食後山頂に登り展望を楽しみ本日の長い行程を歩むことにする。昨日は日本海側、本日は太平洋側。高山植物も違いはあるのではないか楽しみでもある。

千畳敷にかけてシャクナゲ、ウスユキソウが咲いていた。蛇ヶ岳までの平坦道を進みながら、船形山を振り返るたびに山と直下に在る避難小屋が小さくなつてゆく。

蛇ヶ岳から三峰山までは低木で腰をかがめて進んだため大変疲れた。うつかり腰を伸ばして歩いたら目から火花が飛び出すこと確実である。

多くの宮城の人々が登るのであろうか？道が良く整備されている。快調に7人の歩みは進む、長い長倉尾根を黙々と。熊ノ平に着くが、通過する。暑い。のどが渴く。

水場が近い、そこで一本の予定が虫が多くて、さらに足を伸ばす。北泉ヶ岳からの展望に感嘆する。

泉ヶ岳の登りは腹が減るやら、暑いやら、のど

は渴くやらのバテ気味。虫を気にしないで食べれば、おにぎりのおかげに虫を食べることになっていたことを思うともう一息と頑張る。

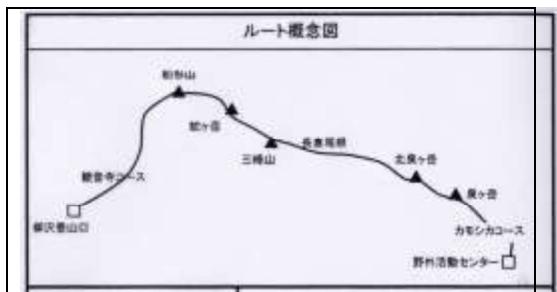
虫のいない泉ヶ岳の山頂での昼食。メンバーは腹を満たしていたが、私は空腹が講じて食べられない。流動食を飲み込み、山頂を後にする。後90分で下山口だ。

カモシカコースを下る。鞍部を登って兎平まで登る最中に腹が減りだし力が出ない。何か腹に入れないと、とクッキーを取り出しが、袋が破れない。もどかしい。やつとの思いで口にはおぱりながら歩く。スキ一場に到着。あとはロッジを目指して降りた。一目散に！

思い出に残る船形山連峰縦走でした。

概要

山名	船形山～泉ヶ岳		山行形式	避難小屋		
期日	平成15年6月21日（土）～22日（日）		晴れ			
山域	東北	地形図	船形山・定義・升沢（1/2,5万）			
目的	ブナの原生林を訪ねて。					
リーダー	石垣	費用	25,000円 (土日キップ利用)			
歩行時間	9時間45分	グレード	B			
参加者	L石垣、S L外崎、大串恵、大串秀、斎藤、坂口、高橋芳	計	7名			
交通機関	山形・東北新幹線・ワゴンタクシー					
コース	1日目	(行動時間 4時間 休憩時間 1時間) 我孫子 5:09→東京 6:00/6:28 (ツバサ 101号) →さくらんぼ東根 9:28/9:45 リコーソクシ→柳沢登山口 10:45～粟畠 11:20/11:30～仙交小屋跡分岐 12:30/12:55～休憩 13:40/13:50～船形山山頂（避難小屋）14:45				
	2日目	(行動時間 8時間 休憩時間 1時間 15分) 起床 4:00 小屋 5:30～分岐 5:50～蛇ヶ岳 6:35/6:45～三ツ峰 7:15/7:25～熊ノ平 8:45/8:50～北泉ヶ岳 10:10/10:20～泉ヶ岳 11:20/12:00～泉ヶ岳ロッジ 13:00～スパ泉ヶ岳→仙台駅 18:08→上野 20:18→我孫子 21:15				
ルート状況	①. 仙交小屋跡から山頂まで急登					



▲ルート概念図

ブナ林⇒



▼船形山山頂(左)。強風の中の船形山山頂(右)



泉ヶ岳山頂
にて



<328>

栗駒山・焼石岳

1627m 1548m

武内 勇二

栗駒高原駅を出発する「栗駒高原いわかがみ平」行バスは、週末のみの運行で1日2便、上野発の新幹線1番電車に接続している。8時50分定刻に出発。岳人あびこ9名の他は数名の乗客しか乗っていない。土曜日とはいえ梅雨のシーズンで、おまけにここ数日来雨模様の天気が続いているからだろう。バスに揺られること約1時間半で栗駒高原いわかがみ平に到着。相変わらず大きな雨粒が落ちている。

原田（和昭）さんとレストハウスの人々に東栗駒コースの状況を確認する。「途中、沢を横切る箇所がありこの雨でかなり増水しているので十分注意が必要。普通の山靴では困難が伴う」との話で、リーダーの大串（恵子）さんに進言、稜線を歩く中央コースを行ことになった。

高橋（芳恵）さんを先頭に、レストハウス横の登山道を上り始めた。石畳の道は普段なら歩きにくいので敬遠するのだが、今日のような雨の強い日は助かる。とはいっても、降った雨水が道の上を勢いよく流れ下ってくるので、靴に水が入らぬ様にと多少とも高くなっている箇所を探してステップを刻む。緩やかな単調な登りが1時間余り続き、やがて石畳が切れ土道に変わった後、東栗駒山からの道を併せると程なく広々とした栗駒山頂に出た。

CLの恵子さんが握手で迎えてくれたものの、雨風がとても強く登頂の感激に浸っている気分ではなく、写真も撮らずに先を急いだ。風でかなり体温を奪われているようで、手が悴んだように強張っている。這い松に覆われている稜線

を行くが、所々左手斜面がガレているところがある。道が広いので危なくはないものの、風でバランスを崩されないよう気をつけて通過する。西側斜面にはまだ残雪で埋まっているところもあった。さすがに東北の山だけに雪解けは遅い。

程なく昭和湖経由須川温泉に下る分岐を通過。昼になったが相変わらず雨が強くザックを下ろしておにぎりを取り出す気分にならない。朝4時に朝食をとったきりなので、多少空腹感を覚える。シャリばてを防ごうとポケットに入れておいた氷砂糖をほおばりながら歩いた。

お花畑の中の下山道は水が溢れ小川になっていた。踏み荒らされないよう道の脇にロープが張ってある。賽走り（須川温泉へ2.4km地点）まで降りると、小川はやがて沢となり、轟々と水音を響かせながら登山道脇を流れ下るようになる。

昭和湖はグリーンがかかった水をたたえた湖である。かなりの硫黄分が溶け込んでいる死の湖なのである。硫酸ガスの臭いが鼻をつき、木の生えていない崖に囲まれた荒涼たる風景はここが火山の火口であったことを思わせる。



▲栗駒山概念図

地獄谷付近は硫化ガスのため草木が黒ずんでいる。こんなところでも命あると感動を覚える一方、大気汚染にさらされている人類も目には見えねどじわじわとこのあたりの植物と同じよ

うな影響を受けているのかもしれないと思い、ぞつとする。

名残ヶ原手前の崖地で小休憩。相変わらず小雨が降っているが風は避けられる。待ちに待ったおにぎりをほおばり一息ついた。名残ヶ原は湿原の名残をとどめているものの、ササに侵食されて痛々しい。それでもイワカガミなどが可憐に花を咲かせている。沼にはミツカシワも群生したのが見られた。

程なく須川温泉について。湯治場風の建物が狭い土地に所狭しと建てられ、その繁盛振りがうかがわれる。昔は栗駒山麓の秘湯だったのだろうが、山深い地とはいえ、国道が通じ車で簡単にこられるのでシーズンには人でごった返すのであろう。今日は土曜日とはいえ、梅雨時で朝から強い雨が降り注いでいたお陰でお客は少なく静かに入浴を楽しめるのは嬉しい。入浴後、売店でビールを仕入れ、須川湖畔のキャンプ場に向かう。

キャンプ場は湖のほとりのブナ林にある。須川湖は水の透明度が高く、とてもきれいな湖だ。

「雨の日にテントはどうか」との不安の声があり、管理のおじさんにボート小屋内で泊まれるよう板を敷いて貰ったが、炊事場は小屋より少し離れたテント場の近くにあるので、まずは食事の材料だけをもって炊事場に移動した。テントの状態を確認すると、高床に大きなテントが張ってありボート小屋よりは居住性がよさそうだった。管理のおじさんに泊り場所の変更を頼むといやな顔一つせず了解してくれた。ボート小屋に置いてあるザックも軽トラックで運んでくれるという。身勝手なことにも素朴に応じてくれて感謝感激、東北の人の暖かい心が伺われほのぼのとした気持ちになる。

管理棟では地元の山の仲間たちが車座になって懇親会を開いていた。恵子さんはこのあたりの出身だけにスーと話の輪の中に入ってくれる。明日の十文字側からの焼石岳へのルートはここ

数日の雨でかなり増水しており、渡渉地点が2箇所あることから避けた方が無難とのアドバイスも受けた。無理に危険を冒すことがないので、大串（秀雄）さんとも相談し、明日は中沼コースをピストンすることを恵子さんに進言することとした。「一杯やっていきなよ」との誘いの言葉を振り切り炊事場に戻った。もう焼肉の準備が出来ており、早速乾杯。テント泊りは我々9名のみで、周囲を気にすることなく食べて飲んで呑ってと、賑やかな夕べとなった。

第2日（平成15年6月29日）焼石岳

翌朝3時30分起床。曇っているせいもありまだ薄暗い。雨が落ちていないのにほっとした。朝食の後片付けを終え、5時15分に9人乗りタクシーに乗り込んで中沼登山口に向かった。国道だが日曜日の早朝ということですれ違う車にも出会わないどころか、山また山で人家もまばらな道を走り、2時間かけて中沼登山口に到着。

ここは、昨年秋、登り口を間違った苦い思い出のあるところだ。トイレも案内板も昨年と全く同じだが、駐車している車が3台しかないというのが昨年とはまるで違う。直進すれば昨年辿った金明水への道だが、案内板のすぐ左に銀明水への登山口が口をあけていた。昨年、この登山口あたりにはびっしり車で埋まっており、開口部が全く見えなかった。第1歩を踏み出す前に地図でなぜ現状確認をしなかったのだろうと苦い思いが心を過ぎた。

今日はタクシーの運転手の「気をつけて」の声に送られ紛れもなく銀明水経由焼石岳への一步を踏み出す。タクシーの運転手は、我々を見送るために到着して身支度を整える約30分の間待っていてくれたことになる。ここにも東北の人の優しさが感じられた。

水溜りを避けながら登山道を行く。中沼までは鬱蒼とした林の中を登る。中沼はそれ程大きくはないが満々と水を湛え、縁を行く登山道も

冠水寸前の箇所もあった。石沼への道を分け、なだらかな道が上沼へと続く。上沼は中沼をもう少し小ぶりにしたような湖で、あやめが咲いている中を木道が通じている。晴れれば景色を楽しめる箇所だろう。

荒沢沿いに水を避けながら黙々と銀明水を目指す。既に水が染み込んで靴の中はグショグショとなっているが、それでも水溜りを避けようとするのがおかしい。所々水芭蕉の群落があった。白根葵が薄紫色の花をつけていた。花博士の原田（君子）さんが、「あれは何、これは何」と言っているのが後方にも聞こえてくる。「よく知っているな」と感心はするものの記憶に留まらずに消えてゆく。

銀明水は岩の中から昏々と水が湧き出ている。とても冷たくて美味しい。昨年は金明水をいただいたので、足掛け2年で金銀を体に注ぎ込んだことになる。避難小屋で昼食休憩の後、ザックを小屋にデポして空身で焼石岳を往復することとなった。小屋付近の斜面は雪で埋まっている。斜面を横切る踏み跡を辿り、緩やかに姥石平に向かって上ってゆく。雪が消えたあとには小さな水芭蕉が咲いている。ツブ沼方面への分岐を分けると程なく姥石平の一角にとび出た。時折の強い風に煽られながら、お花畠の中を行く。殆どの花の名前はわからないが、チングルマくらいは識別できる。姥石平の道標をはさんで一面のお花畠は花の山にふさわしい豪華さである。

青い空と白い雲そして風にそよぐ高山植物、晴れていれば昼寝にもってこいだろう。しかし今日は、霧雨のなかをただ黙々と山頂を目指す。山頂まであと0.9km付近より傾斜がきつくなり、遮る樹木もないので時折吹く強風に煽られぬよう下半身に

力を入れて登る。頂上は風が吹き荒れ展望もなく、全員で登頂記念の写真を撮るのが精一杯。三角点に登頂の挨拶をしただけで早々に下山にかかった。

来た道を戻り、銀明水の小屋でデポしたザックを引っ担ぐと、休む暇なく中沼登山口への道を辿った。道は朝よりも泥濘がひどく思うように歩けないのがもどかしい。下り道を滑らないよう気を付けているせいか全員の歩みはのろい。

中沼に到着。「森と湖にかこまれて……まるでブルーシャトウみたいね」と芳恵さん。霧の中にひっそりと静まり返る湖から連想が働いたようである。泥んこの道を下ること更に30分を要し、登山口には予定より30分ほど送れて到着。大分待たせたにも拘わらず、タクシーの運転手が「お疲れさん。大変だったでしょう」と愛想よく迎えてくれた。

分乗してひめかゆ温泉に向かう。何でも焼石岳の頂上付近に咲く水芭蕉によく似た花「ヒメカユウ」にちなんで名づけられたという。濡れた衣服を取替え、さっぱりとした気分で水沢江刺駅へ向かい2日間の山行をおえた。雨と泥濘に苦しんだが、山は静かでお花畠も美しく、そして何よりも東北の人達の素朴で暖かい気持ちに触れた山旅であった。

▼2日目 焼石岳 中沼登山口



概要

山名	栗駒山・焼石岳
日時	平成15年6月28日(土)～29日(日)
形式	テント(貸しテント利用)
目的	故郷の山のお花畠と温泉
グレード	B
1 日 目 コ ー ス	我孫子駅5:09発＝上野駅5:45/6:10(新幹線やまびこ41号)＝くりこま高原駅8:34/8:50…バス…いわかがみ平着10:20/10:45～ハイマツ帯に出る11:50～東栗駒山への分岐12:05～栗駒山頂上12:15/12:20～須川温泉への分岐12:38～賽走り13:02～昭和湖13:25～地獄谷13:30～沢を渡る13:38～休憩(昼食)13:50/14:00～名残ヶ原14:10～須川温泉(入浴)14:30/16:05～キャンプ場着16:35夕食準備～懇親会18:00～20:30行動時間3時間45分、歩行時間3時間25分、休憩時間20分
2 日 目	キャンプ場5:22…タクシー…中沼登山口7:15/7:37～中沼8:18/8:25～上沼8:51～つぶ沼への分岐9:25～銀明水避難小屋9:55/10:40～姥石平11:48～焼石岳頂上12:15/12:20～姥石平12:43～銀名水避難小屋13:50/14:00～つぶ沼への分岐14:30～上沼15:00～中沼15:25～中沼登山口16:00/16:15…タクシー…ひめかゆ温泉(入浴)16:50/18:00…タクシー…水沢江刺駅18:25/19:03(新幹線やまびこ)＝上野駅21:55/22:10＝我孫子駅着22:43行動時間8時間25分、歩行時間7時間15分、休憩時間1時間10分
リーダー	大串(恵)
参加者	L大串恵、S L高橋芳、S L原田君、武内、原田和、大串秀、斎藤、佐藤明、佐藤健 男5名、女4名 計9名
費用	総合計25千円 (旅割り7利用)



1日目栗駒山 いわかがみ平



1日目
須川湖キャンプ場

<329>

戸隠山・黒姫山・飯縄山

1904m 2053m 1917m
原田 和昭
外崎 蓮

第一日目 飯縄山に合同登山

山行目的はキャンプ場をベースにして周囲の山に登ることと、花とテント泊を経験することである。企画した清家さんが都合悪くなり、急遽、リーダーが外崎さんに代わり出発した。天候は曇り、キャンプ場前のバス停待合所に装備一式をデポして、タクシーで戸隠神社中社や子供忍者村を抜けて飯縄山登山口に到着する。

登山道は歩き易く、木々の新緑は優しく、落ち葉を踏みしめて歩く。登山道は殆んど直登で、足並みは揃い快調に登る。萱の宮の祠で一休みする。更に登り、樹林帯を抜けるころに、可愛らしいハクサンフウロの花が咲いていた。前方が開けた展望台に出ると地元の登山者が休んでいた。本来なら四方の山並みが良く見える所ですが、残念ながら全体がガスに覆われて遠くの山は何も見えない。

南峰の頂上にある鉄筋コンクリート建築の中
飯縄山山頂にて



に納めてある飯縄神社に到着。神社で安全登山を祈願して、平坦なササ原を10分位進むと目的地の北峰頂上に到着。頂上は広くて多くの登山者が休んでいた。西空の厚い雲が時々、カーテンを引くように無くなると、残雪が残る北アルプスの山並みと戸隠山の厳しい稜線が見える。このような展望を楽しみながら昼食をする。

昼食後は記念写真を撮った後に下山開始。次の目的地の瑪瑙山を目指して急坂を一気に下る。眼下に戸隠スキー場の緑のゲレンデとリフトを眺めながら歩く。瑪瑙山からは計画していたコースを変更して、キャンプ場に直接下山するコース。梅やミズナラ、ブナの自然林の中を快適に歩き、予定時間より早く下山する。

戸隠キャンプ場は自然の林の中で広く、施設は良く整備されており、他の利用者も少ない。到着後は、村松講師のテント設営の実技講習を受ける。テント泊の心構え、適地の選定方法、テントの張り方等々の講義と、持参したテントで各人が実技演習をする。

講習会終了後は夕食の準備。食担の方が用意してくれた美味しい料理と冷えたビールで乾杯。楽しい山の思い出を語らい、広い自然の草原の中で泊まれる喜びを感じながらテントの中に入る。

(原田和)

第二日目 戸隠山登山(A班)

夜中から降り出した雨は、時々雨足が強くなったりして朝を迎えた。朝食後雨具に身を包み、B班の4名が黒姫山へ向かった。あの5人も高妻山へ向かってキャンプ場を出発する。始めの計画では、A班は戸隠山に登ることになっていたのだが、雨で危険なため、急遽高妻山へ変更したのである。

宿泊者のいないバンガローの間をぬけ、放牧場を通って登山道に入る。

戸隠山と高妻山との分岐には一不動避難小屋があるが、そこまでは何度か沢を渡りかえさねばならない。勿論、橋などは一つもなく、石を跳び越えていくのだが、やはり増水している。帰りのことが心配になり、50分程沢の中の道を登ったところで引き返すことにする。こんな雨の中でも登山者がどんどん登ってくる。なかでも百名山を目指す32名の団体は登らにや損、とばかり、もくもくと引率者のあとに続いて上がってくる。

キャンプ場に戻った私達は、今度は、戸隠山を探りに行くことにする。戸隠山へは奥社の参道を通って行く。奥社参道の入口まではバス通りからも行けるが、私達は林の中に通じる散策路「ささやきの小路」を7キロも歩いて、参道の中程に建つ隨神門に着く。樹齢400年(?)のみごとな杉並木の参道を進み、奥社へと導かれる。石段の下で奥社とわかれ、左手に回ったところからすぐ急登がはじまる。

高みへ高みへと体を上げていき、距離にしたらどれ程も進んでいない気がする。細い尾根歩きが続いて、やがて大きな岩場の五十間長屋のお出まし。その岩山を右手に見ながら5分も行くと、同じような大岩が屋根のようにせり出している百間長屋に着く。この先はどんどん足場が不安定になる。

傍らの茂みをかきわけると、すべり台のような一枚岩の上を水が流れ落ちていくのが見える。落ちたら最後、止まれずに谷底へ消えていくそ うな恐怖を感じた。下見はここで終了。転落しないよう慎重に下ってから、奥社へお参りに行く。バスの団体さんがフーフー言いながら、大勢上って来る。隨神門からまた「ささやきの小路」を歩いてキャンプ場へ戻り、昼食をしながらB班の帰りを待つ。B班が戻ってきたのはそれから3時間後。9時間の行動を終えて晴々とした顔で帰ってきた。 (外崎)

黒姫山登山（B班）

昨夜からの雨が残る早朝、B班4名は霧雨の中を5時に出発。大橋から種池登山口に着く頃から雨が強くなって来たが、深い林の中に入ると木の茂みで雨を感じない。順調に種池から古池を通り新道へ、分岐案内板が不明確で外周道を行き過ぎたが、早い段階で気づき元の位置に戻り、地図で確認しながら進む。沢を何度も徒渉し急坂を登って行くと目標にしていた新道への分岐点に到着する。

ここからは尾根に沿った直登登山道。急勾配で段差は大きく、雨で濡れたぬかるみで滑る。大小の岩と大きな木の根が混在して前方を拒む。苦しい登りが続く、一緒に登っている女性は軽々と登って行くのに、後方の男性は息切れして付いて登れないペースダウンをお願いする。こんな時に、雲の切れ間から明るい光が差し込んで来るように元気付けられた。

厳しい登りに挑戦すること約1時間半、緩やかな尾根道に出る。前方が大きく開ける。ここが「しらたま平」絶好の展望場所だが、今日の天候では何も見えない。大池への分岐地点からは最後の急登。濡れて滑り易い石が重なる道を慎重に登る。伝説の山・黒姫山頂上に到着。先着の登山者が2名いた。二等三角点の御影石に軽くタッチして登頂を祝福する。周りの山々はガスで覆われ、何も見えないので残念でしたが、目的は達成された。

下りは峰ノ大池コースで北斜面の急坂を下りる。濡れた岩場に青い苔が付着して滑り易い。足元には小さな花が一杯咲いていた。大池では前方が大きく開けて、新緑の緑と湖面の水の青とが調和している。この池には黒姫様と若侍に化粧した大蛇の悲惨な伝説話が残ると言われている。静かで幽玄の美しさを感じさせて呉れた。

少し下ると白樺の林の中に入る。白樺の幹が根元付近で自然の風雪によってグルグルと曲が

っている。丁度、木がダンスを踊っているように見える。幹の白い樹皮が風でヒラヒラと揺れて幻想的な光景を見せている。美しい自然の姿を感じる。

登山道は沢に沿って、苔むした滑り易い巨岩の連続。岩がない所は水溜りのドロンコ道。岩と岩の間には残雪が残り最悪の道である。そんな悪路を慎重に歩き、時々、頭上を見上げると、白い桜の花や赤いツツジの花が満開に咲いている。緊張した気分を慰めてくれる。その美しさに感動を覚えた。

予定より早く下山してキャンプ場に帰ったら、既にA班のメンバーがテントを片付けて待っていた。直ぐに、荷物を整理してバスに乗る。途中、いこいの村「えんめい湯」で汗と疲れを流し、気分爽快な気持ちになって長野駅に向かう。駅前の蕎麦屋で懇親会を楽しんで帰路に着く。

(原田和)



百間長屋で(A班)

概 要

山名	戸隠山・黒姫山・飯縄山		
期日	平成15年7月5日(土)~6日(日) 一日目 曇り 二日目 雨のち曇り		
地形図	「戸隠」「高妻山」1/2.5万		
山域	北信三山	費用	約23500円
山行形式	テント泊	リーダー	外崎
目的	キャンプ場をベースに周囲の山に登る。花とテント生活を楽しむ(テント体験)		
参加者	L外崎 A班 SL 柴、村松(敏)(講師)、坂口、佐藤(健) B班 SL 原田(和)、柴田、斎藤、岡田 9名		
日程 ・ コース	第一日目 我孫子駅5:30=上野駅 6:05/6:30 新幹線あさま=長野駅 8:05 タクシー…飯縄山登山口 9:20/9:25~萱の宮 10:00~飯縄神社 11:10 ~北峰・飯縄山頂上 1917m 11:25/11:55 昼食~瑪瑙山 12:35~キャンプ場設営地 14:10. テント設営講習と実技演習。 行動時間 4:45、歩行時間 3:45 第二日目 A班高妻山・戸隠山登山: 登山開始 5:00~一不動避難小屋へ向かって沢の徒渉~Uターン 5:50~キャンプ場 6:25 ~奥社~五十間長屋 8:53~百間長屋 9:00 ~奥社 9:40~キャンプ場着 11:00 行動時間 6:00 B班黒姫山登山 登山開始 5:00~種池登山口 5:25~吉池 5:50~新道への分岐 6:12~新道分岐 7:05 ~しらたま平 8:37~大池への分岐 9:00~黒姫山頂上(2053m) 9:15/9:40~峰ノ大池分岐 10:15 ~西登山口 11:48~新道分岐 12:20/12:40(昼食)~大橋 13:30~キャンプ場着 14:00。行動時間 9:00、歩行時間 7:30 A/B班キャンプ場バス発 14:23…いこいの村(えんめい湯)~長野駅 16:30/18:06 新幹線あさま=上野駅=我孫子駅着 20:30		



<330>

雌阿寒岳・斜里岳・羅臼岳

1499m 1545m 1660m

中村 美智子
長木 加代子
原田 君子

急に風がやみ登頂できた

一昨年の利尻岳・大雪山に続いての二回目の北海道山行、三山を登るということで前々から楽しみにしていた。19名の大パーティ。みんな無事に帰ることを祈って我孫子を出発する。

小雨降る女満別空港に少し遅れて到着。予約の根室交通のバスが迎えてくれた。車窓からは牧歌的な風景が広がり、麦が色づき、ジャガイモの花が満開で、道路の両側にはラワンブキがあった。一路、阿寒湖へと向かう。客船が桟橋を丁度離岸しているところだった。風雨が強くなり早々にバスへ引き返す。アイヌコタンの部落を車中より観光し、今日の宿、雌阿寒温泉の国民宿舎・野中温泉別館に到着する。ここ露天風呂の女湯には水車と東屋があり、男湯を見渡せる。ここでの話題はその後大いに盛り上がった。

雌阿寒岳

最初に登る山、雌阿寒岳は、阿寒岳（雄阿寒岳・雌阿寒岳・阿寒富士）の最高峰で今なお噴煙を吐き続ける活火山である。雄阿寒岳の麓には阿寒湖が雌阿寒岳と阿寒富士の麓にはオンネトーという神秘的な湖がある。オンネトーとはアイヌ語で「老いた湖」を意味する。

2日目の朝、雨具を付けて宿を出発、小雨の中をエゾマツの針葉樹林帯の登山口から、ピンクの螢光色のテープに沿って登り始める。鬱蒼とした樹林帯の木の根を踏み分けながらしばらく登る

と、背の高いハイマツのトンネルとなる。やがてハイマツは背丈も低くなり、薄日が射し近くの山が浮き出て、エゾイソツツジ・マツの実・コケモモなどが見かけられた。風の吹かない所で休憩する。



雌阿寒温泉の国民宿舎

尾根に出て四合目から展望が開け、風が強くなり「風、気をつけてくださいね！」のリーダーの声。雨がやみ眼下に虹が低く架かる。急斜面になりこの山固有のメアカンキンバイ・メアカンスマ・イワブクロなどの高山植物に励まされながら、風に飛ばされないように姿勢を低くして歩を進める。六合目になり火山礫の中の急坂をジグザグと登る。風もやまず、強風のため登頂を諦めて下山している人に会う。

七合目下で小休止。ここで登頂を断念して下山するか話し合う。もう少し登って様子を見ることになる。

そうしたらどうしたのでしょうか！！

少し登ると急に風はやみ、おだやかになった。15名の姫の熱意が雌阿寒岳の女神に通じたのでしょうか？ 難なく山頂に着いた。それに加えて私たちの登頂を祝福するかのように、薄日まで射した。感謝！！ 感激！！ ガスで火口や周囲の展望は望めなかったものの大満足で集合写真を撮る。

下山は頂上に立てた感動で晴れやかに、足取りも軽くオンネトーへ向かう。火口壁上をたどり、

滑りやすい火山礫の急斜面を注意深く下る。周りにはコマクサ・珍しいイチヤクソウが見かけられた。途中有毒ガスに注意の立て看板あり。ハイマツからアカエゾマツの樹林帯になり六合



雌阿寒岳頂上にて

目と五合目の中間で昼食となる。お湯を沸かしていただき、スープ・コーヒーをゆっくり楽しむ。小鳥のさえずりを聞きながら樹林帯を下山。さわやかな気分でオンネトー国設野営場に到着。「山が見える。」の声に右手を見ると、今登った雌阿寒岳が頂上まできれいに見えた。

迎えのバスにザックを預け、神秘の湖オンネトーの湖畔を散策する。コバルトブルーの湖面には雌阿寒岳と阿寒富士がくっきりと投影していた。



オンネトーに写った雌阿寒岳と阿寒富士

車は霧の摩周湖へ。やはり霧がかかり中ノ島は見えたが対岸までは見えなかった。前に来たときには最高の展望だったが、霧も風情があつていい

ものです。次は屈斜路湖畔を散策、砂湯に靴を脱いで楽しんだ人もいた。その後今日の宿、川湯温泉に向かう。

雌阿寒岳は比較的若い火山で、今でも新火口から噴煙を吐き出し、不気味な音を響かせているそうだが、雨や霧で感じなかった。平成10年に噴火している。いつまた噴火するかわからない山である。深田久弥は阿寒岳の最高峰の雌阿寒岳には、噴火活動で登山禁止になっていて、果たせなかつた。私たちは登頂出来てラッキーだった。また、たくさんの高山植物も楽しむことが出来た。

北海道山行を企画してくださったリーダー・超割航空券を手配してくださった方々・山行を支えてくださった素晴らしい仲間に感謝します。楽しい5日間の山旅でした。どうもありがとうございました。

(中村美智子)

斜里岳

オンヌスプリ 大きな山 親の山

初めての北海道山行参加出来、幸せを実感し、大自然の素晴らしさの中、斜里岳に登る。早朝、車窓からは、斜里岳が青い空に美しい姿を見せていました。

清岳荘の主人から、注意・心得等を気持ちよく聞き出発する。

すぐに沢沿いの道になり花も多く、特に小カニコオモリが足元を埋め尽くしている道は、変化に富み、蛇行する沢に廻り込んだり渡ったりを繰り返し、下二股の分岐（下山の際の新道コース）を過ぎると、次々に滝が現われる。

まず水蓮の滝、羽衣の滝、方丈の滝、見晴の滝、七重の滝、麗華の滝、竜神の滝…しぶきに濡れた岩場は滑る。皆、クサリやロープを上手に繰り登って行く。慎重に沢道を登りながら、目は花を追い、上二股に着く。食担の方々のお陰で、お汁粉が振舞われ、しばし緊張から開放される。

ここは北海道の山中との思いを新たに、美味しくワイワイ、ガヤガヤといただく。

慎重に、慎重に……。



赤いおどけた様なチシマヒヨウタンボクの花があちこちで咲いている。

山頂に向かって出発。ミヤマハンノキ、ダケカンバの林を抜ける。天気が下り坂になる。

ガレ場は大変な急斜面で、すぐに馬の背の稜線に着く。残念ながら、深い雲に覆われ視界はゼロ。このあたりは斜里平野やオホーツクの眺め、風や香りに満ちていると言う。

又、斜里岳の溶岩ドームが遙かに見えるが、実は30分程らしい。

上二股から2時間

で頂上に。視界は無く、北東に海別岳、遠音別岳、知床連峰、南西に阿寒の山脈が展望出来る様である。昨日の雌阿寒岳、明日の羅臼岳は望むべくもない。

昼食は大きな大きなおにぎり。胸一杯になり、下りの体力を考えお茶で流し込んだ。下山は上二股より熊見峠経由で下二股へ。峠からの斜里は素晴らしいそうである。ガ

ンコウラン・コケモモ・ハクサンチドリ等有る。

急坂の長いジグザグコースは、ぬかるんでズブズブの悪路。やっとの思いで下二股。熊に遭うこともなく、皆しっかりと北の大地を踏みしめ清岳荘へ。女性達はTシャツを買ったり、靴を洗ったり。私も明日の羅臼岳の為に、一番大きな熊鈴を求める。終止鳴らし続けたのは言うまでもない。ちなみに我が家の猫共は、鈴の音に脱兎のごとく2階に駆け上った。熊にも効き目があるのでしよう。斜里に心を残して次の山、羅臼へ。

(長木加代子)

羅臼岳

道東の三名峰を登る

7月10日から4泊5日で北海道東、雌阿寒岳・斜里岳・羅臼岳に登る。

7月13日朝4時、霧雨が降っている。「山頂は雨が強いと考えられるので予定を変更したいが、皆さんのお意見はどうだろうか?」リーダーからの提案で、羅臼岳登山は明日に変更して、今日は予備日の1日を使って野付半島・納沙布岬等の観光



午前中は快晴だったのに…(斜里岳山頂)

日となる。

＜野付半島＞ 海に突き出た一本道を我々のバスだけが走る。対向車も追越す車もない。半島の先端が原生花園。ハマナスは今が見ごろで香りもいい。黄色い花はカンゾウ、千代はぎ。白い花はシシウド。「アッ 珍しい花、なんだろう」。皆、なかなかバスに戻らない。

＜霧多布原生花園＞ 濡地に広がる原生花園は、木道が雨ですべりやすいが、下を流れる水はとてもきれい。花は見ごろを過ぎたのかほとんど見当たらない。ここに、カキツバタでも咲いているといいのにナ一。

＜風連湖＞ 風連湖を眺めながら昼食。風連湖には、渡りをしなくなった丹頂鶴が餌をついばんでいる。ここでもリーダー達は明日の天気を気にして、インターネットで天気予報を調べている。ほんとうにご苦労様。

＜納沙布岬＞ 強風の中、北方領土四島の一日も早い返還を願って鐘を鳴らしてくる。それにしても真夏だと言うのに寒い。納沙布の人達は冬をどのように過しておられるのだろうか？ とても厳しい生活が想像される。

羅臼温泉は、民宿泊まり。このバスは今日一日で何キロ走ったのだろうか？ 朝6時から夕方5時過ぎまで・・・渋滞もない。信号も少ない。ここは、車の数に比べて道路が驚くほどりっぱ。夕食後、羅臼岳について民宿の方から話を聞く。「雨が降ると、この時期でも雪渓は凍る事があるから、くれぐれも気をつけて登ってください。」との事。

7月14日朝5時過ぎ、雨は降っていない。こ

のまま今日一日雨の降らないことを願いながら羅臼温泉を出発。岩尾別側登山口までバスで移動中からまた雨。今年は北海道も雨の日が多いそうだ。岩尾別側登山口からは、雨具を着けての出発。1時間ほど登るとオホーツク展望台。雨はやんんでいるが霧で全く展望はない。だが、心眼で青い海、白い波を見て、「きれいだね。」と、顔を見あわす。この辺りには蟻の巣が多く熊が頻繁に出没するそうで、あちこちに熊に注意の看板がある。皆で



残念ながら、山頂は踏めませんでした。(羅臼平で)

声をかけ合い、鈴を鳴らし賑やかに登っていく。これでは熊も出る幕無し。大沢の雪渓は迫力がある。長さ300m位で急勾配、滑落すると大変なことになる。皆アイゼンを着け一步一歩慎重に登っていく。羅臼平に着くころには霧がますます濃くなり、あたりの見晴らしは悪くなる一方。おまけに風も強くなってきた。頂上まであとわずか。登るか、このまま引き返すか思案の末、飛行機の時間も考えて、ここで引き返すことにした。風の中、ハイマツの陰で簡単にお昼をすませ下山開始。下りは気持に少し余裕が出てきて花を見ながらゆっくりと下りて来る。弥三吉の水場付近でお弁当

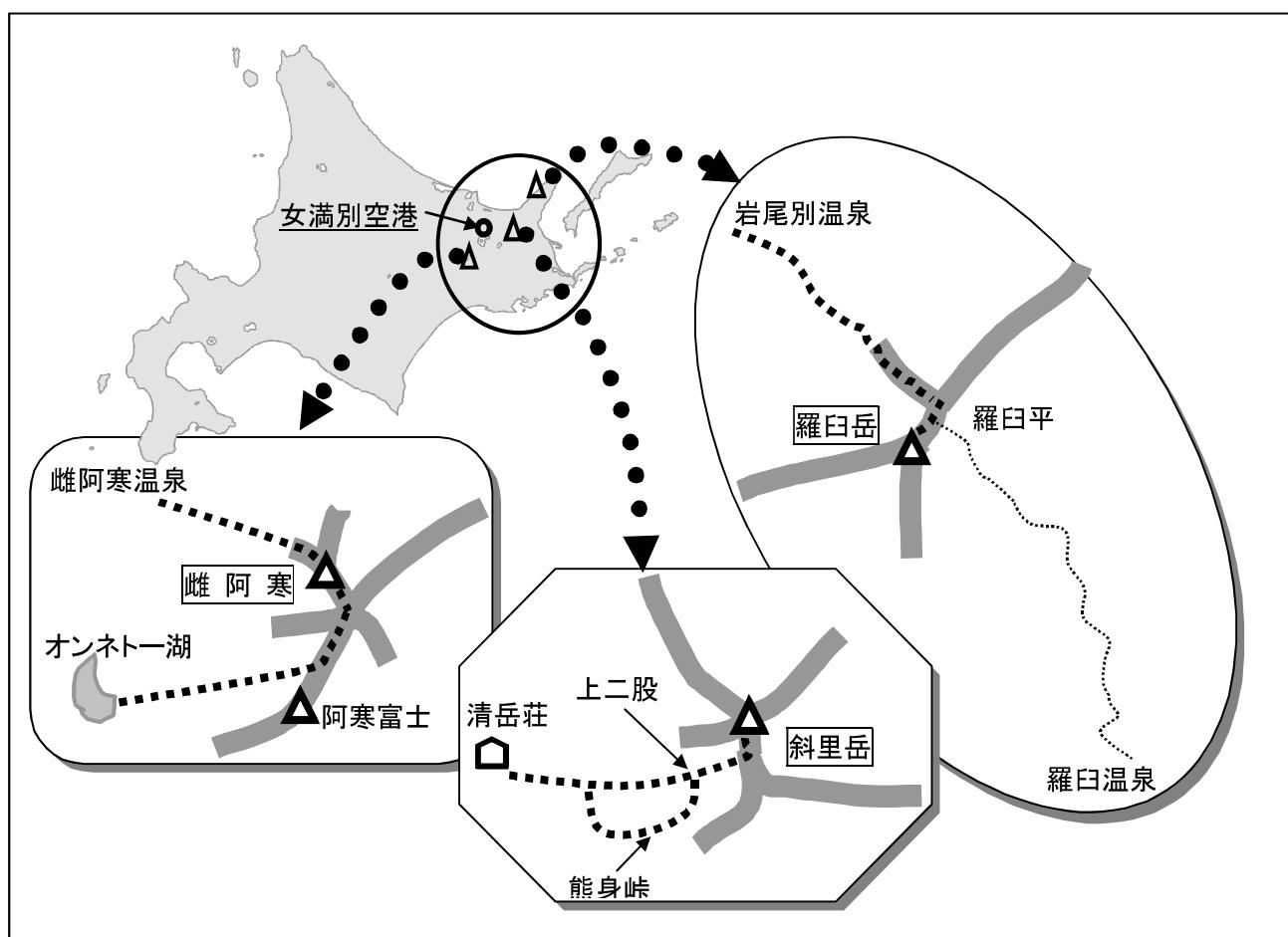
の食べ残しが置いてあつた。見て、見ない振りで、降りて来てしまった事が、今でも頭の隅で小さなしこりのように残っている。熊が登山道に出てくるのも、人間の食べ物の味を覚えたせいもあるらしい。熊だけが悪いのではなく、我々登山者も大いに反省しなくてはいけないと思う。

下山後は、いちもくさんに温泉へ。毎日温泉付きの山行で満足。山も、温泉も、花も、仲間も、最高。

(原田君子)



19名の心は一つに……。300mの雪渓を往復



<332>

賤ヶ岳・伊吹山

422m 1377m

武内 勇二

はじめに

「夏山シーズンにA レベルの山行がほしい」との会員の声に応える意味もあり、高山植物の豊富な山として知られ手軽に「花」を満喫できる伊吹山を計画した。しかし、なにせ我孫子からは約 400km の遠方にあるのでどのような山行にするかいろいろ考えたが、最終的には次のことを優先して山行計画を作成した。

- ① 時期は夏山のトップシーズン
- ② できるだけ費用を抑える。
- ③ スケジュールはゆったりととる。

そして出来上がったのが、

- ① 梅雨明け直後の週末に、
- ② 青春 18 切符を使って「ムーンライトながら」で現地入りし、
- ③ 帰りも鈍行を乗り継いで東京に戻る。
- ④ 伊吹山は途中でテント仮眠後の夜間に登ることとし、
- ⑤ それまでのあまった時間は伊吹山を別の角度から眺められ古戦場でもある賤ヶ岳(しづがだけ)に登る、という計画に、
- ⑥ 下山後はゆったりと温泉入浴のおまけをつけた。

夜行列車で行くこと、テントでの仮眠、夜間登山と通常のハイキングレベルの山行とは異なった趣向をとり入れたので、A レベルの山行とはいえ参加者はせいぜい 5 ~ 6 名程度と予想していたが、予想に反して 13 名もの申し込みがあり、2 名のキャンセルが出たものの最終的には 11 名のパーティ（男 3 、女 8 ）となった。

前夜～第 1 日 (7月 25 ~ 26 日)

例年であれば梅雨も終わり夏真っ盛りの頃なのだが、今年はどうしたことかまだ梅雨が明けていない。静岡地方で大雨が降った影響とかで 23 : 55 品川発のムーンライトながら 91 号は定刻を 13 分遅れて発車した。車掌に青春 18 切符の日付を入れてもらってすぐに目を閉じた。約 6 時間で大垣着、新快速姫路行きに乗り換えて米原へ、更に金沢行きに乗り換えて余呉着 7 時 15 分頃。駅は田んぼの真中にホームがあり駅舎はホーム端の線路を横切ったところにぽつんと建っていた。勿論駅員はない。駅の南側に余呉湖の水面が光り、湖を包み込むように低い山が連なっている。対岸の一番高い辺りが賤ヶ岳の山頂であろう。

賤ヶ岳の登り口にある小さな神社の鐘楼にテント等大きな荷物をデポして尾根を登り始めた。半時間ほどで大岩山の中川清秀の墓に出た。勝家軍の佐久間盛政が大岩山に砦を構えていた秀吉軍の中川清秀を奇襲壊滅させたという。盛政は勝に奢って、退却の命令に従わず更に賤ヶ岳方面に押出したが、前田利家の戦線離脱で致命的な敗北を喫して柴田勝家を北の庄(現福井市)に敗走させる引き金をひいたと歴史書にある。

尾根道は更に余呉湖を包むように右に折れ賤ヶ岳方面に向かう。余呉湖側は杉、木之本側は松林が鬱蒼と茂り見通しは殆ど無い。何故こんなところの争奪戦が行われ戦場になったのかと不思議に感じられるが、植林は後世のことで昔は見通しの利く草原の山だったと聞いて納得した。賤ヶ岳山頂付近は木が切り払われ展望台として整備されているので、戦国時代と同じような眺望が得られるが、北に余呉湖、西南の方向には琵琶湖の向うに比叡、比良の山並み、東南には伊吹山が頭に雲を被って聳え、近江平野が琵琶湖岸に広がっている。それ程高い山ないので、麓での電車や車の行き交いが手にとるように眺められ、戦国の世にあっては重要な戦略

の拠点だったのだろう。

賤ヶ岳を下って余呉湖畔の周回道路を歩き、デポした荷物を回収して余呉駅に戻った。電車に乗って、長浜駅で下車、駅前で昼食後、夕食用に弁当を買い、更に電車を乗り継いで近江長岡駅に降り立った。

時刻表では次のバスまで1時間の待ち時間があったが、増田さんがバスの運転手に交渉して登山口へ回送となるバスに乗せてもらうことが出来たので、待ち時間は20分ばかり短縮することが出来た。バスに15分ほど揺られて登山口となる上野の三宮神社前に到着。ロープウェー乗り場を横目で見ながら林の中の登山道を登る。「カナカナカナ・・・」とヒグラシの降る中をゆっくりとひたすら登る。湿り気をおびた道で不用意に石に乗るとつるつといきそうになり歩きにくい。樹林帯は1合目まで、その先の1合目から4合目辺りまでは伊吹高原スキー場が広がっており、登山道は草原の中をスキー場のリフトに沿うようについている。3合目（キャンプ場付近）でモトクロスの大会が行われているとのことで、降りてくるマウンテンバイクの若者にすれ違う。皆それぞれ夏休みの1日を楽しんでいるようだ。

モトクロス大会本部前ではバザーが開かれていた。「ただ！」の呼び声につられて豆乳を飲ませてもらった。豆乳はこれまで生臭いイメージが嫌で敬遠していたのだが、とくに不快な感じもなくスーと喉を通った。試しもしないで先入観だけで物事を判断してはいけないということだろう。

受付を済ませテント設営にかかった。テント山行は初めてという人が半数いたが、あーだこうだと言いながら皆で張った。張り方の難しいダンロップも無事張り終えた。過去数年続けてきた岳人祭での実技指導が実践で活きた。

持ち上がったビールで乾杯。豆乳を試飲した場所で豆腐も販売していたそうで「美味しいそう

なので買ってきた」と皆に「冷ヤッコ」が振舞われた。山で「冷ヤッコ」は初めてだが、これもキャンプ場まで車道がついているならではのことだろう。

天気もよく爽やかな夕べだったが、夜行の疲れもあり7時半にはテントにもぐりこみ就寝した。

第2日（7月27日）

起床予定は1時半だったが、1時過ぎには三々五々起き出し身支度を整え始めた。テント初体験の人はやはり熟睡は出来なかつたようだ。置いていく荷物をテントに放り込み、君子さん（S L）に先頭をお願いして予定よりやや早めに山頂に向けて出発した。5合目を過ぎた辺りから傾斜がきつくなり湿った岩で滑らないようゆっくりとしたペースで登った。空気は澄んでおり上を仰げば先行している登山者のヘッドライトの灯りが所々に揺れている。振り返れば、琵琶湖畔から関が原にかけての灯りの広がりが見える。名神高速の帶が伸びテールランプの赤い灯が動いている。昔流にいえば「草木も眠る丑三つ時」なのだが、人々の活動は止むことを知らない。突然、雉の鳴き声を聞いた。我々の侵入に驚いたのだろう。そういえば、まだ若い頃この山に登った時も雉がいたっけ。まだ生きていたかといとおしいが、まさか30年ほど前に出会った同じ雉ではないだろう。

7合目付近から益々傾斜がきつくなり、ごつごつとした岩が増えてくる。テント場のあたりにガスがかかり、ライトがかすんで見えるようになった。上空にも雲が増えてきたようで、漆黒に星が浮かんでいる空間が少なくなっている。ひょっとしたら日の出は無理かもしれない。

9合目を過ぎた辺りから勾配は緩やかとなり間もなく山頂付近に出た。広い草原に山小屋が軒を並べている。大和武尊の像付近で風を避けながら湯を沸かし朝食を摂った。4時を回って

いるがもやっていて薄暗く、残念ながら日の出は望むべくもない。5時になりやや明るくなつたので、山頂のお花畠巡りに出発した。遊歩道にいる大多数の人は日の出を期待してドライブ・ウェーを上がってきただろう。東遊歩道に入ると殆ど人影がなくなった。道は緩やかに左に回りながらずんずん下っている。歩き始めて40分程でドライブ・ウェー終点の駐車場に出て、そこから中央コースの急坂を登って20分程で山頂に戻った。大和武尊近くの花畠の一角に伊吹ジャコウソウが咲いていた。頂上付近ではここだけにみられるという。

頂上を後にして先程登ってきた登山道を下る。登る時には暗くて見えなかつた花が登山道近辺でも楽しめる。伊吹ジャコウソウの小群落をみつけて「あつた。あつた」と歓声が上がる。すれ違う登山者も多くなつた。軽い服装の若いグループが目につく。伊吹山は手軽なハイキングの山として、名古屋、関西の人たちに愛されているのであらう。7合目辺りで岐阜市にお住まいの79歳の男性とすれ違つた。伊吹山が好きでこの25年ほど毎週のように登つてゐるといふ。とても若々しく、79歳には見えない。「70歳はまだ青春」「80歳はまだ現役」は今年お亡くなりになつた久留米大学の脇坂先生の本の名前だが、まさにこの表現にぴつたりの若々しさで、年老いても斯くありたいと願う。

山頂より1時間ちょっとでテント場にもどり、テントを撤収して再度下山を開始、ほぼ予定通り9時30分にタクシーの待つ上野の三宮神社に着いた。そして、池田町のグリーンセラ池田温泉に入浴、2日間の汗と疲れを落とし、さっぱりとした気分で近鉄池野駅から大垣に出て豊橋、浜松、熱海と普通電車を乗り継ぎ、8時過ぎに東京駅に帰着した。

終わりに

27日に東海地方の梅雨明け宣言が発表された。夜明けの山頂付近はガスついて日の出を見ることが出来なかつたのは残念だが、全体としては好天に恵まれ、のんびりと花の名山を楽しむことが出来た。

1, 400mに満たない低山の割には高山の雰囲気を味わえ、琵琶湖・余呉湖の大展望、そして歴史もちょっとと学び、参加者にも満足して貰つたものと確信している。

概要

山名	賤ヶ岳・伊吹山	
期日	平成15年7月25日(金)～27日(日)	
目的	①お花畠 ②古戦場と琵琶湖の展望	
費用	総合計10千円(青春18切符利用。含む、入浴、)	
山行形式	夜間登山(テント仮眠)	グレード 2A
前夜	我孫子発21:22 品川発23:55(ムーンライトながら91号)	
日程・コース	一日目	大垣 5:55 = 米原経由北陸本線余呉駅 7:15/7:30～登山口 7:40～中川清秀の墓 8:15/8:30～首洗池 8:35～賤ヶ岳 9:20/9:40～国民宿舎余呉湖荘 10:10～余呉湖畔キャンプサイト～登山口 11:00～余呉駅 11:20/11:41=長浜駅 12:00/13:12 = 米原乗換東海道線近江長岡駅 13:36/14:25=(バス)上野・三宮神社 14:40～1合目15:40～3合目テント場16:40(泊)
	二日目	3合目テント場 1:50～5合目 2:30～9合目 3:25～伊吹山山頂 3:50～山頂遊歩道一周～伊吹山山頂 6:20～3合目テント場 7:40/8:10～上野・三宮神社 9:25=(タクシー)=グリーンセラ池田温泉 10:00/12:30=(タクシー)=近鉄池野駅 12:40/12:50=JR大垣駅=豊橋・浜松・熱海乗換東京 20:08=我孫子21:00
参加者	L・武内、SL・原田君、柴田、大桃、小黒、長木、増田、渡辺、松本、小川誠、大平 男性3名 女性8名 計11名	



←大岩山
中川清秀の墓



⇒賤ヶ岳山頂にて

▼伊吹山山頂にて



<333>

平ヶ岳

2141m

北川 勝久
千葉 有子

平ヶ岳は、一度行ってみたいと思いながらかなわずに入った山の一つ。その平ヶ岳に恋ノ岐沢という只見山系きっての美渓があるのを知り、希望山行として提出した。願いは届けられ、2003年7月、念願の平ヶ岳へ恋ノ岐沢から登るという夢のような山行が実現……するはずだった。阻止したのはこの夏の異常気象。集まったのは、この異常気象で何度も沢中止の苦汁をなめてきた滝好きの同胞達だった。

1日目 雨

雨の中、遡行口に着くとすぐに沢の様子を見に行く。橋の上から見る沢はそれほど水量が増えているように見えない。しかし、沢に下りてみた村松さんによると、水量はかなり多く、入渓してすぐの渡渉は腰までかかる、また水は氷のように冷たいとのこと。とにかく1日目は沢に入る事をあきらめる。平ヶ岳に早々に見切りをつけ、雨の降っていない地域の山へ移動するか、という意見も出たが、とりあえず近辺でテントを張り天候の

様子を見ることにした。

何もしないで朝から宴会ではあまりに能がない、ということで裏燧の方へ散策に出かける。御池から三条の滝へ抜ける燧裏林道は、池塘の点在する草原状の「田代」を次々とめぐっていく道だ。御池田代、上田代、横田代を過ぎ、西田代まで行く。ワタスゲ、ニッコウキスゲなどの高山植物を鑑賞しながら尾瀬散策を楽しんだ。雨は降ったりやんだりだが、そんな中にも「さすがは尾瀬」で、行きあう登山者はかなりの数に上った。

今夜の幕営地は鷹ノ巣の清四郎小屋キャンプ場。すぐ裏に川が流れる。釣りをする北川さんについていった。流れは速く、水量も多い。やはり明日も無理だろうか。

夕食の間も、明日の沢は決行か中止かで話題は終始する。「途中で撤退してもいいから、沢に入りたい」と主張するのは佐藤さん、北川さん、野村さん、私の4人。「危ないからやめよう」と言う青山さん。議論のゆくえを静観する外崎さん。結局「撤退するにしても、俺を確保してくれる人がいないからなあ」の村松さんの一言で、沢中止は決定した。なるほど。村松さんの言うとおりだ。「来年か、近い内に必ずまた連れて来てあげる」と村松さんから言質を取って（失礼）、その日は眠りについた。

（千葉）

2日目 晴れ

くやしいことに朝から青空が広がる。今日の道は、台倉尾根で行程約7時間。林道をぬけると急な登りが始まる。やせた尾根から見上げれば、下台倉山へと登る道が続いている。梅雨があけたと思われるような陽射しの中を歩く。インターネットで調べた恋ノ岐沢の涼しげな様子が頭に浮かぶ。……なんて未練がましい。

下台倉山に着くとここからは道が平坦になる。しかし、同時に泥との格闘の開始。昨日までの雨で、状況はいつもよりさらに悪化し



1日目 御池から西田代まで行く。



ているようだ。道幅はかなりあってもその端から端まで泥状の箇所が後から後から出てくる。みんながみんな端の方へ、端の方へよけて通るものだから、泥の部分はますます広がり、すでによける隙間は微塵も残されていない。木道がでてくれれば濡れていて滑りやすい。難儀な道だ。途中、中の俣林道から登り、日帰りで下りてくるパーティーに何組か出会った。（林道を車で入り、かなりの高度から登り始めるのだそうだ）

平坦な道がまた急登に変わり、30分も登ったころ、姫の池の湿原に出た。天上の楽園と呼ぶにふさわしい光景が広がる。さっきまで「これじやあ平ヶ岳じやなくて、泥ヶ岳だ」と名山に悪態をついていた面々は、点在する池塘を眺め、咲き誇る高山植物を愛でながら「素晴らしい、さすが百名山だ、平ヶ岳だ」と褒めちぎる。「掌を返したよう」とはまさにこういうことを言うのだろう。

テント場には沢の流れるすぐ横にテントを張るための木製の台が設置されている。テントを張り、頂上へ。頂上は広大な湿地が広がり、木道がめぐらされている。北に目をやれば荒沢岳が大きく鎮座。東側には燧、至仏の尾瀬ヶ原を囲む山々が聳え、西側に回りこめば越後三山へと続く稜線が見える。越後三山への道はヤブがひどいらしい。

（いつかこの稜線を中ノ岳まで行ってみたい）

平ヶ岳は百名山の一つである。それなのに頂上はもちろん、途中にも営業小屋はおろか避難小屋もない。登山道が長いのも幸いしているのだろう。これほど個性的で美しい頂上を持ちながら、俗化

しない尊厳を感じた。

夕餉の時間をゆっくりと外で過ごし、すっかり日も暮れたころテントに入り寝床の準備を整える。テントから顔を出すと、黒い樹影が並ぶその上に、数え切れないほどの星々が太古の光をきらめかせていた。

（千葉）

3日目 晴れ

日の出を山頂から見ようとメンバーは3:20起き。平ヶ岳山頂までテント場から約30分。まだ暗い中をヘッドライトの明かりをたよりに慎重に登山道を歩いて行く。4:30頃に平たい山頂に着くと各々早朝の日の出を心待ちにする。東の空が、次第に赤く染まってくる。

ガスの動きが早く時折空を覆うが、すぐに晴れてくる。4:30頃の日の出であるが、自分は所用の為、日の出は見られなかった。見た人は、一様に素晴らしい・感動したとの声。

本日は快晴の模様である。テントに戻って、朝食を女性陣が用意してくれて、食べる。うまい。テントをたたんで、7:15、たまご石を見に行く。へんな石である。この景色は緑の中に池塘が見え、素晴らしい。天気も良いのでガイドブックに出てきそうな景色がそのまま堪能できた。遠くには、越後三山らしい山々が見える。何も言う事がない程、素晴らしい景色である。

7:15にデポ地点から下り始める。急な下り、そしてグチャ、グチャ、ビチャ、ヒチャ、ネチャネチャの道をなるべく泥をかぶらない様に慎重に下っていく。あきらめて、グチャグチャに身を任せてしまう人も。約5時間で下りきり、登山口まで戻ってくる。軽い身支度をして、車に乗りこんで、温泉へ。

桧枝岐、公衆浴場ヒウチの湯へ。まずは、缶ビールにて無事の下山を乾杯。それから風呂へ。この風呂は、内湯、露天ともゆったりしていて気持ちが良い。桧枝岐名物の断ちそばを食べて、帰路へと。我孫子に無事に到着。途中一部、渋滞に

巻き込まれるもの。我孫子駅にて、最後の打ち上げ。

今回の山行は、恋の岐川の沢登りが目的であったが、梅雨明けしていない今夏の天候不順の中で、沢登りをするか否かの判断をするのは難しい状況であったと思う。最終的には、沢登りを断念して、平ヶ岳、登山となったがそれはそれで、良い山行であったと思う。

やはり、危険の中にわざわざ入っていくより無理をせずに安全第一の山行を考えるべきである事をあらためて思った次第である。 (北川)



概要

山名	平ヶ岳		
期日	平成 15 年 7 月 27 日 (土) ~ 29 日 (月)		
目的	長い美溪を廻行して花の楽園へ テント生活を楽しむ		
山行形式	テント		グレード 5E
歩行時間	1 日目 1 時間 50 分 2 日目 6 時間 30 分 3 日目 5 時間	地形図	平ヶ岳 尾瀬ヶ原
行程	一日目 ・ コ ー ス	我孫子 4:00 — 桧枝岐 8:30 — 恋ノ岐橋 9:30 — 御池 11:20 = 裏燧散策 = 御池田代 = 上田代 = 横田代 = 西田代 = 御池 13:10 — 清四郎キャン プ場 15:30 (泊)	清四郎キャンプ場 — 登山口 5:50 = 前坂 6:50 = 下台倉 8:40 = 台倉山 10:15 = 白沢清水 11:25 = 姫の池 13:10 = テント場 13:25/14:00 = 平ヶ岳山頂 14:25/14:55 = テント場 15:30 (泊)
参加者	L・村松(敏)、外崎、北川、青山、千葉、佐藤(健)、野村	7 名	

← 2 日目 平ヶ岳山頂

▼ 3 日目 玉子石と池塘を望む



<334>

光 岳

2591m

外崎 蓮

台風襲来とまばろしの光岳

8/7 (木) 晴

4人で250歳を越すこの面々は、山への情熱にかけては誰にも負けない。2回目の光岳挑戦に加わってくれた強い味方である。

静岡駅前から大きなザックを背負って静鉄バスに乗ったのは、私達と高校生のグループのみ。台風を予測しているためか。このバスは畠薙第1ダムまで3時間20分もかかるため、途中2箇所のトイレ休憩がある。その1つ目が横沢。バス停留所のすみに小さな茶店があり、店頭にトマ

トなどが並べられている。乗客のほとんどが新鮮なトマトにかぶりつくが、これなども旅の楽しみのひとつである。次が大井川本線の井川駅。このあたりに来ると道幅が狭くなり、いよいよ山が深くなってくる。樺島行きのリムジンバスに乗りつぐ高校生が、ダムの手前の駐車場で下り、私達は終点の畠薙第1ダムまで行く。

ダムサイトには、静岡の井川山岳会の会員が詰めていて、南アルプスの入山者をチェックしていた。計画書を提出するとき、光岳の情報を聞いた。たとえ雨が降っても危険個所はないので、大丈夫とのことだった。まぶしい夏空のもと、山にやって来た喜びで胸が高鳴った。

1時間も歩くと、東洋一といわれるスリル満点のつり橋に到着。つり橋のたもとの東屋で昼食後、全長186m、細い板の上を、はるか下の湖面を見ないように緊張して渡る。対岸に着くとすぐ急登がはじまり、一汗かいてヤレヤレ峠に着く。確かにヤレヤレと言って、一息入れた

▼1日目 畠薙大吊橋にて。





▲2日目 ヤレヤレ峠にて

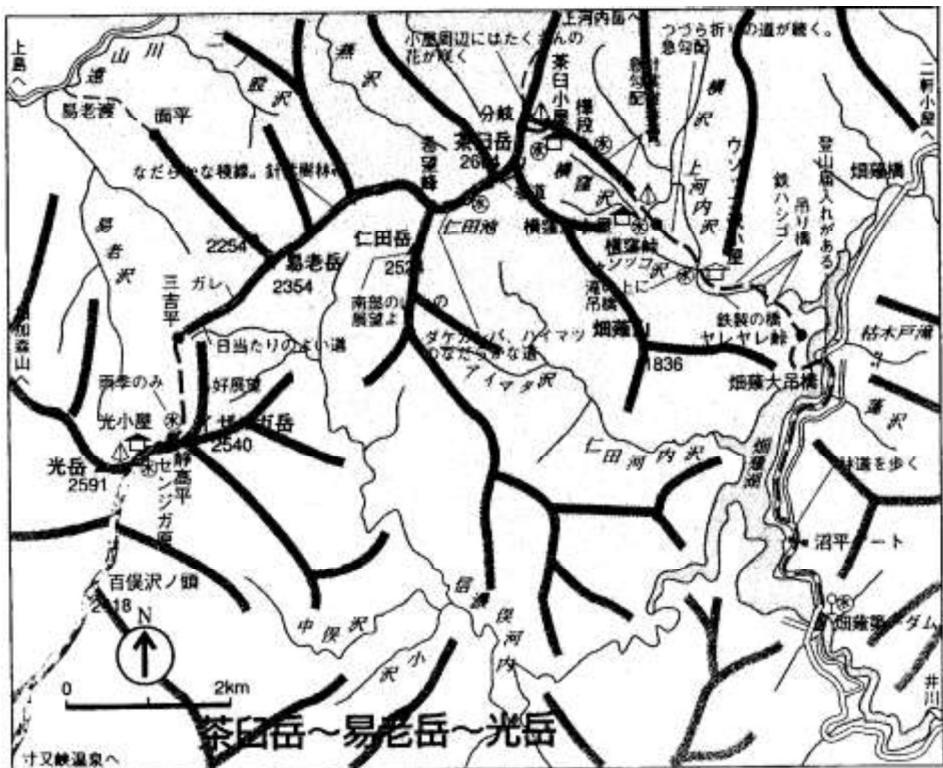
くなるところだ。気がついてみれば、青い夏空はいつのまにか消え、空も気分も重くなっていく。台風の進路がつかめないまま出て来たのだ。現地に来てみなければわからないこともあるからだ。いったん沢に下り、小さなつり橋を3～4回渡り返す。傾いた鉄バシゴを登って行くと、ウソッコ沢避難小屋に着く。沢のほとりにある水場がなく、途中汲んでくるしかないようだ。

小屋の横の沢を渡ると、いよいよ本格的な登りがはじまる。この登りは中高年の私達にとって相当にきつく、疲労困憊の末、ようやく横窪沢小屋に到着した。遅い到着のため小屋の主人が、今、ごはんを炊き始めたところだから、自分たちで食事してほしいという。しかし、予約は必要ないと言われてきたことを話すと、6時頃まで待ってほしいとのことで、どんよりと曇

った庭先でビールを飲む。あたりは深い林で囲まれ、展望は全くない。近くのテント場には、忘れられたように小さなテントが一張り。宿泊者は、福岡から来たという女性の3人連れと若い男性と私達のみ。他のグループとは会話もはずまず、夕食後はすぐシュラーフにもぐる。明日はこの上の茶臼小屋まで、今日よりもっとつらい登りが待っている。それより、雨は大丈夫だろうか。

8/8 (金) 雨

深夜の2時か3時ごろ、ザーと強く屋根を打つ雨音で目が覚める。やっぱり来たか！みんなも目覚めていて不安げである。この雨の中、無理は禁物。即刻中止に決める。そうと決まれば一刻も早く下山したほうがよいと思い、4時前には起きてお茶やスープを沸かして、昨夜作ってもらったおにぎりを食べる。5時少し前に小屋を出るとき、見送りに出た小屋



の主人が大変気の毒がり、自分に非があるかのようにペコペコおじぎをした。「来年またお世話になります」と言って別れた。

沢は増水してはいないだろうか、つり橋は渡れるだろうか。昨日あえいで登った坂道を今朝はわけなく下り、1時間でウソッコ沢小屋に下りてくる。沢の水はそれほど増してはいないが、濁って流れに勢いが出ていた。小屋にはもちろん誰もいず、少し休んだだけで先を急ぐ。下りは早く、9時頃畠薙大吊り橋にたどり着いた。

渡らなければ帰れない。昨日より恐怖感はないが、それでも板一枚を踏み外せば、「奈落の底」だと思うとあまり気持ちのいいものではない。急いでダムサイトに戻り、井川山岳会の詰め所に下山報告する。ここから出る12:30発の静岡行きのバスは、1時間ほど下った一軒家の白樺荘にも止まるので、それに間に合うようさらに先を急ぐ。もはや雨と汗で体はぐつしょり。不快指数は100%を越えている。どうしてもお風呂に入りたい。4人が歩き出して間もなく、第1ダムに向かって上ってくるバスとすれ違った。12:30発のバスである。

ゆで卵の臭いのする白樺荘の温泉は、まさに極楽そのものであった。着替えして玄関に行くと、昨夜同宿した女性3人連れが入ってきた。ゆっくり入浴して、3:30発のバスで帰る相談をしているのを耳にした。私達が早めにバス停に戻っていると、何故か定刻よりも早く先程のバスが引き返してきた。すごく急いでいる様子なので理由を訊くと、途中がけ崩れが心配だからという。このバス、本当は運休になるところだったが、第1ダムのバス乗り場に乗客がいる連絡を受けて迎えに来たのだった。まだ白樺荘内に3人がいることを告げると、車掌があわてて飛び出して迎えに行った。しばらくして、洗髪途中だったらしい女性たちを連れて戻ってくると、バスはすぐ出発。くねくねとカーブの多い谷間を急いで走り抜け、楽しみにしていた井川駅の

茶店には寄らずじまい。実は昨年、この道が台風で崩れて長期間通行不能になったために、光岳の計画が流れているのだ。

静岡に着いてから、留守宅を受けていただいたリーダー部長に下山報告をすると、会の携帯電話がつながらないので、大変心配していたとのことだった。本当に申し訳ないことであったが、今回の山行では、横窪沢の小屋まで行けたという満足感でいっぱいである。また、来年に持ち越しとなった。

概 要

山名	光岳（茶臼～易老岳～光岳）		
期日	平成15年8月7日（木）～10日（日）		
目的	南アルプス最南端の高峰と雄大な展望		
交通機関	東海道新幹線・静鉄バス		
山行形式	山小屋泊	山域	南アルプス
費用	25000円	地形図	光岳・上河内岳
行程 ・ コース	日 目	天王台駅 5:09⇒我孫子駅 5:13⇒東京駅 6:01/6:17（新幹線こだま）⇒静岡駅 7:38/7:48（静鉄バス）⇒畠薙第一ダム終点 11:15/11:20→登山指導センター前 11:35→畠薙大吊橋 12:10/12:35→ヤレヤレ峠 13:10→水場 13:55/14:05 ウソッコ沢避難小屋 14:20→中の段 15:35→横窪峠 16:18→横窪沢小屋 16:25着（泊）〈歩行時間：5時間〉	
	二 日 目	横窪沢小屋 5:50→中の段 6:15→ウソッコ沢避難小屋 6:55/7:10→水場 7:25→ヤレヤレ峠 8:15→畠薙大吊橋 8:55→登山指導センター前 9:35→畠薙第一ダム 9:55→赤石温泉白樺荘 11:00/12:15→バス停 12:20/12:40（静鉄バス）⇒静岡駅 15:25/15:59（新幹線こだま）⇒東京駅 17:37/17:45⇒上野駅⇒我孫子駅着 18:50 〈歩行時間：5時間10分〉	
参加者	L外崎、柴田、斎藤、原田（和）	4名	

<335>

黒部源流

坂口 よし江

黒部川の最初の一滴を求めて

8月12日（火）22:50

熱気に満ちたバスターミナルを後にして、一路黒部へと出発。バスの中は狭く、予想通り眠ることは叶わなかった。

8月13日（水）

お盆の時期なので、かなりの混雑を予想していたが、折立登山口は思いのほか登山者は少ない。身支度を整え出発。

7月初めに肺炎にかかり、私にとっては1ヵ月半ぶりの登山。おまけに4泊5日の源流遡行の大山行ということもあり、不安が胸を過ぎる。

樹林帯の道を喘ぎながら登る。どうということもない普通の登山道なのに、鈍った体にはと

てもこたえる。途中で足が轢ってしまい、休み休み登らせていただく。

太郎平小屋の周辺は開けていて、とても気持ちの良いところだ。薬師岳、黒部五郎岳等が見渡せる。小屋から20分ほどの薬師峠のテント場に幕営する。

8月14日（木）

激しい風雨に見舞われ、一日テントで停滞。堀口さんを講師に、ロープワークの勉強をして過ごす。

8月15日（金）

4時半起床。ガスってはいるが、天気は回復傾向にあるようだ。昨日の降雨の影響でかなりの増水が考えられるため、遡行は中止し尾根歩きとすることに決定。まず、太郎平小屋まで進む。太郎平小屋にて気象情報や薬師沢方面のルート状況の詳細な情報収集を行う。黒部五郎も雲ノ平も雨と聞くが、とりあえず薬師沢小屋まで行ってみようということになった。

天候は急速に回復し晴れ間さえ見えてきた。薬師沢小屋にて「15～20cm 増水している。3パーティほど赤石沢に向けて出た。経験豊富なリーダーがいれば問題ない」との情報を得る。

遡行か中止か、リーダーとして難しい決定を迫られている堀口さんには、相当なプレッシャーがかかっているはず。申し訳なく思う。

私は体力に不安があるため、遡行する自信がなかったが、パーティーの大勢は遡行希望とわかり、私も何とか頑張ってみようと思つた。

天下の黒部川、さすがに水量が多く、流れも速く、スケールが大きい。厄介なゴロ歩きがえんえんと続く。見た目はゆっくりした流れに見えるのに、実際に足を置いてみると、流れの



1日目 薬師岳をバックに全員で。



←3日目 徒渉、徒渉、徒渉……ザックは重く、流れは早く。

▼泳ぐ佐藤さん。「さあ、泳ぐぞ！」



速さに足をとられそうになる。浮石に足をとられ、ザブンと川の中に何度も転び、濡れ鼠になりながら、渡渉を何度も繰り返す。水は身を切られるように冷たい。

兎平らしいトロ場で、佐藤さん、千葉さん、野村さんが泳ぐ。泳げない私は、楽しそうに泳ぐ姿をカメラに収めた。

五郎沢のテント場に到着。とても気持ちの良い場所だ。焚き火の炎を見ながら、心豊かな夕餉のひと時。空には満天の星。至福の夜を過ごす。

8月16日（土）

朝日に照らされ、きらきらと輝く川面に水蒸気が立ち昇り、幻想的で美しい景観が広がる。濡れたままの衣服を身にまとい、再び入渉する。2時間ほど進むと、大きな雪渓に突き当たった。右岸を巻こうと取り付くが、急傾斜で手がかりもなく、蹴りこみもきかない斜面で撤退を余儀なくされる。堀口さん、私、佐藤さんが高巻きの斜面と格闘している間に、野村さんと千葉さんが雪渓上を横切った足跡を見つけていて、いつの間にか雪渓を渡り終わっていた。私たちもさっそく、あとに続いた。雪渓が途中で崩れたらと思うと生きた心地がしなかった。（この時、最後尾にいた野村、千葉は雪渓下流部、巨大な雪の塊が轟音を響かせながら崩れ、黒部の流れ

に吸い込まれていくのを目撃した。千葉付記）

いくつかの雪渓を右に左に巻いて、とうとう源頭部と思しきところに着いた。が、しかし、残念ながら源流の最初の一滴の場所ではなかった。

鷲羽岳を真近に見ながら、大きな岩の上で沢装備を解き、しばらく日向ぼっこをして休んだ。太陽に照らされて暖められた岩肌が気持ち良い。沢装備から尾根歩きのモードに切替。黒部の水源碑のところで、全員で記念撮影をし、ここか



▲4日目 雪渓には泣かされた。いつ崩れるか分からぬ。

ら別行動をとる野村さんと別れた。

三俣蓮華岳までの単調な登山道に少々バテながら、やっとの思いで、頂上に立つ。晴れて暑いぐらいだったのに、頂上につくころには、ガスてしまい、すっかり寒くなってしまった。

双六岳に登ってから双六小屋をめざす千葉さん、佐藤さんと双六岳をバスして小屋に向かう堀口さんと私の二手に分かれた。

双六小屋のテント場では、別行動をとっていた野村さんとも再会することができた。仲良くテントを2つ並べて設営した。

山に入ってから、あまり食欲のなかった堀口さんが、さらに調子悪そうにしている。双六小屋には、夏の間富山医大の診療所が開設されている。皆で、堀口さんに診療所で診てもらったほうが良いのではないかと進言し、聞き入れてもらった。

なんとお医者様の診断は「高山病！？」。1時間半の点滴を終えて、テントに戻ってきた堀口さんは、すっかり元気を取り戻し、一同ホッと胸をなでおろした。

8月17日（日）

今日も雨。3時半に全員起床し、荷造りをしてテントを撤収した。ここで、槍ヶ岳方面に向かう野村さんとは本当にお別れになる。

雨ということもあり、自然と足が速まる。鏡平山荘、左俣林道出合、わさび平小屋と駆け抜け、新穂高温泉に4時間ほどで到着した。新穂高温泉でゆっくりお風呂に入り食事をする予定にしていたが、バスの時間が折り合わず、30分後に出て松本行きのバスに急ぎ乗り込むこととした。

松本でお風呂に入り、ビールで喉を潤し、満ち足りた時を過ごした。15時20分松本始発の特急電車に全員座ることができた。

とてもハードな山行であったけれど、黒部の大きさ奥深さ素晴しさを、身をもって体験させ

ていただいた貴重な時間でした。堀口さんはじめ、パーティーの皆さんに感謝です。

概要

山名	黒部源流(北アルプス)	
期日	平成15年8月12日(火)～17日(日)	
目的	黒部川の水源を求めて	
山行形式	夜行発4泊5日(テント泊)	
費用	31.5千円(バス・JR 特急・テント場費用等)	
地形図	1/25000 薬師岳・三俣蓮華岳	グレード 5D
前夜	新宿都庁前バスタークマナル 22:00 集合 22:30 出発(車中泊)	
一日目	北陸道・立山 IC5:12 ⇒ 地鉄有峰駅 5:42/6:15 ⇒ 折立登山口 7:05/7:50 ⇒ 1870m三角点 9:20/9:30 ⇒ 五光岩ベンチ 10:55/11:20 ⇒ 太郎平小屋 12:10 ⇒ 薬師 峠テント場 12:30 晴 <歩行時間:4時間>	
二日目	豪雨のため、薬師峠テント場にて一日停 滞。堀口さんを講師にロープワークの練習。	
三日目	薬師峠テント場 7:10 ⇒ 太郎平小屋 7:25/7:45 ⇒ 薬師沢小屋 9:25/10:20 入 渓 ⇒ 積立 12:30/12:50 ⇒ 五郎沢出合 小雨のち晴 <歩行時間:5時間 15分>	
四日目	五郎沢テント場 7:15 ⇒ 雪渓 9:25/9:55 ⇒ 黒部川源頭 11:50/12:45 ⇒ 黒部川水源 碑 12:50 ⇒ 三俣峠 14:25/14:35 ⇒ 三俣 蓮華岳 14:55/15:05 ⇒ 中道双六小屋分岐 15:50 ⇒ 双六岳 16:15/16:20 ⇒ 双六 小屋テント場 17:05 晴のち曇夜雨 <歩行時間:7時間10分>	
五日目	双六小屋テント場 5:10 ⇒ 鏡平山荘 6:37/6:50 ⇒ 左俣林道出合 8:25 ⇒ わさ び平小屋 8:42/8:52 ⇒ 新穂高温泉駅 9:50/10:20 ⇒ 松本駅 12:30/15:20 ⇒ 新 宿駅 18:07 ⇒ 我孫子駅 20:00 雨 <歩行時間:4時間 7分>	
参加者	L 堀口、千葉、佐藤健、野村、坂口	

<336>

爺ヶ岳・針ノ木岳

2660m 2821m

高橋 潔

8月13日（水）：

斎藤リーダーの手配による座席指定券で、新宿から信濃大町経由、扇沢へと出て柏原新道を登る。道はよく整備され、利用者も多く、よく踏み固められている感じ。種池山荘(2450m)では、早いお着きということもあってか5人で一部屋を獲得。なかなかいい感じで、山も人生もベテランの5人（前者については異論も一部にあるが）は明日の爺ヶ岳登山に備える。

8月14日（木）：

途中でライチョウの挨拶を受けて、爺ヶ岳（南峰）～6時半に着く。雨で視界もあまり得られないで、北峰まで行くこともあるまいと方向を変えて本日の到着予定地新越山荘へ向かう。出戻った形の種池山荘でコーヒーブレイクをとり、デポしていた荷物を担いで出発。

途中でまたライチョウにあつたりしながら、雨の中、岩小屋沢岳(2630m)を9時5分に通過。11

時には新越山荘で早くもラーメンに挑戦。

このころから雨脚が激しくなり、早立ち早着きの原理の正しさを確認しつつ、やたらとおやつを食べまくるものあり。雨で予定を変えたりキャンプから逃げ込むものもあったりで、乾燥室は大繁盛となる。本を読んだり居眠りをしたりで休養十分の一日となる。

8月15日（金）：

本日は針ノ木小屋までの一番体力のいる日である。6時に雨支度で小屋を出て、鳴沢岳へ6時45分に到着。前日2日間はすねに傷を持ちまだ全快とはいえない高橋が調整もかねて先頭を承ったが、本日は大串さんが先頭を歩いた。昨日の教訓を受けて、朝からの雨支度にもかかわらず、ガスはあるものの今日は雨は降らない。槍ヶ岳の腰あたりまでを何度も眺めながら鳴沢岳から、針ノ木隧道の遙か上を踏み越えて赤沢岳(2678m)へ到着。ガスが流れる中あちこちと見えたり隠れたりで、随所にコマ草など様々な花を見ながら、結構きつい登りをがんばってスバリ岳(2752m)へ到着。9時40分であった。ここで正式に岳人あびこの旗を入れた写真を撮る。

ここから1時間、今回のメインである針ノ木岳(2821m)の山頂について到着。槍ヶ岳の全容が見えそうで見えないというガスの流れの中で、しばらく360度の展望を期待しながらあちこち見回すが、ついにあきらめて針ノ木小屋へと向かう（11時50分）。小黒さんの提供になる非常食の「棚卸し」昼食をビールとともにいただく。ガスが薄れ展望が期待できそうになり、全員張り切って蓮華岳に向かう。蓮華の上はコマ草が点々と散らばり、三角点が何度も先へ逃げていくようなかなりの広がりを山頂に持っていた。この日は、時間とともに天気の回復が見られ、明日への期待がふくらんでいった。落日の山々の姿をシルエットで写真に納める。



↑ コーヒー飲んで、山荘前で出発式



▲針ノ木岳(左)とスバリ岳(右)



針ノ木岳山頂にて。



▲蓮華岳山頂で

8月 16 日 (土) :

夜半から快晴で、昼のような月明かりであった（という）。朝飯前に、蓮華の途中まで登るもの、その手前で朝日を浴びる昨日の山行ルートを写真を撮るものに分かれた。昨日までの欲求不満をすべて吹き飛ばすように山々がよく見え、山座同定で小屋中大はしゃぎ・大騒ぎである。朝飯前に山をじっくり見て、我々ベテラン組は宿で最後に朝ご飯をいただいた。そんなわけで、出発は7時。



快晴の針ノ木小屋前で恒例の出陣式。

とにかくいい天気の中を雪渓を目指して下る。こ



雪渓の途中で勢揃いのポーズ。

れがなかなかの急勾配で、骨折未だ全快ならない高橋にとっては一骨折りとなった。今年は例年よりかなり残雪が多いとかで、雪渓はまぶしくサングラスのない目にはきつい。

本日の先頭は斎藤リーダーであるが、昨日ぶつけた左膝の痛さまで加わって遅れないで悪路をついて降りるのに一苦労した。口の悪い親父が威張っている大沢小屋でインスタントコーヒーで（こちらだけジュース）一息入れる。

登山口の扇沢から、信濃大町公営の温泉へ向かう。なんといっても4日ぶりの風呂で、久しぶりにさっぱり。やっぱり風呂はあるに越したことはない。貸し切り並みに人が少ないのでさらにいい。その後はビールで乾杯、ソバでおなか満杯。帰りの電車ではクラシックを自慢のマック iPod で鑑賞。新宿までには多少高尚な人物に戻れるぞと宣言はしたものの、選曲を間違えたか途中で眠ったかで、全然御利益なし。音痴は名曲でも直らないようだ。

気心の知れた仲間の山行で、多少若返った爺ヶ岳でした。斎藤リーダーはじめ皆さんに感謝しています。

概 要

山 名	針ノ木岳	山 域	北アルプス
期 日	平成 15 年 8 月 13 日～ 8 月 16 日 天気 曇り、濃霧・雨、晴れ		
目的	大雪渓と大展望を味わう		
山行形式	山小屋 3 泊	グレード	3 C
歩行時間	①4:20 ②5:00 ③7:20 ④5:40	地形図 (25 千図)	黒部湖
費 用	4 万 7000 円	交通機関	JR,TAXI
参加者	L 斎藤、大串恵、大串秀(s L)、小黒、高橋潔 5 名		
日 程 コ ー ス	1 日 目 2 日 目 3 日 目 4 日 目	我孫子駅⇒新宿駅 7:00 ⇒ (スーパー特急あづさ) ⇒ 松本駅 9:38/9:44 ⇒ 信濃大町駅 10:37/10:50 ⇒ (タクシー) ⇒ 扇沢出合柏原新道登山口 11:20/11:25 → 中間地点あたり (昼食) 12:45/13:00 → 種池山荘 15:00 (泊) 種池山荘 (起床 4:45-朝食 5:00) → 爺ヶ岳南峰 6:25 → 種池山荘 7:00/7:30 → 岩小屋沢岳 8:58 → 新越山荘 9:40 (泊) 新越山荘 (起床 4:45-朝食 5:00) 5:55 → 鳴沢岳 6:35/6:45 → 赤沢岳 7:33/7:40 → スバリ岳 9:24/9:35 → 針ノ木岳 10:30/11:10 → 針ノ木小屋 (昼食・休憩) 11:50/14:10 → 蓮華岳 15:10/15:20 → 針ノ木小屋 16:00 (泊) 針ノ木小屋 (起床 4:45-散策～朝食 5:50) 6:50 → 雪渓最上部 7:40 → 大沢小屋 8:43/9:00 → 扇沢バスター ミナル 10:00 ⇒ 大町市民浴場 10:20/11:30 ⇒ 大町仁科 (昼食・反省会) 11:40/12:30 信濃大町駅 12:45/13:05 ⇒ 松本駅 14:11/14:50 ⇒ (特急あづさ) ⇒ 新宿駅 17:36 ⇒ 我孫子駅	ルート状況 ① 道はしっかりとおり整備もよい。 ② スバリ周辺以外は危険はない。 ③ 針ノ木頂上から雪渓までが急な下り道

<337>

西岳・編笠山・権現岳

2398m 2524m 2715m

田村 光子

不遇な山西岳を登る

前日から雨が降り続いて、山行がどうかと思っていた所に、リーダーの外崎さんから決行との電話をいただき、準備にとりかかる。

1日目 8月16日

今年は天候不順で雨の山行が多く、この日もどんよりした空で気温が低く、いつ降り出してもおかしくない天気であった。

新宿発7:00あずさ1号に乗り、全員座ることができ、2時間足らずで小淵沢に到着。駅前よりタクシーに乗り、立場川キャンプ場まで行く。こちらから山に入る人はほとんどなく、タクシーの運転手に登山口を聞いたが、よくわからないとの事であった。

ゲートを右に入ると登山口があり、歩き始めると両脇にススキ、オミナエシ、ワレモコウ、オニユリ、グンナイフウロウ等夏と秋の花が色々咲いていて心がはずんだ。少年自然の家を越え、第5配水池を右に廻りこむと西岳登山口の標識があった。森林地帯の中を緩やかに登つて行くが、時々地図に無い林道が出てきて、交



差する所に案内標識がなく、外崎さんと原田さんが地図を確認し、現地状況を判断しながら進んだ。しばらくすると千枚岩に着いた。鎌ヶ谷から来たボーアスカウトの子供達と指導者が休んでいた。荷物を置いて、少し歩いた所にある信玄の隠れ岩を見に行く。

しらびそ林の中を登つて行くと、所々におとぎ話に出てくるようなかわいいきのこが生えていて、顔が自然とほころんでしまった。天が味方してくれたのか、時々明るい太陽の光が木々の間から差し込み、昼食時には青空が広がり気分爽快。昼食後すぐの連続する急登はいささか体にこたえたが、やっとの思いで登りきることができた。頂上にはイブキジャコウソウ、マツムシソウなどのかわいい花が咲いていて、今までの苦しみが一気に消えてしまった。残念なことにあたり一面ガスに覆われてしまい何も見ることができず、記念写真を撮り直ぐに青年小屋に向かった。途中源治新道にはセリバシオガマ、イチヤクソウなど沢山の花が咲いていた。乙女の水場でそれぞれが水を確保し、5分ほどで小屋に着いた。着いたとたん、大小たくさん岩が重なっている光景にビックリする。小屋は私たちのグループの他に4~5人の宿泊者だけで、ゆっくり休むことができた。

夕食後、談話室のストーブにあたりながら、小屋の主人武内敬一さんがH14年11月~12月にかけて登頂に成功したヒマラヤのアマランダム(6800m)のビデオを、苦労話や裏話の解説を聞きながら見たので思わず画面に引き込まれ、ひやっとしたり緊張したりで自分が登っている錯覚を覚えた。ビデオ終了後は遭難救助隊長として経験した事や山での注意点などを話していただいた。最後にご主人が作詞、作曲した歌をギターとハーモニカを演奏しながら歌って頂き、思い出深い一夜となりました。



青年小屋横編笠山への登山口。



▲編笠山山頂

八ヶ岳最南端から八ヶ岳連峰を望む

2日目 8月17日

朝方ものすごい雨の音で目が覚める。出発するころには雨は上がり、あたり一面濃霧状態で、天気予報は雨との事でご主人のアドバイスをうける。権現山頂上付近にはトラバースする所があり危険とのことで、予定を変更して編笠山から直接下山する事に決定する。

青年小屋の横から大小の岩が重なる岩場を目印に沿って進む。前夜からの雨で岩は滑りやすく注意しながら登る事20分ほどで樹林帯に入り、しばらくすると頂上に着いた。頂上は広くだれもない。雨は降っていないが、視界が悪く記念写真を撮り下山する。

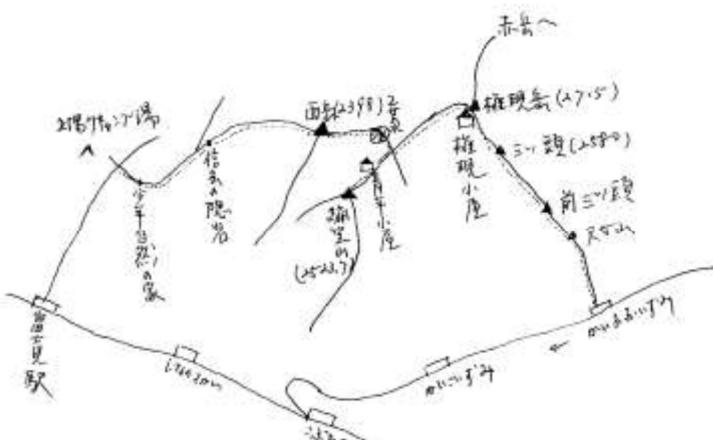
下山路は観音平に直接降りるコースで、樹林帯の中を下る。大きな岩がいたる所にあり、一面緑の苔でおおわれていて、幻想的な雰囲気で昨日とは又違った感激があった。雲海展望台では、雲の隙間から登る事が出来なかった権現岳の山並みが見え、又来る機会があれば是非登つてみたいと思いました。

観音平ではベンチに荷物を置き、ヒカリ苔を見に行く。周りにはフシグロセンノウが沢山咲いていた。ベンチに戻りゆっくりコーヒータイムを楽しみ、スペティオ小淵沢まであとひとがんばりと、長い車道をやっとの思いで歩き、延命の湯にたどり着いた。昨日からの汗と汚れを流し、ホテルのレストランで乾杯と昼食を楽しんだ。昼食を取っている最中に雨が降り出し「下山の時、雨に降られないでよかったね。」と、皆で話をした。ここには地元の芸術家の作品が数多く置かれていて、それぞれ思い思いにお土産を買い、帰路についた。

今回の山行では、数多くの花を見ることが出来、心配していた雨にもほとんど降られず、ほんとうにラッキーでした。

概要

山名	西岳 編笠山 権現岳(八ヶ岳)		
期日	平成15年8月16日(土)～17日(日)		
目的	不遇な山、西岳を登る。 八ヶ岳最南端から、八ヶ岳連峰を望む。		
山行形式	山小屋	グレード 3C	
費用	20,000円	地形図 八ヶ岳東部 八ヶ岳西部	
行程・コース	一日目 二日目	我孫子5:30=日暮里=新宿あづさ1号 7:00=小淵沢8:54/9:00～立場川キャンプ場9:15登山開始9:25～貯水池上の分岐10:00～信玄の隠れ岩10:55/11:07～西岳山頂13:40/13:55～乙女の水14:35/14:52～青年小屋15:00 青年小屋6:15～編笠山山頂6:45 6:55～押手川分岐8:03/8:15 ～雲海展望台8:43/8:53～観音平 9:25/10:00～スペティオ小淵沢11:55 /14:10～小淵沢14:25～我孫子18:46	参加者 L外崎、原田(和)、柴田、榎原、原田(君)、岡田、田村 7名



<338>

御嶽山・乗鞍岳

3003m 3026m

高橋 芳恵

古道を訪ねる山旅

1日目

今年の夏山は異常続きで梅雨が明けてもなかなか天気に恵まれず、今回も初日の予報は降雨確率60%、特急あづさ号は山梨に入ったあたりから晴れ間が見え始め、ひょっとすると、の期待を胸に塩尻乗り換え木曽福島に到着した。

今回はもっとも頂上に近い田ノ原から御嶽山剣が峰をめざす。バスは約1時間半で終点、田ノ原に到着。途中深い霧に覆われ、御嶽山の美しい山容を眺めることはできなかった。レストランでの昼食後、鳥居をくぐっていよいよ御嶽山登山道に入った。雨がポツポツ落ち始めたので、雨具を最初から用意した。道は横木を並べた階段が多く、きつい登りで日頃の減量への不摂生を後悔するのはこのあたりで、リーダーの「ゆっくり 行きましょう」の声かけがありがたい。

赤茶けた地肌が目立つ所があかはげでさらに登ると金剛童子に至る。

40数年前、御嶽教の講登山で白装束の祖母に連れられて登った山はこんなにきつかったかなと思いついた。あの時、かなりのお年寄りと共に登ったように記憶しているが、計算してみると大体今回同行の皆さんと変わりないことにまたびっくり。我がメンバーは本当に若いです。

道はさらに急になり石の階段や溶岩の階段をとにかく登りに登る。雨が次第に

強くなり、9合目の大滝頂上神社でしばし雨宿り。周囲は岩ばかりの高地に、良くまあこんな立派な社が建てられたと感心し、今夜の宿の頂上小屋をめざす。強烈な硫黄の匂いの中2件小屋を通り過ぎたが、小屋の主は予定していた客が到着していないのを心配げに話していた。

風雨は非常に強くなり駆け込むように頂上小屋に到着し、ほっと一安心。小屋の主は「こんな雨の中、良く来てくれた」と従業員用の風呂を沸かして歓待してくれた。この小屋は30年前、麓から全部木材を背で運んで建てたものとのこと。どの小屋も強風対策として屋根の上に石をたくさん載せてあった。食事の貧しさには主の木曾節がもてなしの一品に加えられた。

明日の天気予報をテレビで確かめ、床に入る。風雨は激しさを増し、夜中窓をたたいていた。

私たちの他は、男性5人のグループのみ。

2日目

雨は収まったが、濃霧のため、予定していた剣が峰でのご来光はとり止め、6時50分出発。剣が峰登頂。小屋の前を82段の石段を上がった所が山頂だ。山頂には御嶽山頂奥社があり、昨夜は約3000m地点で宿泊したことになる。展望、視界ゼロ。

二の池をめざして進むが濃霧のため、道がわかりにくく、皆で確認しながら行動する。昨日の小屋は二の池から水をくみ上げていると言つ



ていたが、かなりの距離があり、運営の大変さを感じた。二の池が見える頃から視界が開け、下りてきた山々が見え始め、後ろを振り返りながら前進する。オンタデは御嶽が原産の植物とか、至る所でオンタデを見ることができた。

さらに進むと異様な石塔が点在する賽の河原におりる。あちこちに石を積んだ小さなケルンが見られ、榎原さんが用意してくれた般若心経のコピーをみんなで唱和すると何かいい気持ちになった。

白竜小屋を経て摩利支天分岐より下り、飛騨頂上、五の池小屋で大休止。五の池小屋はチップ制トイレを完備した気持ちの良さそうな小屋で濁河温泉より登ってくる登山者も多く、いろいろイベントも催している様子。秋の紅葉は素晴らしいとのこと。

すっかり良くなつた天気の中でも御嶽は顔を隠したままで、「もう一度いらっしゃいよ」と言つているようだつた。継子岳の西斜面を下り、8合目よりは森林帯に入りダケカンバの林が続く。丁度クロマメ（ブルーベリーの原種）の実がたわわになっており、つまんで口に頬張りながら歩いた。のぞき岩でコーヒータイム。コメツガの下でゆっくりとおいしいお茶で至福の時を過ごすのが、山の醍醐味である。

御嶽山特有といわれている横木を敷きつめた登山道が連續して現れ、注意していないと滑りやすく気を引き締めて歩いた。

下山口の御嶽神社里宮の御神水を味わい、七福神にあやかりながら待望の濁河温泉の町営露天風呂に直行。本当にゆったりと温泉に浸かつた。

その後、予約してあったジャンボタクシーで乗鞍岳の麓の野麦峠に向かった。御嶽の北面のシラカバやコメツガの原生林の中を快適に走り、運転手さんとの話も弾んだ。特にチャオ御嶽スノーリゾート周辺は陸上競技の高地トレーニング基地として整備されており、岐阜出身の高橋

尚子さんにちなんで尚子ロードと命名しているとか。

日本の原風景ともいえる高根村では名高い高根コーンを畑で譲ってもらい野麦の宿でゆでてもらって、舌鼓を打った。

「ああ野麦峠」で有名な野麦峠はかつて飛騨の少女たちが口減らしのため諏訪の製糸工場へこの峠を通つて出かけていった道であり、お助け小屋は女工たちのよりどころであったという。現在のお助け小屋は文化財をそのまま宿にしたような由緒ある小屋で、かつてこのあたりで食べていたヒエご飯や山菜、いろいろ焼いた魚など地元の料理を味わうことができた。

3日目

今日は朝から乗鞍岳もしっかりと頭を出して、我らの期待に応えてくれている。

「今日は、高度 1700mを越えていきますよ。」「えっつ！ 1700mあるの？」

5時半。宿の車で野麦ノ森尾根登山口まで送つてもらう。入り口はわかりにくい所があつたが、おおむね歩きやすい良い道だった。早速、野猿がお出迎えで「へんなやつがきたー！」つて叫び合つてゐる。前方に見える乗鞍岳はまだまだ遠い。「先頭 もっとゆっくり！」

「今日は距離が長いので息が上がらないようにゆっくりいきましょう。」とリーダーからの指示。

道標がないので滝や徒渉点、高度計のポイントで時間をチェックする。1600m地点ではシラカバの美しい林が見られ、1700m 地点からはオオシラビソやコメツガの針葉樹林帶が続く。道は比較的平坦でドンドン歩いていく。

岳谷を渡り、対岸の急斜面を登ると川の両側に驚くほどの花が咲いている。イワカガミ、ゴゼンタチバナ、ウメバチソウ、そして両岸一面のチングルマ、8月の終わりというのに雪解けでまだ咲き始めたばかりという様子で咲き乱れ



←雪渓横の小滝を横切る。(上)
(下)

ガミ、ウサギギクの群落の、えもいわれぬ花畠にひたすら感動する。ここが焼石原(2340m)地点である。遠かった大日岳が迫って見える。

やがて水が涸れたあたりで右にという赤ペンキに沿って進むと岩とハイマ

ツの斜面に今度は一面のアオノツガザクラ、キバナシャクナゲ、シオガマ、イワウメ、イワギキョウなどの花々の群落が今を謳歌するように咲いている様に、ほとんど訪れる人もない秘密の花園を見つけた気持ちに浸った。

正面の剣が峰を目指して進む。(2600mポイント)主峰に取り付くあたりから登山道の判別ができず、ザラザラの歩きにくい道が続きできるだけ岩の上を歩くが、岩自体

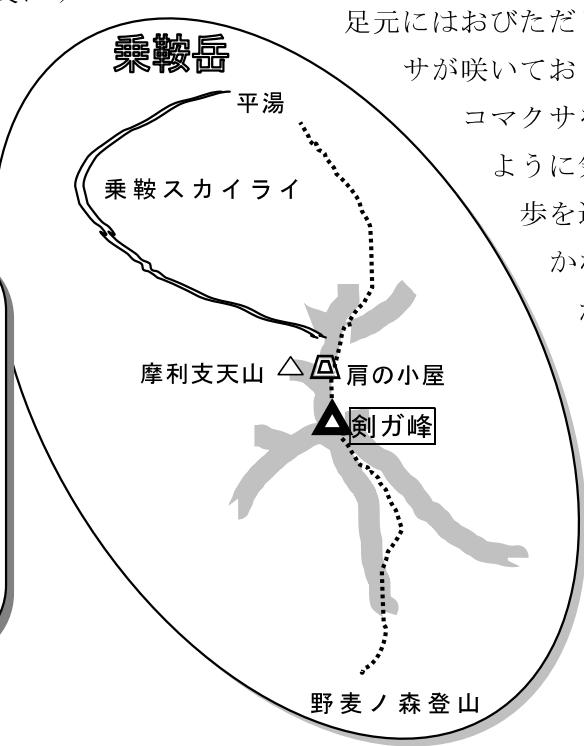
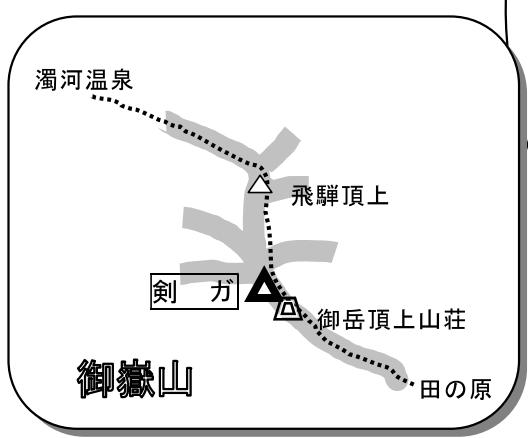
が動くようで一歩ずつ確かめながら足を運ぶ。足元にはおびただしいコマク

サが咲いており、さらにコマクサを踏まないように気を付けて歩を進めるがなかなか上に上がって行かない。どうも正規のルートでないようでリーダーから



ている。沢沿いの岩の上に進んでいくと鉄分の多く含まれた赤い水の沢に出てそこで昼食にする。

さらに進むと沢は広くなり、ミヤマキンバイ、イワギキョウ、チングルマ、シオガマ、ハクサンボウフウ、イワカ



も大日岳の鞍部を目指すよう指示があり、大きく左に回り込んで鞍部より頂上を目指す。鞍部には環境庁の看板があり、高山植物の保護と危険箇所の注意を促してあったが、野麦方面からの表示は全くななく、わかりにくい危険な箇所であった。

最後に大層な難儀はあったものの 1700m の高度を超える目指した乗鞍岳、剣ヶ峰を登頂した。感無量！！涙が出そうになった。「よくやった！」「皆さん、ありがとう！」「本当に素晴らしい山だった！」

御嶽に続き乗鞍岳の古道を訪ね、自然の豊さと歴史の重みを充分感じることができた。楽しい山旅を企画して下さった大串リーダーの造詣の深さに敬意と感謝を表した。

頂上から 40 分程で肩の小屋に着いたのは、雨の降り出しと同時であった。

昨夜に続き、私たちだけの貸し切りの小屋泊まりとなる。

4日目

風雨は夜半より激しくなり、予定していた平湯温泉への猿飛八丁の難路は中止することを決めていたが、早朝 5 時頃、小屋の管理人より「風雨のため畳平からのバスが 6 時半で最終になるのですぐ用意をして車に乗ってください」と言われ、起き抜けに即行動する。さすがに皆さん手慣れたもので緊急の対応にもたつく人はいない。

畠平でバスに乗り換え、台風のような嵐の中を平湯温泉に直行したが、「こんなことは始終あります」と運転手さんは平然としていた。山の中腹より下は晴天というまさに天国と地獄の違いを味わった。

平湯で朝食を摂り、8 時 55 分発のバスに変更して早めの帰還となつた。

今年の夏をしめくくる御嶽・乗鞍に乾杯!!

概要

山名	御嶽山・乗鞍岳	山域	北アルプス
期日	平成 15 年 8 月 28 日～8 月 31 日		
目的	3000m の山…古道を登り、山頂小屋に泊まる。両峰から北・中央・南アルプスの展望に泊まる。		
山行形式	縦走	グレード	4C
歩行時間	1 日目 2:50 2 日目 6:00 3 日目 9:00	地形図 (25 千 図)	御嶽山・御 嶽高原・野 麦・乗鞍岳
費用	4万3千円	交通機 関	JR. バス、 タクシー
1 日 目	我孫子駅 5:30 = 新宿 7:00 あずさ 1 号 = 塩尻 9:28 / 10:01 = 木曽福島 10:28 / 40 (バス) — 田の原 12:04 / 45 — あかはげ 13:24 — 金剛童子 13:40 — 大滝頂上 15:20 — 御嶽頂上小屋 15:40		
2 日 目	頂上小屋 6:50 — 剣ヶ峰 7:00 — 二ノ池 8:10 — 賽の河原 8:30 — 摩利支天分岐 8:55 — 五ノ池小屋・飛騨頂上 9:20 / 40 — 八合 10:30 — のぞき岩 11:00 / 35 — 潤河温泉 12:55 / 14:40 (タクシー、宿の車) 野麦峠お助け小屋 15:55		
3 日 目	小屋 5:30 — 野麦ノ森尾根登山口 5:43 / 50 — 1600m 7:00 — 1865m 8:10 — 岳谷滝上 9:05 — 焼石原 10:10 / 30 — 2600m 12:10 / 20 — 剣ヶ峰(乗鞍岳主峰) 14:00 / 10 — 肩の小屋 14:50		
4 日 目	小屋 5:45 — 畠平 6:00 / 30 — 平湯 7:30 / 8:55 (高速バス) — 新宿 13:30 / 14:10 — 我孫子 15:30		
ルート状況	<p>御嶽山</p> <ul style="list-style-type: none">・山頂までは信仰の道で、幅広な階段などよく整備されている。・稜線の縦走路は登山者用で、岩稜やガレ場などそれなりに厳しい。 <p>乗鞍岳</p> <ul style="list-style-type: none">・野麦ルートは標高差 1700m の直登路。このルートの入山者はきわめて少ないらしく、整備状況はよくない。特に、登山口から尾根道までは標識も不十分。・山頂直下は急斜面全面がゴーロ状態の不安定な岩道。ルートも不明確で、ほふく前進を強要され大苦戦だった。この古道は廃道の危機にあるようだ(環境庁や県は登山道として認知せず?)。		
参加者	L 大串(秀)、SL(御嶽) 柿原、SL(乗鞍) 安田、大串(恵)、日下、斎藤、高橋(芳)、大畠、高橋(潔) 計 9 名		

<339>

鳳凰三山

薬師岳・観音岳・地蔵岳

2780m 2840m 2764m

高橋 英雄

南アルプス縦走入門コース

鳳凰三山は小生にとっても是非登りたい山の一つであり、今回は千葉さんが計画されて、うれしくて参加することにした。いつもながら山行日の天気が気になり不安を抱えながら薙崎駅よりタクシーに乗り夜叉神登山口に到着。「タクシーの女性運転手から、トマト、梅干等の差し入れあり」登山口を出発、カラマツ林の急斜面をジクザクに登っていくと夜叉神峠に到着する。目前に広がるはずの北岳の雄姿は残念ながら雲の中で見ることが出来ず残念。

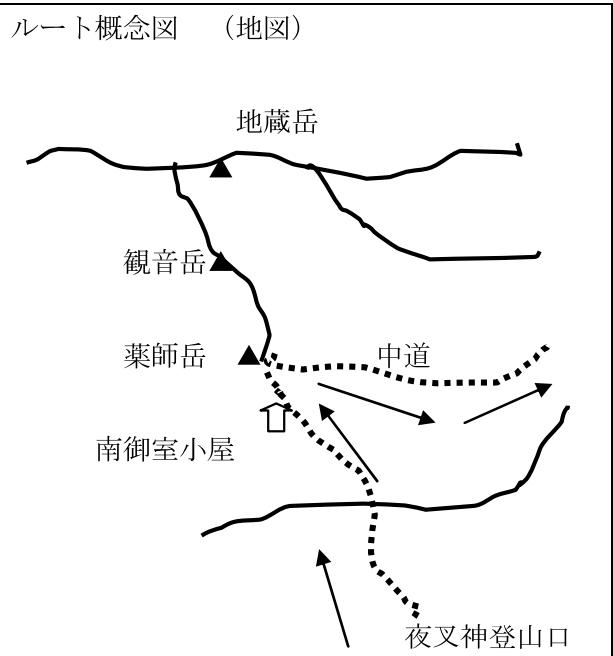
広場には、ハイカーが多くいて食べたり、飲んだり、雑談あり、周りにはヤナギランがあった。一休みして杖立峠に向かう。コースタイム2時間のところ1時間20分で登りきったが設定と実働との差がありすぎる。杖立峠からは斜面も緩やかになり樹林の中の歩きやすい道となる。途中に山火事があったのか木のコゲ跡があった。天気がよければ「見返り富士」の好展望地らしき所に出る。今日は四方何も見えない。

苅平では、甘利山、千頭星からの登山道が合流している。「苅もないのに何で苅平だ」と文句の出る人もいたが、理由はこの辺に自生するシロバナヘビイチゴらしい。可愛いキノコの生える静かな坂道を下って行くと南御室小屋に到着。テント場は開けた明るい鞍部、トイレの設備も水が大量に流れ大変便利であった。早速テント設営。終わった所で小屋の前のベンチを陣取りビールで乾杯。雑談に花が咲いていると一人の男が近寄つ

てきて「素晴らしい仲間たちですね本当に羨ましい」とのこと、そんなに羨望の眼差で見られているのか。夕食は夏野菜カレーで舌づみ雑談のあとテントへ。一日は終わった。明日の天気が気になる。

夜中雨風の音で目が覚める。朝早く起きて出発し薬師岳手前の稜線でご来光を見る計画もあえなく中止。それでも5時過ぎに出発し滑りやすい急坂を登る。暫くすると傾斜は緩やかになる。しかし朝一番の登りはきつい。森林限界を越え稜線に出る。白砂が鳳凰三山に着いたぞと実感させてくれる。雨はやむ気配はない、風は強く足をすぐわれそうになり岩につかまり、岩に隠れながら歩く。砂払岳を下った鞍部にダケカンバに囲まれ薬師小屋が立っていた。鞍部の為かここはあまり風が強くない、この強風で大丈夫だろうか。小屋の管理人に聞きに行く。健脚でなければやめた方が良いとのこと。協議の結果薬師岳から直接青木鉱泉に下る中道コースに決定する。「山は逃げない」の言葉でそれ自分を納得させる。10分足らずで山頂に着く、他のパーティが観音岳を目指していた。とにかく風が強い。集合写真を撮るも三脚が風に飛ばされそうになる。何とか一枚撮る事が出来た。

あとは下山するのみ。中道コースは薬師岳山頂から東に向かう尾根道。下山につれ木々はハイマツ地帯からシラビソ、ダケカンバ、カラマツと木々は変化する。ひたすら下るが滑りやすい所もあり膝に結構負担がかかる下山道だ。小生は少し参った。山道近くに沢がありそこで「おしるこパーティー」と相成る。皆さん是美味しそうに食べているが小生には関係ない。それよりも早く風呂に入りたい気分。青木鉱泉で汗を流し「風呂場はお湯が出ず水と同じぐらい」流し場は狭く文句が出るあります。薙崎のうどん屋で反省会。今回の山行は千葉さんが初めてのリーダーとの事、三山をどうしても踏破したかったが残念であった。残る二山はいつか登るつもり、もう老体でだめかな？



山名	鳳凰三山		
期日	平成 15 年 8 月 30 日～31 日		
目的	南アルプス縦走入門コース		
山行形式	テント	グレード	3C
歩行時間	1 日目 4 時間 2 日目 4 時間 30 分	地形図 鳳凰山 夜叉神	
行程 ・ コース	一日目 夜叉神登山口 9:30 = 夜叉神峠 10:48 = 杖立峠 12:20 = 南御室小屋 14:47 二日目 南御室小屋 5:10 = 薬師岳小屋 6:20 = 薬師岳 6:40 = 青木鉱泉 11:10 = 韋崎 12:55 = 我孫子 18:30		
参加者	L 千葉、SL 青山、村松（敏）、外崎、 高橋（英）、小黒、武内、佐藤（健）、 岡田 9 名		

←かんぱーい！(南御室小屋前にて)。

▼風と霧の中での記念撮影(薬師岳頂上にて)。



<340>

岩木山・八甲田山

(1,625m 1,585m)

柴田 節子
武内 勇二

岩木山

強風にあおられて

◇第一日目 (9/13 土)

上野駅から八戸まで、新幹線でちょうど3時間「おんでやあんせ！八戸」と書かれた沢山の幟を迎えてました。初めて耳にするその方言に、はるばる遠くへ来たものだと思いました。

特急津軽で弘前駅に向かう時間を郊外にある海鮮市場内で過ごしました。ちょうど昼時で、リーダーおすすめのお寿司屋へ行きました。土地柄、新鮮なネタの数々で、皆、満腹となりました。食事を終えて屋外に出ると空高く、さわやかな秋風が吹き、バスを待つ間に晴天は約束されたと思いました。メンバーのリラックスした笑顔もよく、いよいよ大人の休日の始まりでした。

特急津軽に乗り込み、素朴な風景を追っているうちに、心安らいでいつしかまどろみました。1時間半程で弘前駅に着いて、静かで落ちついた駅前のバスターミナルで枯木行きのバスを待ちました。枯葉大作戦を枯木平行きのバスに乗車とは決まり過ぎていて笑えました。今風の市街地を通り過ぎて、弘前城跡のお堀の桜並木やだんだんと昔懐かしい家並を抜けて、大きな川にさしかかりました。その前に、乗車してきた地元の一人のおばさんは、T氏と同席をしました。T氏は「あの川の名は何ですか？」とたずねました。そこまでは良かったのですが、何度も聞き直しても聞き取れない様子でした。リーダーも側でクスクスと笑

っていました。津軽弁は健在でした。標準の発音で、ようやく解った「岩木川」でした。とても水がきれいな川でした。

この辺りから、津軽平野に孤立した「お山」の3つ（鳥海、岩木、巣鴨）に分かれた山頂が見えはじめました。思う存分に裾野を伸ばして、端正な姿でした。皆身を乗り出して、みるみるうちに変わっていく山容を楽しみました。それで又「津軽富士」と呼ばれる所似を理解しました。逸る気持ちにも50分の乗車はアツという間に過ぎて、嶽温泉前のバス停に下車をしました。バスを降りたときは、先程よりも少し曇ったかなと思いました。そこからいくらも歩かないうちに、大粒の雨が.....、と思う間もなくドシャ降りの物凄い雨になりました。予想もしない雨にザックの底にある傘を出し損ねていると、K・T氏がそっと傘を差しかけて下さった。「有難う」その感謝の気持ちを忘れないでしよう。

すぐ側の「じょっぱり」という屋号の民宿に着いた時はもうビショ濡れでした。それから序々に風雨が強まり始めました。まさか台風14号の影響かな？

部屋割りも決まって、夕食までをそれぞれに湯に入ったり、2階の窓の前に座している山眺めしていました。雨が激しくなる様子に皆で天気予報に注目したり、世間話等々盛り上がり、賑やかに過ごしました。刻々と変わる台風の動きを目当たりにしながらも、遠くの山陰に沈むまぶしく光る夕日に歓声があがりました。それなのに予想は外れて町内防災放送は、台風の動きに充分の注意を呼びかけていました。とうとう台風の直撃となり一晩中、強風雨は宿を叩き続けました。

◇第2日目 (9/14日)

荒れた一夜が明けた早朝は、一応天候は小康状態で安堵しました。早い朝食のテーブルには、何やら小皿に盛られた見慣れぬ一品がありました。女性達は、興味津々で、宿の主人に尋ねたところ

アケビの皮を剥き、その形のまま、油焼きして甘味味噌をつけてあると説明されました。この一品は珍しいばかりか好評でした。

身支度を整えて、快くして頂いた温かい民宿のご主人に別れを告げました。時折、大粒の雨と強風の中を登山道へと入って行きました。

ゆるやかにのびた道には、ちぎれ飛んだ緑色の葉っぱが散乱して、時には大木がなぎ倒されて道を塞いでいました。強風は相変わらずでしたが、広葉樹林帯の中は、とても静かで植物の垂直分布を観ながら、ゆっくりと登りました。次第に高木限界に達していくと、風を正面に食らい注意を払いました。スカイラインと合流する岩木山八合目（リフト乗り場は無人）には、休憩所があり、勢いその中へ駆け込みました。すぐ店の人に「山頂は、風速 30m が吹いていますよ、充分気をつけて！」と告げられました。

こんな風を体験したことなく、山頂を踏めないのかしら、という不安がよぎりました。しかし一服しながら皆で話し合った末、「下山道との分岐まで登ろう」という事となり、気持ちも新たに慎重を極めました。途中の鳥の海噴火口は、今にして自然の驚異を露にしていました。

標高約 1,500m の所に鳳鳴ヒュッテ {1,964 年（昭和 39 年）秋田県立高校生 4 人が猛吹雪の為、道に迷い遭難した由来のプレート} があり、そこで一息入れて急いで岩場のガラガラした道にたどり着きました。相変わらずの突風に身体が浮き上がってしまいそうになりながら、一步。晴れていれば、明日登る八甲田山、西に日本海、北には北海道が見えます。ここは、真に本州の北の果ての展望です。厚い雲にすべてを隠され眺望は全くありませんでした。一等三角点を皆無事に揃って山頂へ来ましたと感謝の気持ちで撫でました。山頂の避難小屋では民宿で頂いた甘くて柔らかな特別の「キビ」を大喜びして食べました。



岩木山山頂は霧の中

下山は岩木山神社へ降りました。焼止りヒュッテまでは、急な沢の下りで難所が多く誰も気が抜けずに黙々と下りました。冷たい風が吹く中で飲んだ銭杖清水の豊富な水は極上の喉ごしでした。先程の道程とは対照的に、その後はとてもゆるやかな下りに「この辺りの高度はどの位ですか」と H・O 氏に何度も聞いてみても、返事は同じで一向に降りては行かず閉口しました。やっとこ・どっこい下山口に差しかかる頃、鉄砲をかついた一人のおじさんに会い、突然に「熊を見なかつたか？」とあたりをキヨロキヨロしながら聞かれて、怖さに身体が固まってしまいました。全く知らぬが仮とはこの事でしょう。それにしても「熊に注意！」の立て札を 2 本や 3 本！いやいや沢山立てておいて下さいよ。そこからスキー場のレストハウスを過ぎ、お花見の頃はさぞやと思われる桜林の広々とした公園を横切り、林道をまだまだ歩いて岩木山神社前のバス停に帰ってきました。そのあとは、バス、タクシーを乗り継ぎ車窓から見えるたわわに実った真っ赤なリンゴの畑を次々と追い少しづつ高度を上げて山の道を走りながら、暮れなずむ今宵の「酸ヶ湯」温泉宿に着きました。

とても大きな建物の湯治場は連休でもあって人、人、人で賑わっていました。何はさておき、大浴場へまっしぐら！有名な噂の初体験をしました。明日登る八甲田は如何であろうかと思いを

めぐらせながら、酸っぱいお湯を楽しみました。充実した休日の貴重な思い出をリーダーに感謝、そして大変お疲れ様でした。同行のみなさんにもありがとう！！来年も是非ご一緒にと期待している一人。(柴田)

八甲田山

はじめに

昨年9月岳人あびこのシルバーメンバー15名で八甲田山の大岳に登った(酸ヶ湯～大岳～毛無岱～酸ヶ湯)が、今年も青森(八戸)出身の高橋(英)さんをリーダーとした岩木山・八甲田山登山が計画され12名が参加した。うち8名(日下、高橋英、大串秀、斎藤、武内、庄司、中野、原田君)は昨年に引続いての参加、4名(高橋潔、柴田、長木、榎原)は今回が初めてだった。初日(13日)～2日目(14日)の八戸・八食センター～嶽温泉～岩木山の「やまなみ」は柴田さんが担当し、行程後半部分の八甲田山の紀行文を書くこととなった。



今日はいい天気だと…。酸ヶ湯の宿で

9月15日(月・敬老の日)

今日の行程は、酸ヶ湯温泉から大岳～井戸岳～

赤倉岳を経由して田茂泡岳山上の八甲田ロープウエー駅に10時30分頃に到着する計画である。酸ヶ湯が900m程、大岳頂上が1,600m弱なので最初の登りの標高差は700m、途中の朝食休憩を入れて大岳まで3時間、大岳～八甲田ロープウエー駅まで約1時間という、登山というよりは気軽な散歩といった行程だ。



まんじゅうふかし

酸ヶ湯温泉の「まんじゅうふかし」散策の後、旅館方向に少し戻って、6時20分に大岳登山口を出発した。

樹林帯の中の道は、前日の雨でぬかるんで滑りやすく、少々歩きにくい。おまけに勾配は緩やかでなかなか高度が稼げないのがじれったい。1時間ほどで、樹林帯を抜けて酸ヶ湯温泉が眼下に見渡せる沢に出た。風が強く、時折ガスが通り過ぎてゆく。雨の心配はないが、空は一面雲に覆われ頂上付近も雲の中だ。それでも、雲の濃淡はあるようで、思い出したように日が射し天気が回復に向かっているとの期待感を与えてくれる。ゴーロ状の沢は風が吹き抜け寒いので休憩する気にならなく皆黙々と前進する。やがて、地形はなだらかになり仙人岱(湿原)の端に出た。湿原中央部に八甲田清水が湧き出てベンチがしつらえてある。ここで朝食休憩となった。昨年の山行時もここで朝食だった。大岳直下で湿原の景色は非常にいいのだが風を遮るものもなく、とにかく寒い。

重ね着をして体温を保持し、旅館で作ってもらつたおにぎりをほおばる。腹が空いているので、とても美味しい。じつとしていると寒いので、食べ終わると早々に出発した。



八甲田山、霧の晴れ間にそれ急げ

湿原を横切り樹林帯を通り抜けてジグザグの登りとなり、鏡沼を過ぎると大岳の頂上にでた。頂上付近は広い台地で、風が吹き荒れていた。期待した北海道はおろか、岩木山も垂れ込めた雲の中に隠れている。長居は無用とばかり、記念撮影もそこそこに下山にかかった。鞍部の大岳ヒュッテまでは短い這い松とお花畑の混じった中の道を行く。突然ガスが切れ、眼前に明るい景色が浮かび上がってきた。井戸岳、赤倉岳が正面に、左下方には昨年通った毛無岱が広がり素晴らしい眺めである。しかしそれも一瞬ですぐにガスに覆われてしまった。大岳ヒュッテは鞍部の草原にあり、眼前にそれ程高くはない井戸岳を仰ぐ位置にある。風の通り道になっているのか、強い風が吹き抜けている。休憩をあきらめて整備された登山道をジグザグに登る。風がガスを吹き払っているようで、真っ青な空が広がりを増し日が射し始めた。振り返ると、大岳は雲の中だが、その左向うに秀麗な三角錐が浮かび上がっている。高田大岳だろう。やがて井戸岳頂上の標識地点にでた。ここは噴火口の外輪山の一角で、本当の井戸岳山頂は外輪山をもう少し左へ回ったところにある。ル

ートはここで井戸岳と分かれ、赤倉岳へと伸びている。なだらかな斜面にじゅうたんを敷き詰めた様に密生しているのは木の一種でガンコウラン（岩高蘭）といい、寒暖の差が激しく烈風にさらされる高山の植物との案内板があった。両側が切れ落ちている箇所には道の両側にしっかりとしたロープが張られているので、転落する惧れはない。右方に田代平の湿原も眺められ、風に煽られないよう注意しながらも存分に眺望を楽しむことが出来た。

赤倉岳からロープウェー山上駅近くの田茂泡岳へは40分程の下り。すっかり晴れ渡った空の下で田茂泡や毛無岱のまるで箱庭のような湿原を見下ろしながら、快適に下りほぼ予定通り山行をおえた。

おわりに

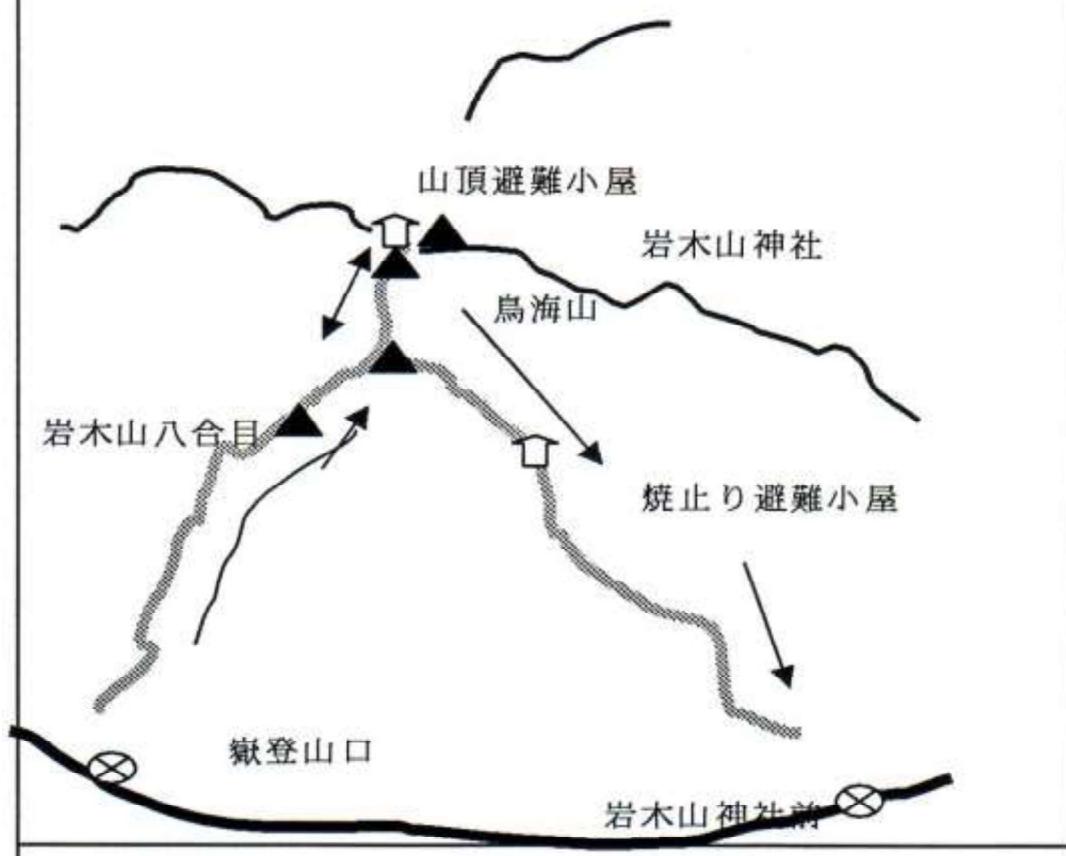
冬の八甲田は積雪と悪天候に悩まされる魔の山だが、この季節は緩やかな地形に広がる湿原の美しい山である。今回のコースは北八甲田の核心部ではあるが、広大な八甲田山域のほんの一部を歩いたに過ぎない。今回は、岩木山との組み合わせで、しかも当日中に東京に帰らねばならないという時間の制約の中での山行だったので、4時間程度のハイキングとなったのはやむをえないが、この山を本当に楽しむには山中で2~3泊する位のゆったりとした日程が必要であろう。今後の楽しみがまた一つ増えた。

(武内)

ルート概念図

岩木山

(1624.7m)



山行データ

山名	岩木山・八甲田山
日時	平成 15 年 9 月 13 日(土)～15 日(月)
形式	民宿（嶽温泉）・旅館（酸ヶ湯）
目的	大人の休日
第 1 日(9/13)	我孫子 5:58 = 上野 7:06 = 八戸駅 10:04/13:11 = 弘前駅 14:54 バス—15:06 —嶽温泉 16:05～宿 16:25 着
第 2 日(9/14)	嶽温泉登山口 6:00～8 合目 8:30/9:10～鳳鳴ヒュッテ 10:00～岩木山 10: 35/11:00～銭杖清水 11:45～登山口 14:30～岩木山神社前バス停 15:00/15: 22 バス—弘前 16:00/16:05 タクシー—酸ヶ湯温泉 17:00 着
第 3 日(9/15)	酸ヶ湯温泉 5:40～ふかしまんじゅう～登山口 6:20～仙人岱 8:05(朝食)/8:20 ～大岳 9:10/9:20～井戸岳 9:55～赤倉岳 10:05～ロープウェイ山頂駅 11: 00/11:15—山麓駅 11:25/11:55(バス)—青森駅 12:55/15:44 = 八戸駅 16: 43/16:55 = 上野駅着 20:02/20:20 = 我孫子駅 20:55
参加者	L 高橋英、日下、柴田、大串秀、斎藤、榎原、長木、中野、原田君、庄司、武内、高橋潔 計 12 名 (男 6 名、女 6 名)
費用	総合計 43 千円 (二人の東北切符利用。含む、宿泊 2 日)

<341>

未丈ガ岳・荒沢岳

(1553m・1969m)

佐藤健一

9月後半の土日を利用して、上信越の寂峰、未丈ガ岳と荒沢岳の二座を連荘で登ろうということだった。関越道の小出までは一つ走りで着くが、国境を分けるトンネルを抜けても天候は不安さを増すばかり。R352から奥只見シルバーラインに入った。この道は初めて通る。いくつかトンネルを過ぎて緊張感が崩れた頃、指示があつて車を左肩に停めた。シャッターを開けると小さな広場になっていて既に車が数台駐車していた。ここが泣沢の登山口無料駐車場。料金徴収はされない。

小雨が時折落ちてくる中、一行は足元を濡らしながら歩き始めた。まもなく山道は急角度で2メーターも落ちながら沢を渡る。この傾斜と、雨に濡れた足場がやわらかくて滑りそうで怖い。同様な渡渉を二、三度繰り返し、黒又川にかかる橋をこわごわ渡った。

急坂をひと登りしてやっと尾根道らしく高度が感じられるようになってきたが、周りはすっかりガスがかかり、少しも視界が利かない。974ピークと松ノ木ダオで休みを取った。誰かのせりふじゃないが、メンバーの中に人品卑しからぬ人がたつた一人でもがいたら少しは展望が楽しめた筈なのにと、我が身の反省を忘れて恨め

しくなる。

やがて所々霧が晴れ、背後の山々が裾野のほうから姿を見せ始めた。道は一気の急登となり、多汗症の自分は額から汗がボタボタと流れる。ピークを超えてまもなく視界が開け、黄ばんだイグサを敷き詰めたような草原が現れた。この右上がりの斜面を切りながら進むと笹に囲まれた頂上に着いた。登り始めて3時間余り。

頂上で集合写真を撮りながら窓いでいたら、幸運にも霧が晴れてきて、周囲の山々が突然姿を見せ始めた。奥まつて雄大な越後の山々、南会津、奥日光から尾瀬の燧ヶ岳まで。明日登る予定の荒沢岳は手を伸ばせば届くよう。(オーバーでスママセン)。もっとも翌日は雨が更に強くなり登頂を断念する。したがつてこの時眺められたのが救いとなつたのだが。

幸運は長く続かない。雲に覆われた頂上は寒さを増し、山々もお隠れあそばしたので急いで下山した。帰り道はピストンで心配はないものの、雨のため気分は優れない。駐車場まで一気に下り、再びシルバーラインを通って銀山平キャンプ場に着く。

このキャンプ場はしっかりしたコンクリート製の炊事場があり、広く、屋根がかかっていてとてもよい。酒好きのリーダーの意を汲んでしっかりと飲料やらおつまみをキャンプ場入口の売店で仕込む。雨足が益々強まり、テントは炊事場の中に設営した。床は真平らで大屋根があるため快適なテントライフとなる。

吉野満彦さんの本にヘンリー・オルドリツジ

の詩が紹介されていた。引用すると、

もしもわしが考えに
あやまちがなければ
酒をたべるにや
五つのわけがある。
一に 友達
二に うま酒
三に 渴きで
四に 渴くおそれ
五のわけは ほかになんでもござれ

山の中のキャンプ場は夜更けるまで我らの濁声や歓声がやまなかつたが、次第に激しさを増した雨のためか、我ら以外のパーティがないこともあって無遠慮な一晩となつた。

朝起きても依然として雨が上がらない。早々と荒沢断念のリーダー決定が出て一様にホッとする。のんびりと食事したり片づけたりして帰った。途中、道の駅らしきところで食べた柄尾の厚いあぶらあげは美味しかつた。一同、狐に騙されたように食べていた。



奇跡的に雲が切れて姿を現した荒沢岳

(未丈ガ岳山頂より)



笹に囲まれた未丈ガ岳山頂

概 要

山 名	未丈ガ岳	山 域	奥只見	
期 日	平成 15 年 9 月 20 日～9 月 21 日	天気雨		
目的	1. 只見の秘峰 2 山の登頂 もしかしたら早い紅葉が見られるかも			
山行形式	テント山行	グレード	4D	
歩行時間	5 時間 30 分	地形図 (25 千図)	銀山湖 未丈ガ岳	
費 用	13,000 円	交通機関	レンタカー	
参加者	L 村松敏、外崎、北川、青山、 坂口、佐藤健 計6名			
日 程 コ ス	1 日 目	我孫子駅北口 4:00—谷和原 IC—小出 IC—奥只見シルバーライン—泣沢駐車場 8:10/8:30～松ノ木ダオ 10:00～未丈ガ岳 11:35/12:15～松ノ木ダオ 13:30～泣沢駐車場 14:50—銀山平キャンプ場 16:00(泊まり)		
	2 日 目	銀山平キャンプ場 8:00—小出 IC—柏 IC—我孫子 14:30		
ルート状況	① 上信越山岳は視界不良が多い ② 黒又川と支沢の渡渉は雨天時注意 ③ 銀山平キャンプ場はグッド			

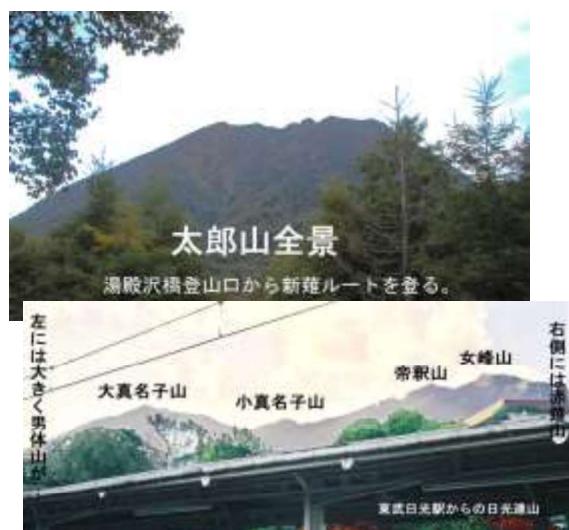
<342>

日光連山

女峰山～大真名子山～太郎山

2483m 2375m 2367m

岡田 秀子



小さい頃から日光と縁があるように思われます。小学校の遠足、林間学校、友達と良く日帰りのスキー、子供達が幼稚園小学校のときに家族でハイキング、大人になって友達と、時には、一人で。四季折々の自然の素晴らしさを実感してきました。そして、あるとき一人で鳴虫山に登った時、神主山からの日光連山が実際に素晴らしい私の目に焼きつきました。「いつか縦走が出来たらなあ～」と。・・・心に温めていたところ今回実現できました。最後の頂上（山王帽子山）に到達する寸前から私の目からあついものが溢れていきました。「感動」この感動する素晴らしさ！を体験することが出来ました。と～っても嬉しかった！

今回は奥日光連山縦走 2泊3日避難小屋泊、ザックがかなり重くなりそうだったので準備の段階で荷物の軽量に気を使い久々の登山スタイルに楽しさを感じ合いました。

十分な睡眠から目覚め体調良好。我孫子駅(常磐線)～北千住駅から東武電車（快速）で一路日光へ～。お天気が良く日光駅前は、バスを待つハイキング客の長蛇の列、われわれ一行は、タクシー（2台）で霧降高原第3リフト乗降場まで上がった。

降りて用を足しにトイレのドアを開けたとたんビックリ！なんと街中の洋式タイプ。鏡までついていました。（山で時代の変化が見られるなんて…）スッキリとさせ歩き始めました。♪♪♪・・・

高原の爽やかな空気いっぱい吸いながらリフトに

腰をおろし足元に咲いていたリンドウの花をみて秋を感じ、後を振り向いて日光市街を見下ろし高度を感じながら第4リフトまで上がってスタート地点に到着しました。

キスゲ平で各自、衣服調整、準備運動をして歩き始めた。樹林の中の急登を頑張る！と赤薙山頂～女峰山（岩峰で素晴らしい展望台。越えてきた赤薙山、これから登る小真名子山、大真名子山、男体山が一望できた。）～唐沢小屋（第一日目泊）

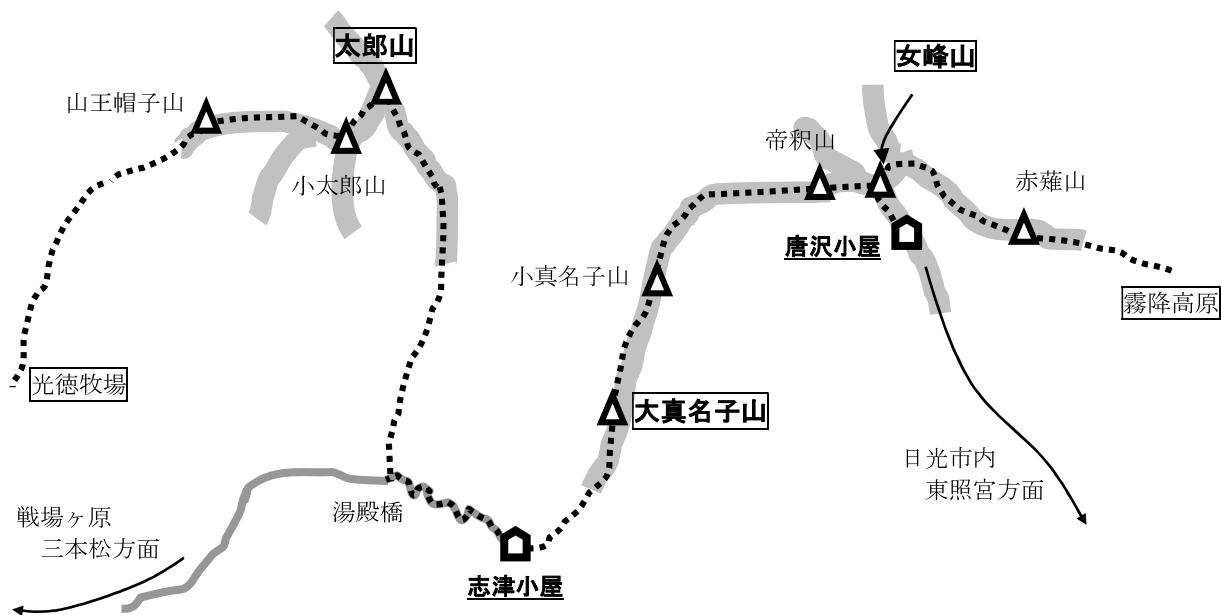
重いザックを背負い、汗をかき、ひたすら目的地を目指して一步一步踏みしめ「キツイ！」と感じても「仲間」が「活力」をくれましたので頑張りました。

小屋に到着し疲れているが皆して食事を作り始めいっしょに同じ「キノコたっぷりすいとん」をお腹いっぱい食べることができ・・・「最高の食事！」だと実感しました。

翌朝、二日目は、昨日見えていた帝釈山～小真名子山～大真名子～志津小屋（第二日目泊）・・・をどんなドラマが出来るだろうかと思いながら朝もやの中を歩き始めました。アップダウンが激しく険しいやせ尾根や鎖場もあったコースで緊張しながら反面面白さも感

じ疲れはあったものの楽しかった。小屋に到着し高橋潔さん、榎原さん、永谷さんは、ここで帰られ我々4人は貸切小屋でゆっくりと食と談をとり湯たんぽをいれ温かく眠りについた。

3日目、太郎山～小太郎山～山王帽子山～光徳牧



場・・・をきょうもお天気良く元氣がでた。

2泊3日と天気良く無事に縦走できました!!・・・充実感、満足感を実感出来最高でした。

概要

山名	女峰山 2483m～大真名子山 2375m～太郎山 2367m (山域 日光)		
日時	平成15年9月27日(土)～29日(月) 避難小屋2泊		
目的	紅葉真っ盛りの表日光連山縦走	地形図	1/25000 日光北部、男体山
費用	10千円 (電車・バス・タクシ一代7千円+共同食材費・懇親費・入浴料3千円)		
参加者	L大串秀、S L高橋潔、大串恵、榎原、岡田、佐藤文、永谷(ゲスト) 7名		
日程 ・ 行程	1 日 目	我孫子駅(5:30)⇒北千住駅 6:31⇒東武日光駅 8:24/8:30⇒(タクシー)⇒霧降高原 9:00/9:05⇒(リフト)⇒キスゲ平 9:20/9:30→赤薙山 10:45/10:50→女峰山 15:10/15:20→唐沢小屋 15:45(泊) <歩行時間: 6時間15分>	
	2 日 目	唐沢小屋 5:35→女峰山 6:30/6:40→帝釽山 7:20/7:25→小真名子山 9:30→大真名子山(昼食) 11:25/12:00→志津小屋 13:35(泊) <歩行時間: 6時間>	
	3 日 目	志津小屋 5:45→湯殿沢橋 6:20→太郎山登山口 6:32→新薙の頭 8:05→太郎山 9:00/9:30→小太郎山 9:55→山王帽子山 11:05/11:15→山王峠登山口 11:45→光徳牧場(昼食・入浴) 12:40/14:14⇒(バス)⇒東武日光駅 15:20/15:59⇒春日部駅 17:25/17:33⇒柏駅 18:18/18:23⇒我孫子駅 18:30 <歩行時間: 6時間55分>	
ルート 状況	<p>*奥日光の山々は男体山の噴火活動などにより劇的に地形を変えたため、激しいアップダウンが続くやせ尾根・ガレ場・岩稜などの難路が多いのが特徴。特に、主要峰直下(日光三陥等)はガレ場・岩稜などの急登・急下降路。</p> <p>*初日の唐沢小屋には良質の水場があるが、2泊目の志津小屋には水が全くない。万一の水枯れや濁りなどを想え、2日間分の水を担ぎ上げた。</p> <p>*この時期の土曜日の唐沢小屋は、定員超過の可能性は僅少(日光市役所)。一応、2人用のテントを持参したが、実際にはほぼ定員くらいで、全員小屋泊ができた。</p>		

<343> 第2回 ウィズハイク

平成15年9月27日（土）

「鋸山」（房総）

我孫子市心身障害者福祉作業所 みづき 共催

さらに広げていきたい交流の輪

ウィズハイク実行委員長 外崎 蓮

今年のウィズハイクは、昨年の分もとりかえして朝から快晴に恵まれました。おかげで昨年行けなかった房総の鋸山で、本当にいい汗をかくことが出来ました。大洗海岸に続いて二度目となった今年は、お互いが昨年よりもっと接近し、より打ちとけ合うことが出来たと思います。

個人のちょっとした思いつきが形となって動きだし、歩き始めたことに、私はある種の感動を覚えます。我が子が一人立ちしていくのを見る思いがします。

ウィズハイクには、ボランティア山行などという重い意味はなく、ただ一緒に仲良く、楽しく山に登るのが目的です。

今後は、一つの施設の利用者の方々のみを対象にするのではなく、みづきの酒井さんのお力を借りて、市内の他の施設の方々にも輪を広げてゆけたら良いのではと思っています。欲を言えば、朝の出発時間と夜の帰宅時間をもう少し延ばしていただけたら、いろいろな面で選択の範囲が広がりますね。

それはそれとして、来年は新しい人にリーダーになっていただき、さらに楽しい企画を練ってもらいたいと思っています。

そしてウィズハイクが当会の恒例行事として、この先も継続されていくことを願っています。



『今年は鋸山に登りました』

—岳人あびこの皆さんとウィズハイクを楽しんで—

福祉作業所みづき 所長 酒井 正弘

9月27日、その日は朝からとても晴れて絶好のハイキング日和、念願の鋸山へ「ウィズハイク」が実施されました。今回福祉施設側（福祉作業所みづき、知的障害者通所授産施設むつぼし、はるか共同作業所）からは、17名が参加しました。昨年の大洗水族館からの帰りに、バスの中で来年は皆で鋸山に登ろうと誓い合ってから本当に待ちに待った1年でした。

今回のウィズハイクの計画に当たり、今年も外崎さんから多くのアドバイスをいただき、参加の申し込みを作ったのが7月の初め、それから約2カ月半何回も電話などの打ち合わせを経て、ようやく9月27日の当日を迎えました。コースは3コース（ロープウェー・日本寺コース・観月台コース）で利用者が自分の体力に合わせてコースが選べるのもこのウィズハイクの良さだと思います。利用者は、楽しんでもらえたのでしょうかね。

今回のウィズハイクで私が感じたことをいくつか述べて、感想にしたいと思います。まず、行きのバスの中で、岳人あびこさんから利用者への支援の仕方についての話がありました。サービスエリアなどで買物をするときの対応の仕方（レシートをもらう）やじっくり利用者が選ぶのを待ってくれている姿を見ると、私は安心して任せられると思いました。正直言って、昨年よりはお互いに慣れたからでしょうね。みづきの職員も利用者を懸命に見るのではなく、一回り外から見守ることができたように思います。このように続いていけば、職員が参加しなくとも実施できる、また新しい作業所の利用者の希望にも応えて参加者を増やしていくけるようになるのではないかでしょうか。

あと今回、皆さんと打ち解けることができた理由に石垣さんの大道芸があったと思います。バスの中や鋸山の山頂で見せてもらった大道芸はみんなで楽しめましたね。職員も一緒になってできたこともよかったです。ぜひ、みづきのお祭りでもその芸を披露していただきたいと思いました。

今回は大きなトラブルもなく、無事に行ってこられたと思います。途中観月台のひと班が利用者の遅れによって、到着がだいぶ遅れてしまいましたが、けが人がなかったことが一番だと思います。

今回は、昨年の願いもあって鋸山になりました。次回はどんなところになるでしょうか。山でしょうか、谷でしょうか、はたまたハイキングになるのでしょうか。いずれにしても、来年また新しい出会いを求めて、岳人あびこの皆さんと会える日を楽しみにしたいと思います。（家に帰ってからのビールはおいしかったなー。こんなおいしいビールは今度岳人あびこの皆さんと飲みたいなー。）

2003.10.14

ウィズハイク山行報告

鋸 山 (房総)

329m

ウィズハイク実行委員：CL 外崎、細野清、村松峯、斎藤、原田君、松本

期 日：平成15年9月27日（土） 日帰り 天候：晴れ グレード：A1

目的：①市内福祉作業所に通所する人たちとハイキングを通じて交流を持つ。

②日本寺の大仏と百尺観音、千五百羅漢、県指定の名勝を堪能。

山行形式：市の福祉バス利用（45人乗り 補助席含む）

参加者：41名（会員24名 みづき通所者13名 みづき職員4名）

班名	みづき参加者	職員	岳人あびこ				
			リーダー	会計	医薬	カメラ	記録
ロープウェイ班	内藤、土橋	井上	松本	高橋寿		斎藤	
日本寺1班	郡山、大槻、長沼	大久保	日下	長木	藤倉	原田和	
日本寺2班	竹田、中島、及川	菅	高橋英	品田	増田	小川誠	
観月台1班	斎藤、安藤、久野		柴	坂口	中村隆	田村	
				野村、細野省			
観月台2班	福井、山本	酒井	武内	柴田	石垣		
				遊戯：石垣、食担：清家			
日本寺本部			(食担) CL外崎、村松峯、原田君(会計)				

コース：往路 我孫子駅北口 7:30⇒成田街道8ヶ所停車⇒国道16号⇒穴川IC⇒市原SA 9:25/9:55⇒木更津南IC⇒国道127号⇒鋸山裏登山道入口 10:45（観月台1,2班下車）⇒ロープウェイ入口 10:49（ロープウェイ班下車）⇒バス駐車場 11:13（残り全員、日本寺1、2班下車）

帰路 駐車場 14:25発（日本寺下山コース組乗車）⇒ロープウェイ入口 14:40（ロープウェイ組乗車、全員そろう）⇒市原SA 15:40/16:16⇒千葉北IC⇒新木 17:38⇒要所停



車⇒我孫子駅 18:15

家族に見送られて（我孫子駅北口）

ロープウェイコース：ロープウェイ乗場 11:00→ロープウェイ山頂駅 11:05→西口管理所 11:10/11:15→ロープウェイ展望台 11:45・11:50→百尺観音→山頂展望 12:00→地獄のぞき 12:10→展望台 12:30/13:30（昼食）→西口管理所→ロープウェイ乗場 14:00/14:25→ロープウェイ下車 14:30→ロープウェイ入口（バス乗車）14:35

- メモ：①胸に黄色のひよこバッジをつけたメンバーは車中でも隣り合わせの席、みずきの人たちとは2度目の顔を合わせだが覚えているかな！？の心配は飛んでしまった。彼ら彼女の目線に引きずられて“ワイがや”に加えてもらった。おかげでにぎやかな車中！
②ロープウェイ班6名は切符売り場へ、障害者手帳を1名忘れて持参せず、会計の高橋（寿）さん売り場の若い子と交渉の結果、認めてくれる。しばらく振りの天候のためか乗客が22名満員で発車する。
③ロープウェイ展望台への階段に時間をかけ東京湾の展望にそれぞれの感動を写真にと。
④西口管理所では混乱もなくスムーズに通過。木々の合間の道は涼しく歩みが進む。百尺観音の大きさに大きな口を開けて驚いていた。
⑤山頂展望台の登り道には全員一汗かいたようです。昼食の”すいとん”、おいしい、おいしい！とおかわりを全員してくれました。
⑥ロープウェイ希望者が8名増え計14名での下山、ロープウェイ展望台から展望を味わい、混雑の中トイレタイムに時間を要する。事故もなく車中の人となりました。

（斎藤）



百尺観音（ロープウェイ班）



山頂へ（ロープウェイ班）

浜金谷側から観月台コース：登山口 11:00→観月台 11:16→採石場跡へ（1班のみ）12:05→分岐点

12:25→北口管理所 12:40→頂上1班 13:00・2班 12:50/（昼食）13:42→大仏 14:10
→トイレ休憩→駐車場 14:20/14:25

メ モ：観月台コース

*朝から晴天に恵まれ、文句なしのハイキング日和となる。

*登山口から階段をしばらく登ると観月台に出る。天気はよかつたが、残念なことに富士山も見ることはできなかった。真っ赤な彼岸花きれいに咲いていた。

*観月台からは少し下り、石段の登りとなる。石段には苔がたくさん生えていて滑りやすいが、手すりが付けてあり安心である。

*管理所を入りすぐ百尺観音の前で記念写真を撮る。

*途中標識を間違え、採石場跡を行ってしまい、頂上につくのが遅れてしまった。

*下山は皆といっしょに、千五百羅漢・日本一の大仏を見ながら駐車場まで下る。

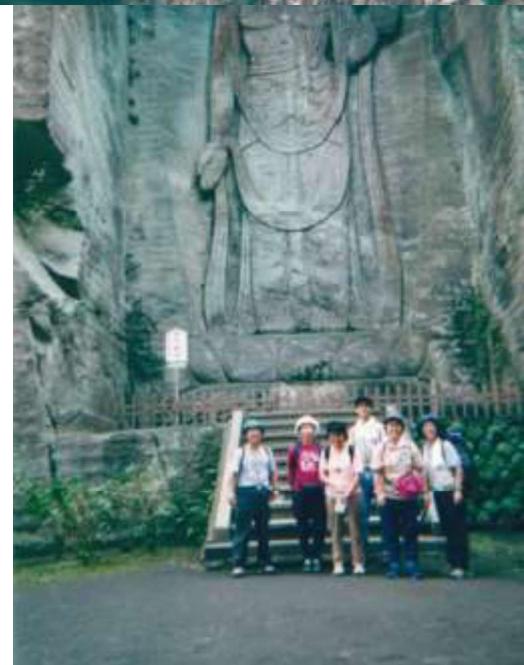
（田村）

石段の登りも楽しい（観月台2班）

百尺観音

観月台1班

日本一の大仏

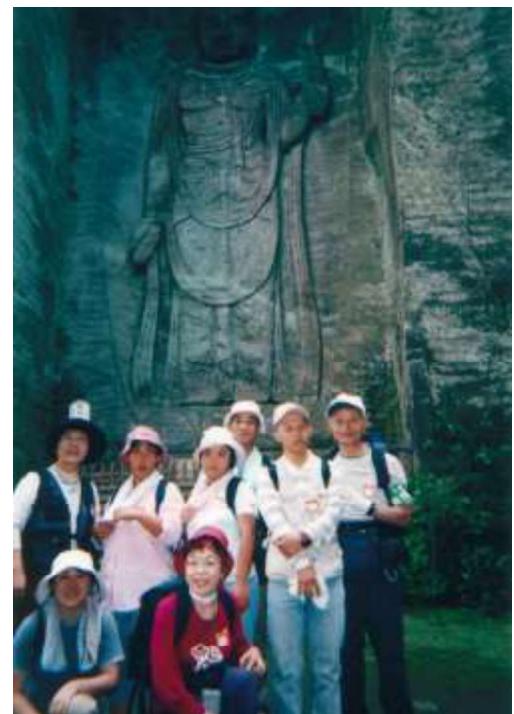
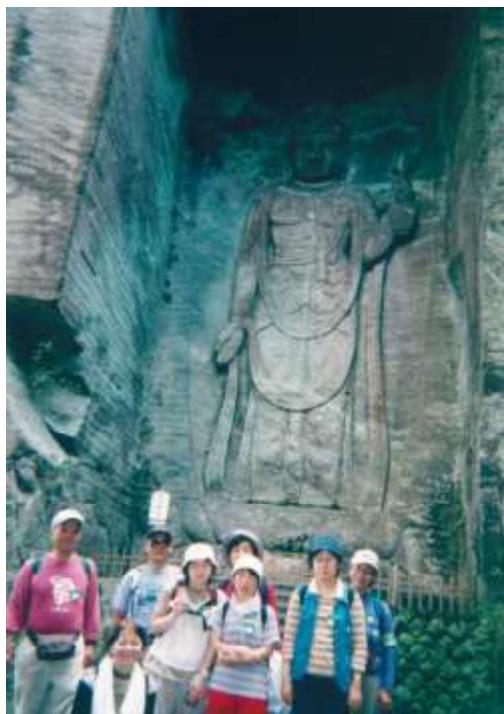


保田側から日本寺コース（表参道）バス駐車場 13：15→東口管理所 11：20→トイレ休憩 11：30

→大仏→百尺観音 12：00→頂上 12：10→昼食開始 12：30／下山開始 13：40→バス駐車場 14：20

- メ モ：①バス中みなぎる若者のエネルギー（そう、岳人あびこのメンバーの若さも）。
②石垣さんの大道芸に感嘆。揺れる狭いバスの中でボール4個のジャグリング、皿回しなど。
③鋸山は山全体が1,300年の歴史の日本寺。奈良の大仏より大きい石の大仏、世界一の数の羅漢、立派な石の階段。石切場跡の百尺観音、断崖になった壁の上の地獄覗き、東京湾、房総を一望に快晴。
④ウィズハイクはストックやザイルで引っ張ってあげたり、押してあげたりして登るのかと思いきや、皆さん健脚揃い。竹田さんがゆっくりの歩調で階段を一段一段登っていたとき、菅さんが「竹田さんに追い越されちゃった、急ぎましょう」言ったとたんに竹田さんの歩調が打って変わって早くなり、一気に階段をさっさと上がって行った。考えてみれば若者集団。こちらが引っ張られそう。帰りはロープウェイに乗りたいと好奇心旺盛。
⑤頂上のすいとんはおいしかった。お代わりを頂きました。
⑥石垣さんの大道芸が昼食会場でも拍手喝采。武内さんが帽子を持って回る一幕も。
⑦皿回しなどに挑戦する人多数。見て思うほど簡単ではないことがよくわかりました。
⑧みずき皆さんからお菓子を頂いて、優しい心遣いを頂きました。
⑨来年も元気で再会したいものだ。（小川誠）

百尺観音
日本寺1班



百尺観音
日本寺2班



集合



觀月台2班

元気に



下山



ウイズハイク

名前
内藤
智一
マ

のさざり山を
のぼつたり
おりたりした
たへんさんちた
山の上で
けしきかみく
みえたり
おへんとう
とんじるうおしかつた
つかれたり
たのしかつたです。

ウイスハイク

名前
郡山直子

27日の土曜日は「ザンショウ」
行きました。バスに乗って休む
じきしました。ソフトクリー
ムを食べました。ドリンクをや
りました。グレー・ソースを
飲みました。汁一杯をきました。
風食をとりました。めでタイ
リました。日本食をとりました。
バスに乗りました。休みました。
しました。ホットミルクを飲
みました。土産を見ました。
又行きたないです。

鋸山の ウィズハイク

名前 大根 悠子

名前 長沼由美子

乗じかた車

バスのりで、みんながわあーとびしましてました。

海をみてきれいでした。休憩サービス とりました。

バスは、グリップわかれで班ごとで一緒にバスのりました。

「日本寺」の大きい大仏をまきみました。
はじめてみてよかったです。

「大仏さま」 たくさん みました。かいだんいよいよいきました
歩きました。

下に、しきものひいてから班ごと でお弁当をたべて

岳人あびこの「サーカスのようだもの」つまかったです。

ロープウェイにのってから景色をみてすみました。
私、こわかったです。

岳人あびこ。みすきにおつかれ様でした。

ありがとうございました。

バスがでかいじやたびす

たのしきかたです。

としすみおりしきかたです。

マイスワリームのママニタ・ あせやけかひました。

ウィズハイク、良い天気に恵まれ、
樂一り一日を過ごす事が出来たもうすぐ
スローペースのゆ美子、朝5時起床、
目をパキリとあけ、ムツツ。起きあーたの
には、かじろをして、帰り、バスの中に
かじりかれた時は、心臓、ドキドキしたメー
ほんとうにありふとう ござりますでした。

長沼由美子

安藤正哉

名前

バスでの「ギリ」に
きました。コトヒーをのす
ました。たのしかったです。

名前
久野隆平

の「ギリ」がまたいく

いたの

バスでの「ギリ」に
きました。コトヒーをのす
ました。たのしかったです。
おにぎりをたくさんもらひ
ました。おにぎりをたくさん
もらひました。これがまた
ウマいとおもいました。

バスのこたま
たのしかった
かいだんのぼった
あにぎりととんじるたべた
じゆすかつた
てつわんあヒモのウツギー
かつた
さかいさんいっしょにある
いたの

ウイズハイク 鋸山(二)

名前 山本洋子

ウイズハイクに参加して

みずき職員 菅 幸子

私は、我孫子市のバスにのりました。行く時は鋸山を登りました。日本寺を見てきました。地獄のぞきを行ってきました。昼食はのり巻きを全部残さず食べました。下り坂を登つてきました。百尺観音と日本寺北口管理所を立ち飲み物でさうしんびらんどボカラリストアを買いました。おせせばど鉢巻アートのあかしと加トちゃんのキーholeルーム買つきました。とても楽しいかったです。

四月にみずきの職員になってから、利用者と共にいろいろな体験をしてきましたが、山登りは今回が初めてでした。私自身、鋸山に登つたことがなかったので、利用者が最後まで頑張れるか?という思いはありましたが、そんな心配をよそに、早い足どりで、山頂に到着。天気がよかつたので、すばらしい見晴らしに歓声をあげていて、とてもよかつたと思います。また、お昼の大道芸、帰りのバスの中のなぞなぞも楽しめたと思います。

今度は違うところで、他の利用者も参加できるといいなと思いました。

<344>

荒島岳 (1,523m)

能郷白山 (1,617m)

細野省二

巨大な熊のウンコ発見

<1日目>

前夜、東京駅発北陸夜行バス（青春ドリーム号）に揺られ一路福井に向かう。

リクライニングがよく効いて程ほどに眠れた。車窓から白みはじめた風景に目をやると、なんだか遠い昔見たような懐かしい風景がひろがっていた。

朝、レンタカーの営業所の開店前に朝食を済ませる。同行の斎藤さんたちは、福井駅に到着したらカニのたっぷり入った弁当に決めていた。何にしようかと迷っている私たち夫婦を尻目に、もう日本海弁当にぱくついていた。弁当を早々に食べ終えた大串秀雄さんがレンタカーの手配に走ってくれた。

登山口がいま一つ判らず、車で同じところを何度もグルグル回ってしまうが、10：00頃ようやく中出コース登山口に到着。

深田久弥のふるさとの山「荒島岳」は、福井県大野盆地の南東にそびえる独立峰で地元では大野富士と呼ばれ、古くから信仰の山として、あがめられ山頂には荒島神社の祠があるという。360度の展望が広がり、白山岳・北アルプスの山岳や大野盆地・日本海まで望めることそれを楽しみに足で距離を稼ぐ。

紅葉は下の方はまだまだ緑が多く、だんだん標高を稼いでいくにつれ色濃くなる上層部は今まさにさかりであった。

紅葉は朝晩の冷え込みの関係か、東北の山々の紅葉に比し、色がいまいちのような気がする。大朝日岳の紅葉とどうしても比べてしまうからかも知れない。

前衛の小荒島岳によく到着。荒島岳を見ながら昼食にする。

バテかけていた清子さんもおなかに食べ物が入って元気になる。荒島岳をバックに全員笑顔の記念写真。

ここから頂上が良く見える。さあ！頂を目指して出発！



熊が出る荒島岳

シャクナゲ平から頂上までの長いこと。頂きが見えているだけに、なお遠く感じるのか1時間が、倍にも3倍にも感じられた。

途中登山道の真ん中に大きな排泄物。どうもこの大きさは熊のウンコと言うことになり、冬眠前の熊の餌食になってはと、ワザと大きな音を立てて歩くことにする。ストックで石をたたいてみたり、大声で話をしたり歌を唄ったり…忙しい!!



山道にウンチあり
木の葉の大きさと比べてみてください

疲れも吹っ飛ぶ大展望

ようやく頂上に到着。反射盤があるのはわかっていたもののやっぱり見るとがっくり。

しかしそのうしろには360度の大パノラマ。御岳山・白山岳を初め槍ヶ岳・穂高岳など北アルプスの山々がずらりと勢ぞろい。今までの苦労もどこへやら。カンゲキカンゲキ。

しばらく大展望に酔いしれる。もう少しこの大パノラマを堪能したいところだが、今日のテントもまだ決まってないので、あんまりゆっくりもできない。

レンタカーを下においてあるので、下りは同じ道をピストンになる。

どこの山も下りは早いが、あれよあれよと言う間に小荒島岳。そして段々頂上が小さくなりやがて見えなくなつた。



小荒島の頂上で荒島岳をバックに

レンタカーの待つ下山口に到着したのは4時30分。もう少しで到着というところで清子さんのひざがいたくなりペースダウン。

一足先に降りてレンタカーの方向転換がすんだところで全員がそろい車に乗り込みテント場へ向かう。

テント場は2ヶ所あった。畑の真ん中にあるテント場への道は、狭い道や細い橋を何度も切り返し通る上に、民家の庭の中を横切るような感じで判りづらく断念する。

地元の人聞くとスキー場が良いと教えてくれた。おいしい水を確保し、勝原スキー場の方にテントをはる。

清潔トイレ・照明付で快適な宿となる。しかし、水はトイレの水を使用らしい。夕飯は越前大野の町へ再度出かけ済ませる。

テント場に再びもどったころは、空には星がキラキラと輝きすばらしい夜空だった。

<2日目>

県下でも数少ない

1等三角点の山

テントをたたんでいると、荒島岳に登るツアーカーがぞろぞろとバスから降りてくる。スキー場からの登山者だ。

今朝は天気はいまいち。気の毒に今日は展望は無いだろう。

今日の予定の山。能郷白山へは岐阜県の樽見側から登る予定であったが、バス道は落石が多くその先も通行止めのため、福井県側より温見峠に行き登頂することになる。

しかし、この道も狭くおまけにガスがかかり見通しが悪い(運転の秀雄さんに感謝)やっと広い道路に出たところが温見峠。

ここにレンタカーを止めておく。以前登ったことがある人が、この先樽見までのルート157号はもっと厳しい道だと教えてくれた。

能郷白山は、昨日登った荒島岳より高く資料によると、福井県内では数少ない1等三角点の山の一つでシーズンにはニッコウキスゲやシモツケソウなど高山植物の群生地であり展望もすこぶるよいらしい。

しかし、きょうは花も展望も期待できない。霧雨が降ってきた。いきなりの急登。しかし、登山口から自然林が続き、なかなかいい感じである。

登山路は福井・岐阜県の県境を忠実にたどっている。木とロープを頼りながら高度を稼いでいく。

1429mピークを過ぎると、穏やかな登りとなる。山頂はこの後3つ先のピークだが、この先はなだらかな尾根が頂上まで

続く。正面に山頂を示す標識が見えてきた。

これが能郷白山の頂上で、岐阜県側に少し下り、5分ほど行くと祠がある。熊野白山権現社が祀られていた。晴れていればどちらのピークも見晴らしが良いらしいが、今日は何も見えない。写真をとってもらいすぐ下山する。帰りは往路を引返す。

下山後、越前大野の町に出て、ひとときわ高くそびえる大野城を見学し、弁当を食べる。その後車中から町中を少し散策する。越前大野の町は小京都と呼ばれるだけあって情緒たっぷり。時間があまり取れず残念。

2日間お風呂に入っていないので温泉を目指してひた走る。

途中平成の湯があったが、素通りし岐阜市を越え、大垣市にある池田温泉までひた走ること?時間。

ラッシュに加えやたらと車が多くノロノロ運転。やつとついた頃にはあたり一面真っ暗であった。

時間を掛けて走っただけあってなかなか良いお湯であった。

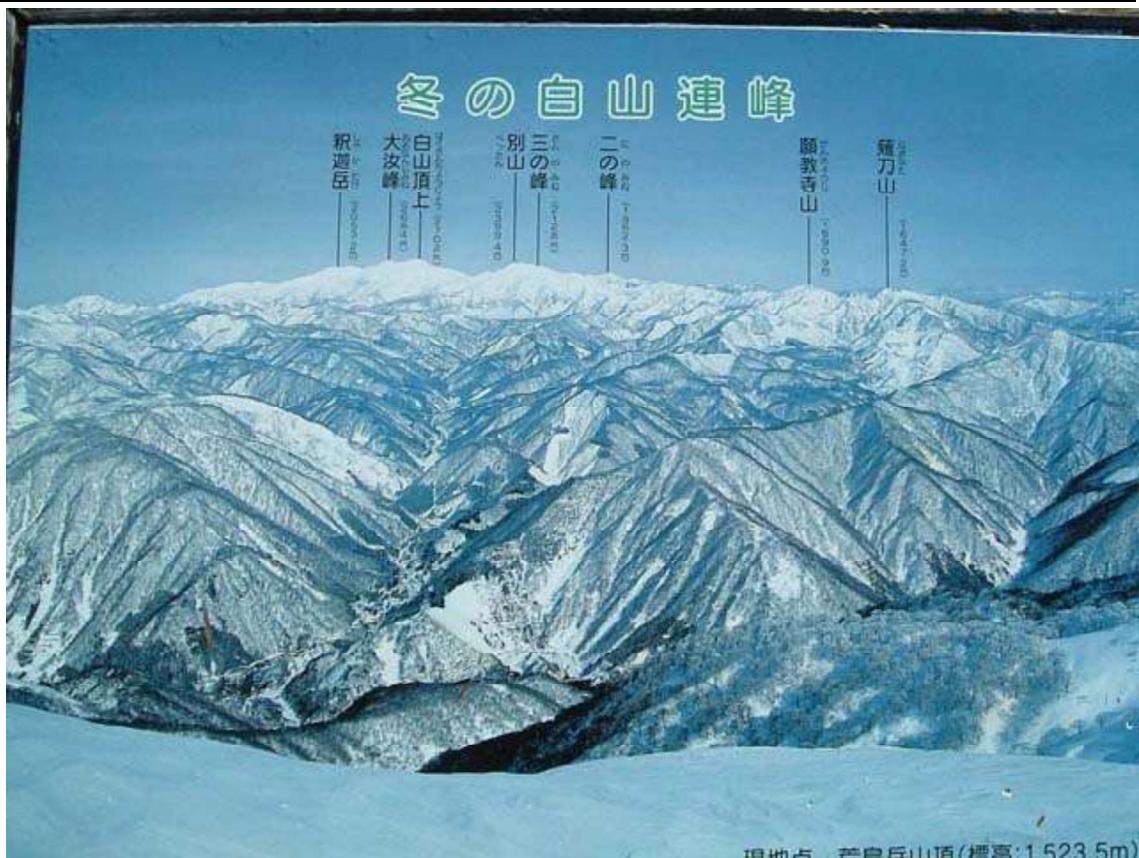
大垣からレンタカーの返却地の岐阜駅までひた戻る。混んでない道を地元の人聞いて走ったので戻りは近かった。

店員不在でレンタカー返却に、手間取った割りにはしっかり遅い夕飯を食べまたまた夜行バスに揺られて岐路につく。

乗り物に乗っている時間が多かった山行であったが、満足、満足。

ほとんどの運転をして下さった、大串夫妻に感謝。

山名	荒島岳・能郷白山岳（奥越）						
地形図	1/2万5千 荒島岳・能郷白山						
月日	2003年10月10日夜～13日朝						
目的	深田久弥の惚れた山						
費用	23,300円						
交通	夜行バス・レンタカー						
行程コース	<table border="1"> <tr> <td>1 日 目</td><td>我孫子 22:10—JR 夜行バス（青春ドリーム号）東京八重洲口発 23:20 発＝福井駅 7:40/8:50＝レンタカーに…（中出コース）中休 10:10/10:25 小荒島岳 12:25/12:45…シャクナゲ平 13:05…荒島岳 14:05/14:20…シャクナゲ平…小荒島岳 15:20…下山口…16:35＝勝原スキー場 17:20 [テント泊]</td></tr> <tr> <td>2 日 目</td><td>テン場 5:45…温見峠…7:35/7:50…能郷白山 9:50/10…温見峠 11:20＝越前大野＝岐阜＝大垣＝池田温泉＝岐阜 20:30 [夜行バス 22:00 発]</td></tr> <tr> <td>3 日 目</td><td>東京駅着 6:00</td></tr> </table>	1 日 目	我孫子 22:10—JR 夜行バス（青春ドリーム号）東京八重洲口発 23:20 発＝福井駅 7:40/8:50＝レンタカーに…（中出コース）中休 10:10/10:25 小荒島岳 12:25/12:45…シャクナゲ平 13:05…荒島岳 14:05/14:20…シャクナゲ平…小荒島岳 15:20…下山口…16:35＝勝原スキー場 17:20 [テント泊]	2 日 目	テン場 5:45…温見峠…7:35/7:50…能郷白山 9:50/10…温見峠 11:20＝越前大野＝岐阜＝大垣＝池田温泉＝岐阜 20:30 [夜行バス 22:00 発]	3 日 目	東京駅着 6:00
1 日 目	我孫子 22:10—JR 夜行バス（青春ドリーム号）東京八重洲口発 23:20 発＝福井駅 7:40/8:50＝レンタカーに…（中出コース）中休 10:10/10:25 小荒島岳 12:25/12:45…シャクナゲ平 13:05…荒島岳 14:05/14:20…シャクナゲ平…小荒島岳 15:20…下山口…16:35＝勝原スキー場 17:20 [テント泊]						
2 日 目	テン場 5:45…温見峠…7:35/7:50…能郷白山 9:50/10…温見峠 11:20＝越前大野＝岐阜＝大垣＝池田温泉＝岐阜 20:30 [夜行バス 22:00 発]						
3 日 目	東京駅着 6:00						
参加者	L 細野（省）、SL 大串（秀）、細野清、大串恵、斎藤、榊原						



<345>

至仏山・笠ヶ岳

(2228m) (2057m)

品田千恵子

「日本百名山」「花の百名山」の山と 静寂な山

1日目 10月11日(土) 曇り時々晴

上毛高原で登山客が一斉に降り、尾瀬戸倉行きバス停にダッシュする。2時間余りのバスの長旅は立ち通しの新幹線とは違い、全員席に座ることができたが、シーズン中は混み合う。戸倉から鳩待峠行きバスに乗り換え、10時35分に到着。今晩宿泊予定の鳩待山荘に荷物を預け、山の鼻散策へと向かう。紅葉シーズン中でもあったのでハイカーが多く、ゆっくり紅葉を楽しむ余裕はなかった。山の鼻を過ぎ木道を外れたベンチで、草紅葉を見ながら30分の昼食タイムとなる。暖かいコーヒーを飲みながら、明日登る予定の至仏山と、いつか登ってみたい名峰燧ヶ岳を交互に見る。その後、竜宮小屋に向かって進み竜宮十文字を左に折れ、運命のヨッピ橋に13時45分に到着する。この10分の休憩時間で、「やまなみ」担当になってしまった。ヨッピ橋ならぬビックリ橋となる。牛首を過ぎ山の鼻でトイレ休憩をとり、16時過ぎに山荘に着く。明朝早いので、朝食はおにぎりをたのんだとのこと。明日の予定を聞いた鳩待山荘の主人が、一日で至仏山と笠ヶ岳の二つを山行す

るのは、あまり聞かないとのこと。それだけ、難しいコースなのかな?と思う。明日の天気を心配しつつピールで乾杯!荷物の整理をして19時消灯。

2日目 10月12日(日) 雨のち曇り

窓際に眠っていた私の耳に、昨夜9時頃からポツポツと屋根を打つ雨音が聞こえてきた。しだいに強くなり朝4時頃になっても雨の勢いが衰えず、登山中止か、それとも至仏山だけにするか話し合いが続く。ラジオの予報を聞きながら、登山の支度だけは済ませる。午後はあがるとの予報を信じ、外崎リーダーは、「予定を変更して笠ヶ岳を先に登り、様子をみて至仏山に登りましょう」と、メンバーに告げる。5時25分、完全防備の雨スタイルで出発する。ヘッドランプを頼りに、昨夜来の雨で小さな川となった狭い登山道を注意しながら登り、オヤマ沢田代に出、笠ヶ岳への分岐に出る。この頃になると雨も小降りとなる。分岐からは雨でぬかるんだ悪路が続き、歩き方の悪い私の雨具は、両足の内側が泥を塗りつけたようになる。途中全く人と出会うことがなかった。早朝で雨の日のせいだろうか?

笠の斜面を平行移動していくと、ぼんやり笠ヶ岳の輪郭は見えるが直登の道はないらしく、大きく南側に回り込み、頂上直下の標高差50数メートルの滑りやすい岩稜地帯を登る。濡れていてほんとうに滑りやすく、何度か岩を抱きかかえるようになってしまった。8時54分登頂。小雨になったり止んだりで視界が悪く、水分補給と記念撮影のみ。外崎リーダーからの注意で、「ストックをたたみ、

下山時の安全を図るように」とのこと。みんな慎重に全員無事下りる。オヤマ沢田代へ戻る途中、中年男性2人のパーティーに出会った。その中の1人が、「この山だけは、おばさんは来ないと思ったのにな～」と言っていた。「どういう意味なんだろうね」とおばさん達。おばさんだけではない。ほとんど人がいなかった。至仏山への道に入った途端に人が多くなった。小至仏山目前の見晴台付近で1人不調を訴え、頭痛がすること。しばらく様子を見て落ち着いたのを確認し、付添の2人を残して至仏山を目指す。小至仏を越え、岩が滑りやすくなっているいくつかのピークに、今度こそ頂上かと騙されつつ、ようやく至仏山の頂上に着いたのが12時40分。

こちらの頂上は賑やかで、80名位の先客がいて笠ヶ岳とは対照的である。晴れていれば360度の大展望が楽しめたんだろうが、あいにくだった。15分の休憩をとり下山する。小至仏に戻った頃、

燧ヶ岳と尾瀬ヶ原をながめることができ感激する。

見晴台で3名と合流して鳩待峠に向かう。下山途中、右手後方にガスった中を登った笠ヶ岳がきれいなピラミッド型を見せていてくれた。何度も振り返り見る。



ピラミダルな笠ヶ岳

(鳩待峠への下山途中で)

朝登る時は見られなかった紅葉のトンネルをぬけ、15時30分に鳩待峠に到着した。最終の15時30分のバスに乗り遅れたが、今の時期は客が

定期に出発する戸倉行き
ことが出来た。

瀬戸倉温泉センターで入電車の時間もあるので休クシーに乗り、上毛高原経由で、我孫子駅到着は

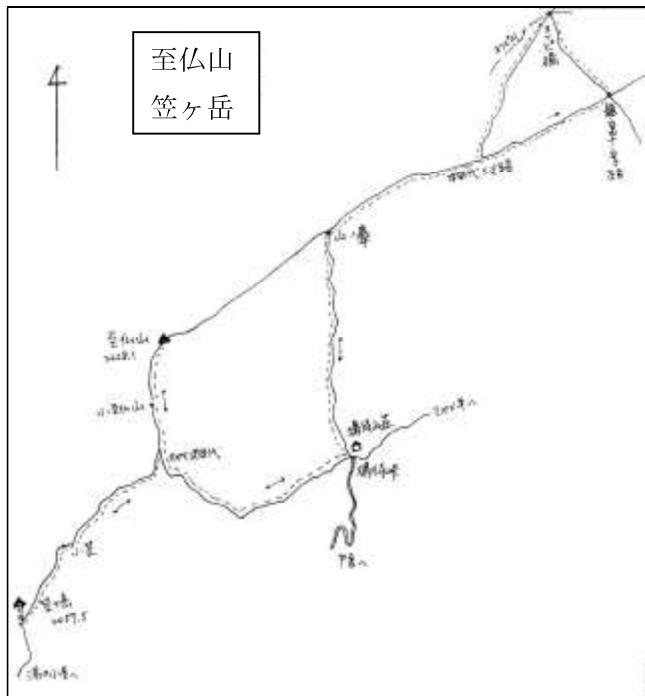


いくつかのピークにだまされて

至仏山あわせて10時間、
とすべる岩山、全体としては足元の良くないルートで大変で

したが、駅の売店で買ったものと残り物で、シンと静まり返った新幹線のホームで下山の無事を喜び合うのも、なかなか乙なものでした。

概念図



概要

山名	至仏山 笠ヶ岳(尾瀬)	山行形式	山莊1泊
期日	平成15年10月11日～12日		
目的	なかなか行けない山、笠ヶ岳と美しい尾瀬の秋を求めて		
地形図	1/25000 至仏山・藤原		
費用	25,000円		
交通	上越新幹線・バス		
日程コース	<p>11日</p> <p>我孫子駅 5:30→上野駅 6:04/6:46⇒上毛高原駅 7:55/8:05⇒戸倉 9:53/10:05 ⇒鳩待山莊 10:35/11:05→山の鼻 11:50 →尾瀬ヶ原休憩地 12:05/12:40→牛首 12:55→竜宮小屋 13:25→ヨッピ橋 13:45/13:55→牛首 14:30→山の鼻 15:00/15:10→鳩待山莊 16:05 (歩行時間: 5時間)</p> <p>12日</p> <p>鳩待山莊 5:25→笠ヶ岳分岐 7:00/7:05 →湯の小屋分岐 8:38→笠ヶ岳 8:54/9:10→笠ヶ岳分岐 11:12/11:18→見晴台 11:35/11:38→小至仏山 11:53→至仏山 12:40/12:55→小至仏山 13:35/13:45→見晴台 14:00/14:10→鳩待峠 15:30/15:45⇒戸倉 16:15⇒尾瀬戸倉温泉センター 16:25/17:20⇒上毛高原駅 18:45/19:30⇒上野駅 20:43/20:55⇒我孫子駅 21:31 (歩行時間: 10時間)</p>		
参加者	L外崎、柴田、小黒、原田君、品田、原田和、佐藤健、藤倉、佐藤明、田村 10名		

<346>

浅草岳・守門岳

(1585m) (1537m)

飯沼 トミ子

紅葉と秋の味覚—キノコに舌打ち—

1日目

浅草・守門岳は各々が単独峰だけに玄人が登る山と云われていますが、この度は、柴リーダーにより実行していただき、総勢22名の大部隊の山行になりました。上野から新幹線で浦佐まで、ローカル線に乗り換えて小出に着いたのは8時。マイクロバス2台とタクシーに分乗、登山口のネズモチ平に近づくにつれ、車窓から眺められる林道の紅葉は見事でした。駐車場には車が沢山駐車されており浅草岳の人気の高さが感じられた。

柴さんのブリーフィング、そして柴田さんの指導によるストレッチ体操をして準備万端。A班、B班に別れて登山開始。ブナの原生林の平坦な道を進むにつれ大き目の沢を渡渉した辺りから急勾配になった。一時間程して展望が一気に開け、翌日登る予定の守門岳が後方に大きくそびえていた。

登り出して2時間余り、前岳直下の草原に出る。草紅葉が美しい。A、B班共々ピークをまいて浅草岳頂上に達した。天気は良好、全員で記念撮影する。展望も良く守門岳を始め越後の山々や眼下の田子倉湖が素晴らしい。バンザイ！！

昼食後、嘉平ボッヂを経て桜ゾネに下った。ひどい悪路と見通しの悪い急坂との闘いが過ぎる頃、皇太子ご成婚記念の「浅草の鐘」に出た。ここが桜ゾネ登山口だ。大抵の下山者は、この林道を右折してネズモチ平に行くらしい。私達

は、藪もどきの道をムジナ沢へと足を進める。途中、樹木に書かれた赤ペンキに惑わされB班と別れてしまったが、流石に「岳人」のチームワークで無事軌道修正して音松荘近くの登山口に辿り着いた。想像していた以上に大変な山であった。その夜の民宿「才七」では、沢山の美味しいキノコ料理と新潟の「雪中梅」に酔いしれたのでした。いつの間にか、雨が降り出した模様で、翌日の行動にいささかの不安を感じた。

2日目

さあ、今日は守門岳です。心配していた昨夜からの雨が上がり、出発時は曇り空。天気予報は、「回復に向かう」との報じで、心強かった。予定より早く民宿のマイクロバスで登山口まで送って貰う。さあ、出発、足取りも軽やかに（？）....。

登山口からすぐ急登に急登。エデシと呼ばれる尾根に出た。尾根も急登の連続と小さな岩場があり、注意しながら約2時間（村松リーダーの足場の取り方指導の下で）。やがて、分岐点に着く。初めは霧がかかって何も見えなかつたが徐々に晴れ間も覗ける様になり、昨日登った浅草岳が遠方に、そしてこれから登る守門岳が眺められた。奥只見の紅葉も素晴らしかった。

分岐点から小鳥帽子岳を越え、頂上までは比較的に緩やかな尾根が続いた。辿り着いた頂上は広く、全員で記念撮影に臨んだ。そして昼食を取る。また、ガスがかかってきたので早めに下山することにした。点在しているナナカマドの赤い実が勇気を与えてくれる。下山路は両サイドに草紅葉を見ながら青雲岳に向かう。前夜の雨で、急坂の悪路には悩まされた。根っこが落ち葉に隠れてしまっていたりして、何人かの人が足を取られる始末だった。

滝見台です。あっ、滝だ！新鮮なマイナスイオンが届く様に美しい滝である。周囲の紅葉が一段と美しい。ホットしたのも束の間、また粘土質の滑りやすい下山道になる。両サイドの

木々や笹に助けられ下山が続く。護身清水に着いた。緊張して下山して来た為か、清水の何と美味しかったこと。さあ、「下山はあと一息だ」という声に励まされ歩を進めたのでした。

猿倉橋には予定より2時間近く早く着いた。柴リーダーの配慮により、タクシーの手配を早める調整をして頂き、待つ事30~40分にしてタクシーに分乗し柄尾のバス停まで。(複数のタクシーを利用する場合には、皆で割り勘にした方が。。。車によって料金が異なることがあるので。) 柄尾のバス停からバスで長岡駅へ向かった。長岡駅に到着後、会計の方の手腕により美味しい海鮮鍋を囲んでの反省会。皆見事に下山出来たことに「カンパイ」。柴リーダーに感謝いたします。また、村松リーダー部長のきめ細いアドバイスの賜物と深く感謝いたします。



浅草岳山頂全員集合



A班、バックは真っ赤な紅葉なのですが…



守門岳 B班

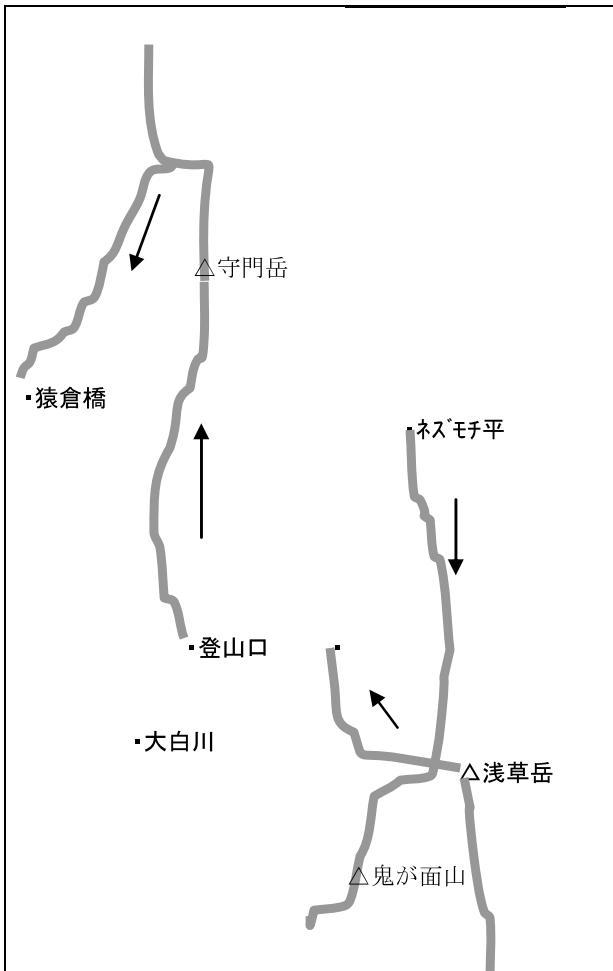


守門岳 A班



B班

概念図



概要

山名	浅草岳 守門岳	山域	越後
期日	平成15年10月18日～10月19日		
目的	天気 晴れ		
山行形式	民宿泊	グレード	2B
歩行時間	一日目： 6時間10分 二日目： 6時間30分	地形図 (25千図)	守門岳 田子倉
費用	30,000円	交通機関	JR、 タクシー
リーダー	柴	参加者数	22名

参加者	L柴、村松敏、柴田、SL外崎、大串恵、大串秀、大桃、小川、斎藤、榊原、中村隆、中村美、SL原田君、安田、高橋芳、飯沼、山本、高橋潔、佐藤健、佐藤明、大平、田村
1日目	我孫子5:30=上野6:05/6:11新幹線とき号(301)⇒浦佐7:39/7:47⇒小出7:57/8:10⇒タクシー⇒ネズモチ平分岐09:00/9:20～前岳11:38～浅草岳山頂12:00/12:40嘉平ポッヂ13:07～浅草の鐘14:14～ムジナ沢林道16:40/16:50送迎バス⇒民宿「才七」17:05着
日程コース	民宿「才七」朝食5:30/6:00⇒登山口6:15/6:25エデシ～1200m 8:20～分岐点守門岳と藤平山～(1540m) 9:10～守門岳山頂9:52/10:35昼食～青雲岳(1487m)10:55～大岳・二口分岐 11:20～オカバミ滝見台(1000m)12:38～護身清水13:50～猿倉橋14:20/15:30(タクシー)⇒柄尾道の駅15:37/16:10⇒柄尾バス停16:30⇒長岡駅17:10/18:43新幹線とき号(334)⇒上野駅20:22⇒我孫子駅21:25
ルート状況	① 一日目の下山路急勾配の坂道が暫く続き、落ち葉やその下の木の根でスリップしやすい。 ② 三合目を下ってまもなく 90 度曲がることになるが、真っ直ぐ進むと赤いペンキの印が有り間違いやすい。 ③ 二日目の下りは緩やかだが、粘土質で滑り易い。岩場のところで滑り易いところもある。 ④ 民宿才七の山菜料理とサービスは、最高TEL:02579-7-2242

< 347 >

大室山・加入道山

1587m 1418m

菊地 純江

平日山行、西丹沢の自然に どっぷりつかって……

今日は平日山行だ。人混みに出会わずにブナ林でゆっくり出来る……と電車に乗り込んだ。2時間半かけて新松田駅に到着。すでに小雨もあがり、青空が見えている。予約したタクシー2台に分乗した。まもなく前方正面に新雪をいたいたい霊峰富士が大きな姿で現れた。良い山行になりそうだ。

西丹沢自然教室を通過し、出合沢登山口で下車。各々準備体操をして、さあ、出発。まもなく鉄橋を渡り渓谷沿いに左岸、右岸を進む。水の音や水しぶきで実に爽やかだ。やがてひんやりとした杉林に入り、本格的な登りになる。樹林帯の中を登り、笹藪のトンネルを抜けると犬越路に着いた。避難小屋やベンチもあり見晴らしも良い、桧洞丸の紅葉は見頃だった。

休息後、避難小屋の前を通って急坂の尾根道を登る。待望の富士山が見られるはずなのに今の所姿を現してくれない。ブナ林の急登は続くが、ブナ林にこもれ日が差し込み、きつい登りを癒してくれた。今年のこの辺の山の紅葉は鮮やかにならず、黒ずんで縮れている葉も多いようだ。すでに新芽を吹いている木もあった。林床ではヤマトリカブトが青紫色の花を咲かせ、木の上にはマユミが可愛い実を沢山つけていた。なおも登りは続く、霧が激しく流れしていく、山頂が心配だ。犬越路から大室山の肩まで一気に500mの登りは丹沢でも1~2を争う稜線上の登りである。そこを1時間

45分かけてやっと登りきった。あと5~6分で山頂だ。



大室山頂上の昼食

山頂は樹が繁って展望はきかない、適當な広さがあり、先客が3人程いたが、ゆっくり静かに寛げた。リーダーが温かいお味噌汁をご馳走して下さり、身体が芯まで温まった。ガスが出て来てしまったので急いで出発した。みぞれも一寸降って来た。西の肩まで戻り、犬越路への道を左に分けてブナの自然林を下る。広大なブナ林だ。標高の高いこの辺は酸性霧に包まれやすいようで、立ち枯れの木があっちこっちで見られた。ブナ林保護の為、しっかりと木道が敷かれている。



大室山から加入道山に向かっての尾根道

ブナの幹は苔むし、はるかな時を刻んで静かにいきづいている。ガスっているのでとても幻想的だ。森の妖精がどこかに潜んでいるかのようにも

感じた。ここでゆっくりしたかった……でも、下りの途中だったので皆の足どりは早い。仕方なく私も従った。破風口を底にして登り返して30分程度で加入道山に着いた。

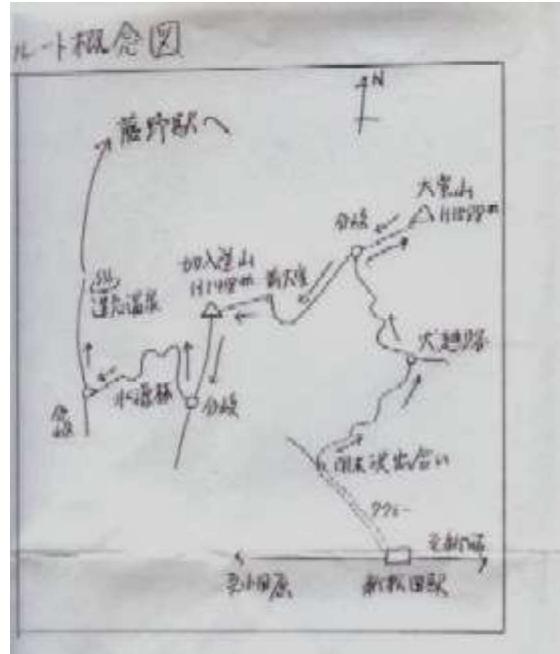


加入道山の頂上で集合

山頂の紅葉は終っていた。いつの間にか晴れ上がり、菜畑山等が木の間越しに見え隠れしていた。皆で記念写真を撮り出発。下山道は落葉のクッションのおかげで快く下れた。黄やオレンジの葉が緑と調和し美しかった。赤い葉に日が当り、眩しい程に木々の喜びが伝わって来た。快調に下り続ける。

道志への分岐は小さな古い道標で見落としてしまいそうだ。そこをしつかり右折して道幅も狭く、片側が崖になっている所やスパッとえぐられている所など危険な所が数箇所あった。枯れ葉が舞い散り秋のわびしさをかみしめながら、長い下りを確実に下った。

やっと穏やかな歩き易い道に出た。道志村だ。鹿の進入を防ぐ柵が設けられていた、若木の保護も丁寧になされていた。さすが横浜市水道局の山だ。山の管理の大変さを垣間見た感じがして水の尊さを痛感した。下山口に道志温泉がある。疲れた身体には何とも嬉しい。ゆっくりと心まで洗い清め、タクシーで藤野駅へ。皆の歩調も揃い素晴らしい山行でした。



概要

山名	大室山・加入道山	山行形式	日帰り
期日	平成15年10月23日(木) 曇り		
地形図	「大室山」「中川」1/2.5万		
山域	西丹沢	費用	約8500円
目的	紅葉と尾根のブナ林を楽しむ		
リーダー	原田(和)		
参加者	L原田和、大串秀、大串恵、菊地、日下、斎藤、s L安田、原田君、庄司、佐藤明 10名		
日程・コース	我孫子駅 5:30→北千住駅 6:02/6:06(千代田線)→代々木上原駅 6:42/6:43→新松田駅 7:56/8:05→(タクシー)→出会い沢登山口 8:53/9:05⇒犬越路 10:25⇒分岐 12:12⇒大室山山頂 12:18/13:00(昼食)⇒破風口 13:42⇒前大室山 14:00⇒加入道山 14:14⇒あづま屋休憩 15:24⇒道志温泉 16:00/17:10(入浴)→(タクシー)→藤野駅着 17:50/18:04→高尾駅 18:20→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅着 20:12 行動時間 6時間55分、歩行時間 5時間35分		

<348>

恵那山

2191m

高橋 潔

この山行は実に珍しく天候に恵まれた。今年参加した「大型山行」は、ほとんどすべて雨や霧といった悪天候にたたられ、いささか不満がたまっていたので、最後の大型でやっとすっきりしたといった感じである。



恵那山追分登山口



恵那山遠望、明日はあの山へ

新幹線を利用して名古屋経由で、中津川まで北上し、そこからタクシーで大桧仮駐車場という御神峠の少し下（追分登山口）まで入り込んだ。初日は時間的に少し厳しいことが予想されたこと也有って、石垣リーダーはのっけから急登のショートカットで小一時間短縮した。そのおかげもあって避難小屋に 11 名が無事納まって、持参した

テント装備は広げないですんだ（よそのグループ2組8名ほどが入りきれずテント泊となった）。先んずれば人を制す、とはこのことか？

天候に恵まれ、順調に山行を楽しんできたが、夜になってちょっとした異変(?)が起きた。食担のご苦労でおいしい食事をたっぷりといただいき、ウイスキーも入って、さて満足と寝袋に入ってウトウトしたところ、どこかのガード下に間違えて寝ているような気がして睡魔が消えた。近来まれに聞くかとも思える高らかないびきである。人間誰しも無意識の状況にまでは責任が負えないのだが、これははた迷惑そのもの。おそらく外のテント組にも聞こえただろう。



ぐっすり寝たから(?)

さア一気合を入れて出かけるぞ！



恵那山頂上にて 八百万の神に晴天を感謝する

翌朝はご来光を拝むもの、カメラを構えるもので忙しく、食事はその後となった。恵那山は山の頂上が平坦で長い特色があり、今朝まで後回しにした山頂を避難小屋から往復する形で下山が始まった。昨日登ったルートを下るのだが、方向を変えてみると意外に結構急なところがある。いくつかのアップダウンにかなりきつい太陽が合わさって、下山に汗をかくこととなった。昨日近道してカットした鳥越峠から御神峠までが下山では行程に加わった。大判山や御神峠近くの山頂は（＊の写真）360度の展望に恵まれ、快晴のもと紅葉の山々がまことにきれいであった。すぐ脇の御神山には下を中心自動車道恵那山トンネルがくぐっていて大きな排気煙突がある。



* 秋晴れのもと、雄大に構える恵那山

綿密な計画を立て、天気まで引き寄せた石垣リーダーのおかげで、きわめて順調に下山完了である。トンネル工事で発見されたという麓の中津川温泉施設へタクシーをつけ、汗を流してゆっくりと「反省会」を持った。中津川から塩尻へと出たが、この途中の車窓からは暮れゆく紅葉の山々をたっぷりと鑑賞させていただいた。まさにぴったりのいい時期を選んでいただいた。

石垣リーダーは、事前に綿密に下調べをして山行に臨んでおり、大いに参考となった。昨今下調べが不十分な山行がもとで、世間の迷惑を招く事態の少なくない中で、基本をきちんと実行する堅実さは高い評価に値すると思う。

山名	恵那山（中央アルプス）3B	
月日	平成15年10月25日（土）～26日（日） 避難小屋一泊（テント持参）	
地形図	1/25000 中津川	
目的	降雪前のテント泊の縦走	
費用	約30,000円	
行程	1 日 目 8.25/8.48 →中津川 10.0310.14 (タクシー) →追分登山口 10.50/11.05 発 … 鳥越峠 11.37/11.47…大判山 12.35/12.56 (昼食…稜線分岐 15.15/15.25…避 難小屋 15.50 日の入り (16.50) 快晴<歩行時間：4時間4分>	我孫子（発5.30）⇒東京（6.36発 ひかり301号自由席）⇒名古屋 10.50/11.05 発 … 鳥越峠 11.37/11.47…大判山 12.35/12.56 (昼食…稜線分岐 15.15/15.25…避 難小屋 15.50 日の入り (16.50) 快晴<歩行時間：4時間4分>
コ ス	2 日 目 7.10/7.20…避難小屋 7.30/7.40… 稜線分岐 8.00…大判山 9.55/10.03 …鳥越峠 10.40 … 神坂峠 11.35/12.30 (昼食) (タクシー) → 中津川温泉 13.00/14.50 (タクシー) →中津川 15.20/15.47 (しなの23号 自由席) ⇒塩尻 17.05 発 (スーパーあ づさ12号指定席) ⇒(19:44着)新宿 ⇒我孫子(20:35着)	避難小屋(発7.00)…恵那山頂上 7.10/7.20…避難小屋 7.30/7.40… 稜線分岐 8.00…大判山 9.55/10.03 …鳥越峠 10.40 … 神坂峠 11.35/12.30 (昼食) (タクシー) → 中津川温泉 13.00/14.50 (タクシー) →中津川 15.20/15.47 (しなの23号 自由席) ⇒塩尻 17.05 発 (スーパーあ づさ12号指定席) ⇒(19:44着)新宿 ⇒我孫子(20:35着)
参加者	L石垣 外崎 sL高橋（英） 榎原 斎藤 大串（恵）大串（秀） 高橋（芳）箕輪 坂口 高橋（潔）	

<349>

白笹山～南月山（那須）

渡辺富美

研修（地図読み）

我孫子駅 5時40分、メンバー全員時間厳守、バスに乗車一路那須奥に向け出発、天気 晴れ

車中でCLより、地図の折り方、西偏線の引き方、コンパスの使用方法、地図読み山行テキスト配布等あり、地図読み山行の予習をしていただきました。

バスは8時50分頃、目的地の沼原に到着。

準備体操後、リーダーの紹やかな指導の下で、地図とコンパスで白笹山を確認し出発。

登山道は笹の生い茂った登りやすいナダラカな山道ではあったが、地図とにらめっこ歩行でもあった。

山頂は、笹に囲まれた展望の無い静かなピーク。記念撮影後、直下で地図上の名称(鞍部、等高線の見方)の説明を受け、次なる山へ出発。

白笹山からは幅広い尾根を下ると鞍部（標高の低い所）へ、そこから一気に斜面を登ると南月山山頂へ。

南月山山頂は、硝煙立ち昇らせる茶臼岳を手にとるように見ることができ、男鹿山群、そして遠くに高原山や日光連山の峰々も確かめられる好望所、あたりの裸地をはうハイマツの頂稜歩きの気分も最高だ。南月山で昼食…展望を楽しんだ後、地図を広げ山座同定の勉強をする。

風も強く寒さ増す中、また笹のある稜線上を歩き、だだっ広い日の出平へである。強風の中地図を押えて

現在地を確認する（ガスで視界がない時を想定しての地図読み）牛ヶ首～峰の茶屋跡迄のルートが確認できる。牛ヶ首から峰の茶屋跡間は茶臼岳の噴気孔が見られる所で硫化水素ガスの刺激臭が鼻をつく道、峰の茶屋跡で強風を避け避難小屋前で休憩後那須山麓県営駐車場まで下山。

板室温泉で汗を流し、予定通り20:15に我孫子着。

今回の地図読み山行…リーダーの親切な指導のおかげで少しはマスター出来たかな？？？
有難うございました。

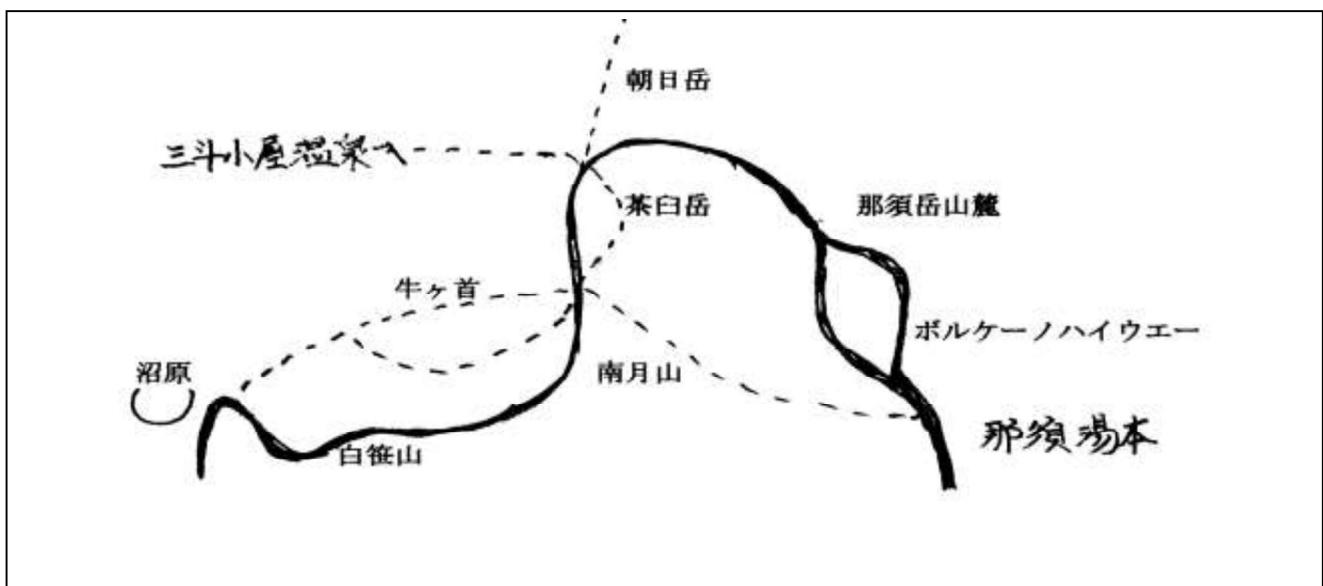
概要

山名	白笹山～南月山（那須連峰）
月日	平成15年10月26日（日）日帰り
地形図	1/25000 那須岳
目的	研修（地図読み）
費用	4,650円（貸切バス）
行程 コ ース	我孫子駅北口 5:40=東北道 6:25=上河内SA 7:25/45=西那須野IC 8:03=沼原 8:50/ 9:05-休憩 9:50/10:00-白笹山 10:45/55- 南月山 11:40/12:05-日の出平 12:40-牛ヶ首 12:55-峰の茶屋跡 13:30/45-那須山麓〔県営 駐車場 14:10=板室温泉 15:00/16:15=西都賀S A 18:00/15=我孫子駅北口 20:15 曇りのち晴<歩行時間：4時間>
参加者	C L 武内・細野省・長木・原田君・大桃・安田・品田・中村八・庄司・原・吉岡・飯沼・千葉・田村・永谷・藤倉・青山・渡辺 18名

那須連峰の主峰「茶臼岳」をバックに(南月山山頂にて)



那須岳 地図とコンパスで進行方向確認



< 350 >

酉谷山・天祖山

1718m 1723m

大串 秀雄

静かな山域の盟主酉谷山は以前から気になっていた山である。何故だろうか。多分、石尾根の峰々から眺めた、北側に聳えている端正な姿の酉谷山に魅せられたからだと思う。

5～6年も前であろうか、雲取山からその石尾根を下山し、奥多摩町のそば屋で反省会の折、入口に並んでいた一冊の本を買い求めた。地元の登山愛好家が著した「奥多摩わくわく登山＝堀口行雄著」という小冊子で、その中で、長沢背稜縦走コースが紹介されていた。いつかは登りたいと思っていた長沢背稜と、その主峰の酉谷山。今回の山行計画を知って、真っ先に手を挙げた。

一杯水避難小屋までは、奥多摩らしい明るい雑木林の中の登山道。今夜の宿には飲み水がないということで、鍛錬を兼ねて共同用水4㍑を担いできたこともあり、一汗二汗をかかされた。一杯水避難小屋の前はかなりの数のハイカーで賑わっていた。次月計画の川乗山山行で、この小屋泊を予定しているので、一応、建物内部の様子を確認して置いた。しっかりした設備で広さも十分、全く問題ないようだ。

昼食を済ませてから、酉谷山を目指す。ここからは奥多摩のメインストリートをはずれ、静かな登山道になったが、暫くするうちになんとなく違和感を覚え始めた。アップダウンがまったくなく、水平に造られた登山道がどこまでも続いている。多分、山林か送電線の管理用通路ではなかろうか。見晴らしがなく、距離だけがやけに長く感じる道である。歩き易いといえばそのとおりだが、登山道らしい変化のない道が、酉谷山避難小屋まで続いている。

地味な山域で交通も不便であることから、奥多摩の山としては人気が今ひとつ。この



パノラマ奥多摩連山

ため、静かな山を楽しむには、絶好なルートである。酉谷山避難小屋までは、行き交うハイカーも数少なく、時折望める、石尾根や奥多摩三山(高橋英さんの企画で、丁度1年前に縦走)の展望を楽しみながらの山道だった。



酉谷山避難小屋

避難小屋に到着して吃驚、満員の盛況だった。人気の観点から、奥多摩にある他の避難小屋とは比べ物にならないほどの小さな小屋で、10数人も入れればいっぱいになってしまう。

当夜は12人が小屋内泊で、2人が小屋脇でのテント泊となつた。

南側に広がる奥多摩の大展望をゆっくりと楽しみながら、夕食のひとときを過ごす。11月の山は冷え込む。フリースを羽織っても肌寒い。温かな鍋料理が身体いっぱいに染みわたった。

酔うほどに、山談義が始まる。今回は普段と一味違い、特異な山名が話題となった。最初は、歩きながら話の出た「アララギ山」で、白樺派、アララギ派などの短歌の世界と関係があるのではないか。そうであれば、我が我孫子にも満更、縁がないわけではない。次に「ツツドッケ」。長沢

背稜の雲取山側にも「芋ノ木ドッケ」があるが、「ドッケ」とは何ぞや。「西谷山」や「天祖山」も何か意味があるのではないか。

ここで、暫くは脇道に入るが、ご容赦いただきたい。「西谷山」の呼称は本来、多摩側でのもので、秩父側では「黒ドッケ」とも呼んでいる。「ドッケ」は古代朝鮮系の言葉で、山を意味するらしく、近くには、芋ノ木ドッケ、三ツドッケ等がある。また、西谷山は「天目山」の呼称も持つが、三ツドッケも同じく天目山と呼ばれる。たぶん昔は、この長沢背稜一帯を天目山と呼んでいたのかもしれない。なお、西谷山は南側の沢、西谷から名付けられたものである…と。

2日目の「アララギ山」「天祖山」も意味ありげである。アララギ山は、アララギ谷からの呼称らしい。アララギとはイチイの別名で、山頂から南側に切れ込むアララギ谷には、常緑高木のイチイが自生している。なお、寺院などの庭木に植えられている伽羅木(キャラボク)はイチイの変種…と。

天祖山は、大正時代、その頂上に天祖神社が祭られてから、今の呼称になった。以前は、立岩権現と崇められていた石灰石(白石)の巨岩峰に因み、白石山と呼ばれていた。昔からの信仰の山だったようだ。

ところで、多摩・日原(東京都)側と秩父(埼玉県)側との往来には、東西に長く横たわる長沢背稜を越えなければならない。昔から幾つかの山道はあったようだ。日原側から西谷を遡り、西谷峠を越えて、西谷山の山頂直下から秩父側に下る峠道もそのひとつ。中でも有名な道が鎌倉街道。町田から吉野・名栗を経て秩父へ続く道は、鎌倉古道「山の道」と呼ばれ、軍畠近くで多摩川を渡り、高水山の東側の榎峠、松ノ木峠、小沢峠を越えて棒ノ折山の東、名栗川側(飯能市側)へ通じていた。

因みに、高水山や雷電山への登山口でお馴染みの軍畠駅周辺は、戦国時代には交通の要衝だったらしい。多摩川に沿って甲州へ向う道と、長沢背

稜を越えて秩父に向かう道が交差するこの地を押さえるのは、戦国領主にとって重要だったようだ。雷電山からの尾根続きに辛垣城址があり、また、古戦場(三田氏と北条氏との辛垣合戦=1560年代)に由来した、軍畠、鎧塚、鎧橋などの地名も残されている。その昔、秩父から山越えてきた旅人は、御岳山が見え始めてホッとし、一本立てた場所であったかもしれない。

一方、甲州へ向う道は青梅街道で、多摩川上流の小河内で甲州街道に合流していた。この甲州街道は、五日市から檜原・浅間尾根の北側山麓を通り、三頭山と御前山の間を越えて、小河内で青梅街道に合流し、丹波山から大菩薩峠越えが本流。現在の中央本線に沿った道、小仏峠越えは往来の道ではあっても間道で、武将が軍用路として利用することは稀だったようだ。

さて、脇道からそろそろ本道に戻ろう。翌朝はまず、小屋から真上の西谷山山頂まで直登。ガイドブックには『西谷山は1700メートル超の立派な山容を持ちながら、しかし、不人気な山域の盟主にふさわしく、その頂は常に静けさを保っている。』と記されている。正にこのとおりで、立木が生い茂り展望も利かない山頂だった。石尾根から望んだ西谷山の雄姿と、今立っている展望の利かない山頂は、同じ山とは思えないほど。端正な雄姿も良し、静かな展望のない山頂もまた良し、念願の西谷山登頂に心から満足した。



西谷山山頂

アララギ山までは昨日と同様、等高線に沿った平坦な作業道らしき登山道が長く続いた。

芋の木ドッケ・雲取山方面との分岐点を左折し、天祖山への急坂、奥多摩に相応しい本物の山道を登る。山頂で一服。展望は今一ながら、秋の冷気が美味しい。山岳信仰の面影が残る、時代物の社殿が侘しい。

ここからは長い下降が待っていた。岩稜ありゴロゴロの石道あり、また急下降の難路ありで、緊張感が漲る。それでも、中腹から下では、山腹の紅葉を楽しみながら、予定どおり下山口に着いた。



山燃ゆる大谷川橋にて

バス停までの途上、子供の頃に遠足で訪れたことのある日原鍾乳洞の脇を通った。妙に懐かしい。最近は、歳のせいか、懐古趣味に浸ることが多くなったようだ。これからも山行を楽しみながら、老化の進行を遅らせたい。今回の山行は、体力的にもなかなかで、間違いなく肉体の老化が一時停車したように思う。また、山名談義で、脳を多少鍛えることができたかもしれない。なによりも、念願の山に登れた感動は、元気の現状維持に効果が大きい。おかげで、心身ともに十分満足した山行だった。リーダーはじめ同行各位には心から感謝申し上げたい。



概要

山名	西谷山・天祖山(奥多摩)
地形図	1/25000 武藏日原、雲取山
月 日	平成 15 年 11 月 2 日(日)～3 日(金)
目的	奥多摩最奥の山を訪ねる
費 用	4,500円 JR、バス
行程コース	<p>1 日 目</p> <p>我孫子発 5:33 ⇒ 立川 = 奥多摩 / 8:35 (バス) ⇒ 東日原バス停 8:55/9:15 → 一杯水避難小屋 11:50/12:15 (昼食) → 西谷山避難小屋 14:40 晴れ <歩行時間:5時間></p> <p>2 日 目</p> <p>西谷山避難小屋 6:35 → 西谷山 6:55/7:00 → 縦走路分岐 7:12 → 水松山肩 (天祖山と雲取山の分岐) 8:56/9:05 → 梯子坂のクビレ (お供所・日原方面への分岐) 9:27 → 天祖山 10:10/10:25 → 大日大神 11:33 → 八丁橋 12:30 → 大谷川橋 (日原鍾乳洞分岐) 12:58 → 東日原バス停 13:15/13:30 (バス) ⇒ 奥多摩駅 13:50/16:23 ⇒ 我孫子 19:00 晴れ <歩行時間:6時間></p>
参加者	L 高橋英、中村隆、大串恵、大串秀、斎藤、外崎、武内、 7名

<351>

荒船山

1423m

大畠清江

航空母艦は穩やかだった

“荒船山”その響きとその山容はいつか登ってみたい山だった。下仁田の西、長野県境に聳える独特な山、荒船山。南北約2キロ、東西400mの巨大な溶岩台地で平坦な山頂が続くその姿は世界的にも珍しいという。その山容が荒波をけって進む航空母艦のように見えることからついた名称という。

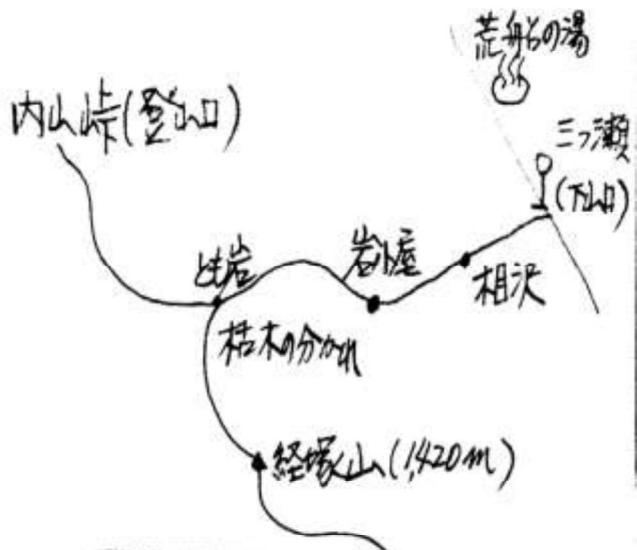
今年は雨にたたられた山行が多くたが本日もその例にもれず、登山口の内山峠に近づくにつれバスの窓ガラスにポツポツと雨つぶが当たり始めた。“あー、やっぱり雨かあ”と呟いてしまう。“しっとりと風情があって雨も又良し”などと強がりを口にしながら“やっぱり晴れの方がいいよ”と思う私だった。内山峠登山口には大きな駐車場があり大型バス1台が先着していた。40～50名のパーティーがすでに登り始めていた。

私達も雨具をつけすぐに後を追った。途中鎖場で少し渋滞したが1時間40分ほどでトモ岩に到着する。北方面が開けたトモ岩からは浅間山、妙義山、西上州の山々、そして直ぐ近くにはソフトクリームが美味しいという神津牧場などが見えるらしい。が、今日は“マサにガスだね”的世界。それでも恐る恐る覗き込んで見ると垂直にきれ落ちた絶壁に足が竦んでしまった。最近ではこの壁にも数本の岩登りルートが出来ているというから驚きだ。ここで先の40～50名のパーティーに先行して経塚山に向かう。ここからは荒船

山の頂稜部、約1kmのプロムナードである。本当に不思議である。ちょっとの登り下りもない真平な小路を快調にとばす。平地を散歩している気分である。

分岐から約10分ほどの急登で経塚山に到着する。あまり広くはない穏やかな山頂だ。ここでも展望はないので早々に下山する。

トモ岩から相沢へはかなりの急下降でしかも一気に800mも下る。そこを先頭に行く我が会きっての最高齢日下さんが弾丸のごとくがんがんと下って行く。いつの間にか雨が上がっている。目の端にちらちらつと秋色を惜しみながら必死でついて行く。案の定後方から“早いよー”と声がかかる。お陰様で相沢には13時についてしまった。振り返るといつの間にかガスが晴れてトモ岩が姿を現していた。満足である。何はともあれトモ岩の雄姿が見られた！後はのんびり温泉だあー。





途中で霧があがるのでは、と内山峠を出発



荒船山山頂



360 度の展望を期待していたトモ岩だったが…。

概要

山名	荒船山（西上州）
地形図	軽井沢 妙義山 1/25,000
月日	平成15年11月9日（日）日帰り
目的	航空母艦のような特異な山に立つ
費用	約4800円（貸しきりバス利用）
行程 ・ コース	我孫子 5:30 ⇒ 内山峠 8:15 / 8:35 ⇒ トモ岩 10:15 / 10:25 → 荒船山（経塚山） 11:00 / 11:05 ⇒ トモ岩 11:35 ⇒ 相沢 13:00 ⇒ 荒船の湯 15:00 ⇒ 我孫子 17:50 <歩行時間 3時間50分>
参加者	L 柳原、斎藤、大串秀、日下、大串恵、 原田君、安田、高橋芳、大畠、小川誠、 高橋潔、田村

<352>

戸倉二山～生藤山

(842m・795m・990m)

佐藤明子



山行前日の天気予報は曇りのち雨。秘かに期待していた中止の連絡は入らず、当日はどんよりと曇った空のもと、元郷の登山口より歩きはじめる。

檜林の急登を登りつめ明るい尾根筋にてた。テレビアンテナと反射板のある脇を通過し荷田

子への分岐となっているグミ尾根を見ながら臼杵山へと向かった。小さな祠の臼杵神社を通過し臼杵の山頂へ立つ。山頂は狭く、周囲に木立が立ち込め、落ち葉のこの時期なのに薄暗い。市道山へは急下降、急登を何度も繰り返した。



生藤山の山頂で

やせ尾根の檜林を通り、再び明るい雑木林を抜ける。笹平への分岐を経て市道山々頂に到着した。この山頂は臼杵山頂より広く心持明るい。

ここから醍醐峠に向かう下りはやせたザレ道で注意深く歩く。醍醐丸手前から、シトシト雨が降り始め、山頂に着いたときには本降りになってしまった。何時降ってくるかと心配しているより、すっかり雨になってしまったとかえって心が落ち着く。腹を据えて歩く決意が出てくるのである。ここから幾つもの上下を繰り返しながら尾根道を行くと、急な斜面を登りつめ連行峰に到着した。

後は稜線歩き。茅丸へ向かって歩いていたつもりが、巻道を通ってしまい反対側で登り口を発見。内心ヤッター。得した！と思った途端、責任感の強い千葉リーダーが山頂に向かって歩き出てしまった。イイノニナーと思いつつも



気迫に負け引っ張られるようひと登りで茅丸山頂へ。

続く生藤山頂も雨の中。展望なし。急な岩場を下り三国峠を通って下山するが、粘土質の土が雨に濡れてすべりやすくなっていた。杉の林の山道をジグザグに下り石楯神社前に着く。

今日だけで6つのピークを踏んだ。いくつのアップダウンを繰り返したのだろうか。雨の中なのに健脚揃いのメンバーのおかげで、小気味良い程足並みが揃ってコースタイムよりもかなり早く歩き通すことが出来た。

前夜からの心配は杞憂だった。山は登ったが勝ちナリ。

概 要

山名	戸倉二山・ 生藤山	山域	奥多摩
期日	平成15年11月9日 天気 曇り後雨		
目的	晩秋の静かな尾根歩き		
山行形式	日帰り	グレード	3B
歩行時間	6時間20分	地形図 (25千図)	五日市 与瀬
費用	6,300円	交通機関	電車 タクシー
参加者	L千葉、村松敏、外崎、中村隆、 原田和、武内、青山、佐藤明 8名		
行程 コ ース	我孫子駅 5:41—日暮里、新宿経由— 武蔵五日市 7:52—(タクシー)—元郷 8:30~テレビアンテナ 9:15~臼杵山頂 10:05/15~市道山頂 11:20/11:45 ~醍醐丸 12:53・13:05~連行峰 13:55 /14:05~茅丸 14:18~生藤山 14:35 /45~三国峠 14:50/55~林道出合 15:50~石楯尾神社 16:10—(タクシー) —上野原—我孫子 21:30		

< 353 >

日和田山・物見山

(305m) (375m)

日下芳十

神社下露岩上に立ち 袋形の巾着田を見下ろす

高麗川の左岸に穏やかな起伏を連ねる名郷峠をすぎると植林中の開けた山の尾根筋の末端に小さな峰頭を出しているのが日和田山だ。今日はあいにく曇りで高麗駅は『コマの岩場』に挑むクライマー男女5、6人のグループのみであった。

奥武藏のなかでもとりわけ低山域の丘陵

歩き。さしたる急登もなくのんびり歩けた。又、のどかな山上集落のたたずまい、歴史お伝える名所、旧跡、山里の伝説や風物などいつもと一味違った魅力ある山行であつた。

『台の高札場跡』『水天の碑』等見ながら巾着田横を通り登山道入口に着く。大きな石の鳥居をくぐり、正面の女坂を緩いジグザグの登り、ひと汗かくころ金比羅神社の台地に到着、銀色の鳥居越しに巾着田がその名の通りの形で見下ろせた。右手にマッチ箱を並べたような高麗武蔵台団地の住宅群と多峰主山の丘が箱庭のような眺め展望抜群だ。

神社裏をすこし登ればあっけなく日和田山の頂上だ。山頂は木立に囲まれ、中央に宝篋印塔と四等三角点がある。

山頂を北西に滑りやすい道を下る。美し



日和田山山頂

い植林の尾根道を歩けば、右上に巨大なNTT無線中継塔が立っている。そこが高指山。手前の芝生の広場からは、丹沢連山、奥多摩の大岳山、御前山、蕎麦粒山、近くは伊豆ヶ岳、武甲山などが眺め渡せる。車道をたどって5分も歩くと左手南斜面に農家が点在する。明るくのどかな雰囲気をただよわせている駒高の集落だ。右に東屋、トイレのあるところで昼食を取る。

茶屋（ふじみや）は現在改造中春には営業出来ることのこと、茶屋の先で再び山道に入る。物見山の山腹を左に巻くとヤセオネ峠の鞍部。峠から右上にひと登りすれば物見山だ。東方向がわずかに開けている。ここに山頂の標柱があるがこれは誤り。奥まった林の中に1等三角点標石が立ち、こちらが山頂、杉林の中で展望はない。

北向地蔵への尾根道を行く。西川材と呼ばれる杉、桧の植林や雑木が続く稜線漫歩となる。起伏の少ない快適な自然歩道を進めば北向地蔵を祭る峠だ。正式名は岩舟地蔵尊だ。植林のジグザグを下れば車道に出る。沢に沿った車道をのんびりゆくと左手に五条ノ滝があらわれる、7メートルほどの屈曲して落ちる滝が、尾根歩き降りてきた目には新鮮だ。最後にマイナスイオンを吸って疲れを癒して帰路に着く。

概要

山名	日和田山・物見山(奥武藏)
月日	平成15年11月15日(土)
目的	奥武藏の入口に位置する低山縦走
地形図	1/25000 飯能
費用	2,500円 JR、西武池袋線
行程	我孫子駅 5:30⇒池袋駅 6:40⇒高麗駅 8:00／8:10→登山道入口 8:30//8:40→金比羅神社 9:10→日和田山山頂 9:20/9:30～高指山 9:50
コス	→駒高の東屋(昼食)10:00/11:10→物見山山頂(一等三角点)11:20→北向地蔵 11:55→五常の滝 12:30 武藏横手駅 13:05/13:07 ⇒我孫子駅 15:01 着 解散
ス	曇りのち晴れ <歩行時間:3時間30分>
参加者	L日下、柴田、大串恵、大桃、斎藤、長木、原田君、渡辺、庄司、原田和田村、馬場(ゲスト) 12名



< 354 >

裏妙義

(1162m)

千葉有子

1日目 思いがけないバリエーションルート

裏妙義は表妙義にくらべ、むずかしくない。そう聞いていた。しかし、これはどうしたことだろう。行く手に立ちふさがる大岩を見ながら戸惑っていた。ここまで道はやさしいものではなかった。とても登山道とは呼べない急斜面を這うようによじ登った。多少出ている岩はぼろぼろと崩れやすい。つかまろうとする木は情けないほど細い。斜面の土は足を下ろすたびにずるずるとこぼれていく。

私達の下方を2人組みのパーティーが巻き道を探している。巻き道が見つかったらそつちに回ろうという声があがつた。しかしどうやってあそこまで下るのだ。登ってこそきたが、このあまりに脆い急斜面は下れるものではない。そのうち2人組はあきらめて登山口の方へ引き返していった。

さあ、大岩を登るしかない。柴さんが確保なしで登り、上で一人一人確保してくれる。柴さんの確保している場所も広くはなく不安定だ。大岩の先は剣先渡りで、上から木の枝が覆い被さる。なんとかそこを抜け出し、脆い斜面をトラバースして尾根の上に上がる。

あつ、道だ。なんだ、登山道がちゃんとあるじゃないか。おかしいと思った。麻苧の滝公園の大橋を渡り、正面の段状の道を上がらずにすぐ左に曲がったのが間違いだったようだ。右が沢沿いの道、左が尾根の道ということで左に曲がったが、どうも弁天様へ行くだけの道だったようだ。おそらく正しい分岐は段

状の道の先にあるのだろう。みんなに着いていく自信を無くしていただけに、正直ホッとした。

後は岩場を随所に味わいながら順調にザンゲ岩、御岳山頂を通過し、丁須の頭の分岐に着く。既に3時近かったので、丁須の頭は明日早立ちして楽しむことにして国民宿舎へと急いだ。倒木や大岩の散在する急な沢沿いの道を下る。長い鎖も出てきて、1日の最後まで岩を楽しめた。



予期しない閑門を登りきって

御岳山頂に到着

2日目 小気味のいいペース

宿舎で作ってもらったおむすびをリュックに入れ、6時過ぎに出発する。昨夜の話し合いで2日目は2班に分かれることになった。三方境までのA班は柴さんリーダーの3名。谷急山まで足を伸ばすB班は英雄さんをリーダーとする6名。

昨日長く感じた丁須の頭までの道は、登ると意外に



丁須の頭

短かった。丁須の頭を1段、2段、3段目まで何とか登る。風が強い。岩につかまりながら写真を撮るために移動する。吹き飛ばされそうな力を受ける。

谷急山までの先の長さも考え、丁須の頭のてっぺんを征服するのは断念する。後で聞くと、柴さんはあの強風の中登ったそうだ。さすが柴さん。風がなくても、オーバーハングした最後の詰めは大変だったんだろう。



丁須の頭を登る柴さん(A班)

丁須の頭を後にして行くとすぐ、ほぼ垂直の長いルンゼが左手に見えた。「うわーっ、怖そう」と、ひとごと他人事のように思ったが、なんとここを下るのだ。そう言えばガイドブックに「最大の難所として長いルンゼを下る」と書いてあった。いつものように岩への恐怖心がむくむくと湧きあがりそうになる。それを必死



三方境までの岩場のトラバース

で抑える。怖がっていては先へ進めない。1人、2人、3人とスムーズに下り、(有賀さんが速い!)私の番。鎖を手に取り深呼吸。両側の岩がごつごつしていて、足場がふんだんにあり思ったほどむずかしくない。鎖がかえってじやまなくらいだ。鎖にこだわりすぎてスタンスを選べない。下の方でもたもたしてしまった。下の3人が涼しい顔で見ている。

三方境までの岩場のトラバースは、しっかりと鎖と人工の足場が取り付けられていて何の心配もなかった。

三方境から谷急山までは7つのピークを登り下りする、とガイドブックの知識を確認しあって進む。しかし数えていると7つばかりではない。しかも急で木の根、落ち葉、岩、滑りやすい土、と障害が多い。それでも先頭の青山さんのペースで、小気味よく進む。誰も弱音を吐かず、1人として遅れない。

谷急山の山頂では既に2つのパーティーが休んでいた。四方を見渡して驚いた。昨日、今日と足跡をつけた峰々が見える。表妙義も見える。山麓の紅



谷急山山頂

葉も美しい。ここは妙義山系の特異な岩稜を一望に見渡せる絶好のポイントである。「谷急山」という地味な山名から期待もしていなかったので、すごく得をした気分になれた。

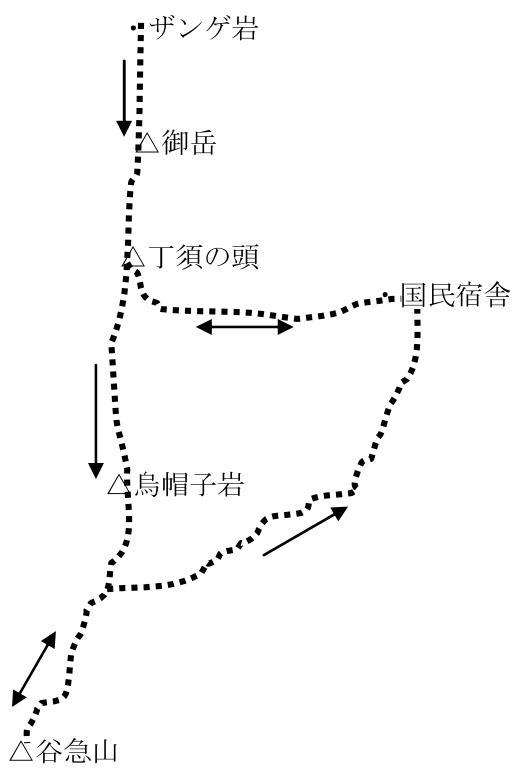
帰りもいいペースで進む。途中先行したパーティーがザイルを張っている。滑りやすい岩の下り。ザイルがなくては危険な箇所だ。でも確

か行きは横の斜面を登ったな。思い出しながら横の斜面を下りて、ザイルなしで難なく通過することができた。「岳人あびこってレベルが高いかも……」

三方境に着いたのが、13:00。思ったより早かった。だが、谷急山までの道は決して油断できない難コースだ。三方境までの整備された岩場よりかえって危険だと感じた。

ここからの下りはなだらかな道で、のんびり紅葉を楽しみながら歩いた。「ずっと紅葉を追いかけて山を巡ったけれど、こここの紅葉が最高」と明子さん。天気さえ不安だったので最高の紅葉と展望を楽しめたことになる。「来てよかったです。」現金なもので、1日目大岩を前にして抱いた疑念はすっかり忘れ、素直に喜んだ。

概念図



表妙義の山々を望む

山名	裏妙義			
期日	平成15年11月15日(土)~16日(日)			
目的	紅葉と岩稜の縦走を楽しむ			
山行形式	国民宿舎泊	グレード 4D		
歩行時間	1日目 6時間30分 (休憩含む)	地 形	南軽井 沢	
	2日目 A班8時間 B班 8時間15分	図	軽井沢	
行程 ・ コース	一日目	我孫子 5:30—上野 6:47—横川 9:13 = 麻芋の滝公園入口 9:50 = ザンゲ岩 (昼食) 11:40/12:10 = 岩室 = 御岳山頂 13:10/13:30 = 丁須の頭分岐 14:45 = 国民宿舎裏妙義 16:20		
	二日目	A班 国民宿舎 6:05 = 丁須の頭 9:10/9:40 = 見晴らし 10:40 = 風穴尾 根の頭 11:45 = 三方境 12:05/12:30 (昼食) = 国民宿舎 14:10 B班 国民宿舎 6:05 = 丁須の頭 8:05/8:20 = チムニー 8:30/8:40 = 赤 岩 8:50 = 三方境 9:50/10:00 = 谷急 山頂 11:23/11:50 = 三方境 13:00 = 沢 徒渉 14:10 = 国民宿舎 14:20		
参加者	L・柴、SL・中村(隆)、SL・高橋(英)、 小黒、青山、坂口、千葉、佐藤(明)、 有賀宏信(ゲスト) 9名			

<355>忘年山行報告

足和田山(富士周辺)

リーダー：斎藤清一

日 時：2003年12月7日(日) 晴れ 日帰り

グレード：1A

目的：富士山と湖を眺め、年の暮れの一日を過ごそう。

歩行時間：A班 2:45 B班 4:10 C班 3:55 費用：4000円

メンバー 合計 32名

A班：C-L 斎藤、A-SL 柴田、外崎、原、箕輪カ、藤倉、佐藤明、岡田、田村

B班：S-L 中村隆、B-L 榊原、細野清、大串秀、長木、安田、品田、中村八、武内、石垣、坂口、永谷

C班：C-L 原田君、C-SL 大串恵、日下、高橋英、渡辺、庄司、飯沼、原田和、山本、青山、佐藤健

コース：

全員 我孫子 5:45⇒談合坂 SA7:22⇒一本木 8:20/8:30

A班 一本木（大和田）8:20/8:30…足和田山（五湖台）9:40/9:50…三湖台 10:40/10:55…紅葉台
ドライブイン 11:15

B班 （マラソン大会のため一湖台登山口交通規制）⇒毛無山登山口 8:40/8:50…稜線分岐 9:00…
休憩 9:50/9:58…五湖台（足和田山）10:10/10:30…三湖台（昼食）11:11/11:45…紅葉台売店
11:53…紅葉台 12:06…（竜宮洞穴分岐でB-L他3名消ゆ）…富岳風穴 13:00⇒ドライブイン 13:20 着

C班 ⇒毛無山登山口・登山開始 8:50…五湖台・足和田山登頂 10:14/10:30…三湖台 11:15/11:40…
紅葉台 11:50…鳴沢氷穴 12:20/12:30…富岳風穴 12:45⇒ドライブイン着 13:20 (B,C班合流し
懇親会場へ移動する)

全員 ドライブイン 15:15…我孫子 17:50

メモ：

A班

冬の眞白き富士を仰ぎけり

快晴の山行日和である。一本木でバスを降りて少し歩くと足和田山の登山口である。入り口からいきなり丸太の階段を登る。静かな落葉樹林帯の登りである。いたるところに東海自然歩道の標識が立っている。

エコ活動もしっかりとしながら歩くこと1時間10分、予定どおりの時間で足和田山頂上（五湖台）に到着。展望台から富士山、御坂山塊、遠く雪の南アルプスを眺望できる。五湖台は、本来富士五湖が見える場所だったとの説である。

つぎに三湖台到着。広い地面が広がり展望がよい。わたしは、五湖台よりここ三湖台の広場と、ここからの眺めがよいと思った。富士山、青木ヶ原樹海、西湖、精進湖、本栖湖がよく見えるのだそうだ。（残念だが私の中では曖昧だった。）ここで少し休憩して、軽く食事をとる。

そして紅葉台へ下る。途中、古ぼけたレストランがあり、ここまで車が進入することがで



A班 足和田山(五湖台)

きる。風を避け陽だまりでの忘年会場を探し、紅葉台ドライブインの駐車場に決めた。枯れすきと富士山を背景にしたこの場所は、絶好の忘年会場となった。次から次へと料理が並べられる。おでん、煮豆、サラダ、煮魚、松前漬け、切干大根の酢の物、やきそば、漬物等々。一期生・八期生の食担準備万端整い、B班・C班の仲間の到着を待つ。

仲間待つ何時しか富士は雪けむり

(箕輪力)

B班

快晴無風の日和で忘年山行には最高の日となりました。

いつものように駅前のコンビニで朝食と昼食を購入しバスに乗車。一般道も高速道路も快適に流れており、談合坂SAまで一直線。途中で富士山が見え始めバスの中に歓声が聞こえた。雪をかぶった富士山はいつ見ても美しい。景色を楽しんでいるうちに、最初の下車口の一本木に到着しA班が下車。引き続きB班の下車場所の一湖台口に向かう。マラソン大会が開かれるらしくあちこちで交通規制の準備中で、登山口へ行けない。

B班はC班と同じコースに変更、毛無登山口から登山を開始する。

トンネル脇の登山口から毛無山への道を稜線まであがる。西湖が静かな湖面を抱き静かにたたずんでいる。五湖台までゴミを拾いながらの急登が少し続く。B班Lは体調がよいのか先に出発したC班にすぐに追いつく。

急登が終わり傾斜が緩くなると目の前に富士山が姿を現し、直ぐにしっかりした展望台のある足和田山の山頂に到着。五湖台の名称があるように富士山を目の前にして、右、左と後ろに富士五湖が見える。また、富士山の斜面が太陽の光に反射しキラキラと光っている。あまりの明るさに会長のカメラが露出オーバーで動かない。

頂上を後にし、葉を落とした緩やかな幅広い稜線を下る。途中ピークがあり、それぞれ巻き道もあるが、山岳会の面目上一つ一つピークを超えて、広々とした山頂の三湖台に着く。

ここからは遠くに南アルプスの雪をかぶった峰々がはっきり見え、「あそこが北岳？」など話題が弾む。広い頂上でメンバーは三々五々昼食を取る。

引き続き広い稜線を紅葉台に向けハイキング気分でのんびり歩く。先頭と最後尾が少しずつ広がるが見通しがよい。各自のペースで展望台付きの売店を過ぎ紅葉台の頂上に着く。本来であればここが宴会場であったが下のドライブインの駐車場に変更の連絡が入り、富岳風穴に集合しバスで移動する。

風穴を目指して下り始める。緩やかな下りをのんびりと歩く。下っている途中に右方向竜宮洞穴の指導標があり、「間違えないといいな？」と思いつつ、そのまま真っ直ぐ進み鳴沢氷穴へ続く道路をくぐる。

だいぶ見通しがよくなつたので先頭に声をかけるが返事がない。心配になつたので、急遽、鳴沢氷穴の駐車場まで追っかける。先に着いていたC班に聞くが、Lたちのメンバー（4人）



B班(三湖台)

は到着していないとのこと。やはり途中で道を間違えたことは歴然。すぐに戻り、間違えたであろう指導標までSさんと戻り、200～300mの範囲を探すが見あたらない。（氷穴では携帯で連絡を取るが、樹林帯のため思うように通じない。）

間違えたのであれば戻ってくるかまたは竜宮洞穴から連絡があるので、指導標のところで止まり連絡を待つことにする。待つこと10分、間違えたメンバーから竜宮洞穴にいると連絡があり、ホッとして駐車場に向かう。

やはり低い山だからと侮り、地図とコースを確認しないで歩いた結果が今回の不始末。道が整備されていたので事なきを得ましたが、ほんの少し前にあった房総半島の遭難騒ぎの二の舞になるところでした。やはり山を侮っては行けません。どこに危険が潜んでいるかわかりません。よい経験と教訓を残してくれました。

富岳風穴でB,C班揃ったところで宴会場へバスで移動。A班が準備した豪華な料理がお出迎え。富士山をバックにおでん、焼きそば、熱燗など、暖かい日差しの下、大満足の宴会でした。

山行を計画したメンバー、宴会をセッティングしたメンバーの方々、ありがとうございました。
(石垣)

C班

よく晴れ上がった朝の、ピリッと引締まった冷気のなかにバスを降り立った。出発点は湖北ビューラインの文化洞トンネル前にある毛無山登山口。なぜかB班も揃って下車する。急に一緒となつたらしい。ちょっと邪魔くさいと思ったが我慢することにした。

(ゴメン！)

C班が先に出る。直ぐに毛無山との分岐を過ぎた。遠くに雪をかぶった南アルプスの山なみが見え、眼下には西湖とわかさぎ釣りの幾艘ものボートが見えた。9時35分後発のB班に道を譲る。お急ぎの事情があるらしい。

一時間あまりで2等三角点がある足和田山に到着した。ベンチや展望台がある。そこから見る白くテカッてアイスバーンのような大きな富士山に圧倒された。五湖台というが無理しても三湖くらいしか見えない。

山頂から西へ向かう幅広い山道をC班が先になって歩き始めた。原田和さんのエコ担当の仕事が忙しい。45分で三湖台に着く。広々とした開放感たっぷりの頂上で昼食。北に毛無山、十二ヶ岳、金山、鬼ヶ岳の連山、南東には偉大な富士山と南アルプスが余すところなく姿を見せ、素晴らしい眺望に恵まれて幸福感に浸る。

11時40分、原田Lの声がけで出発。レストハウスのある紅葉台の右脇を抜けて自然歩道を歩く。国道139号は、右にあるトンネルを抜けて進み、直ぐに鳴沢氷穴に到着した。

10分休憩後、最終地点の富岳風穴に向けて出発し、12時45分にC班全員揃って無事に到着した。
(C班記録/佐藤健)



足和田山(C班)



懇親会場のドライブインで



懇親会場で富士山をバックに

<356>

蕎麦粒山・川乗山

1473m

1363m

坂口よし江

落ち葉踏みしめ日だまり山行

12月13日（土）

昨夜までの雨も上がり快晴の中、東日原登山口に着く。登山口では、川乗山の姿を望むことができ、幸先の良いスタートとなった。



蕎麦粒山登山口からの川乗山

杉林の急な登山道を落ち葉を踏みしめながら汗をかきかき登る。混んでいて避難小屋に泊まれないかもしれませんので、念のためテントも持参、水場も期待できないので、明日までの水の荷揚げもあり、ザックが重く肩に食い込む。ほどなく、赤色に塗られた趣のある一杯水避難小屋に到着。小屋付近はうっすらと雪が積もっていた。

小屋には、先着の3名の登山者がいた。小屋の定員は15名。良かった小屋に泊まれると一安心。朝早く出発してきた甲斐があったというもの。

小屋の中には、ダルマストーブがおいてあり、床は黒光りしていて清潔感があつてとても気持ち

よさそうだ。昨年秋、この小屋を通過した時に、いつか泊まってみたいと思っていた。

小屋の前のテーブルで昼食をとったあと、二等三角点のある三ツドッケ山（天目山）に登る。帰りは、ストーブの薪にする枯れ枝を各自両手一杯に集めて小屋に降りた。

ダルマストーブを囲んでの宴。本当の火が燃えるのを見るのは心が和み、暖かさも一入だ。小屋の入口の寒暖計を見ると、午後7時時点での外気温は-3°C。夜中から明け方にかけて、もっと冷え込むだろう。小屋の中は、ストーブのお陰でだいたい10°Cぐらいだ。



小屋のダルマストーブを囲んで

小屋のトイレはいったん外に出ないと入れない。トイレに行くために外にでると、暗闇の中で光るもののが二つ、違う方向にも二つ。どうも鹿のようだ。餌を求めて小屋に近づいてきているらしい。空を見上げると満天の星。明日も天気がよさそう。

12月14日（日）

ヘッドランプを着けて6:00出発。小屋から仙元峠方面への道は、雪が積もっていたり長い長い霜柱があつたりと、昨日の登山道とはうつて変わって、凍てついた道が続く。

仙元峠分岐。蕎麦粒山に行くのには、仙元峠は

巻いていくのが普通らしいのだけれど、私はこの仙元峠にぜひ寄りたいと思っていたので、申し訳なかったけれど寄らせていただいた。昔道の峠という感じで往事を偲ばせてくれる朽ちかけた石碑のようなものがあり、感慨深かった。

仙元峠から蕎麦粒山までは、危険な箇所もない快適な道だ。蕎麦粒山の頂上は狭く、大小の岩が置石のようにある。ポカポカと暖かく、富士山や周りの山々を見ながら小休止。



蕎麦粒山山頂

蕎麦粒山から川乗山までは、急なアップダウンが続く。日の当たらない斜面は、凍っていて歩きにくい部分もあるが、概ね歩きやすい道だ。防火帯として、木々が伐採されているので、展望もよく気持ちが良い。

曲ヶ谷北峰にザックをデポし、川乗山をピストン。川乗山頂上は広く 360 度の展望。青空のもと、富士山や奥多摩の山々を心ゆくまで眺めて大満足。

北峰からは、赤杭尾根を一路下山する。数箇所の巻き道慎重に下る。ズマド山手前の分岐から古里方面に下ると「この先、崩壊箇所あり危険注意」の看板がある。急斜面のトラバースなので足場も悪く、ガレいで危険なので慎重に降りる。10分ほどで、安全な登山道となる。予定より

早く古里駅に到着する。

お天気にも恵まれ、パーティの皆さんに助けていただきながら、素敵な避難小屋に楽しく泊まることができ本当に幸せでした。

次回はもう少し雪がたくさん積もっている時に来て見たいものと思いました。



川乗山山頂からの富士山



富士山に向かって勢揃い(川乗山)

* ガイドブックには、川苔山とありましたが山頂の表示は、川乗山となっていました。今回は山頂の表示に敬意を表して、川乗山としました。どちらが本当なのでしょうか？



川乗山から望む奥多摩の山々



山の名称

* <陰の声>山名のいわれは西面の川苔谷で川海苔を多く産したことによる。地形図には古くから川乗山としていたが、近年、川苔山に修正された。奥多摩町は看板には川苔山としたかったらうが、地理院の権威に逆らってはまずいと川乗山にしたもの、後は知らん振り?やはり、「川苔山」が正しいとさ。 TN

概要

山名	蕎麦粒山・川乗山(奥多摩) 3B
月日	平成15年12月13日(土)～14日(日) 避難小屋1泊
地形図	1/25000 武藏日原、奥多摩湖、原市場、武藏御岳
目的	趣のある避難小屋に泊まる
費用	5千円 (IR、バス)
行程・コース	<p>1日目 我孫子 6:38→新松戸→立川⇒奥多摩 9:15/9:32 バス⇒東日原 9:56/10:15→一杯水避難小屋着 12:53(昼食)/13:25→三ツドッケ(天目山 1576m)頂上 13:53→一杯水避難小屋 14:15 晴れ<歩行時間:2時間25分></p> <p>2日目 避難小屋 6:05→仙元峠(1440)7:05/7:15→蕎麦粒山 7:32/7:48→日向沢の峰(1356m)8:25/8:30→踊平 8:50→獅子口への分岐 9:25→曲ヶ谷北峰(ザックデボ)9:45/9:50→川乗山 10:00/10:12→曲ヶ谷北峰 10:20/10:28→休憩(昼食) 12:05/12:28→ズマド山分岐 12:37→下山口(公道に出る)13:13→古里駅 13:20/13:35⇒青梅⇒西国分寺 14:45/16:46(反省会)⇒新松戸⇒我孫子 17:57 晴れ<歩行時間:5時間40分></p>
ルート状況	<p>①一杯水避難小屋は定員15名(詰めれば20名ぐらいは入れます)。清潔なトイレ有、但し使用済みペーパーは持ち帰りです。</p> <p>②水場は涸れていて使用できません。今回共同用として計16ℓの水を使用。</p>
参加者	L坂口、村松敏、細野省、外崎、大串恵、斎藤、大串秀、原田和、佐藤健、佐藤明、岡田、 計11名

<陰の声②>地形図が初めて作られたとき、地元で聞き取りした山名の音を字におき、後に間違いに気づいたが、長く改められることなく過ぎた。

海苔が由来なら沢の名前が先にあって、後に山の名としても使われた。すると、他にも本来の呼び名があつたのではと考えたくなる。

<357>

和名倉山（奥秩父）
-クリスマス山行-
2036m

外崎 蓮

12/20(土) 曇りのち晴

白銀の中のテントで祝った

ホワイトクリスマス

今年のクリスマス山行は、なかなか行くチャンスがなかった和名倉山に決まる。参加者は11名。おおきなザックを背負って塩山駅の階段を下りて行くと、佐野さん他3台のタクシーが待機していた。それぞれ分乗し、登山口の三ノ瀬集落へ向かう。和名倉山は、奥秩父主脈から北に外れていて埼玉県の山の最高峰。道がわかりずらく、行程も長いというふうにいわれてきた。町外れに来ると雪道になり、私の乗った3台目の車が柳沢峠手前のきついカーブを曲がる際にスリップしてしまった。運転手と佐藤さんが車から降り、タイヤにチェーンを巻く。塩山市内には雪のかけらもないが、こちらは初冬の景色がひろがっている。タクシーはチェーンの締め具合がまづいのか、金属性の騒音をたてながら雪道を上り、まばらに人家の建つ三ノ瀬に到着。小雪が舞い、いかにもホワイトクリスマスにふさわしい。S Lの私は先頭を命じられる。踏みあととのない真っ白い雪面に最初に足跡をつける心地よさ。積雪5cmほどなので、こんなのんきなことが言える。

牛王院下の分岐から左手を登ると牛王院平だが、テントを張ってもそこには水がないので、将監小屋へ向かう。いつの間にか雪が止み、陽のさしている道端で休んでいると、小屋の主人が軽トラックに犬を乗せて上がってきた。小屋の横には、真冬でも凍ることのない水がホースから勢いよく流れている。テント場の雪を固め、段々畑のような狭い場所にテントを3張り張る。ダンロップのテントに全員集合し、まずは乾杯。佐野さんに戴いた小瓶のワイン6本もいれてアルコールに不

足はなし。食事の方も今晚は豪華で、茹でたワインナー、チキン、シチューが食卓を飾った。シチューの中には大きなホタテとムキエビも入った。お腹がいっぱいになると、いよいよプレゼント交換。どんなに老いても、それが100円の物であろうとプレゼントをもらう気持ちは子供とかわらない。歌を歌いながら袋を送り、歌い終わったときに袋を持っている人が中から包みを取り出せる。全員に渡ったところでお披露目をする。私はお正月らしく、小さなしめ飾り。そのあとで歌った「新人哀歌」は傑作で、いいよ、いいよとおだてられ、お坊ちゃんが山岳部に入部する。ある日行った山行のリーダーがじじむさい人で、サブリーダーはばばくさい人。この時は大爆笑となつた。狭いテント生活は、水をこぼしたり、特にガスで暖をとるときには火傷に注意がいる。足にお湯をかけた人がいてヒヤリとしたが、すぐ外の雪で冷やし事なきを得た。

12/21(日) 晴

どっしりと構えた和名倉山へ

いつも思うことだが、テントに泊まった朝は女性は食事作り、後片付け、身支度などやることが多く、まして男性と一緒にテント撤収とあっては、トイレに行くのも出発前ということすらある。少しは理解してほしい。村松さんは6時の出発が15分も遅れてイライラしている。小屋の主人に、6時に出発したら3時には戻れないよと言われただそうだ。今日もトップは私。幸いに佐藤(文)さんがトレースをつけてくれる。しかし彼の歩幅は大きいので、これを辿ると相当に疲れる。だから私がトップを行くのと変わりない。山の神土で衣服調整。右手に細々と和名倉山への道が延びている。いかに歩かれていなかがわかる。すでに佐藤(文)さんの足跡がついているが、姿はとっくにない。私達と歩くのがまどろっこしいのだろうか。これでは団体行動をとっているとは思えないが、佐藤(文)さんのトレースがなかつたら、進行方向を探して右往左往したに違いない。雪の重みで笠

がしおれ、細い登山道を隠しているからだ。雪道は夏道の倍は疲れる。特に粉雪は、二歩進めば一步は戻るようなもどかしさがある。地図を見る余裕もなくひたすら歩く。西仙波から東仙波にかけては右手が開け、南面に白銀の富士が美しい裾野を広げている。唯一、標識のある東仙波からは北へ北へと進む。吹上の頭からは平坦な道が続く。佐藤さんの足跡は、赤いリボンから離れて林の中を迂回していることもあったが、正確に稜線を辿っていて何の苦労もいらなかった。ただ、千代蔵ノ休場と呼ばれる大草原の中には踏跡が乱れていて、道探しをする場面もあった。ようやく着いた和名倉山の頂上は、針葉樹林の中のわずかな切り開きだった。あまりにも樹木の密集度が濃くて、三角点のある狭い広場の分しか光が頭上から差し込んでこない。倒木に腰掛けて昼食を食べたが、長居はしたくない山頂であった。ところで、三ノ瀬まで迎えのタクシーを3時の予約にしたが、どう転がったとて着けるわけがなく、携帯電話がつながる東仙波まで先程登ってきた道を猛ダッシュした。かつて、山の中をこれほどのスピードを出して走ったことがあったろうか。途中、立ち休憩したとき、冷たい空気の中に体から湯気がたちのぼり、汗となっていたり落ちた。おかげで東仙波で無事佐野さんに連絡がとれ、5時に来てもらうことにする。歩きながら、ふと思う。この山の魅力ってなんだろう？何の特徴もなく、実に地味な山。なんかあつたら、「かかってこい」と、どんと構えているようなふところの大きい山、とでも言いたい。そして真に山の好きな人が、静かに歩くのにふさわしい山。

テント場に戻ると、小屋の主人の車はもうなかった。す早くテントを撤収し、雪の消えかかった長い林道を足早に三ノ瀬へ下った。

山名	和名倉山（奥秩父）
月日	平成15年12月20日(土)～21(日) 快晴 テント泊
地形図	1/25 千図雲取山・雁坂峠・柳沢峠
目的	1. 1年の反省をする。 2. 来期の希望と抱負を語る。 3. 若者に負けじとクリスマスを祝う。
交通費	10,500円
行程	我孫子駅 5:50⇒新松戸⇒西国分寺⇒高尾 8:00⇒塩山 9:15/9:20(タクシー)⇒三ノ瀬登山口 11:00/11:15→牛王院下 12:00→ムジナの巣 12:15→昼食 12:20/12:40→將監小屋テント場 13:20 (テント泊) (歩行時間:1時間45分)
コース	テント場 6:15→山ノ神土 6:50/7:00→東仙波 9:00→和名倉山 10:50/11:02→東仙波 12:30→山ノ神土 13:55→將監小屋テント場 2 14:15/15:00→三ノ瀬登山口 16:05/16:15(タクシー)⇒塩山 17:25/18:27⇒高尾 19:40/19:52⇒西国分寺⇒我孫子駅 21:30着 (歩行時間:8時間45分)
参加者	L村松敏、外崎、細野省、大串恵、大串秀、高橋英、北川、武内、坂口、千葉、佐藤文 11名

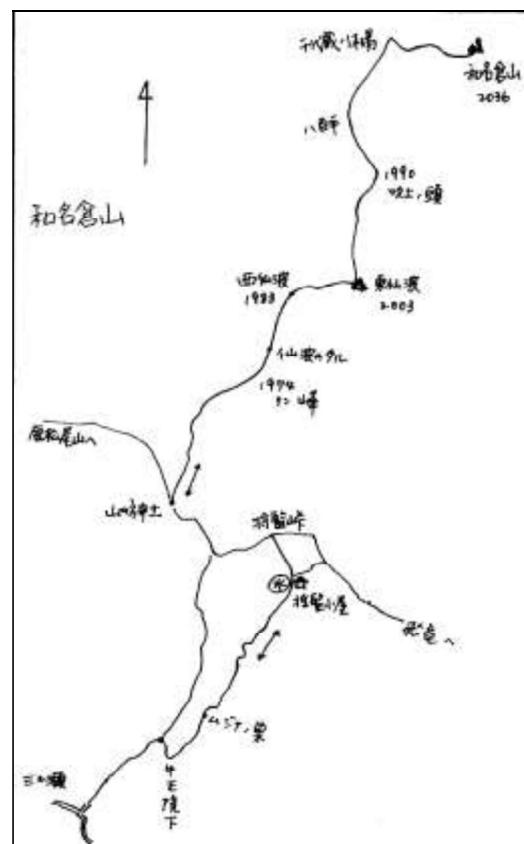
奥秩父の主峰。いずれが国師岳、甲武信岳、金峰山…。





↑ 将監峠のテント場は我々のパーティーのみ
積雪量は深い所で30cm

概念図



和名倉山の頂上は林の中で展望はゼロ。
華やかな山々に抵抗してひたすら孤峰を守つてゐるようだ。

<358>

筑波山 (877m)

蜂谷 由美子



年明けて、
ゆるめる心に安全登山を祈願！！

清々しい朝の空気を胸に、今年もまた新年初山行で筑波山に登る。お正月の2日間にお餅を食べてひとまわり大きくなったお腹をかかえ7時に全員集合。

まずは筑波山神社で安全登山と「岳人あびこ」のさらなる発展を願って参拝。登り始めは手指も冷たく、吐く息も白い。

登山道も年々整備されてきて、頂上直下は階段が非常に多くなっていた。また、年の暮れに頂上付近に降った雪が残り、凍っていて足元が滑りやすい。慎重に歩くので、筋肉が硬くなっていく。まだか、まだかと頂上を目指す。体中から汗が噴出していく。御幸ヶ原では、まだ始発のケーブルカーが到着していなかったので、人影もない。

女体山山頂に着いた時、眺望は気温も大分上がっていて視界が悪く、遠くの景色を楽しむことは出来ない。富士山も見えなかった。山頂の一等三角点にタッチし、すぐに下山する事となった。下山道はつづじヶ丘方面の指道標にそって、このコースの一番険しい岩場を、お正月にひとまわり大きくなったお腹をかかえつつ、三点確保で慎重に下る。

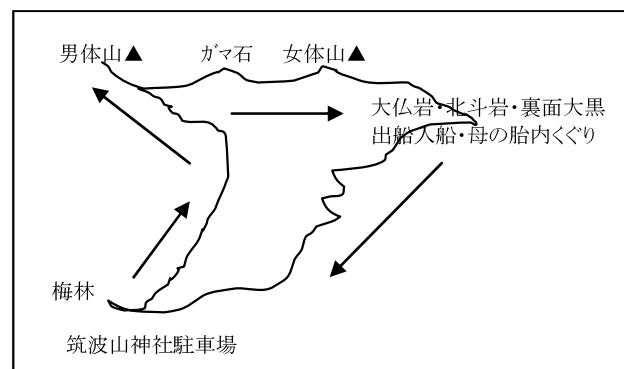
このコースには「北斗岩」「裏面大黒」「出船入船」「母の胎内ぐぐり」「弁慶の七戻り」などの奇岩怪石が次々と現れる。「地震がきたら大変だ～」などぶつぶつ言いながらせっせと下る。

下山後の最大の楽しみの昼食は「ごぼう、白菜、セリ、きのこ、鶏肉」などが入ったおいしいお雑煮と原田さん特製の「お汁粉」でした。

とても良い天気に恵まれ、暖かい陽だまりの中の山歩きを楽しめました。



新年あけましておめでとうの「女体山」



山名	筑波山		山行形式	日帰り
期日	平成16年 1月 3日(土)			
山域	常磐	地図	1/25000 筑波	
目的	新春初山行		交通機関	自動車
歩行時間	4時間00分		費用	500円
コ ー ス	1 月 3 日	筑波山駐車場 7:00/7:15⇒筑波山神社参拝 7:25⇒中ノ茶屋跡 8:05/8:10⇒御幸ヶ原 8:50⇒男体山 9:05⇒御幸ヶ原 9:15/9:30⇒女体山 9:45/9:50⇒弁慶七戻り 10:40/10:50⇒筑波山神社 11:40⇒筑波山駐車場 11:50⇒筑波梅林(昼食) 12:05/14:10⇒筑波山駐車場出発 14:30		
参 加 者		L日下、小黒、大串秀、大串恵、中村隆、斎藤、高橋英、大桃、榊原、長木、中野、原田君、原田和、増田、渡辺富、渡辺、蜂谷		17名

<359>

安達太良山 (福島)

1700m

(岡田秀子)

日時：平成16年1月10日(土)～11日(日)

目的：雪山初級講習&“山中温泉付き新年会”

山行形式：積雪期小屋泊まり

地形図：1/25000 安達太良山

グレード：3C

参加者：【A班】 L武内、村松敏(講師)、小黒、増

田、高橋芳、S L青山、岡田、佐藤文

【B班】 C L川下、柴、村松峯、外崎、S

L坂口、佐藤健 計14名

コース：

10日：我孫子駅前出発 5:50—常磐自動車道—磐
越自動車道—安達太良高原スキー場
10:10/10:30～勢至平 12:20／12:40～くろ
がね小屋 12:55／実技講習

11日：7:00 出発 吹雪のため登頂を断念し下山
～スキー場—岳温泉(元湯)—我孫子 16:30

概算費用：18千円(交通費+小屋+入浴)

メモ：

10日：5:50 我孫子駅前出発、常磐自動車道、磐
越自動車道を利用して一路安達太良山へ！
車中、村松講師による「雪山の基本技術」。
歩行の基本・「キックステップ」「アイゼン
歩行」。ピッケルワークの基本・「ピッケル
の持ち方」「ピッケルの突き方」、滑落停止
など、プリントを見ながら、アクションを
交えて教えていただいた。

10:10 安達太良高原スキー場到着

10:30 出発 凛とした空気の中、安達太良スキー
場を横目に夏道に沿って歩き出す。積雪量
が少なく幸いにもトレースがあったので非
常に歩きやすかった。

10:35 鳥川に架かる橋を渡り広い林道を登り始め
る。暫くすると急な斜面、ここでキックス
テップ(膝から下の足を振り子のようにして
雪面にキックする)を実行しながら歩いた。

12:20 勢至平に到着 ここは、雪の原。平坦な道な
がら西風が吹くことが多く吹きさらしの場
所でもあるようですが、きょうは風がなく
しかも青空で雪の白が眩しいくらいでした。
このように晴れて「白銀の世界」、感動を与
えてくれ又、童心に帰った気持ちにさせて
くれます。 少し雪野原を歩きそして尾根
を回り込むとくろがね小屋が見えた。

12:55 くろがね小屋到着 入り口の所に雪を払
う用具がありお互いに払い落としてから入
る。大勢の先客で賑わっていた。我々は片
隅に荷物をまとめて置き、「アイゼン」「ピ
ッケル」を持って外に出て、小屋からさら
に急斜面を登って実技講習を受けた。最初
は、おつかなびっくりでしたが、そのうち
徐々に慣れた。1時間ぐらい？講習を受け小
屋に戻り夕食まで自由時間。この小屋には、
温泉がある。檜の湯船に身体を沈めホッと
一息。窓の隙間から雪景色を見ながら体の
芯まで温まり極楽極楽！寝るまでに何度も
楽しんでいた人がいた。

18:00 夕食 (カレーライス・らっきょ・福音漬
け) お代わり自由、マイルドな味でした。
就寝時間まで談話する人、温泉に入る人、
荷物を整理する人それぞれ。

20:00 就寝 夜中？目が覚めると風が吹き荒れ
ていて物凄い音がしているので明日の天気
を心配しながら眠りにつく。

11日 5:30 起床、タベの風はいっこうに収まらず吹雪いでいる。

6:00 朝食、出発準備

7:00 出発？ 生憎の天気(吹雪)で下山する。

とにもかくにも風が強いので風の音を聞きながら…風が吹いてくる時には耐風姿勢をとり、風が去ったら歩き出す…これを繰り返しながら歩いた。とくにトラバースの所は吹き飛ばされないようにもう必死でした。途中から交代でラッセル開始。登山道ではなく林道をワカン装着して歩き出す。(雪質に応じて使いわけることによって安全で、しかも体力の消耗が少なくてすむことがわかった。) ……スキー場まで下山してきたがいっこうに風やまず荒れ狂っていてゴンドラ、リフトは運転中止状態。グレンデの雪質はアイスバーン、ツルツル状態、

バスが来るまで車の間に身を潜めて待っていた。「来た～！」誰もが急いでバスに乗る。岳温泉(元湯)でまたまた温泉に入りラッキー(300円ちょ一安い)。そして一路我孫子へ！！車中、反省会と歌詞プリント(会長が用意)を見ながら合唱をして、帰りの時間も楽しく盛り上がった。

山頂は踏めなかったが貴重な講習(知識、実技)が受けられ、また、2箇所の温泉に入ることが出来て良かったです。川下リーダー・村松リーダー部長はじめ諸先輩方有難うございました。(岡田)



勢至平は風もおだやか(1日目)



もう少しでくろがね小屋

キックステップの練習



<360>

房総ロングハイク
伊予ヶ岳・富山
(337m) (349.5m)

安田 みづほ
増田 喜久子

1日目

安田

千葉県連恒例の房総ロングハイクに初めて参加しました。今年は「房総ロングハイキング」20回目だそうです。岳人あびこからは14名の参加で、総勢125名。バスは市原SAで休憩のあと、君津コンビナートの電線群を見ながら久留里、亀山、七里川、鴨川、清澄と千葉県の真ん中を約4時間の長旅。

外房、鴨川の海の青さに目をみはり、日蓮聖人ゆかりの清澄寺へバスは到着した。千葉の山々は、冬でも木々は青々として常緑広葉樹が多く低山と思えない程こんもりとしている。日蓮さんの清澄寺を後に麻綿原高原に向かう。麻綿原と言えば紫陽花、なかなかその季節に来れない私達の山歩き。「日の出が日本一早く拝める」事から名がついたという天拝園を登りつめると、安房小湊の町並みと太平洋が一望でき、標高たかが302mですが爽快感を感じました。太平洋を眺めながら、ゆっくりとお昼。

いよいよ内浦県民の森に向けて出発です。麻綿原からはCコース(尾根道)3時間程です。山道に入る分岐に「山ヒル、マムシに注意!」の看板。置いてあった予防のスプレーをかける人あり。山道は狭くやせていて崩れてる箇所もあって、登り下りが多く気が抜けないコースでした。夕食前のひと時、綺麗で気持ちのよいログハウスで一般参加の福田さんを交えて楽しくつろぎ。夕食後19時からのキャンプファイヤーはわが会、佐藤健さんと菊地さんの歌声でスタート。肩を組みながら懐かしい青春時代にタイムスリップしました。県連の方、斎藤さんありがとうございました。本当に毎年ご苦労様です。



岳人あびこトップを切って歌声の輪をリード？！

2日目

増田

しっかりと朝食を済ませて内浦県民の森の宿舎をバスで出発、本日の歩き始め地点、上神社に向かう。鴨川の海から日が登っているのかも知れないが、薄曇りで東方の空がほんのり赤るんでいる程度。上神社は田んぼの中に鬱蒼と繁った森を抱えた由緒ありそうな社。

今日も各山の会ごとのグループ行動で、私達の会には房総半島の某所(ごめんなさい、忘れました)から「一般参加」で参加された温厚な男性が一緒。先ずは高鶴山をめざす。日が射てきて天気は上々の模様。水仙が畑にも道ばたにも香り高く咲く道を登るが、どこからか、堆肥のような牧舎のような匂いも漂ってくるところが妙。軽く(!)一山越えてすぐ住宅地に出る。舗装道路の登りもきついものだ。元大蔵大臣の水田家でトイレ休憩。この前後、愛宕山を経て昼食の嶺岡苑まで3時間近い舗装道路歩きは退屈なだけで疲れて、いくら「房総半島横断」のテーマがあったとしても、企画に疑問を持たざるを得ない行程。愛宕山は山頂部に自衛隊の指令基地とかがあり、その横を通り過ぎただけ。すべて舗装された道で時々私達の傍らを自衛隊のジープが行き交う。登山とは言い難い。

昼食は明るい公園「嶺岡苑」ボリュームたっぷりのお弁当と豚汁をご馳走になる。この豚汁が格別抜群の美味！ 120人分を用意したとかだが、担当実行委員さんのご尽力に感謝。ゆっくり昼休憩後、またえんえん舗装道路歩行がつづく。

途中、休耕田か藪原のような所に迷い込んだ（？コースだったのかも？）ヤブコギ紛いが、むしろ楽しく思える。



嶺岡浅間にて 美味しい豚汁と豪華弁当！

午後2時頃、やっと本日のハイライト、ミニミニマッターホルン伊予ヶ岳登山口に辿り着く。張り切ってとりつくが、道無き道かと思う急斜面で先行グループが渋滞。斜面で脚を踏みしめ体を支えているのは辛い。とはいっても低山、30分程度で頂上。双耳峰頂上からの房総内海の眺めは見事！下りは急な岩場つづき。慎重に慎重に楽しむ。ここはまた来てみたいと思う面白い山！



伊予ヶ岳南峰 房総のマッターホルンか

伊予ヶ岳から指呼の間に見えた富山へ。この山もほぼ頂上まで舗装道路。日はかなり傾いている。六角堂があつたり展望広場があつたり、頂上の眺めをしばし満喫して、下山にかかる。道は歩き易い一気の下り。正面に大きな夕日が迫り一面を真っ赤に染めてゆっくり沈んで行く。息をのむ美しさではあるが、足を止めてはいられない。日が沈んだら山道は真っ暗になる。大急ぎで終着点「富

山中学校」に。全員揃って25キロを完歩して記念の水仙の束をいただき、満足して貴重な体験を終える。



概要

山名	房総ロングハイキング (高鶴山・愛宕山・伊予ヶ岳・富山)	
月日	平成16年1月24日(土)～25日(日)	
地形図	1/25000 鴨川、金束	
目的	太平洋から昇る朝日を見て、東京湾に沈む夕日を眺める房総縦断のハイキング	
費用	12,500円	
行程コース	1日目	我孫子駅北口 6:15 ⇒ 鎌ヶ谷市役所 6:45 / 7:05 ⇒ 市原 SA8:05 / 20 ⇒ 君津道の駅 9:30 / 40 ⇒ 鴨川 10:00 ⇒ 清澄寺 10:20 ⇒ 清澄寺参詣 → 山門 10:50 ⇒ 麻綿原高原 → 天拝園 → 妙正法寺 11:40 ⇒ 六角堂 11:55 ⇒ 妙正法寺 12:00 / 30 ⇒ 内浦県民の森 C(尾根道)コース → 内浦県民の森 14:45 ログハウス泊 <歩行時間:3時間45分>
	2日目	内浦県民の森 6:25 ⇒ 上神社 7:00 / 15 ⇒ 高鶴山頂上 8:00 ⇒ 池の端道 8:30 ⇒ 段坂下 9:00 / 05 ⇒ 旧水田家(元大蔵大臣生誕) 9:30 / 50 ⇒ 愛宕山通過 10:40 ⇒ 嶺岡苑 11:25 / 12:25 ⇒ 伊予ヶ岳登山口 14:00 ⇒ 北峰 14:30 ⇒ 南峰 14:40 ⇒ 下山口 15:15 ⇒ 富山登山口 15:50 ⇒ 富山北峰 16:30 ⇒ 南峰分岐 16:50 ⇒ 富山中学校 17:50 ⇒ JR 岩井駅 ⇒ 市原 SA19:45 / 20:15 ⇒ 布佐 21:10 ⇒ 成田街道沿い順次下車 ⇒ 我孫子駅 22:00 <歩行時間:9時10分>
参加者	L 大串秀、斎藤(県連)、菊地、長木、安岡 小川誠、日下、大串恵、小黒、高橋英、増田 飯沼、藤倉、佐藤健 計14名	

<361>

おんじやくみね
恩若峰・源次郎岳

(982.6m) (1476.6m)

堀口 昭二

源次郎沢と間違えたわけではありません

久しぶりの会山行参加ということで、いささか緊張気味での山行です。甲斐大和駅からタクシー2台に乗り嵯峨塩深沢林道を走ると左側に源次郎岳登山口標識が目にとまり積雪があり時間短縮のため予定のコースを変更してアスファルトの林道を歩くことにする。地図にて現地確認をする。35分程歩くと右手に源次郎岳山頂まで40分の標識があり山道に入る。左には嵯峨塩温泉からの道がある。30分ではつ

きりとした尾根道に出る。左源次郎岳、右下日川峠の標識がある。10分程登ると頂上まで15分の標識があり、現地点より源次郎岳山頂の方が標高の低いとの表示があり、すぐに急下降が始まる。途中で一部の人が安全のためにアイゼン装着する。登山道をふさいでの装着作業になり他の登山者が通りかからなかったからよいものの、もし登山者がいたらと思うと装着のタイミングと装着時間短縮に考慮する必要があると思う。

10:45分に源次郎岳山頂に到着。15分の休憩で出発し、1時間程で源次郎平を通過して12時ちょうどに昼食にする。20分の休憩で出発。昼食といつても長時間の休憩は禁物です。沢を下り、二又で左右にテープがあり地図にて確認の結果、左へ行く。20分程行くと「恩若峰至りて源次郎岳へ」の標識があり、引き返して恩若峰に登り返し、今回の山行計画通りに遂行できたので一路下山し、14:25に葡萄畑らしい所にて林道に出た。そこから塩山駅



源次郎岳山頂にて

までは民家があり意外とわかりにくい道のりでした。町道の方が迷いやすい結果がでてしまったようです。



概要

山名	恩若峰・源次郎岳(南大菩薩)
月日	平成16年1月25日(日)
地形図	1/25000 塩山、大菩薩峠
目的	ヤブ山を訪ねて登山の原点を探る。
費用	6,500 円(反省会費用含む)
参加者	L 村松敏、柴、細野省、外崎、堀口、青山、千葉、佐藤明、岡田 計9名
行程	我孫子駅 5:33⇒新松戸⇒西国分寺 ⇒高尾 7:26⇒甲斐大和 8:36⇒嵯峨 塩林道入口 9:05⇒源次郎岳入口登 山口 9:45⇒源次郎岳 10:50/11:00 →源次郎平 11:45⇒恩若峰 13:45⇒ 下山口 14:30⇒不動尊などお参りして →塩山駅発 17:11⇒立川⇒西国分寺 ⇒我孫子駅 20:50

←地図を見て自分たちの位置を確認し
なら進む(源次郎岳の手前で)



源次郎岳から恩若峰へ
(違う稜線に迷込まないように地図で、その都度確認)

<362>

笛尾根

吉岡 てる子

天気は快晴での出発。郷原からは急登で早くも汗だく。西原峠を過ぎて雪は10cm位あり、アイゼンなしでも歩けたのですが、リーダーの計らいで、初めての人だけアイゼンをつけて歩きました。丸山で昼食。外崎さん、武内さん、坂口さんにおいしい甘酒を作っていただきました。

青い空と白い雪と澄んだ空気がすばらしかった。でも、冬の日は短いので急ピッチ。浅間峠までは元気でしたが、地面は凍っていて、その上に枯葉がのっているので滑らないよう気を使って歩いていたので、上川乗までの下りはチョッとしつかって！！

バス停まで歩いていると、二時間に一本のバスが私たちを追い越して行きました。疲れた身体にムチ打って走る！走る！ラッキー！！

しっかり反省会をして本日の山行終了です。



アイゼン装着

概要

山名	笛尾根（奥多摩）
地形図	1/25000 猪丸
月日	平成16年2月1日(日) 快晴
目的	研修山行 雪山の歩き方(アイゼン歩行)
費用	4570円(ホリデーパス利用)
行程	我孫子駅 5:33→西国分寺→高尾 7:22 7:26→上野原 7:54/8:10(タクシー) ⇒郷原 8:50/9:00→西原峠 10:25→檜寄山 10:34→西原峠 10:45→笛吹峠 12:23→丸山 12:30/13:00(昼食)→土俵岳 13:45→日原峠 14:00→浅間峠 14:35→上川乗バス停 15:30→武藏五日市駅 16:10/18:02→拝島⇒立川⇒西国分寺⇒我孫子 20:20 着 <行動時間:6時間30分>
参加者	L 外崎、SL 坂口、大串秀、日下、斎藤、高橋英、品田、高橋芳、中村八、吉岡、武内、青山、藤倉、佐藤明、岡田、田村(16名)



西原峠

<363>

日の出山

(902m)

田村 光子

朝から天候に恵まれ、この時期にしては暖かく「梅が咲いているかも」と、少し期待しながら日向和田駅に降りた。しかし公園の梅は殆ど咲いて居なかつたが、黄梅や福寿草が庭先に咲いていて、春を感じることができた。

よく整備された登山道をしばらく行くと琴平神社に到着。ここで記念写真を撮り、三室山にむかう。三室山には三等三角点があるだけで、頂上の標識は見当たらない。

植林の中を進むと梅ノ木峠に出る。電波中継所の横を通り、木のベンチを過ぎ、急坂を登り、階段を登りきると日の出山の頂上に着いた。

頂上は広く、ベンチもたくさんあり、私たちもここでお昼を取ることにした。初めてのスープ作りに挑戦し、どうなる事かと思ったがおいしく出来、皆で味わう事が出来ました。

昼寝でもしたくなりそうなぽかぽか陽気で、頂上でゆっくりしてから、御岳山に向かった。東雲山荘を見て下り、国民宿舎山楽荘の横を通り、土産物店の間を抜けて、急な石段を登ると靈山の御岳神社に到着。今年の山行の無事を祈



日の出山山頂

り、お札を買ったりして、ケーブルカーには乗らずに滝本まで下山する。

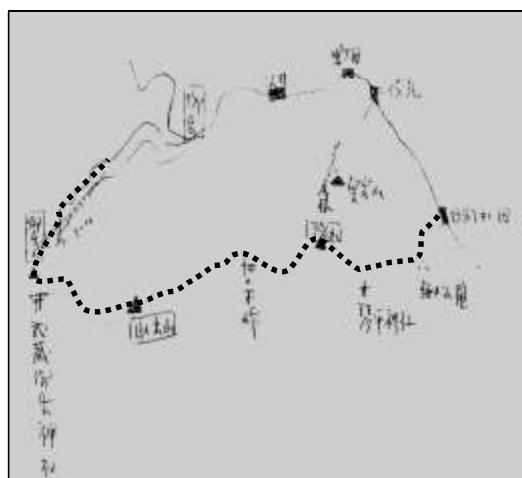
登山道の傾斜も緩やかで、一日ゆったりとした山行となりました。

この一年色々ときめ細かくご指導してくださった外崎さん、清家さんのアドバイスをいただき、8期生が卒業山行として計画をたて、実行することができました、ほんとうにありがとうございました。この山行を出発点として、これからも色々な山行に参加させていただき、多くのことを学びたいと思いますので、宜しくお願い致します。

概要

山名	日の出山(奥多摩)
月日	平成16年2月11日(水)祝日
目的	新人卒業山行(8期生)
地形図	1/25000 武藏御岳
費用	2,570円
行程ルート	日向和田駅→梅の公園→琴平神社→三室山→梅の木峠→日の出山→御岳神社→ビジターセンター→滝本→御嶽駅
参加者	外崎・清家・藤倉・佐藤・L岡田・田村 6名

概念図



<364>

大菩薩嶺

2,056m

小川誠二郎

雪の大菩薩

「冬山は甘いものじやありません。装備はしっかりしておかないと。一旦吹雪いたら大変なことになりますよ。冬山の装備は吹雪に備えるものです」。スポーツ品店のお兄さんに散々説教されて、靴、アイゼン（「10本と12本は違います。12本がいいでしょう」「はいはい」）、ピッケル、ゴアテックスの上着など買い揃えて、3Cの登山に挑戦しました。登山口では暖くて、最初から上着はお荷物。途中からはTシャツ。ところどころ岩場などあり、なんとか丸川荘に到着。



丸川荘前にて

トイレを借り、外でと思ったが風があるので、一人200円払って小屋に入り、武内リーダーのリュックから打ち出の小槌のようにコンロ、食器、汁粉パックが出て大御馳走。小屋の主の木彫りや狐・てんの写真、

皇太子ご夫妻の写真談義。おにぎりなどで軽く腹ごしらえののち出発。10分ほど登ったところでアイゼン着用。先頭の外崎さんはアイゼン不要。足が滑る前に次の歩に繰り出す小鳥の舞の如き足捌きが是、登山技術と知る。私は冬山の靴と12本爪のアイゼンの歩が段々重くなってきて、30分位で休憩をお願いして息を入れ、やがて荷物を皆さんに持つて頂く仕儀と相なった。頂上前のジグザグ道の傾斜は急ではないのにつらかった。



大菩薩嶺

ようやく頂上。頂いたパイナップルが五臓六腑に浸み渡る甘さだった。私のブレーキで時間を費やしたので、頂上では写真を撮って即下山にかかる。10分ほどで雪道が終りアイゼンをはずす。そこで急に風が出て、上着が役に立った。しばらくはガレ場の急坂を下る。ロッジ長兵衛を過ぎたところで、武内リーダーより、バスに間に合うようスピードアップのご指示。とたんに、下り坂の途中のちょっとした登りのところで私の足がつってしまった。治療やストレッチで時間を食ってしまった。やがて回復。そこで考えてみた。冬山の靴は足首部分を高く保持しているので、体を地球の中心に

向けて垂直に保とうとすると、靴底に対して後ろに傾く。そして足首やももに負担がかかる。そこで、体を靴底に対して垂直に保つと足首やももが楽になる。しかし、体は地球の中心に対して前傾姿勢となり、前に落ちる。この落ちる力を止めないで、走るように下ればよいのだ、と知った。止めようすると却って力が入って疲れる。転ばないように目をしっかりと見開いて、足を持って行く先の地面の状況を見て、一歩一歩、走るように、落ちるように、下山すればよいのだと知った。幸い、その先は落葉道の歩きやすい道だった。



原生林の中で一休み

この方法で歩を運ぶうち、意外に疲れないでバス停までたどり着くことができ、一人 100 円の最終バスに間に合った。タクシーだと 2,900 円だから差は大きい。バス停で頂いたビールは至福の味。皆様には多大なるご迷惑をかけ、御世話になりました。

申し訳ない思いと感謝の思いで反省と学習をさせて頂きました。帰ってから読んだ三浦雄一郎の記事に、出掛けるときは足首に 10kg の重りを巻き付けるとありました。日頃のトレーニングの大切さを知りました。

また、お許しを頂けるならこのクラスの山

に挑戦させて頂きたいと思います。



概要

山名	大菩薩嶺(大菩薩)
地形図	1/25000 大菩薩峠、柳沢峠
月日	平成16年2月22日(日)
目的	雪の大菩薩と富士・南アルプスの展望
費用	5,400 円(ホリデーパス利用)
行程コース	我孫子駅 5:33=新松戸 5:52=西国分寺 6:46/6:56=高尾 7:22/7:26=塩山駅 8:46/8:52=(タクシー)=丸川峠分岐登山口(1,025m) 9:05/9:20 登山開始—丸川荘 11:20/12:05—大菩薩嶺頂上 14:00/14:10—福ちゃん荘 15:05/15:15—上日川峠 15:35/15:35—丸川峠分岐登山口 16:30/16:30—裂石バス停 6:40/17:10=(バス)=塩山駅 17:37/18:52 塩山駅発=高尾 20:08/20:10=我孫子駅着 21:58 <歩行時間:5時間20分>
参加者	L 武内、小川誠、外崎(SL)、安田、堀口、青山、佐藤健、佐藤明 計 8 名

<365>

蛭ヶ岳・塔ノ岳

1672m 1490m

高橋英雄

丹沢主脈雪山縦走

今回、雪山縦走と言う事で少しためらいもあった、小生も大丈夫かなあと思いながら参加させて貰いました。いつもの事ながら天気を気にかけながら電車に乗る。橋本から三ヶ木（ミカゲ）までバスを利用、予約しておいたタクシーで登山口迄行く。バスを利用したことでお安く上がった。



丹沢焼山山頂(展望台の上から昼食風景を撮影)

快晴無風の中登山開始、早くも陽春到来の感じ半袖で充分、高度が上がるにつれ丹沢連山が見える。焼山の山頂で日向ぼっこしながらの昼食。展望用の鉄塔に登って明日の縦走路眺め、蛭ヶ岳や丹沢山の山脈が薄黒く見え白い雪はまったく見えない。今日の小屋の到着が早すぎる所以ルートから少し外れている黍殻山頂まで寄り道する、もうすぐ黍殻避難小屋でしょう。避難小屋は設備、環境共良く小屋の前は広々してベンチが4, 5個あり余る時間を利用して

ベンチの傍で、パッチテスト?と称する酒飲み適正診断を行い烙印を押されたのは一人であった。



丹沢黍殻避難小屋前の庭で



黍殻避難小屋内部

小屋の中は大型ストーブが中央にドンとありますぐさま杉の葉を集め薪に火を炊いてゆっくりと団欒、煙が目にしみるが二重窓から入ってくる山気が実に良い。酒宴進むにつれおかずも多く食べきれない、夕食はだんご汁で仕上げとなつた。大広間はわれわれ6人で誰にも気を使うこともなく、いびき、寝言、各自それぞれ全員深い眠りに入る。風の音で目が覚め朝食をとり、出発の際には小雨がパラリ、一応雨具を着け出

発。薄雲がかかり、目の前の山々はうっすらと確認できるが、大展望はまったく無理、蛭ヶ岳直下にさしかかった頃から猛烈な風、霰混じりの北風が叩きつけてくる。登山道は枯葉の下や岩陰は氷結し苦難を強いられる。蛭ヶ岳山荘でホットミルクティーで冷えた手を温めながら強風が止むまで待つことにする。この風では鬼ヶ岩の頭付近の通過は厳しいかも、強風がやや収まった頃を見計らって緊急用のロープを肩に鬼ヶ岩の頭に向かう。風は弱くなったり強くなったり、右から左に吹き抜ける体は左右に揺れザックカバーが外れバタバタとなる。左右切れ落ちている尾根では直前で一担止まり、風の弱まる瞬間を確認しながら重心を低くして通過する。

岩稜の鎖場では三点確保を着実に励行一気に丹沢山まで登りきる。みやま山荘に入って少し休憩する。塔ノ岳までの稜線は多少道幅が広くなったものの、それでも気を抜けない状況が続く。強風下での縦走路を踏破し尊仏山荘でホット一息、温かいシーフードカップ麺は格別であった。体も温まってさて下山、先ほどまで吹いていた風は何処へやら天気も回復し周囲の山々も姿を表すようになった。ただ下山路は丸太木の階段が下山口まで続く、单调で時間の割に苦労した。今回の山行は、雪があればあの強風下での痩せ尾根通過は出来なかつたのではないか。多分蛭ヶ岳の手前で縦走を断念せざるを得なかつただろう。雪山縦走の目的に反するが今回は雪がなくて幸いだったかな？

概要

山名	蛭ヶ岳～塔ノ岳(丹沢)
月日	平成 16 年 2 月 28 日(土)～29 日(日)
地形図	1/25000 大山・秦野・青野原
目的	丹沢主脈雪山縦走
費用	8,500円(反省会費用含む) JR、バス、タクシー、小田急
行程コース	一日目 我孫子駅 6:00⇒新松戸駅 6:13/25⇒西国分寺駅 7:24/38⇒八王子駅 7:56/8:01 ⇒橋本駅 8:13/35(バス)⇒三ヶ木 9:05(タクシー)⇒焼山登山口 9:20/30⇒焼山(昼食) 11:30/50→黍殻山 12:35/50→黍殻避難小屋 13:05(泊) 快晴<歩行時間:3時間30分> 二日目 避難小屋(起床 4:20・朝食 4:45)→姫次 6:35→原小屋平 6:55→地蔵平 7:05→蛭ヶ岳(蛭ヶ岳山荘で天候回復待ち) 8:15/9:55→鬼ヶ岩の頭 10:20→棚沢ノ頭 10:35→不動ノ峰 10:55→丹沢山→(みやま山荘で軽食) 11:35/50→竜ヶ馬場 12:10→塔ノ岳(尊仏山荘で昼食) 12:50/13:15→花立山山荘前 13:35/40 →堀山の家前 14:15/20→大倉バス停 15:35/55 ⇒ 渋沢駅(反省会) 16:10/18:18⇒代々木上原駅 19:30/36 ⇒我孫子駅 20:45 曇り時々小雨<歩行時間:7時間30分>
ルート状況	・縦走路には積雪皆無、稜線に極僅かの氷結箇所あるも、アイゼン装着は不要。 ・二日目、強風のため一時待機を余儀なくされた。特に、鬼ヶ岩の頭付近～不動ノ峰間のやせ尾根通過には、慎重な上にも慎重な対応が求められた。 ・避難小屋の設備は極めて良好(トイレ、薪ストーブ、若干湿っぽい毛布ありで、20人以上の宿泊可能(板の間+土間))。 但し、水場は氷結のため使用不可。
参加者	L青山、村松敏、外崎、大串秀、高橋英、佐藤健 計6名

岳人祭

やまたん 第80号 表紙

GAKUJIN ABIKO

COMMUNICATION NEWS LETTER

No. 80



千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

会報〈やまたん〉

平成15年(2003年)

11月号

平成15年10月31日発行

発行者 武内 勇二

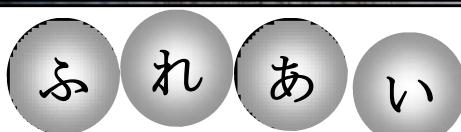
柏市布施新町4-15-9

編集者 中村隆泰

Tel&Fax 04-7184-1758



手賀沼湖畔(我孫子)



今月のドドー



ウイズハイク

九月二十七日(土)

鋸山
(房総)

心身障害者とともに

岳人祭

十月四日・五日

第1部
「谷津田の草刈」
クリーン作戦



刈り取った草の山が次々に

岳人祭

盛大に終る

10月4日～5日、今年の岳人祭は天候に恵まれて、すべてのイベントは盛大の内に終了しました。初めて実施した、我孫子市消防本部湖北台消防署職員の救命救急法の講習会は長時間にわたり熱心に指導をして戴きました。最後に実施した試験では、受講生全員が修了証の交付を受けることが出来ました。定例会終了後の懇親会も参加者全員で遅くまで盛り上りました。

(1) クリーン作戦（岡発戸谷津田の草刈）

参加者は岳人あびこ14名と谷津田の会3名の計17名で、毎年実施してきた場所の草刈作業をする。休憩時間には宮下会長から絶滅危惧種の「たこの足」を見ながら説明を受ける。約2時間の作業で目的の作業は終了し解散する。

(2) 救命救急法の講習会（湖北台近隣センター）

講習会は我孫子市湖北台消防署職員の熱心な指導を戴きました。始めはビデオ映像での救命救急法の必要性と実技を勉強する。受講生27名は4班に分かれる。各班で職員による親切な模範演技の指導を受けて各自が実技演習をする。最後に修了試験を受験して、後日「普通救命講習修了証」を全員が戴きました。

(3) 懇親会（五本松公園キャンプ場）

会場を五本松公園のキャンプ場に移して懇親会を盛大に行う。キャンプファイアーの火を囲んで、秋の夜長を、石垣さんの大道芸の演技と、参加者の歌と踊りで盛り上がり、会員相互の親睦を深めることができました。

(4) 反省点と今後の対応

9月定例会で募集した参加人数は講習会37名、懇親会43名でした。その後、多くのキャンセル者が出て実際の参加者は講習会27名、懇親会33名でした。消防署からは多くの講師に来ていただきましたが、直前のキャンセルが多かったので、大変な迷惑を掛ける結果になりました。また、懇親会の料理についても当初の人数で準備し、人数減に伴う対応が出来なくて結果的に予算不足が生じました。不足金については当日の参加者からカンパをお願いせざるを得ない状況になりました。

（原田和 2003・10・22 作成）

行 事		時 間	場 所
第一部 クリーン作戦	集合：東我孫子駅北口駐車場 谷津田の草刈	8:30 9:00～11:00	谷津田
第二部 救急法講習会	救命救急法 講習と心肺蘇生法の実技演習	12:40集合 13:00～16:00 (3時間)	湖北台近隣セン ター
休 憇		16:00～16:10	
10月定例集会		16:10～16:50	
会場片付け		16:50～17:00	
会場移動	五本松公園へ	17:00～17:30	五本松公園
第三部 岳人祭り	キャンプファイアーと懇親会 (全員参加)	17:30～19:00	
二次会と テント泊	(希望者のみ)	19:00～翌朝8 時迄	

(1)クリーン作戦 谷津田の草刈



(2) 救命救急法の講習会



↑ 救命救急法の実技演習



↑ 真剣に修了試験を受ける

(3) 懇親会 & テント泊



テント設営



懇親

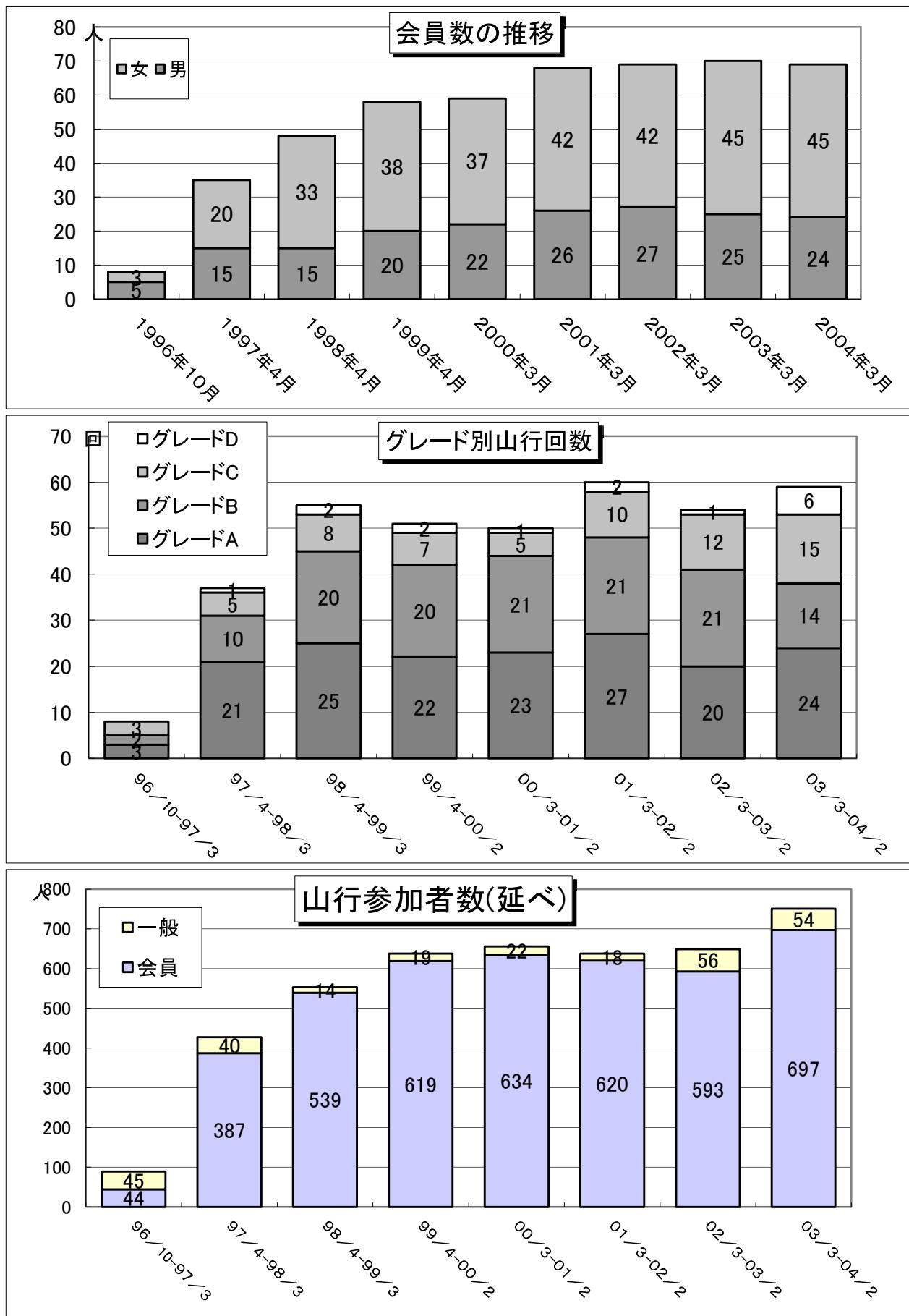
資料

推移グラフ（1996年～）

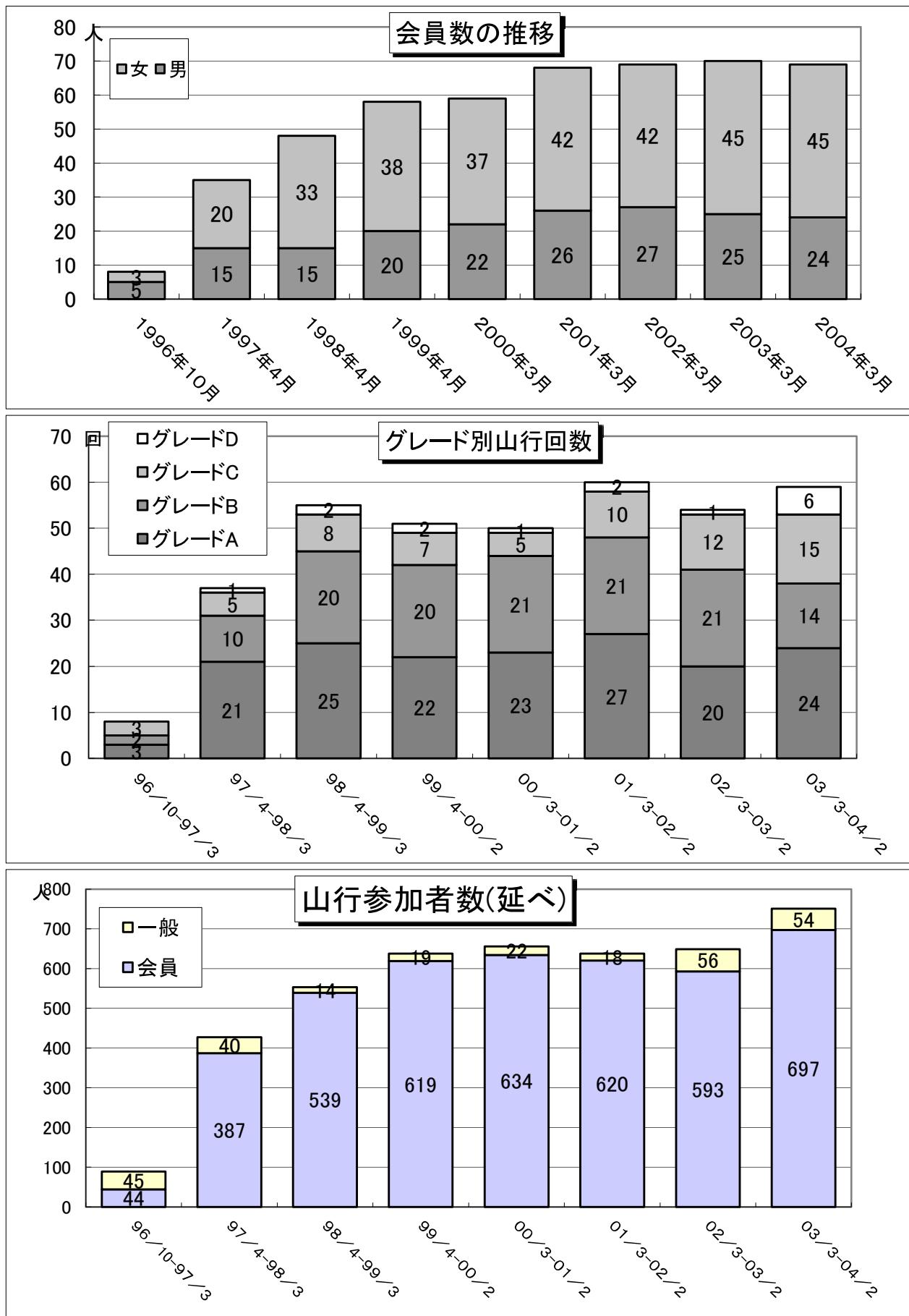
山行一覧表（2003年）

活動の記録（1996年～）

推移グラフ



推移グラフ



編集後記

*進んでも進んでも、折り重なるように現れる“やまなみ”。日本は狭いといつても、山の懐の深さには、いつも心を打たれます。「分け入っても分け入っても青い山」。山頭火のうたを反芻しながら歩きます。このやまなみ、あのやまなみに出会える幸せを噛みしめながら……。 *紀行誌の「やまなみ」という絶妙なネーミングが好きです。「やまなみ」誌で出会えるのは人それぞれの思い出、感慨。山への、仲間への共感。山では言えなかった本音。読むのがとても楽しみです。今号も中村編集長のもと、一足先に「やまなみ」を読める、という特権を享受することができました。 *「また見ることもない山が遠ざかる 山頭火」二度と会えぬかもしぬ新緑のやまなみ、雪のやまなみに、記録という形で思いを残すのは素晴らしい事と感じ入り、編集を終えました。校正ミス、キャプションミスは笑ってお許しください。

<AC>

皆さんの力作を読ませていただきながら机上登山を楽しむことができました。作品のいの一番の読者になれたことを感謝いたします。お一人お一人の個性の違いが文章に表れて、作者名を見ずとも、あっこれは○○さんらしい表現だと思い、確かめてみるとそれが当たっていたり・・・。数々の楽しみと喜びがありました。パソコンでの取込みでは、分からぬ点も多く、中村編集長に教えを乞いながらの作業でした。その都度、丁寧に対応してくださり心強い限りでした。本当にありがとうございました。

<YS>

「やまなみ5号」(2003年度)がようやく完成しました。苦労して(?)書いた皆さん原稿を編集しながら読んでいると、それぞれ山への思いが伝わってきて、楽しいものです。中には誤字脱字に苦笑し、とんでもない化け漢字にびっくりしたりするけれども、少しでもいいものにしようと気合も入ろうというものです。 5号も前号同様、電子データをCD1枚に収め、直接入稿印刷するやり方をしました。編集もパソコンを駆使し、編集者間でCDやメールのやり取りも度々でした。それをやり遂げた精銳、坂口さん、千葉さんお二人のセンスと頑張りのお陰で、またひとつ《岳人あびこ》のかけがえのない財産ができました。多謝。

<TN>

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集 **やまなみ 第5号**

発行日 平成17年9月6日

発行者 岳人あびこ 会長 村松敏彦

千葉県我孫子市つくし野7-16-23

編集者 会報部 やまなみ係

中村隆泰 坂口よし江 千葉有子

印刷所 太平洋印刷株式会社